

くろ だ だい みょう じん ぼら い せき
黒田大明神原遺跡Ⅱ

1999. 3

長野県飯田市教育委員会

くろ だ だい みょう じん ぼら い せき
黒田大明神原遺跡Ⅱ

1999. 3

長野県飯田市教育委員会



黒田大明神原遺跡上空写真

序

飯田市は自然条件に恵まれ、また、古来より交通の要衝に位置しており、埋蔵文化財のみならず、多くの文化財が今日まで残されています。今回発掘調査の行なわれた飯田市上郷地区にも、300年余り続く人形浄瑠璃の黒田人形芝居が伝承されており、下黒田諏訪神社の祭礼で、毎年奉納上演されています。また、舞台は重要有形民族史料に指定されており、現在でも黒田人形芝居の舞台として活用されています。一方、埋蔵文化財については近年、多くの開発により、その包蔵地の姿が変わりつつあります。それに伴う発掘調査により、当地方の古代の様子が明かになりつつありますが、それと引き換えに、後世に伝えるべき文化財が姿を消していると言えます。

上郷地区は元々は、農業を基盤とする地域でありましたが、飯田市街地に近い事から最近では宅地化が進み、道路も整備されつつあります。今回調査された所は果樹園でありましたが、県道飯島・飯田線の渋滞緩和のためバイパス工事が行われるとのことです。現在では農業後継者が不足しているため、多くの農地が宅地として形を替えつつあります。こうした流れの中で、多くの埋蔵文化財が消滅の危機にさらされています。

古来より伝わる様々な文化財は、今日の私たちの地域社会や文化を形成するまでの過程を明かにするものであり、現在の私たちの生活の基となっているものです。本来、私たちはこれらの文化財を、そのまま後世に伝える責任を持っています。しかしながら、私たちはより良い環境で生活をする権利も有しています。この文化財保護と開発という問題は、相容れぬものを多く抱えており、常に私たちを悩ますものであります。特に近年、大きな開発事業が続く中でこのような問題に直面する機会も多くなっています。このような場合、次善の策ではありますが開発対象地を調査し、その記録を後世に伝える事もやむを得ないことと言えるでしょう。

最後になりましたが、文化財保護の趣旨に深いご理解をいただき、調査実施に際しては多大なご協力を得ました関係機関各位及び発掘作業・整理作業に従事されました作業員の皆様に心より感謝を申し上げます。刊行の言葉といたします。

飯田市教育委員会

教育長 小林 恭之助

例 言

- 1 本報告書は平成8年度緊急地方道整備（B）工事（主）飯島飯田線工事に先立ち実施した、飯田市上郷地区所在の埋蔵文化財包蔵地黒田大明神原遺跡の緊急調査報告書である。
- 2 発掘調査は飯田建設事務所からの委託を受け、飯田市教育委員会が実施した。
- 3 本調査は平成8年度に現場作業を行い、平成9年度に整理作業を行った。
- 4 発掘調査及び整理作業は一貫して、遺跡名に略号KDIMを用いた。
- 5 今次調査は、過去に上郷町教育委員会により行われた同遺跡発掘調査の実績を踏まえ、遺構番号を付けることとした。ただし、平成7年度に飯田市教育委員会で行った調査については、当該調査地とは段丘が異なるため、別の扱いとした。
- 6 61号住居址及び土坑の数個は検討の結果欠番とした。
- 7 調査区の設定は飯田市埋蔵文化財基準メッシュ図に基づき㈱ジャステックに委託実施した。調査地点の番号はLC75-6である。
- 8 石器の実測については㈱ジャステックに委託した。
- 9 遺物の出土遺構番号は遺物取り上げ時のものを、そのまま使用した。
- 10 本書は調査員全体で協議の上、伊藤尚志が編集・執筆し、小林正春が総括した。
- 11 当遺跡で出土した遺物及び記録された図面・写真は飯田市教育委員会が管理し、飯田市考古資料館に保管している。

目 次

本文目次

序		(2) 弥生時代	39		
例	言	(3) 古墳時代	40		
目	次	(4) 中世	41		
I	経 過	2	掘立柱建物址	42	
1	調査に至までの経過	1	3	方形周溝墓	43
2	調査の経過	1	4	溝址	44
3	調査組織	2	5	土坑	44
II	遺跡の立地と環境	3	IV	まとめ	82
1	自然環境	3	図	版	87
2	歴史環境	3	写 真 図 版	123	
3	基本層序	4	黒田大明神原遺跡自然科学分析調査報告	175	
III	調査結果	10	パリノ・サーヴェイ株式会社		
1	住居址	10	抄	録	203
(1)	縄文時代	10	奥	付	204

表 目 次

表 1	33号住居址	12	表19	51号住居址	30
表 2	34号住居址	12	表20	52号住居址	30
表 3	35号住居址	12	表21	53号住居址	30
表 4	36号住居址	14	表22	54号住居址	31
表 5	37号住居址	14	表23	55号住居址	32
表 6	38号住居址	16	表24	56号住居址	34
表 7	39号住居址	16	表25	57号住居址	34
表 8	40号住居址	20	表26	58号住居址	34
表 9	41号住居址	20	表27	59号住居址	37
表10	42号住居址	20	表28	60号住居址	37
表11	43号住居址	21	表29	63号住居址	37
表12	44号住居址	23	表30	64号住居址	38
表13	45号住居址	23	表31	62号住居址	39
表14	46号住居址	24	表32	30号住居址	40
表15	47号住居址	24	表33	31号住居址	41
表16	48号住居址	26	表34	32号住居址	41
表17	49号住居址	27	表35~	土坑観察表	45
表18	50号住居址	28	表45	土坑埋土土色表	81

挿 図 目 次

挿図1	黒田大明神原遺跡位置図	5	挿図36	30号住居址	40
挿図2	周辺遺跡図	6	挿図37	31号住居址	41
挿図3	黒田大明神原遺跡全体図	7	挿図38	32号住居址	41
挿図4	基準メッシュ図区画調査位置	9	挿図39	掘立柱建物址1	42
挿図5	33号住居址	10	挿図40	方形周溝墓5	43
挿図6	34号住居址	10	挿図41	溝址5	44
挿図7	35号住居址	11	挿図42	周辺ピット割付図	55
挿図8	36号住居址	13	挿図43～周辺ピット図	57	
挿図9	37号住居址	14	挿図63～土坑断面図	75	
挿図10	38号住居址	15			
挿図11	39号住居址	16			
挿図12	40号住居址	17			
挿図13	41号住居址	18			
挿図14	42号住居址	19			
挿図15	43号住居址	21			
挿図16	44号住居址	22			
挿図17	45号住居址	23			
挿図18	46号住居址	24			
挿図19	47号住居址	25			
挿図20	48号住居址	26			
挿図21	49号住居址	27			
挿図22	50号住居址	28			
挿図23	51号住居址	29			
挿図24	52号住居址	29			
挿図25	53号住居址	29			
挿図26	54号住居址	31			
挿図27	55号住居址	32			
挿図28	56号住居址	33			
挿図29	57号住居址	33			
挿図30	58号住居址	33			
挿図31	59号住居址	35			
挿図32	60号住居址	35			
挿図33	63号住居址	36			
挿図34	64号住居址	38			
挿図35	62号住居址	39			

I 経 過

1 調査に至までの経過

平成6年、飯田建設事務所長より県道飯島飯田線バイパス座光寺・上郷間の計画が提示された。現在の県道飯島飯田線は道幅も狭く、朝夕の渋滞が著しいため、その解決策としての計画である。平成6年度事業として座光寺と上郷を結ぶ橋の橋脚工事の計画が出され、平成6年9月30日に長野県教育委員会文化課・飯田建設事務所・飯田市教育委員会の三者で保護協議を実施した。試掘調査の結果、遺物・遺構が確認されたため、平成7年6月28日に飯田建設事務所と飯田市教育委員会の間で発掘調査の委受託契約を締結し、同年7月3日から8月25日まで現地での調査が行われた。

この時の実績を受け7年10月3日に、8年度事業分の道路工事予定区域についての保護協議を、6年度事業分と同じ三者で行った。協議の結果は、8年度事業地についても試掘調査を行い再度協議を協議をする事となった。平成8年5月2日に飯田建設事務所長から平成8年度事業の通知がだされたため、保護協議に基づき平成8年6月27日に発掘調査の委受託契約を結び試掘調査を行った。

試掘調査の結果、住居址・土坑などの遺構や遺物が確認されたため、当遺跡内の斜面一部を除いて、事業対象地内を拡張して発掘調査をする事となった。

2 調査の経過

平成8年8月19日より、調査対象地の北側の斜面に作業員を入れ、調査を開始した。今回調査対象地は面積も広く、間に道路が2本通っているため、この道路を境にして調査区を分け、一か所ずつ調査を行う事にした。最初の北側の調査区は検出作業をすると同時に、(株)ジャステックに調査範囲の基準点測量を行ってもらい、遺構の掘り下げ作業に取り掛かった。その後は作業の進捗状況に合わせて、表土剥ぎ、耕土の返しを行い、基準点測量を行ってもらった。調査の終わった範囲はそのつど、(株)ジャステックに空中写真撮影及び測量を行ってもらい、全ての作業が終了した所で、重機により耕土を返すようにした。その他、遺構の個別写真撮影はそのつど行い、必要に応じて実測作業も行った。現地での調査作業は平成9年1月31日に終了した。

その後、当遺跡の昔の自然環境復元を目的として、隣接する南側湿地のレンチ調査を平成9年2月28日に行った。サンプル採取及び分析作業はパリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した。そして、平成9年度に飯田市考古資料館で整理作業を行い、本報告書の作成に当たった。

3 調査組織

(1) 調査団

調査主体者 飯田市教育委員会 教育長 小林恭之助
調査担当者 伊藤尚志・上沼由彦（県派遣職員・平成8年度）
調査員 佐々木嘉和・吉川 豊・山下誠一・馬場保之・吉川金利・下平博行・福沢好晃
鳴海紀彦（平成9年7月～）
作業員 新井幸子・新井ゆり子・池田幸子・市瀬長年・伊坪 節・伊藤孝人・伊藤裕子・
井上恵資・太田沢男・大原千和喜・岡田直人・奥村栄子・金井照子・金子裕子・
唐沢古千代・吉地武虎・北川 彰・北沢兼男・北原 裕・木下玲子・木下早苗・
木下 傳・櫛原勝子・熊谷義章・熊崎三代吉・小池金太郎・小池千津子・小島妙子・
小平晴美・小平不二子・小平まなみ・小林千枝・斉藤徳子・榊原政夫・
坂下やすゑ・佐々木文茂・佐々木真奈美・佐々木美千枝・佐藤知代子・清水三郎・
清水恒子・代田和登・菅沼和加子・関島真由美・瀬古郁保・高木純子・高橋恭子・
滝上正一・竹本常子・田中 薫・田中博人・中沢温子・仲田昭平・中田 恵・
中平けい子・中平隆雄・林 勢紀子・林 ひとみ・原 昭子・樋本宣子・服部光男・
平栗陽子・福沢育子・福沢幸子・福沢トシ子・藤本 宏・古林登志子・古根素子・
細田七郎・牧内喜久子・牧内八代・牧田許江・正木実重子・松井明治・松下成司・
松下節子・松下光利・松島 保・松島直美・松本恭子・三浦厚子・三浦照夫・
南井規子・宮内真理子・森藤美知子・柳沢謙二・山田康夫・吉川悦子・吉川紀美子・
吉川正実・吉澤佐紀子

(2) 事務局

飯田市教育委員会博物館課

矢沢 与平（博物館課長 平成8年度）
小畑伊之助（ ” 平成9年度）
小林 正春（博物館課埋蔵文化財係長）
山下 誠一（博物館課埋蔵文化財係）
吉川 豊（ ” ）
馬場 保之（ ” ）
吉川 金利（ ” ）
下平 博行（ ” ）
伊藤 尚志（ ” ）
福澤 好晃（ ” ）
牧内 功（博物館課庶務係）

II 遺跡の立地と環境

1 自然環境

黒田大明神原遺跡の所在する飯田市上郷地区は長野県の南端を南北に並走する赤石山脈・木曾山脈の間に広がる飯田盆地のほぼ中央部の天竜川右岸に位置する。北西に野底山・鷹巣山があり、そこを源として野底川が飯田松川に、土曾川が天竜川に、南流し注いでいる。この野底川を境にして西は飯田市街地に、東は土曾川を挟んで飯田市座光寺地区に隣接している。当地区は野底川・土曾川、そして南を天竜川に挟まれた、東西に細長く緩やかに傾斜しており、面積は約26km²ある。一帯は天竜川に平行する活断層によって形成された段丘上と西側山麓からの扇状地上に、古来から現在に至までさまざまな人々が生活を営んでいる。

『下伊那の地質解説』によれば、伊那谷の段丘は火山灰土の堆積を基準として高位面・高位段丘・中位段丘・低位段丘Ⅰ・Ⅱに大きく編年されている。上郷地区の地形の特徴として、中央部を南北に横断する大段丘があり、これを境として俗に上段（うわだん）と呼称される洪積土壌地帯の中位段丘及び低位段丘Ⅰと、下段（しただん）と呼ばれる沖積土壌面の低位段丘Ⅱが見られ、その段丘崖の高比は約50mを測る。中位段丘・低位段丘Ⅰ地帯は天竜川の現河床面海拔398mとの比高差200～80mを測り、野底山山麓から南東方向に緩やかに傾斜する広大な地域を占めており、野底川による新規扇状地が発達し、総体とすれば乾燥した台地をなしている。中位段丘・低位段丘Ⅰ地帯は三大別でき、南東側に原の城遺跡の立地する中位段丘下殿岡面、北東側に今回調査の行われた、黒田大明神原遺跡の立地する中位段丘八幡原面があり、いずれも細長く小高い丘陵地形を呈している。この中間に位置する低位段丘Ⅰ伊久間面は海拔520～560mを測る2×1kmの広い範囲であり、黒田垣外遺跡他多数の遺跡が存在する。

黒田大明神原遺跡は、先に上げた、中位段丘八幡原面の長さ1100m・幅100～200mの小高い丘陵のほぼ全域に展開している。台地の北東側は土曾川とその支流の栃ヶ洞川が深い浸蝕谷を形成しており、比高差は南東側の先端部で65m、北西側で20mを測る。南西側はやや緩やかな傾斜をなして凹地帯に連続するが、南東端は下位段丘との比高差80mの大段丘崖をなしている。また、北西側は緩やかな傾斜のまま野底山の山麓まで続いている。当台地は全体としては、南東側に緩やかに傾斜しているが、北側はやや低く凹地状になっており、地形は一様ではない。

2 歴史的環境

上郷地区の歴史的変遷を概観してみると、1200年以前の旧石器時代の遺構・遺物は現在のところ確認されていない。当地区の最古の文化は、上段の姫宮遺跡出土の表裏縄文式土器と、同じく黒田柏原遺跡（柏原A遺跡）出土の石器剥片・宮垣外遺跡出土の尖頭器などにより縄文時代草創期からその黎明をすることができる。次の縄文時代早期になると比較的山に寄った八王子遺跡など5遺跡から、押型文土器や繊維を含む条痕文土器及び撚糸文土器が出土しており、平成元年の西浦遺跡の調査において押型文の住居址が確認されている。

1600年前の縄文時代前期の遺跡は姫宮・日影林・黒田大明神原など8遺跡があるが、いずれも上段の

中位段丘と低位段丘Ⅰ地帯であり、下段の飯沼・別府地域からの発見がなく、沖積地帯への進出はなかったと考えられてきたが、昭和62年度の矢崎遺跡発掘調査において前期後半の竪穴住居址が確認され、見直しが必要となった。縄文中期になる低位段丘Ⅱ地帯の南条面下段を除き、上郷地区全域に遺物の散布が確認されており、人々の生活の舞台が拡散したことを示している。しかし、縄文時代後・晩期になると遺跡は極端に減少し、後期では上段を中心にして8遺跡、晩期では3遺跡が認められるのみである。

弥生時代は水稻栽培を基盤とする新しい文化であり、下伊那地方では美濃・尾張・三河地方から東漸したものと推定されている。弥生時代前期の遺物は少なく、中期に至って遺跡数が増大する。特に南条面に立地する飯沼棚田遺跡は、県下初の弥生時代の水田址が発見されたことで有名である。また、該期の遺跡の大半は下段の飯沼・別府地籍に集中することから、低位段丘Ⅱ地帯にみられた湿地帯を利用しての水稻耕作が類推されている。約1800年前の弥生時代後期になると、遺跡数はさらに増加し、山麓地帯から天竜川氾濫原にまで、その広がりを見ることができる。

上郷地区の古墳は煙滅古墳も含めて36基が確認されており、その多くは別府地籍の台地端に立地する集落は現在までのところ上段には見られず、下段の経済基盤の豊かな地域を中心に展開していたものと考えられる。奈良・平安時代の遺物は地区内全般で見ることができる。中でも昭和62年度の矢崎遺跡調査では平安時代の大きな集落址が確認され、また大規模な鍛冶遺構の検出とフイゴの羽口や鉄滓等の遺物出土により、同遺跡は上郷地区内でも重要な遺跡となっている。この低位段丘Ⅱ地帯は古代伊那郡衙址の座光寺恒川遺跡群と同一段丘上に立地し、古代条里遺構の存在が地割りや地名から推測される地帯であり、古代史研究上注目すべき地域である。また、海拔410mラインは古代東山道の通過候補地になっている。この地方は『和妙抄』・『伊呂波字類抄』等の文献によると古代伊那郡のひとつ麻績郷に属しており、平安時代末期には近衛家領の郷戸庄であった。

黒田大明神原遺跡は上郷町のころ、昭和59年度・昭和60年度・昭和62年度にそれぞれ、町道新設工事に先立ち発掘調査が行われている。この際に、縄文時代住居址が23軒・弥生時代住居址が2軒・平安時代住居址が1軒の他、方形周溝墓などが確認され、当遺跡では縄文時代中期後葉に比較的大きな集落が営まれ、弥生時代には墓域としても利用されていたことが確認されている。また今回調査原因となった県道飯島飯田線バイパス工事に先立ち平成7年度に、台地北側の一段低い丘陵地が調査されている。この際には、縄文時代前期を中心とした遺構・遺物が確認されており、同遺跡内でも台地の頂上部と縁辺部では、かなり様相が違っているようである。

3 基本層序

今回調査地は耕土が20cm程あるものの、その直下は検出面のローム層となる。耕土を除去した段階で住居址の炉石が露出する状況であり、住居址の範囲を把握することは困難を極めた。また、耕作時の攪乱は調査区内のいたるところにあり、遺構の遺存状態は非常に悪かった。また、北側の斜面の攪乱は特に全面に深く入っており、確認された遺構は掘り込みの深かったものだけである。



□ 黒田大明神原遺跡

▨ 平成7年度調査

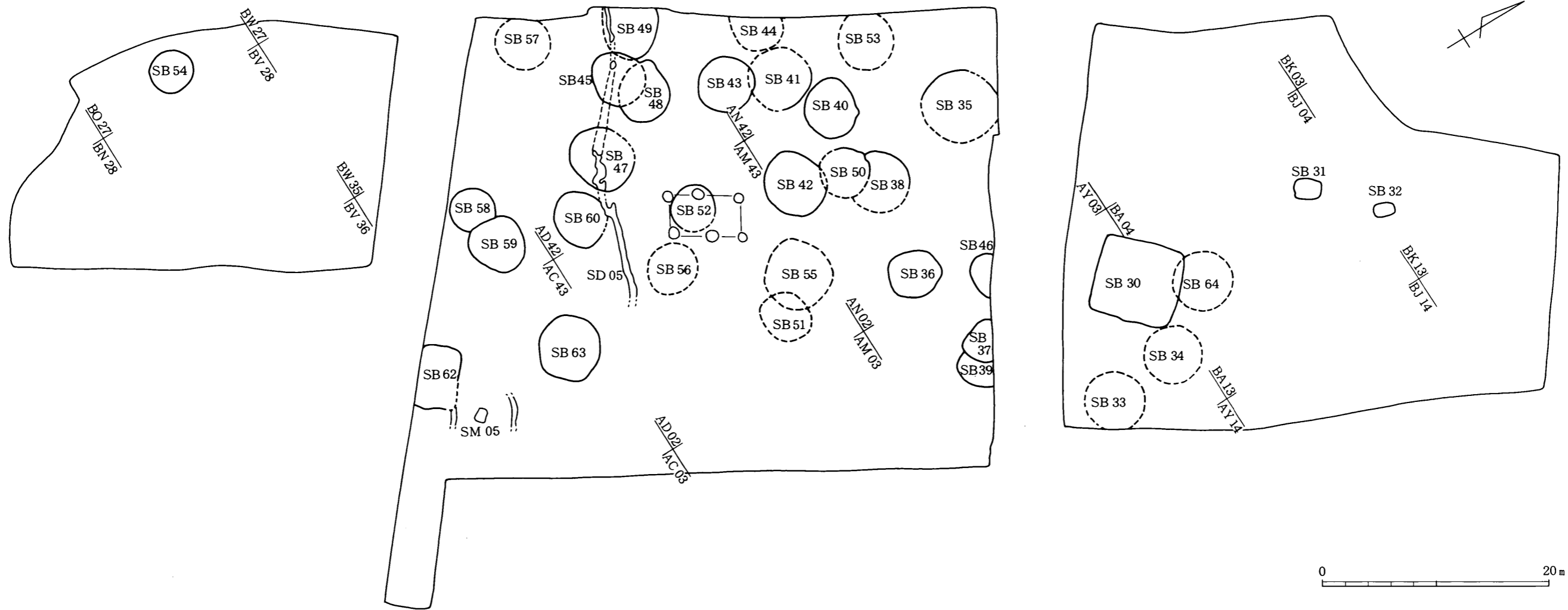
▨ 平成8年度調査

挿図1 黒田大明神原遺跡位置図

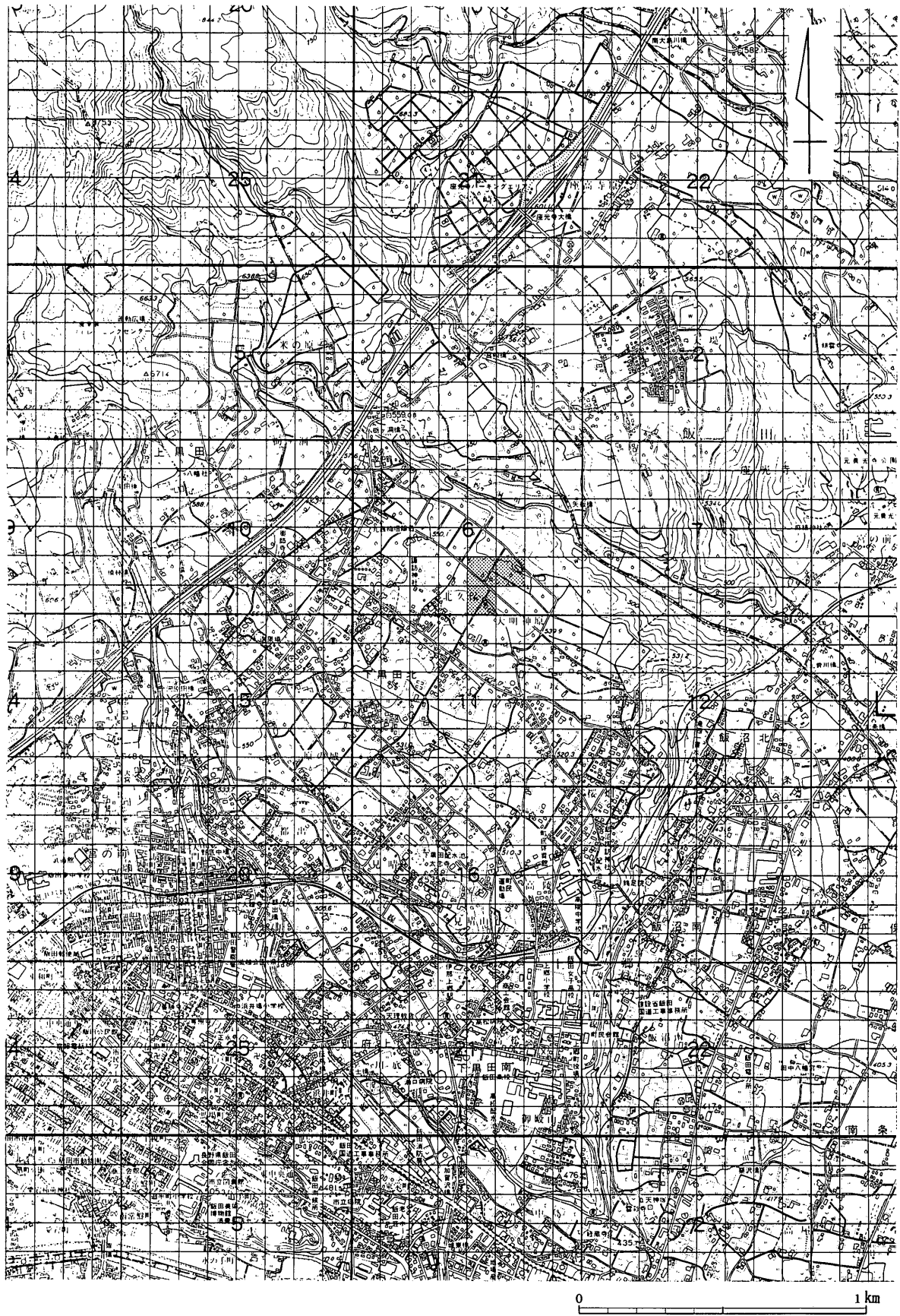


1. 黒田大明神原遺跡 2. 宮崎下遺跡 3. 宮崎上遺跡 4. 大門原遺跡 5. 大久保遺跡
 6. 大門原山遺跡 7. 西浦遺跡 8. 石原遺跡 9. 松林遺跡 10. 黒田社宮司原遺跡
 11. ツルサン遺跡 12. ミカド遺跡 13. 垣外遺跡 14. 赤坂遺跡 15. 的場遺跡 16. 桜畑遺跡
 17. 梶垣外遺跡 18. 増田遺跡

挿図2 周辺遺跡図



挿図3 黒田大明神原遺跡全体図

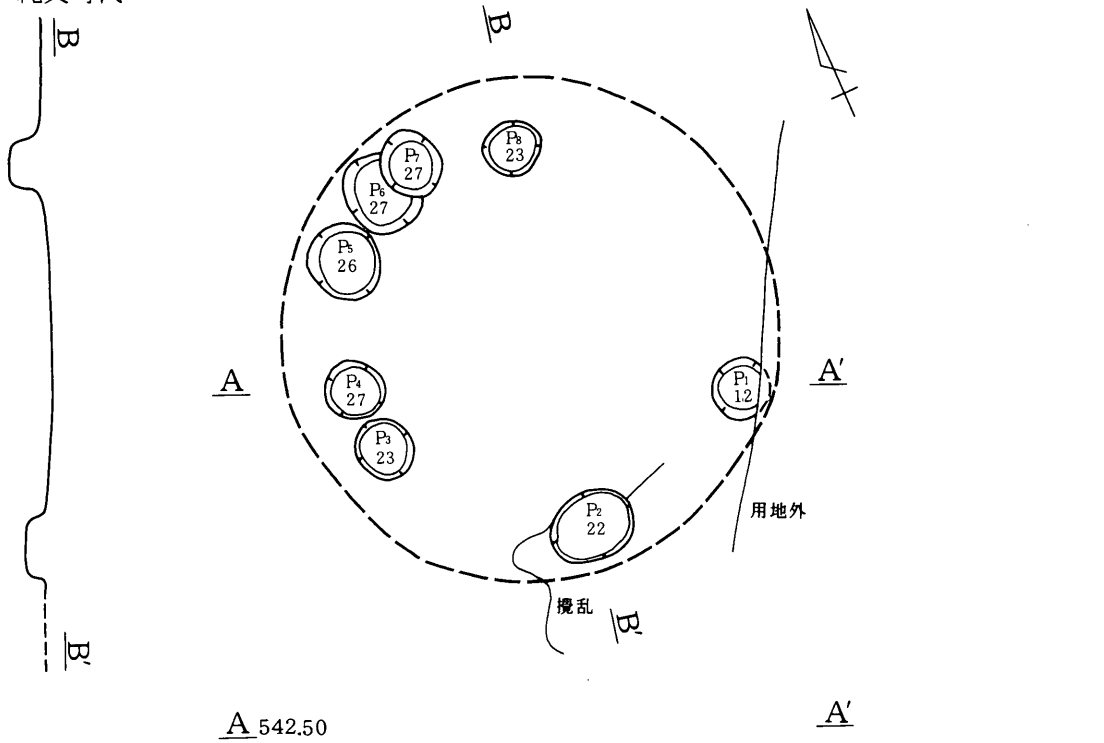


挿図4 基準メッシュ図区画調査位置

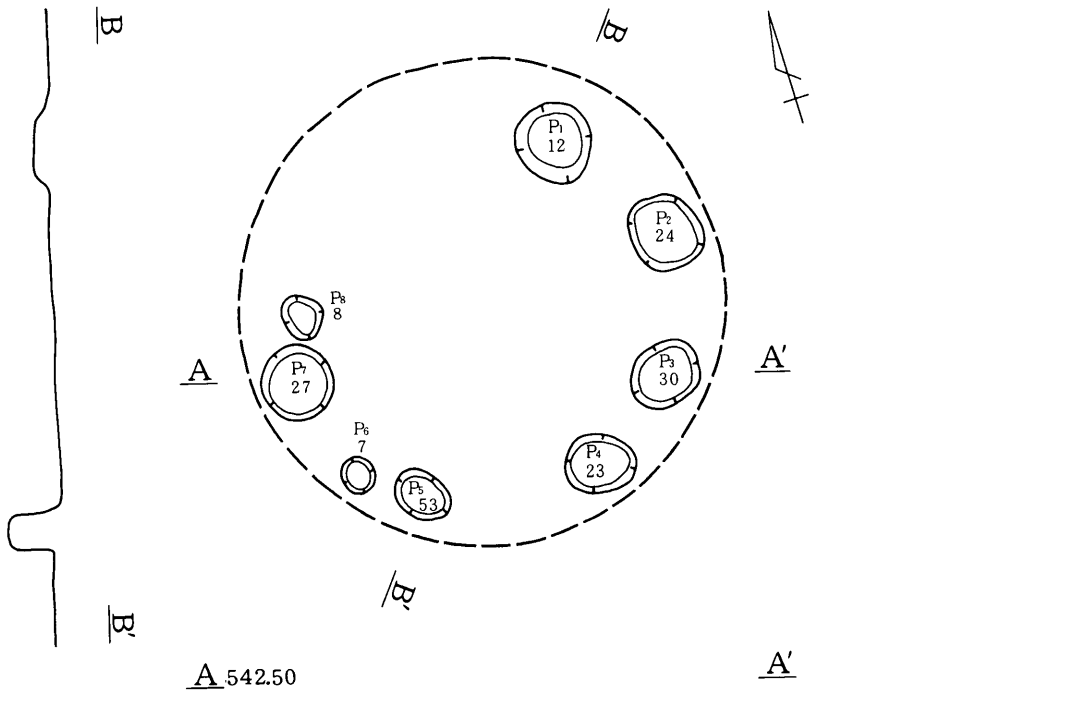
Ⅲ 調査結果

1 住居址

(1) 縄文時代



挿図5 33号住居址



挿図6 34号住居址

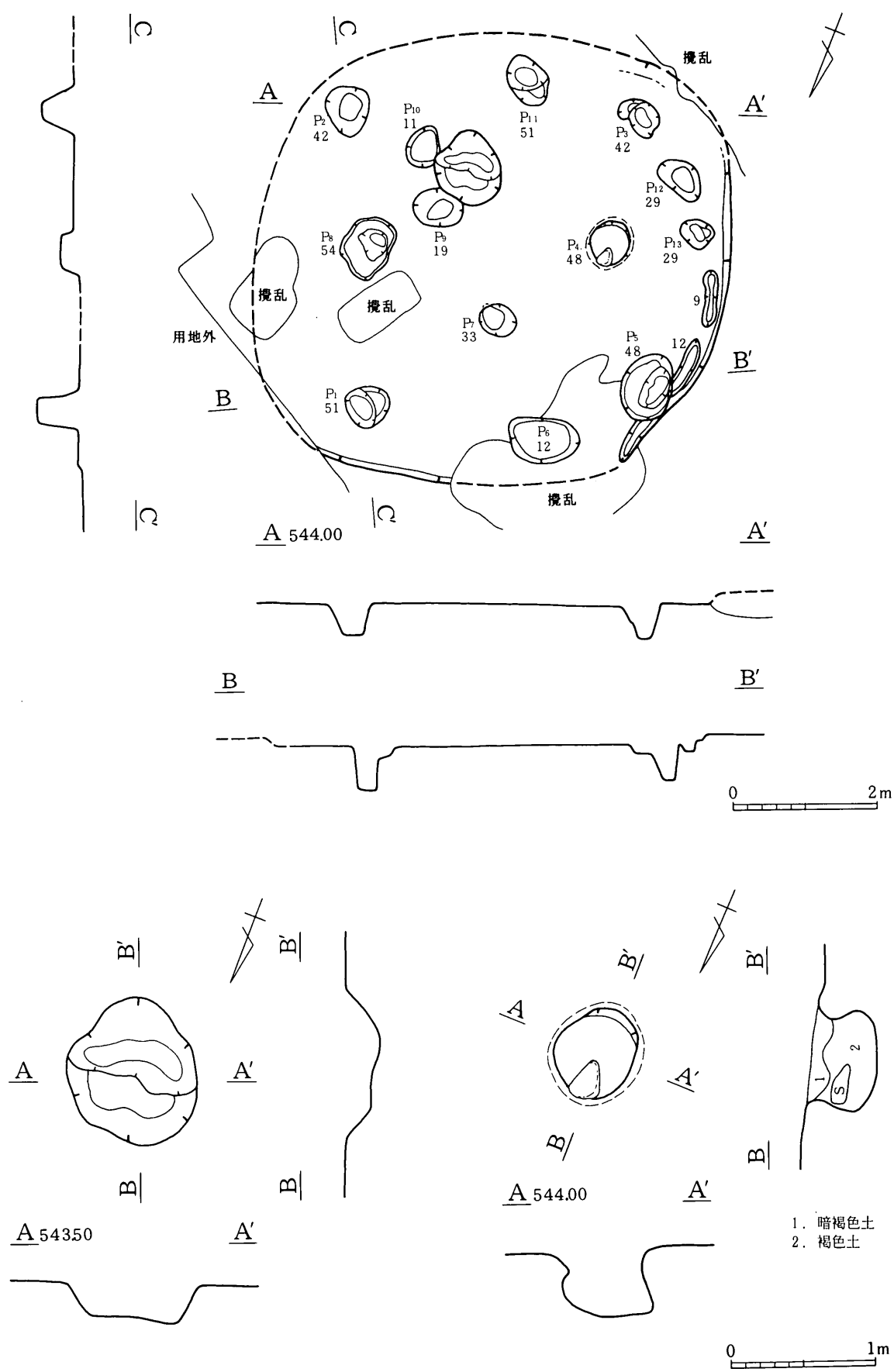


插图7 35号住居址

検出位置	AV11		覆	土				
切	切	る	床		面	不明		
	合	切られる	住居内施設	主	柱	穴	明確に判断できず	
規	模	プラン		貯	蔵	穴		
	・	規模m		入		口		
	形	主		炉	形	状	確認できず	
	・	壁		・	規	模	cm	
	状	高		竈	特記事項			
状	状態	削平により確認できず						
【出土遺物】当住居址の遺物と判断できるものは無し。 削平により柱穴の底部のみ確認。								
時	期	縄文時代		根	拠	住居址の形状から		

表1 33号住居址

検出位置	AX11		覆	土			
切	切	る	床		面	不明	
	合	切られる	30号住居址				
規	模	プラン	住居内施設	主	柱	穴	
	・	規模m		貯	蔵	穴	
	形	主		入		口	
	・	壁		炉	形	状	確認できず
	状	高		・	規	模	cm
状	状態	削平により確認できず					
【出土遺物】当住居址の遺物と判断できるものは無し。 削平により柱穴の底部のみ確認。							
時	期	縄文時代		根	拠	切り合い及び形状から	

表2 34号住居址

検出位置	AV47		覆	土	暗褐色土			
切	切	る	床		面	軟弱		
	合	切られる	住居内施設	主	柱	穴	P1・P2・P3・P5	
規	模	プラン		貯	蔵	穴	P4	
	・	規模m		入		口		
	形	主		炉	形	状		
	・	壁		・	規	模	cm	93cm×92cm
	状	高		竈	特記事項		抜き取り痕を確認	
状	状態	やや緩やか						
【出土遺物】深鉢（第1図1）の文様は隆帯文を施した後、沈線を描く。 住居址東側の範囲は判断できなかった。								
時	期	縄文時代中期中葉末から中期後葉		根	拠	出土遺物より		

表3 35号住居址

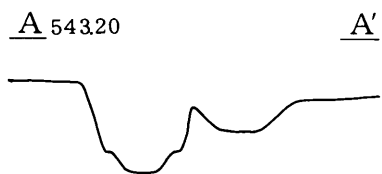
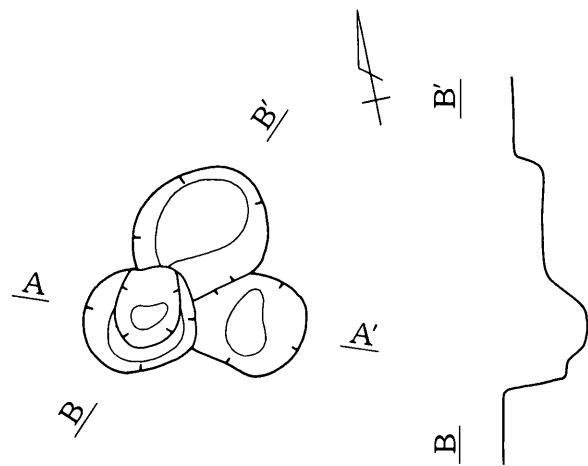
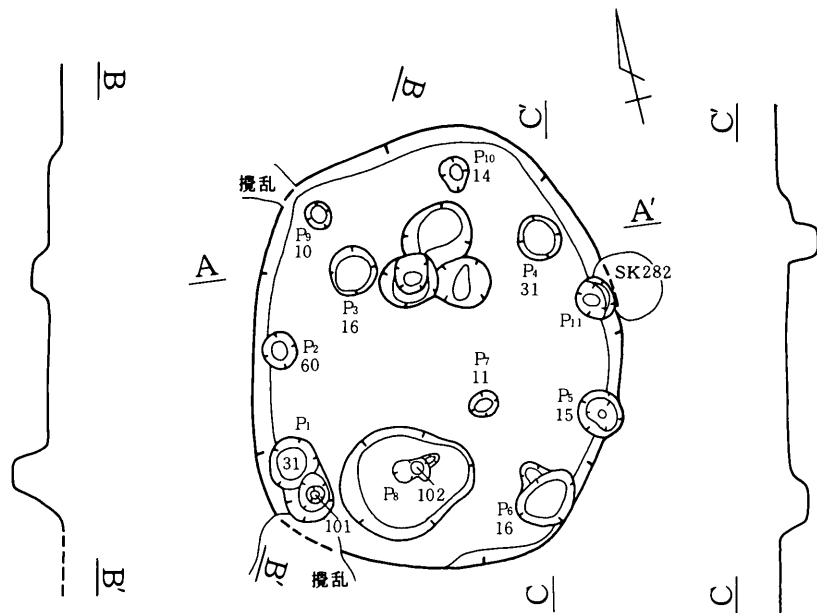
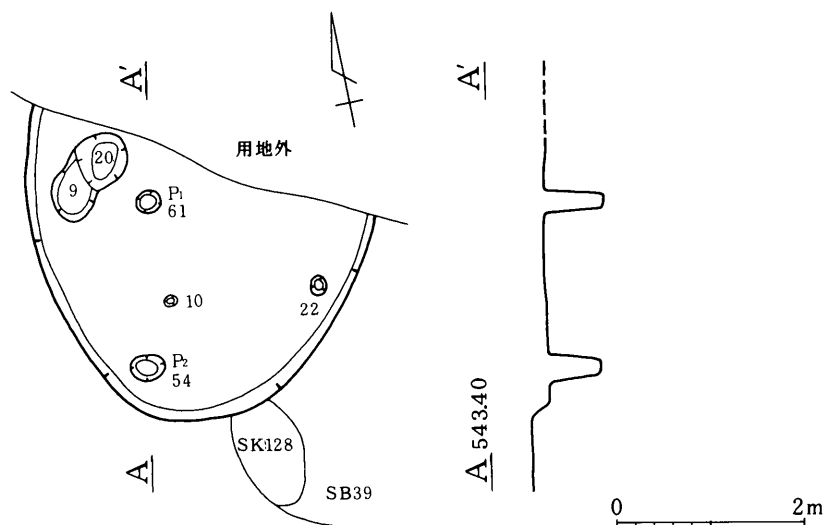


插图8 36号住居址



挿図9 37号住居址

検出位置	AQ02	覆	土	暗褐色土		
切	切る	土坑282	床	面	軟弱	
	切られる		住居内施設	主柱穴	P1~P6	
規模・形状	プラン	円形		貯蔵穴		
	規模m	4.7m×3.9m		入口		
	主軸	N10°E		炉・竈	形状	
	壁高cm	15cm			規模cm	125cm×105cm
	状態	ほぼ垂直			特記事項	抜き取り痕を確認
【出土遺物】土器の破片の他、石錘など石器がまばらに出土した程度。 プランは明確に判断できなかった。						
時期	縄文時代中期中葉末から中期後葉	根拠	出土遺物より			

表4 36号住居址

検出位置	AP06	覆	土	暗褐色土		
切	切る	39号住居址	床	面	軟弱	
	切られる		住居内施設	主柱穴	P1・P2	
規模・形状	プラン	(円形)		貯蔵穴		
	規模m	3.8m×不明		入口		
	主軸	不明		炉・竈	形状	確認できず
	壁高cm	25cm			規模cm	
	状態	緩やか			特記事項	
【出土遺物】土器の小片がわずかに出土したのみ。 住居址の範囲の大半は調査区外にかかる。プランは不明確。						
時期	縄文時代中期中葉末から中期後葉	根拠	出土遺物より			

表5 37号住居址

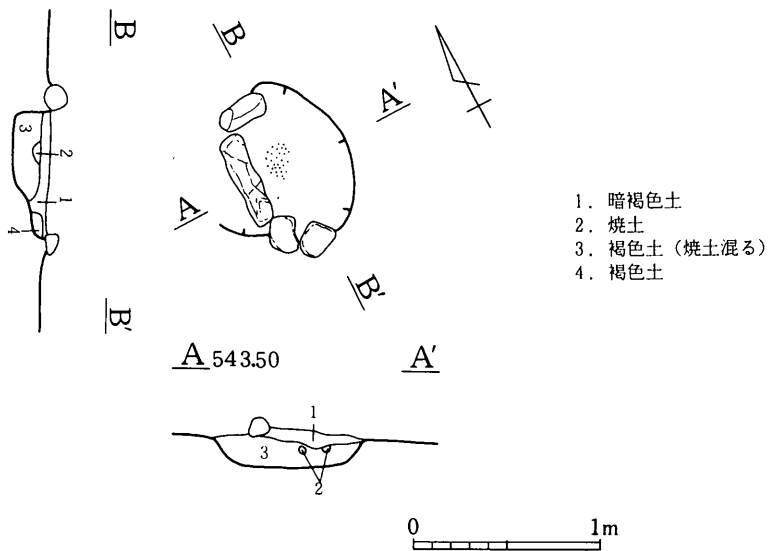
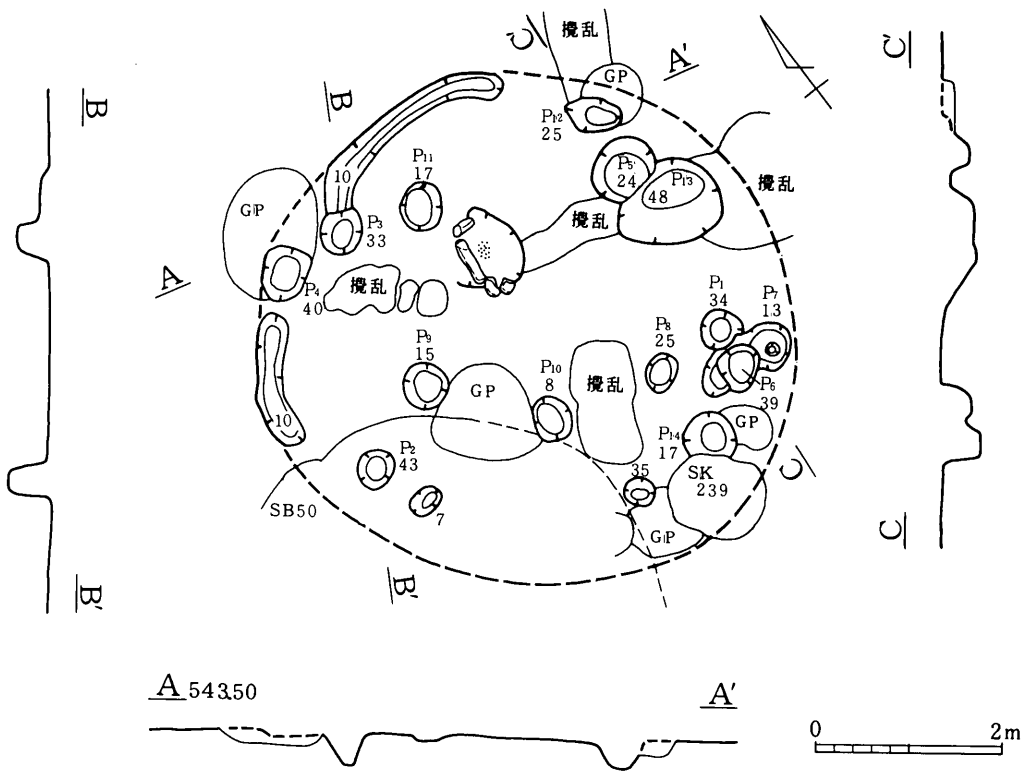
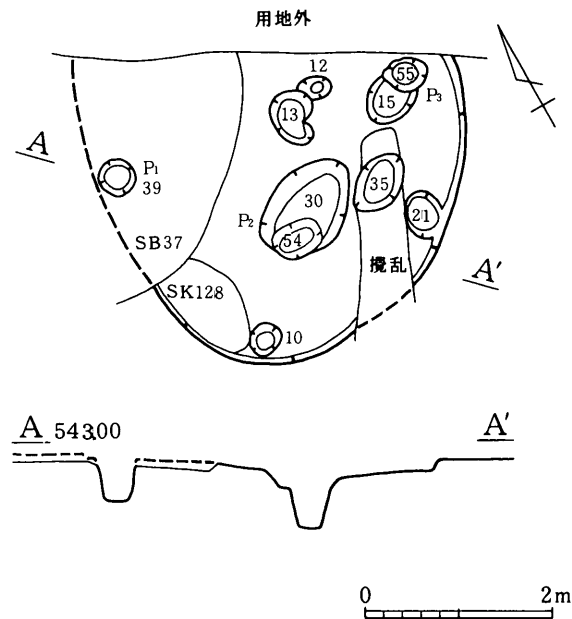


插图10 38号住居址



挿図11 39号住居址

検出位置	A R 48		覆	土		
切	切る	50号住居址	床	面	不明	
	切られる		住居内施設	主柱穴	P 2 ・ P 3 ・ P 12	
規	プラン	円形		貯蔵穴		
	規模m	(5.5m × 5.2m)		入口		
	主軸	N37° E		炉・竈	形状	石囲い炉
	壁高cm	削平により確認できず			規模cm	95cm × 80cm
状態		特記事項		炉石の一部は攪乱のため欠如		
【出土遺物】ほとんどが小破片。 住居址の範囲は不明確。						
時期	縄文時代中期中葉末から中期後葉		根拠	出土遺物より		

表 6 38号住居址

検出位置	A Q 17		覆	土	暗褐色土	
切	切る		床	面	不明	
	切られる	37号住居址・土坑128	住居内施設	主柱穴	P 1 ~ P 3	
規	プラン	円形		貯蔵穴		
	規模m	4.1m × 不明		入口		
	主軸	不明		炉・竈	形状	確認できず
	壁高cm	16cm			規模cm	
状態	緩やか	特記事項				
【出土遺物】土器は小片のみであるが、石錘が住居址の南側に固まって出土。 住居址の範囲の大半は調査区外に掛かる。						
時期	縄文時代中期中葉末から中期後葉		根拠	出土遺物より		

表 7 39号住居址

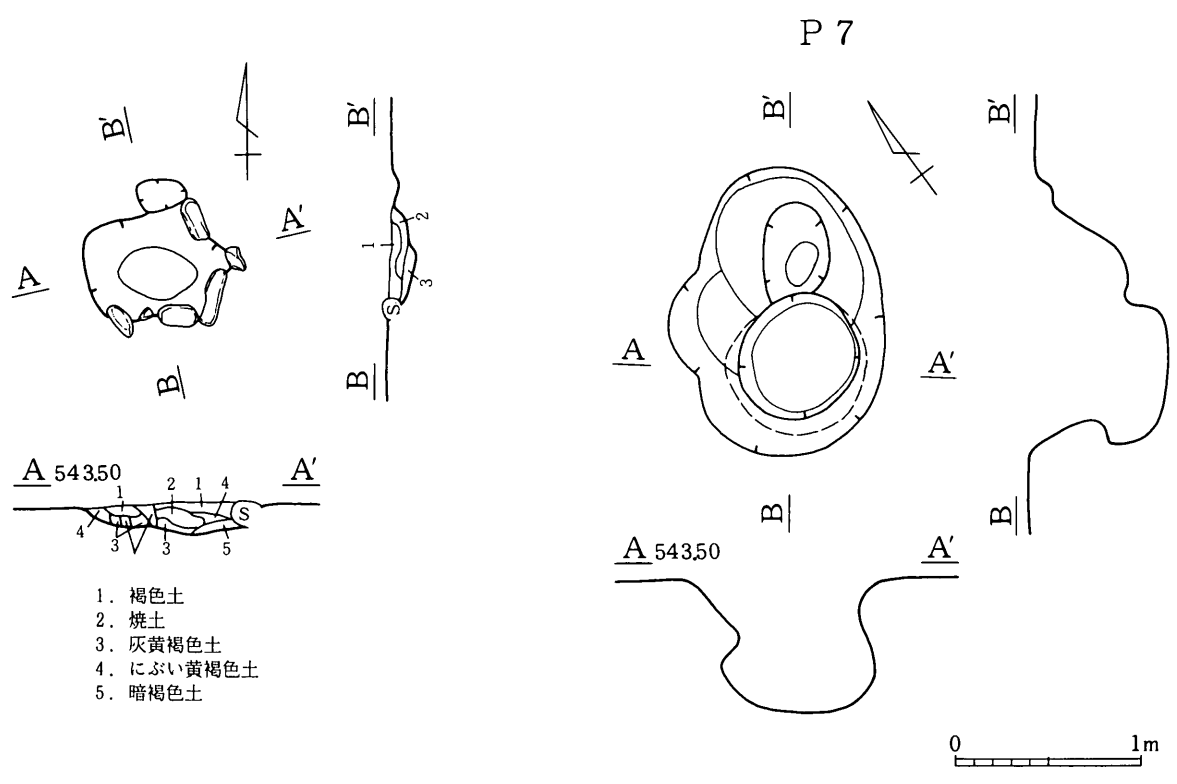
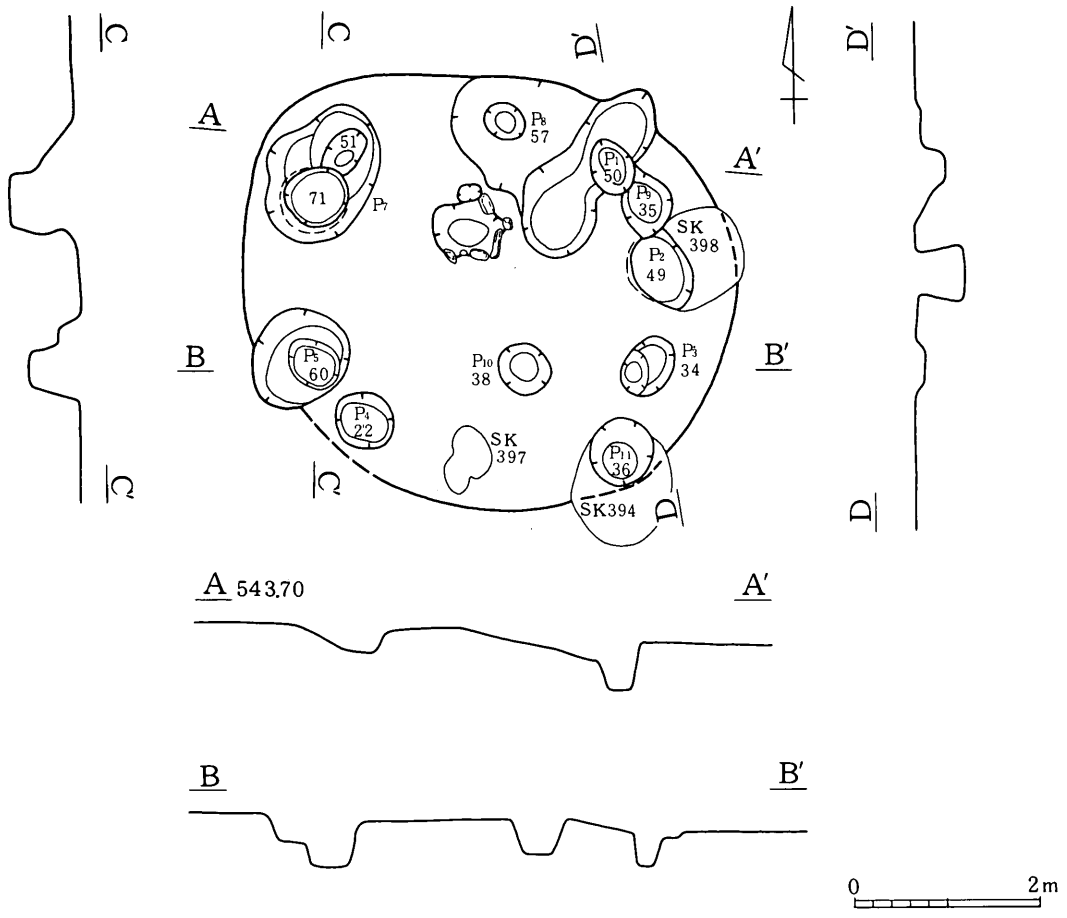
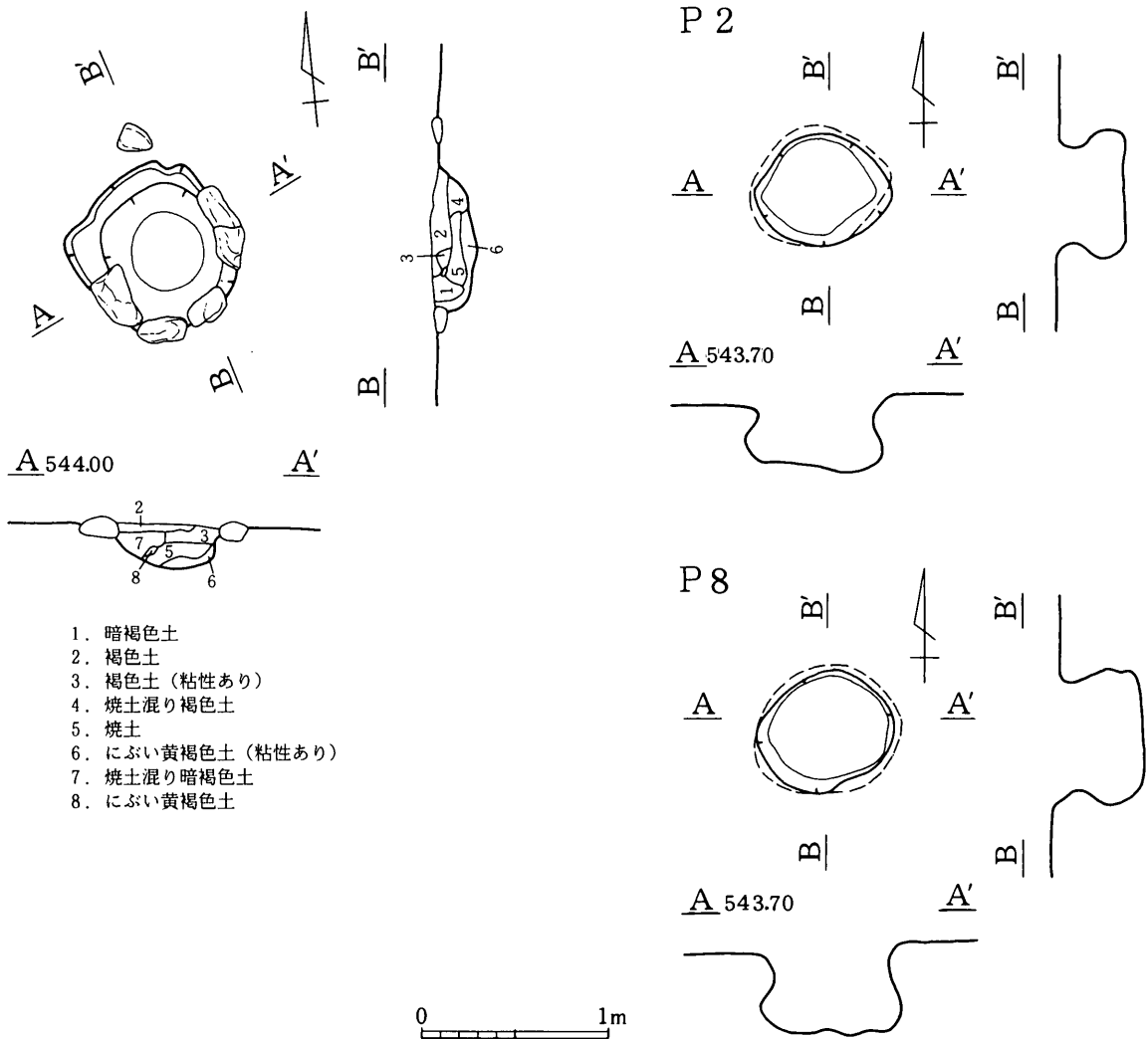
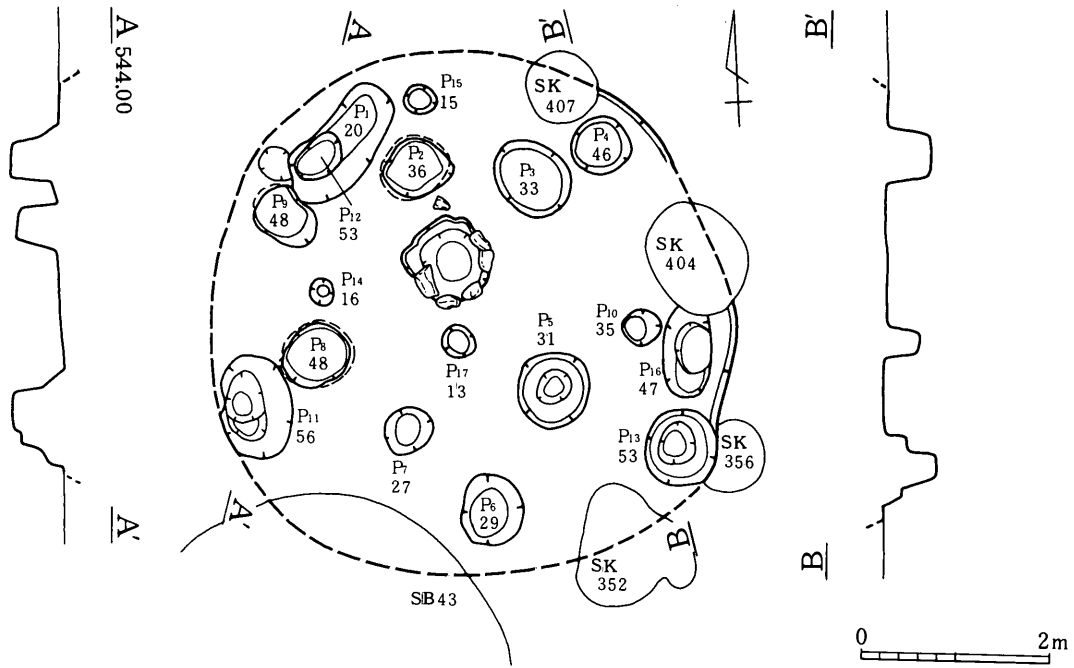


插图12 40号住居址



1. 暗褐色土
2. 褐色土
3. 褐色土 (粘性あり)
4. 焼土混り褐色土
5. 焼土
6. にぶい黄褐色土 (粘性あり)
7. 焼土混り暗褐色土
8. にぶい黄褐色土

挿図13 41号住居址

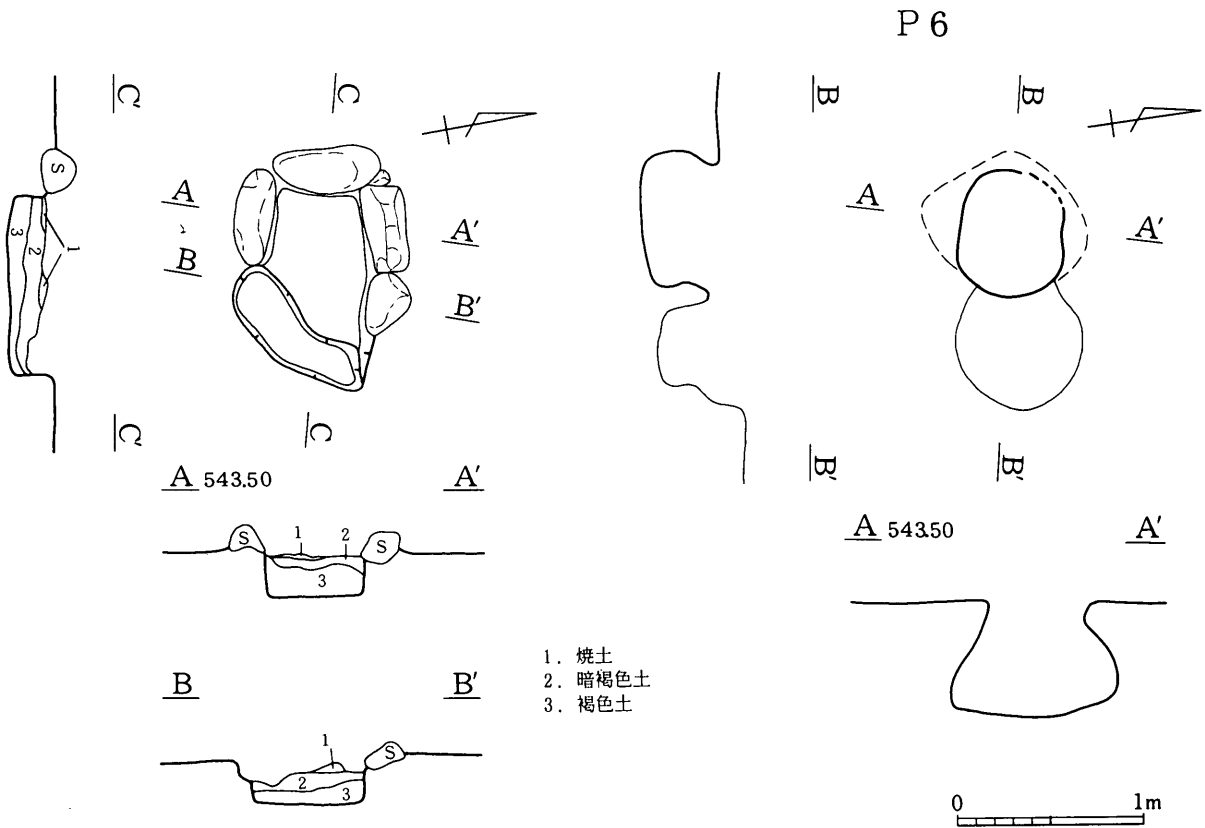
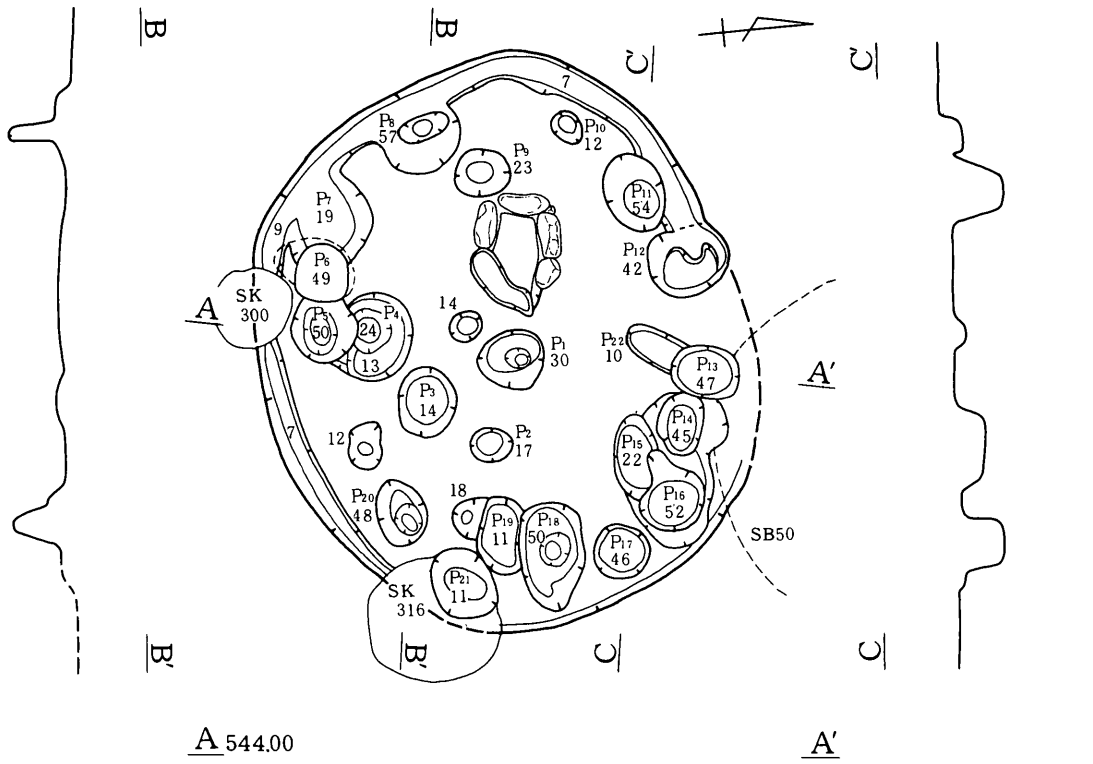


插图14 42号住居址

検出位置	A Q43		覆土	暗褐色土	
切合	切る	土坑398・土坑394	床面	不明確（炉石の高さで判断）	
	切られる			住居内施設	主柱穴
規模・形状	プラン	円形	炉・竈		貯蔵穴
	規模m	5.4m×4.7m		入口	
	主軸	N45° E		炉形状	石囲い炉
	壁高cm	9cm		規模cm	83cm×80cm
	状態	緩やか		特記事項	攪乱のため炉石は動いている
【出土遺物】無し。 重機による耕土除去作業の段階で炉を確認。					
時期	縄文時代		根拠	住居址や炉の形状から	

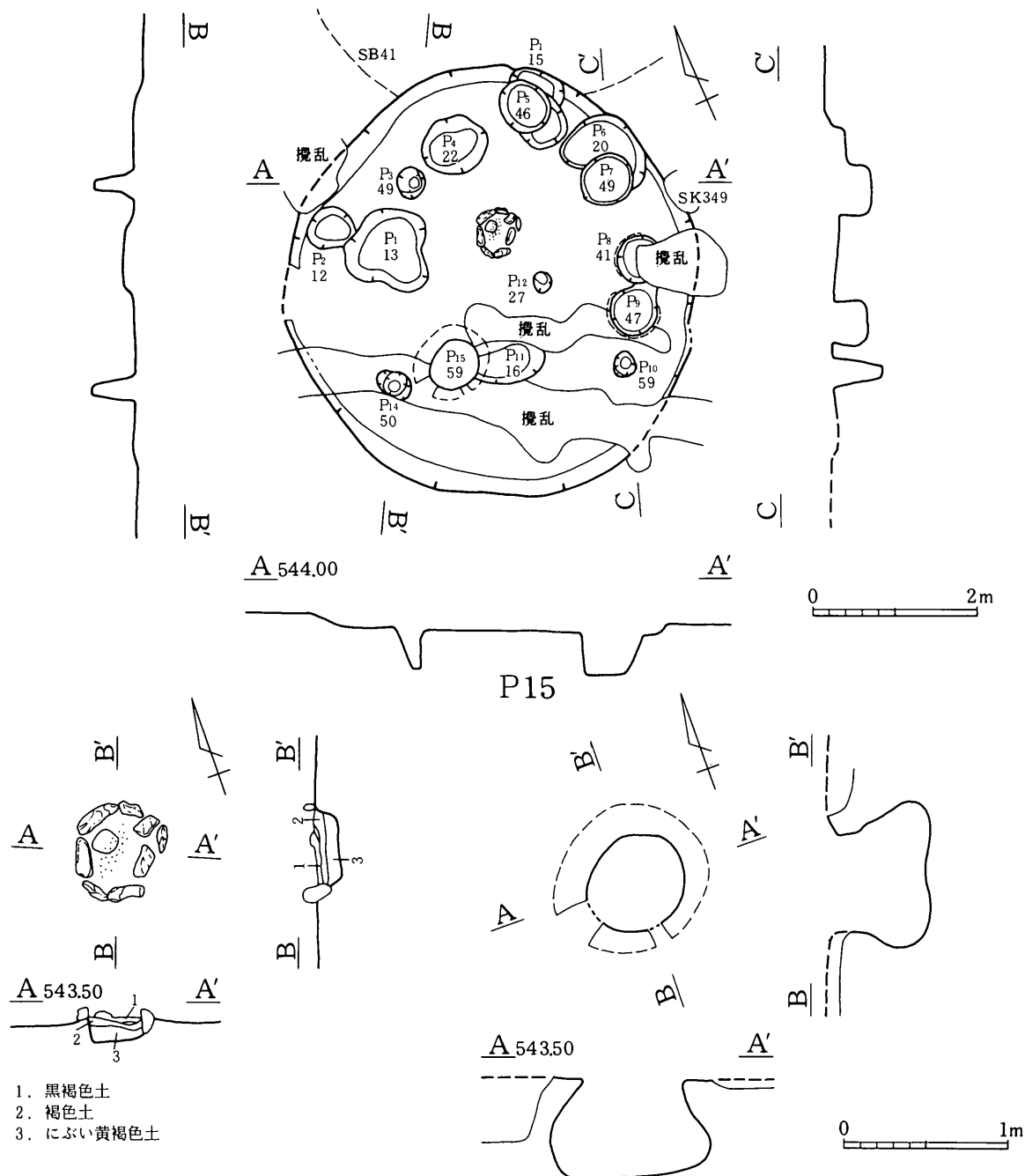
表8 40号住居址

検出位置	A P41		覆土	床面で検出	
切合	切る	43号住居址	床面	不明確（炉石の高さで判断）	
	切られる	土坑407・土坑404・土坑352		住居内施設	主柱穴
規模・形状	プラン	（円形）	炉・竈		貯蔵穴
	規模m	（5.55m×5.40m）		入口	
	主軸	N4° W		炉形状	石囲い炉
	壁高cm			規模cm	88cm×85cm
	状態			特記事項	攪乱のため半分破壊される
【出土遺物】時期を判断できる遺物は無し。 重機による耕土除去作業の段階で炉を確認。					
時期	縄文時代		根拠	住居址や炉の形状から	

表9 41号住居址

検出位置	A O46		覆土	暗褐色土	
切合	切る		床面	軟弱	
	切られる	土坑300		住居内施設	主柱穴
規模・形状	プラン	（楕円形）	炉・竈		貯蔵穴
	規模m	（6.0m×5.2m）		入口	
	主軸	N85° W		炉形状	石囲い炉
	壁高cm			規模cm	130cm×90cm
	状態	ほぼ垂直		特記事項	一部炉石欠如
【出土遺物】主体は中期中葉末から後期にかけての土器。 住居址を作る際に早期末や中期中葉の土坑を壊している可能性がある。					
時期	縄文時代中期中葉末から中期後葉		根拠	出土遺物より	

表10 42号住居址



挿図15 43号住居址

検出位置	AN40	覆土	暗褐色土	
切合	切る	床面	軟弱(地山)	
	切られる			
規模・形状	プラン	住居内施設	主柱穴	P3・P7・P10・P14
	規模m		貯蔵穴	P15
	主軸		入口	
	壁高cm		形状	石囲い炉
	状態		規模cm	60cm×50cm
		特記事項	炉石は非常に小さいものを使用	
【出土遺物】床面まで浅かったため少ない。				
時期	縄文時代中期中葉末から中期後葉	根拠	出土遺物より	

表11 43号住居址

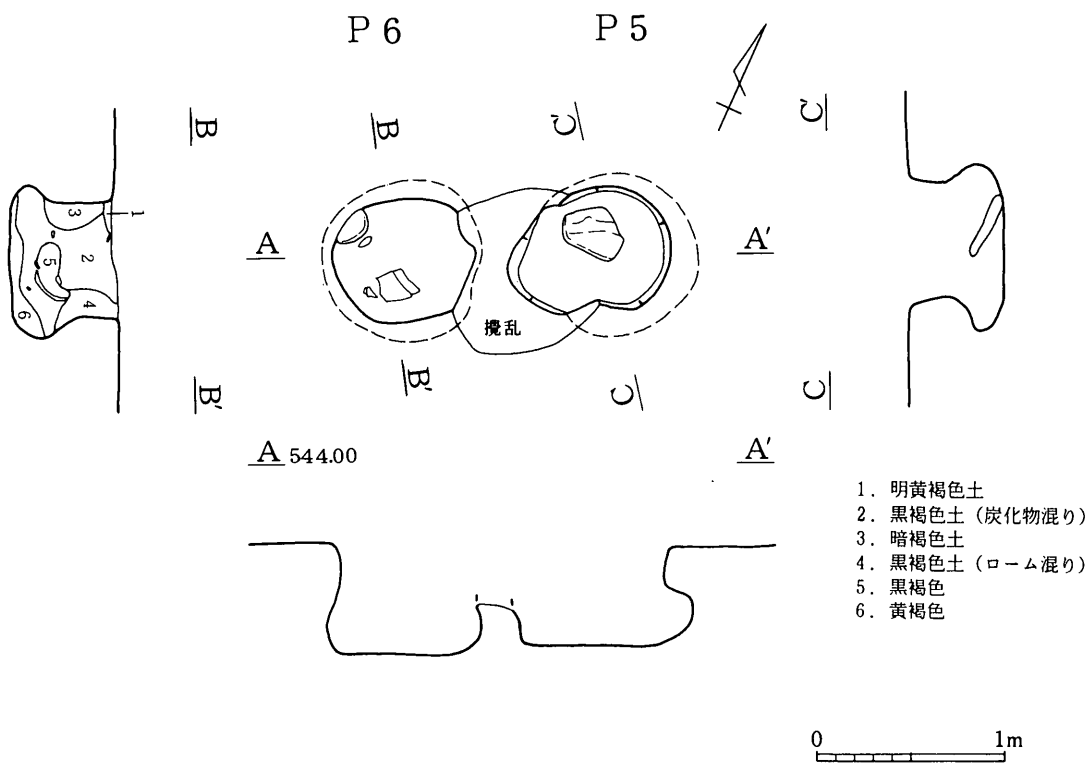
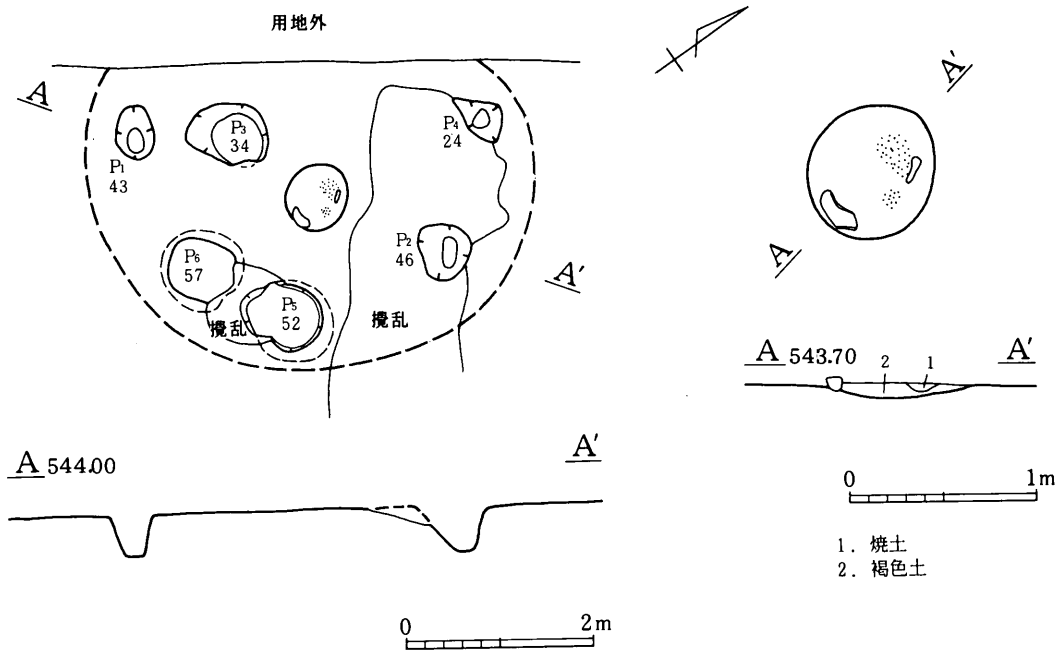
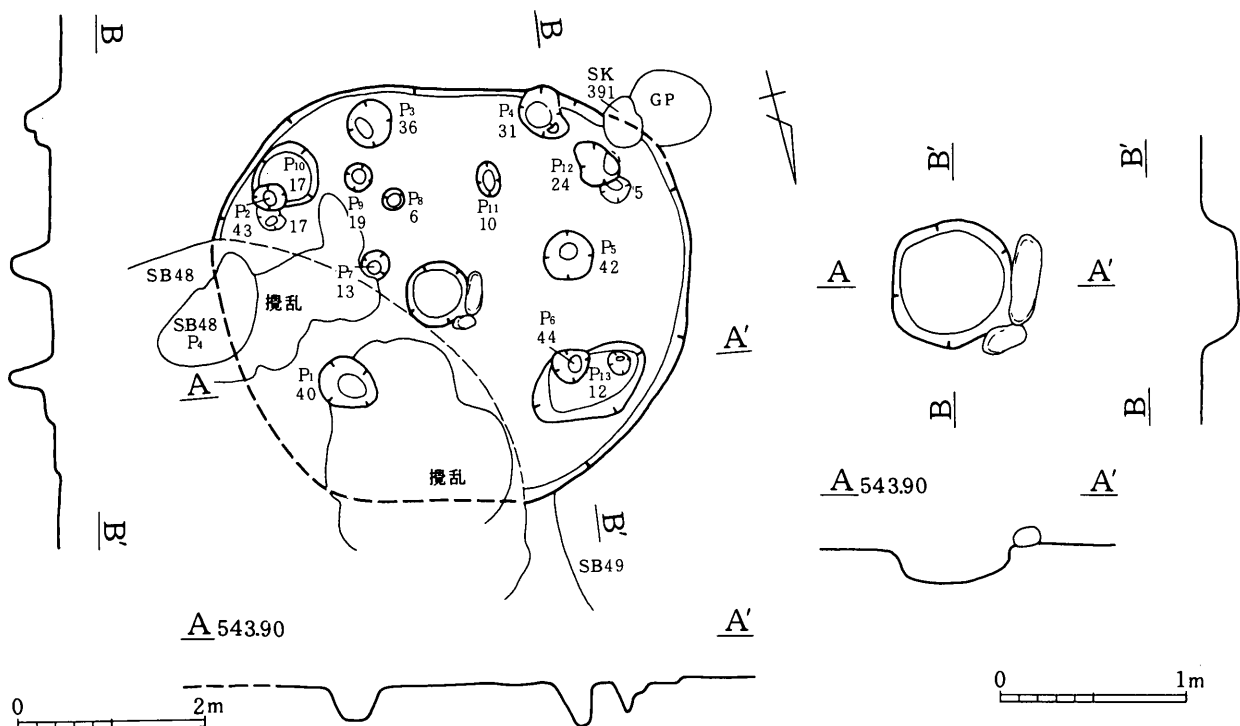


插图16 44号住居址



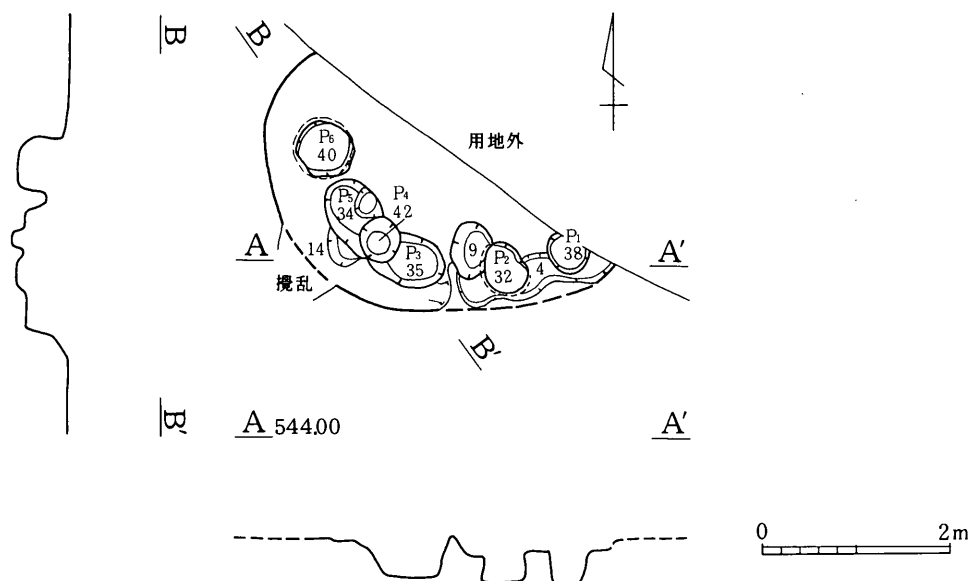
挿図17 45号住居址

検出位置	A P38		覆土	床面で検出	
切合	切る		床面	地山	
	切られる				
規模・形状	プラン	不明	住居内施設	主柱穴	P1・P2
	規模m	不明		貯蔵穴	P5・P6
	主軸			入口	
	壁高cm		炉・竈	形状	焼土のみ確認
	状態			規模cm	73cm×65cm
			特記事項	規模は焼土の分布する範囲	
【出土遺物】P6から出土した深鉢の破片のみ 調査区外に住居址の一部が掛かり、全体を調査できなかった。					
時期	縄文時代中期中葉末から中期後葉		根拠	出土遺物より	

表12 44号住居址

検出位置	A K38		覆土	床面で検出	
切合	切る		床面	地山	
	切られる				
規模・形状	プラン	円形	住居内施設	主柱穴	P1～P6
	規模m	(5.0m×4.5m)		貯蔵穴	
	主軸	N126° W		入口	
	壁高cm	8cm	炉・竈	形状	石囲い炉
	状態	緩やか		規模cm	78cm×70cm
			特記事項	炉石はほとんど欠如	
【出土遺物】時期を判断できる遺物は無し。 48・49号住居址と切り合うが、新旧関係は不明。					
時期	縄文時代		根拠	住居址の形状から	

表13 45号住居址



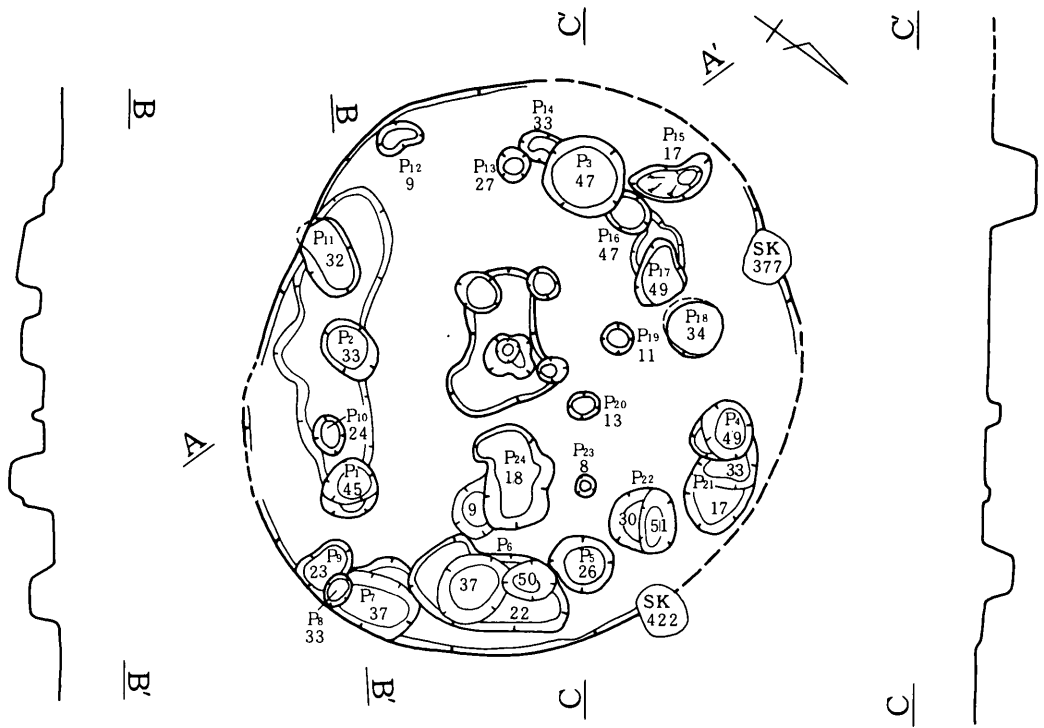
挿図18 46号住居址

検出位置	A S03		覆土	暗褐色土	
切合	切る		住居内施設	床面	地山
	切られる			主柱穴	P1~P6
規模・形状	プラン	円形	炉・竈	貯蔵穴	
	規模m	不明		入口	
	主軸			形状	確認できず(調査区外)
	壁高cm	10cm(一部)		規模cm	
	状態	緩やか		特記事項	
【出土遺物】					
住居址のほとんどが調査区外に掛かる。					
時期	縄文時代中期		根拠	出土遺物から	

表14 46号住居址

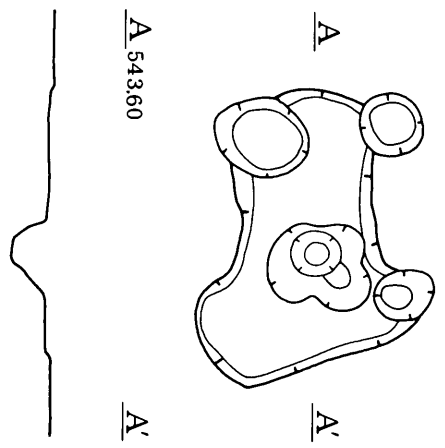
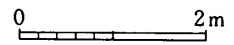
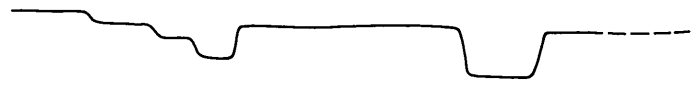
検出位置	A H40		覆土	暗褐色土	
切合	切る		住居内施設	床面	軟弱
	切られる			主柱穴	P1~P5
規模・形状	プラン	円形	炉・竈	貯蔵穴	
	規模m	6.0m×5.8m		入口	
	主軸	N125° W		形状	
	壁高cm	10cm		規模cm	145cm×70cm
	状態	やや緩やか		特記事項	抜き取り痕のみ確認
【出土遺物】深鉢の破片が疎らに出土するのみ。					
柱穴は単独で検出できたものは少ない。柱穴の状況から建て替えが行われた可能性もあり。					
時期	縄文時代中期中葉末から中期後葉		根拠	出土遺物より	

表15 47号住居址



A 544.00

A'

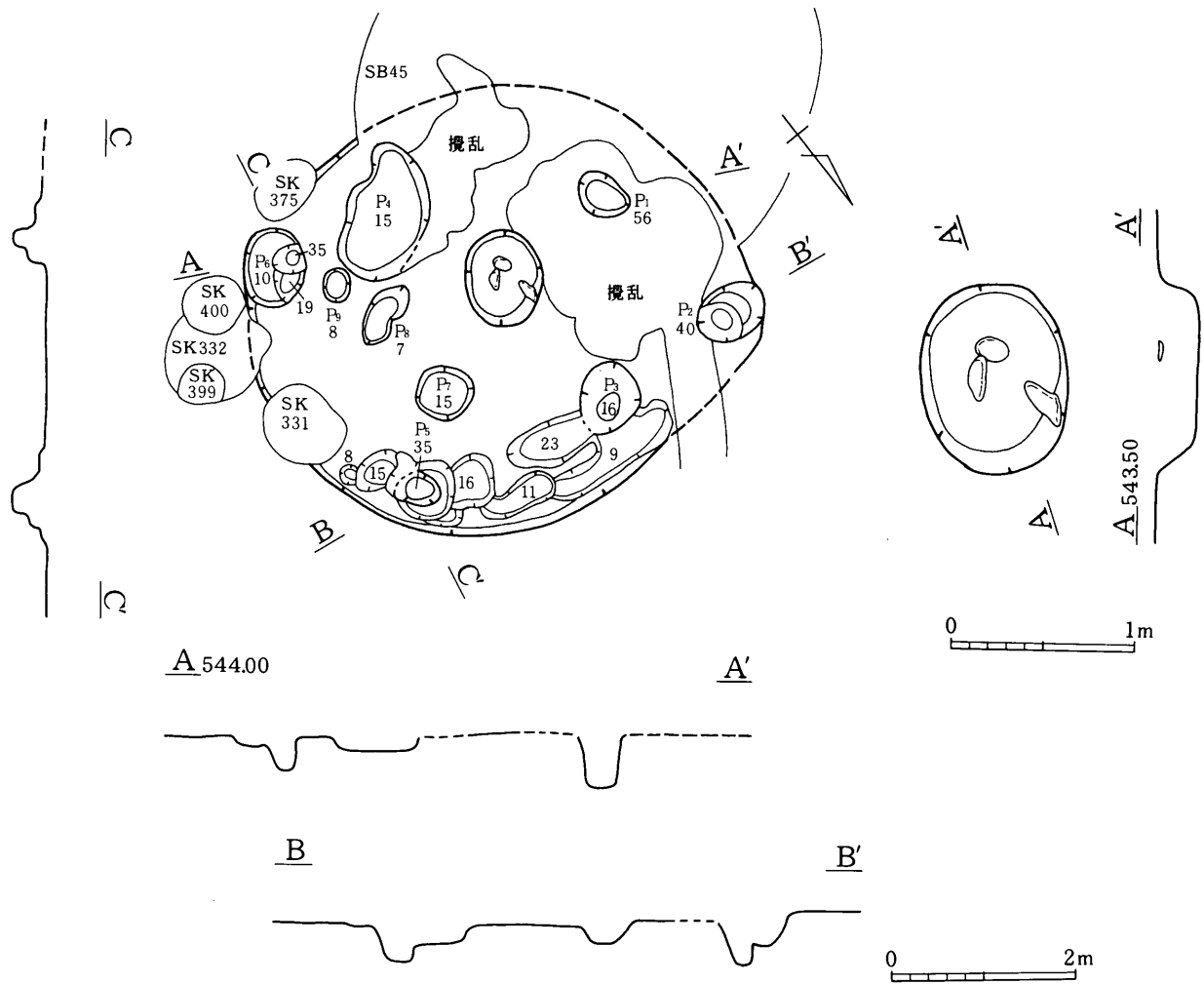


A 543.60

A'



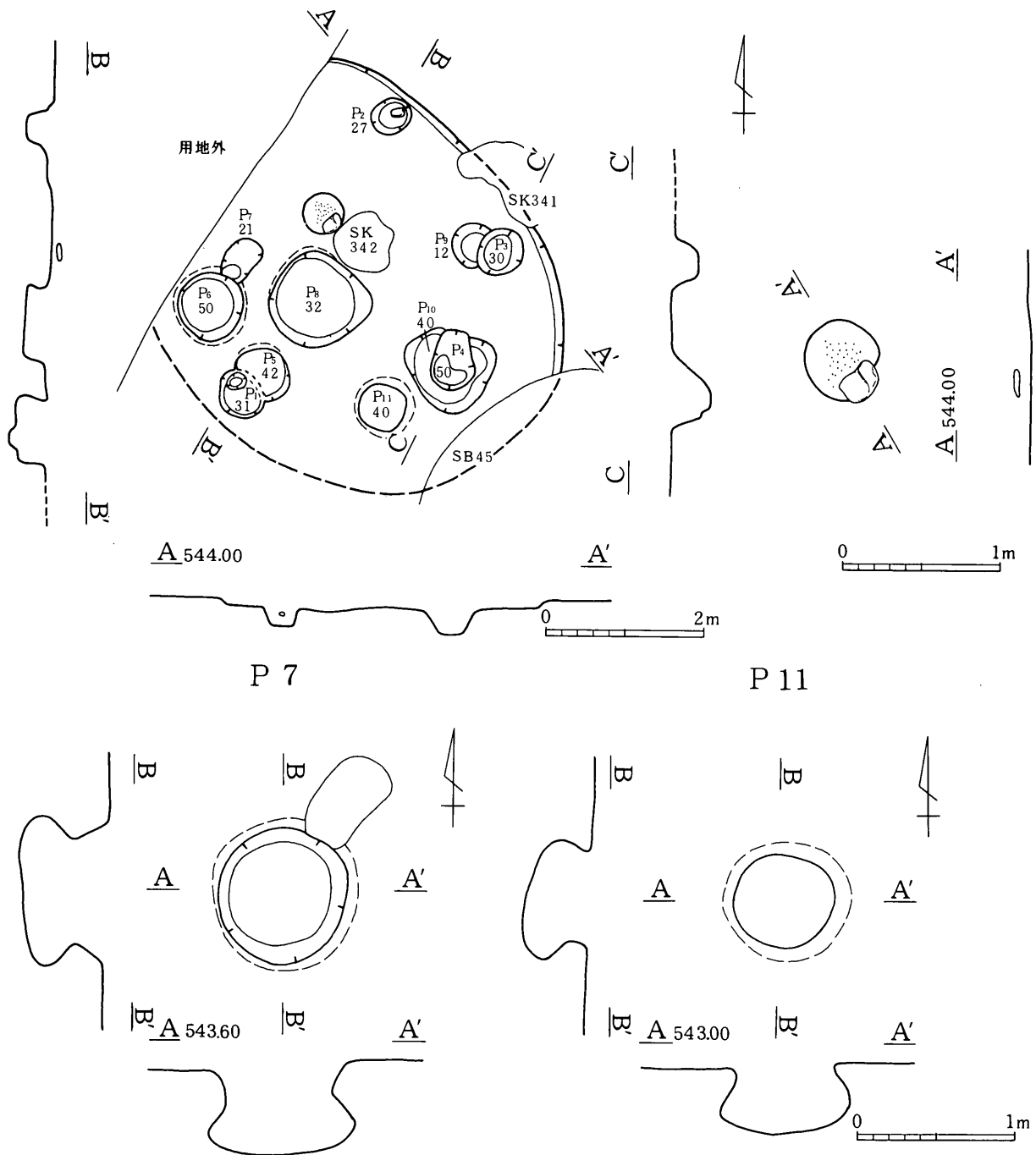
插图19 47号住居址



挿図20 48号住居址

検出位置	AK40		覆土	暗褐色土		
切合	切る		床面	軟弱		
	切られる		住居内施設	主柱穴	P1~P3・P5・P6	
規模・形状	プラン	(円形)		貯蔵穴		
	規模m	(5.5m×4.5m)		入口		
	主軸	N143°W		炉・竈	形状	
	壁高cm	8cm			規模cm	100cm×80cm
状態	やや緩やか			特記事項	炉の跡と思われる彫り込みを確認	
【出土遺物】 時期を判断できる遺物は無し。 45号住居址と切り合うが新旧不明。						
時期	縄文時代		根拠	住居址の形状から		

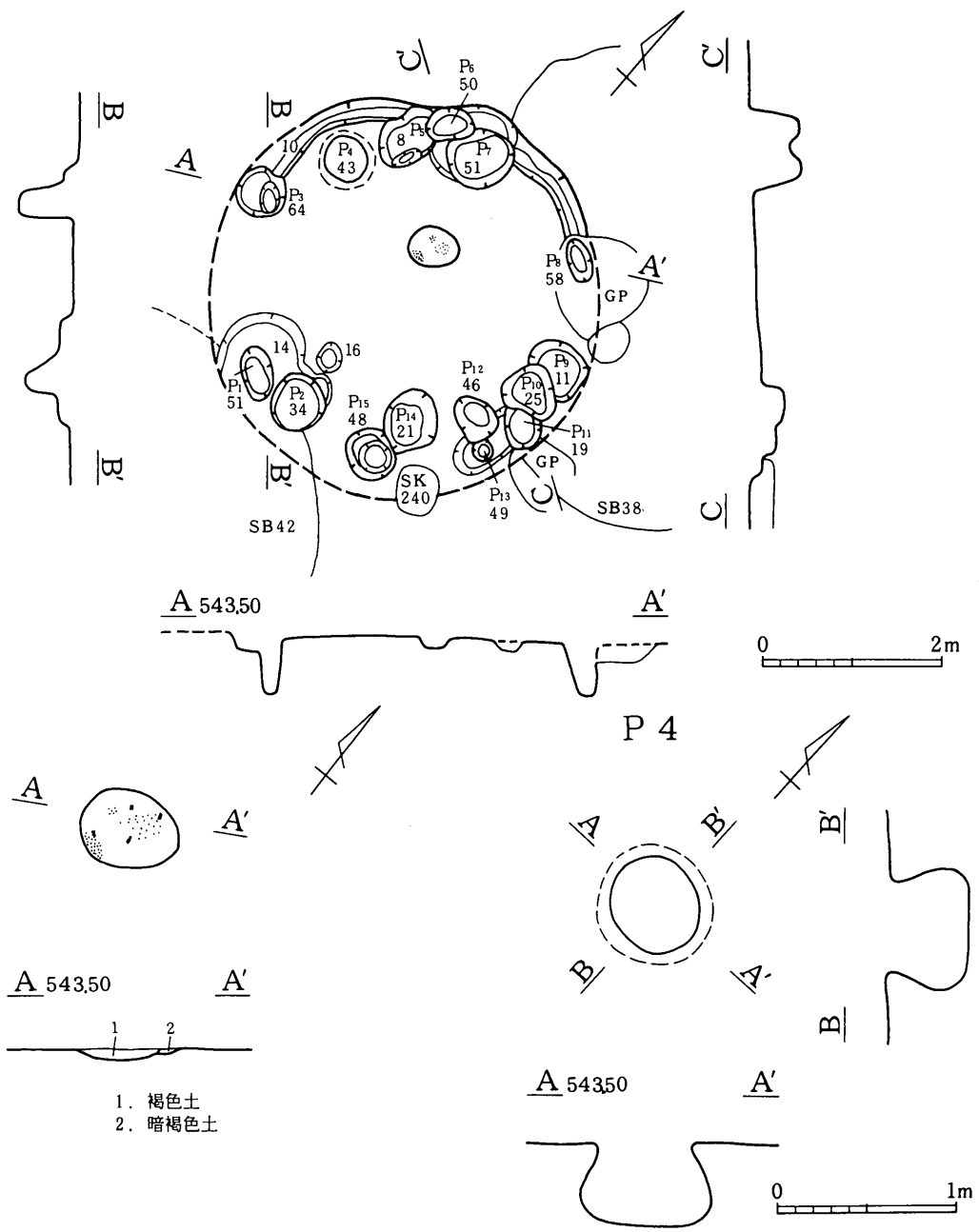
表16 48号住居址



挿図21 49号住居址

検出位置	A L 36		覆土	暗褐色土		
切合	切る		床面	軟弱		
	切られる					
規模・形状	プラン	不明	住居内施設	主柱穴	P 1 ~ P 4	
	規模m	不明		貯蔵穴	P 7 ・ P 11か	
	主軸	不明		入口		
	壁高cm	11cm		炉・竈	形状	焼土のみ確認
	状態	緩やか			規模cm	48cm × 50cm
			特記事項			
【出土遺物】小破片のみ。						
住居址西側が調査区外に掛かる。45号住居址と切り合うが新旧不明。						
時期	縄文時代中期中葉末から中期後葉		根拠	出土遺物より		

表17 49号住居址



挿図22 50号住居址

検出位置	A Q46		覆土	暗褐色土	
切合	切る		床面	地山	
	切られる		住居内施設	主 柱 穴	P 1・P 4・P 8・P11・P17
規模・形状	プラン	(円形)		貯 蔵 穴	P 6
	規模m	(4.25m×4.25m)	入 口		
	主 軸	N40° W	炉 竈	形 状	焼土のみ
	壁 高cm			規 模cm	52cm×44cm
状 態			特記事項		
【出土遺物】小破片数点を確認。					
周溝の一部を確認。38・42号住居址と切り合うが新旧不明。					
時 期	縄文時代中期中葉末から中期後葉		根 拠	出土遺物より	

表18 50号住居址

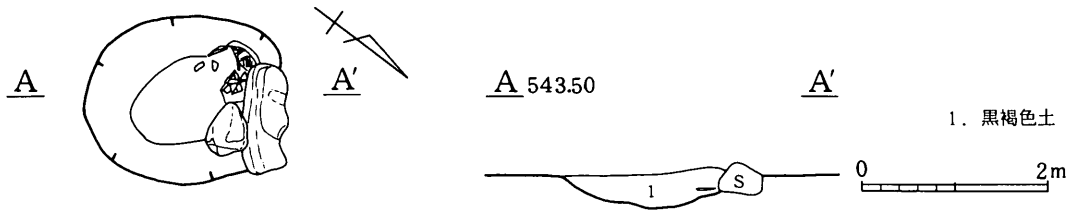


插图23 51号住居址

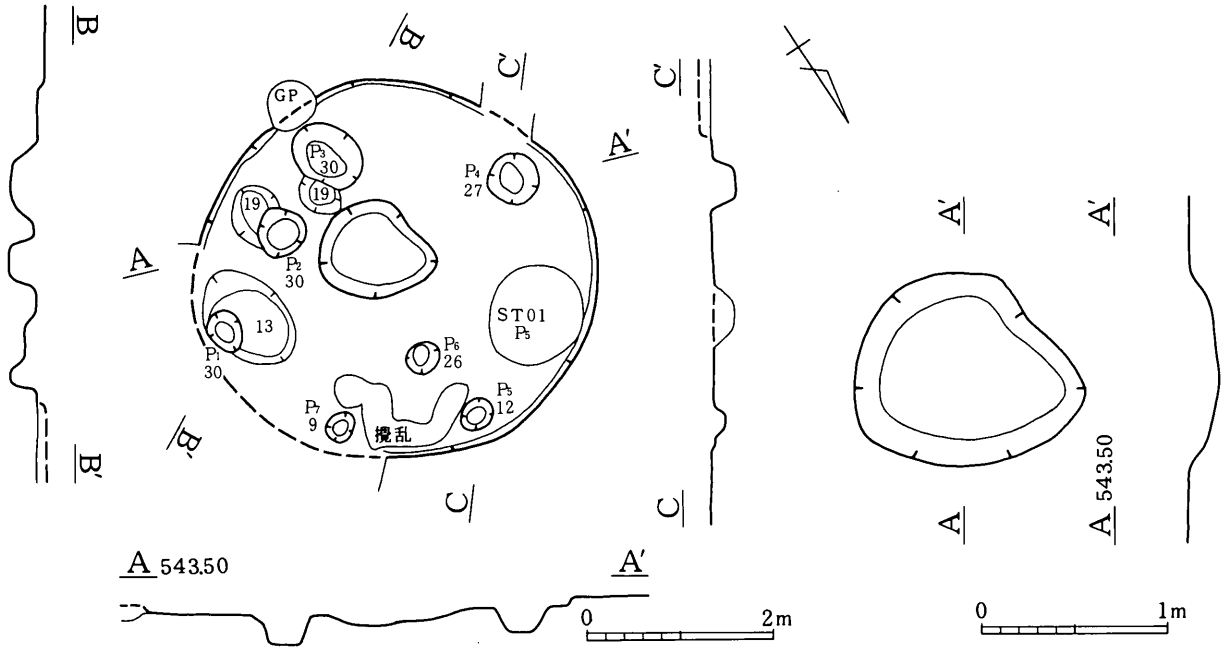


插图24 52号住居址

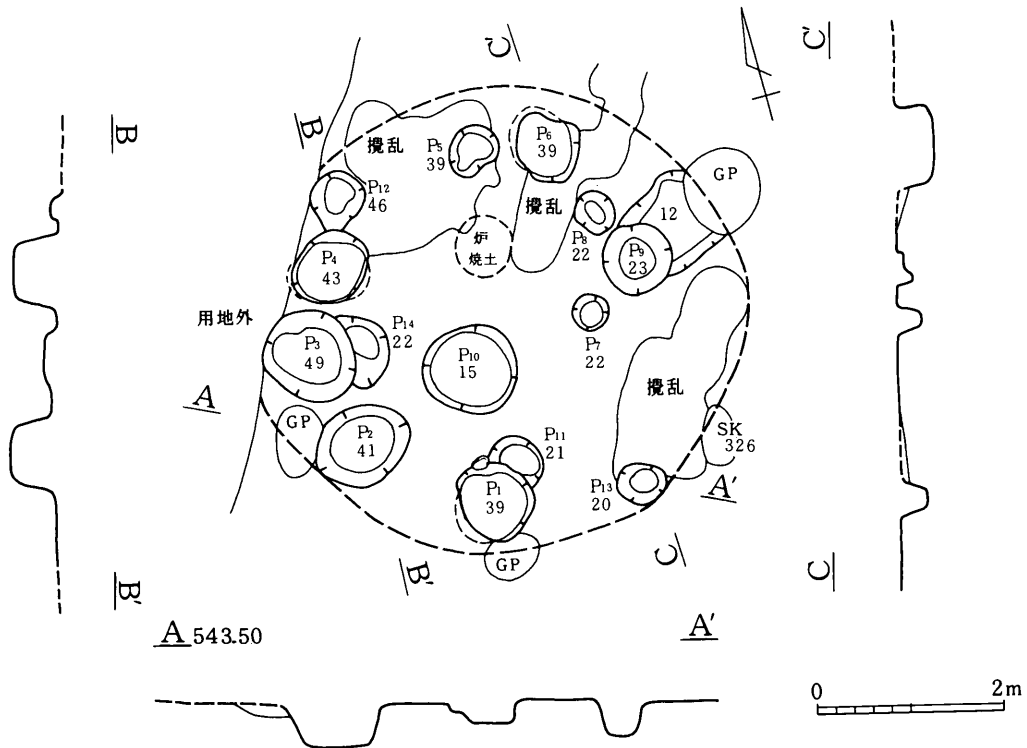


插图25 53号住居址

検出位置	A O 00		覆	土	
切	切る		床	面	不明
	合	切られる			
規 模 ・ 形 状	プラン	不明	住 居 内 施 設	主 柱 穴	不明
	規 模m			貯 蔵 穴	
	主 軸			入 口	
	壁 高cm			炉 形 状	石囲い炉か
状 態	炉のみ確認	特記事項			
【出土遺物】深鉢破片は炉の内部より出土。 55号住居址の柱穴が炉を切る状態で検出される。					
時 期	縄文時代中期中葉末から中期後葉		根 拠	出土遺物より	

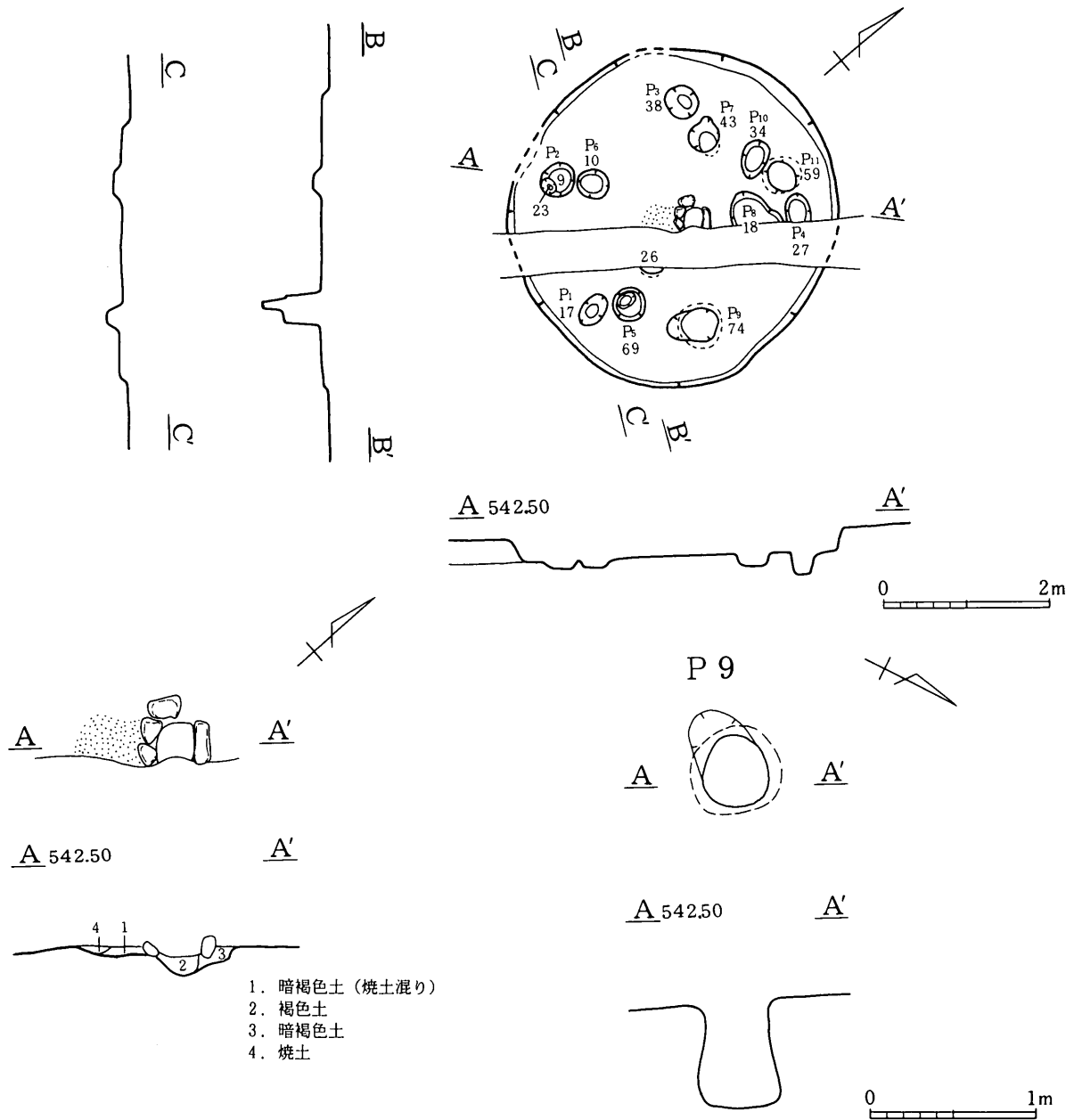
表19 51号住居址

検出位置	A J 44		覆	土	暗褐色土	
切	切る		床	面	軟弱	
	合	切られる				建物址1
規 模 ・ 形 状	プラン	(円形)	住 居 内 施 設	主 柱 穴	P 1・P 2・P 4・P 5・P 8	
	規 模m	(4.35m×3.90m)		貯 蔵 穴		
	主 軸	N46° W		入 口		
	壁 高cm	13cm		炉 形 状	規 模cm	128cm×106cm
【出土遺物】小破片が出土したのみ。 住居址の東側は攪乱のため範囲不明。						
時 期	縄文時代中期初頭		根 拠	出土遺物より		

表20 52号住居址

検出位置	A V 42		覆	土	床面で検出	
切	切る		床	面	軟弱(地山)	
	合	切られる				
規 模 ・ 形 状	プラン	円形	住 居 内 施 設	主 柱 穴	P 2・P 4・P 7・P 14	
	規 模m	(4.95m×4.95m)		貯 蔵 穴		
	主 軸	N15° E		入 口		
	壁 高cm			炉 形 状	規 模cm	70cm×65cm
【出土遺物】深鉢(第8図18)以外は小破片。 住居址西側の一部は用地外に掛かったため確認できず						
時 期	縄文時代中期後葉 I		根 拠	出土遺物より		

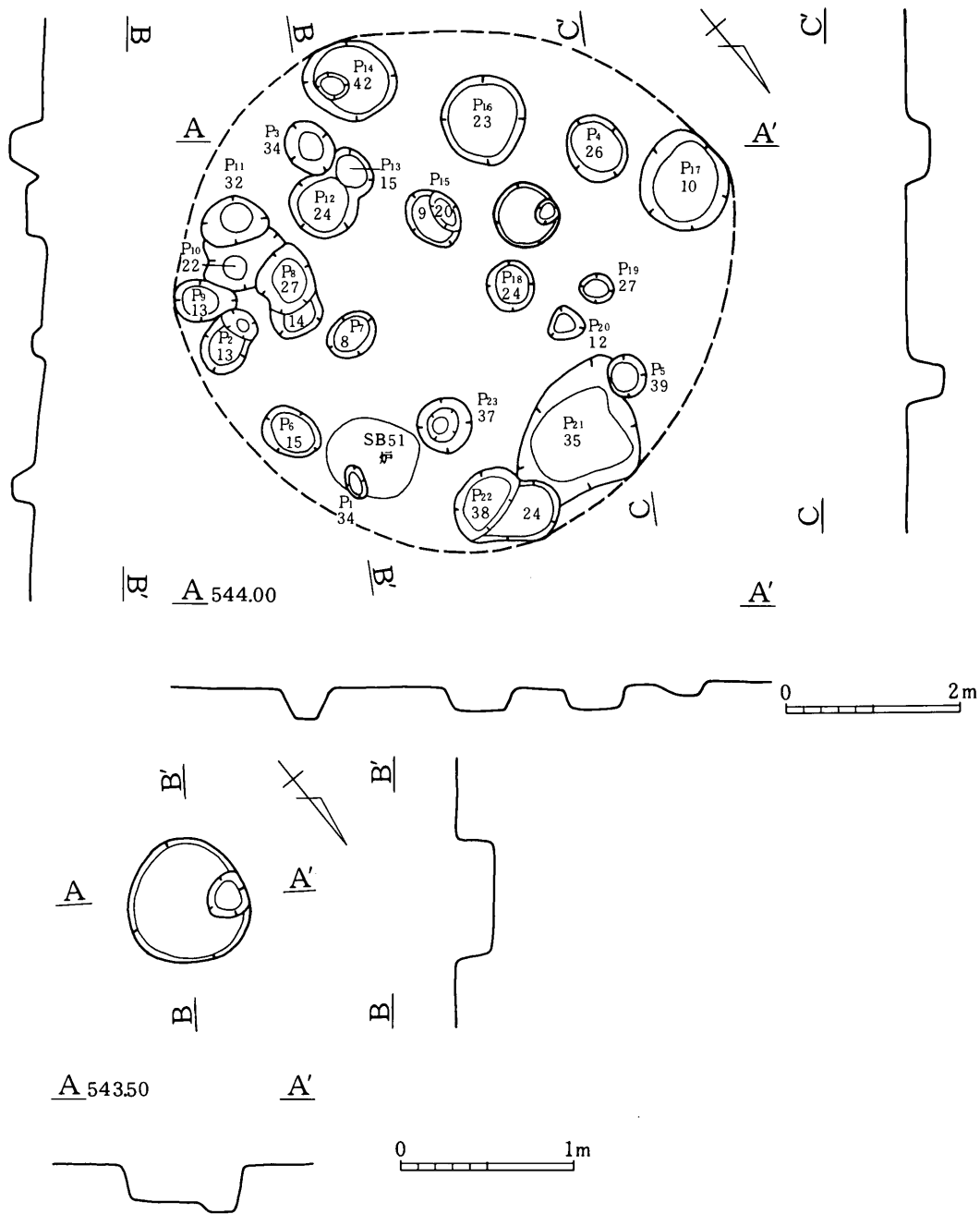
表21 53号住居址



挿図26 54号住居址

検出位置	BS27	覆土	暗褐色土			
切合	切る	床面	軟弱			
	切られる					
規模・形状	プラン	住居内施設	主柱穴	P1~P4・P5~P8		
	規模m		4.0m×3.8m	貯蔵穴	P9	
	主軸		N76°W	入口		
	壁高cm		28cm	炉・竈	形状	石囲い炉
	状態		ほぼ垂直		規模cm	73cm×不明
			特記事項	炉が作り替えられたことを確認		
【出土遺物】土器片は多かったものの形状を復元できるものは無かった。 炉が2つあったことや柱穴の状況から建て直しが有ったと考えられる。						
時期	縄文時代中期	根拠	出土遺物より			

表22 54号住居址



挿図27 55号住居址

検出位置	A L49		覆	土	床面で検出	
切合	切る	51号住居址	床	面	地山	
	切られる		住居内施設	主柱穴	P1~P5	
規模・形状	プラン	(円形)		貯蔵穴		
	規模m	不明		入口		
	主軸	N139° W		炉・竈	形状	不明
	壁高cm				規模cm	70cm×70cm
状態			特記事項			
【出土遺物】 少ないため、時期の特定が不可能。 範囲も不明確であるが、柱穴の並びで住居址と判断。						
時期	縄文時代中期		根拠	住居址の形状・切り合いから		

表23 55号住居址

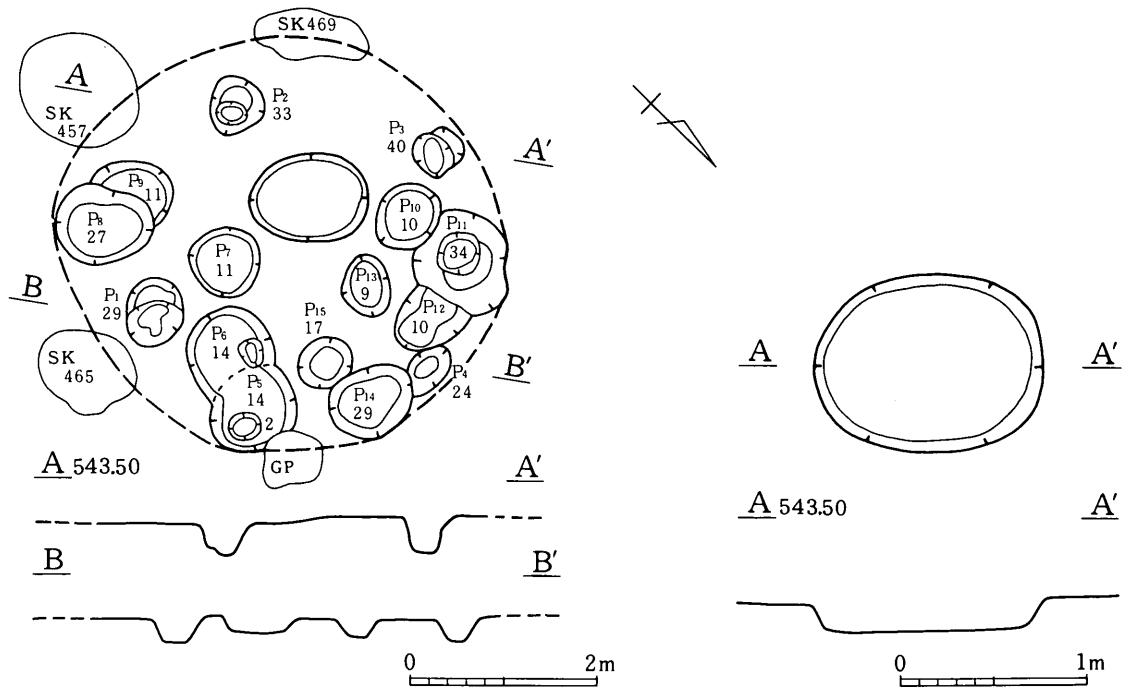


插图28 56号住居址

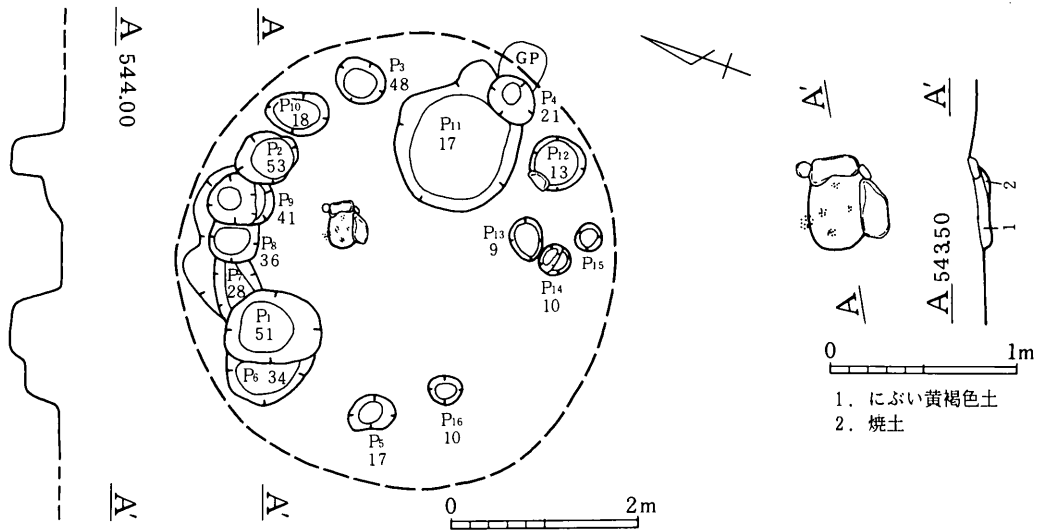


插图29 57号住居址

1. にぶい黄褐色土
2. 焼土

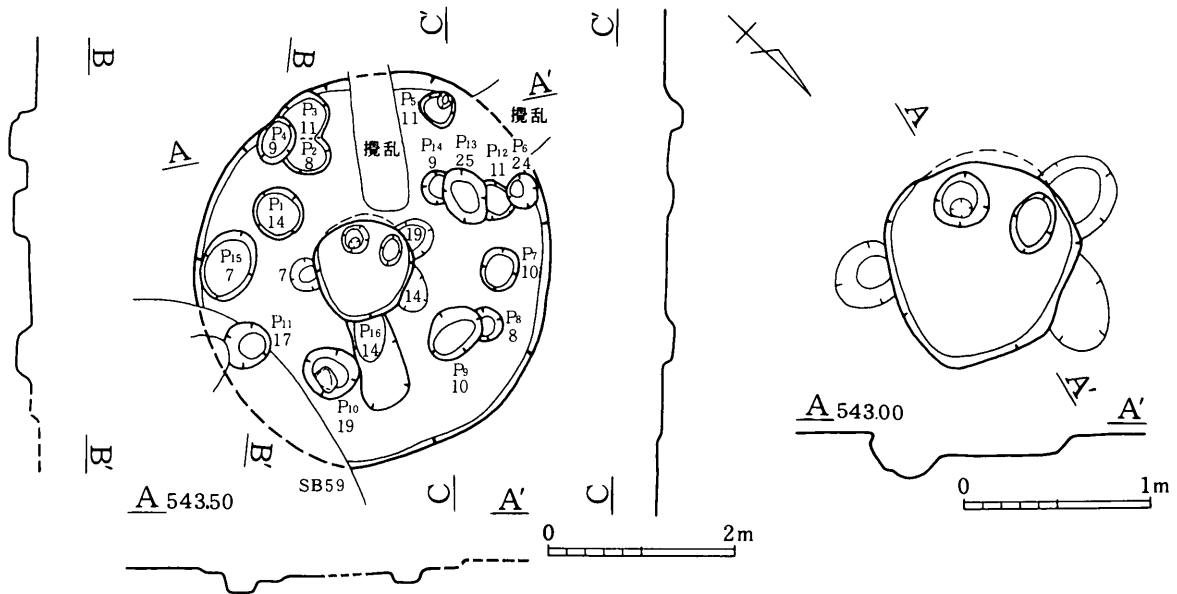


插图30 58号住居址

検出位置	AH45	覆	土	床面で検出	
切	切る	床	面	地山	
	切られる				
規模・形状	プラン	住居内施設	主柱穴	P1~P4	
	規模m		貯蔵穴		
	主軸		入口		
	壁高cm		炉・竈	形状	
	状態			規模cm	124cm×83cm
				特記事項	炉は明確には判断できなかった
【出土遺物】住居址に伴う遺物は無し。 柱穴の並びから住居址と判断した。					
時期	縄文時代	根拠	住居址の形状から		

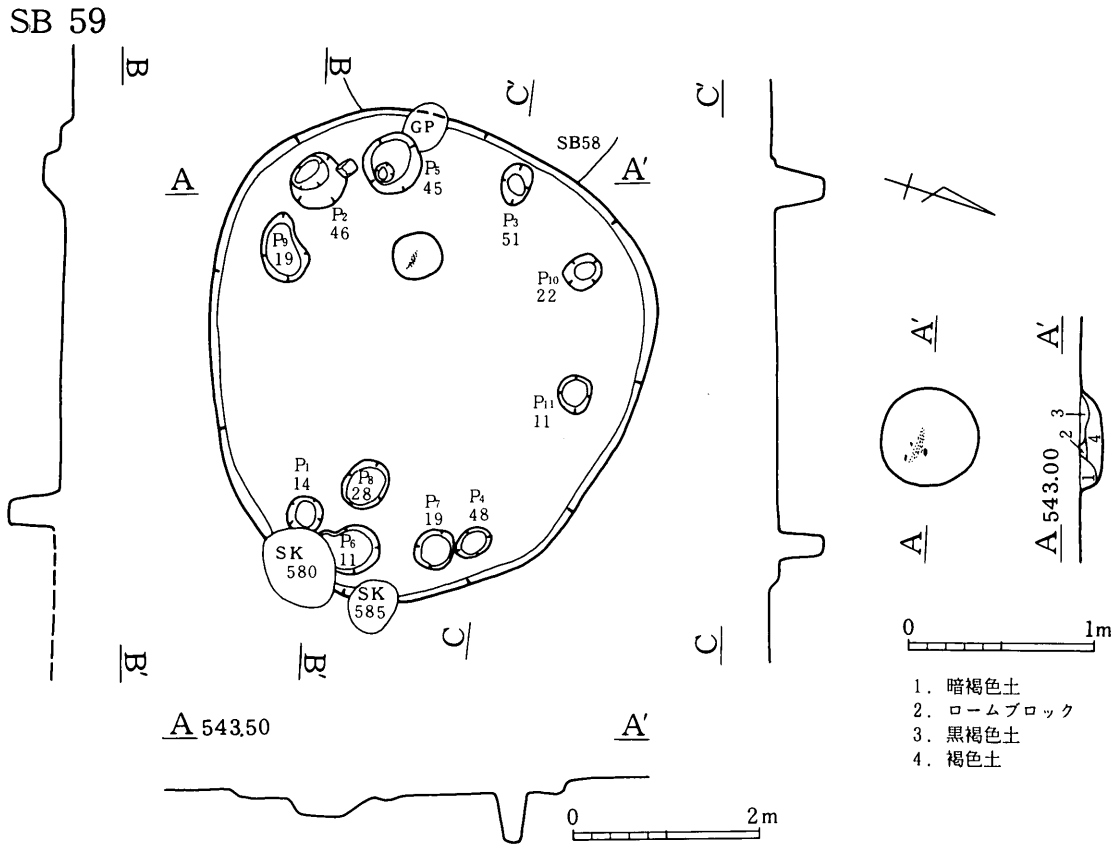
表24 56号住居址

検出位置	AG34	覆	土	床面で検出	
切	切る	床	面	地山	
	切られる				
規模・形状	プラン	住居内施設	主柱穴	P1~P5	
	規模m		貯蔵穴		
	主軸		入口		
	壁高cm		炉・竈	形状	石囲い炉
	状態			規模cm	50cm×43cm
				特記事項	炉石の半分は欠如
【出土遺物】ほとんど無し。 住居址南側の柱穴は不明確。					
時期	縄文時代	根拠	住居址の形状から		

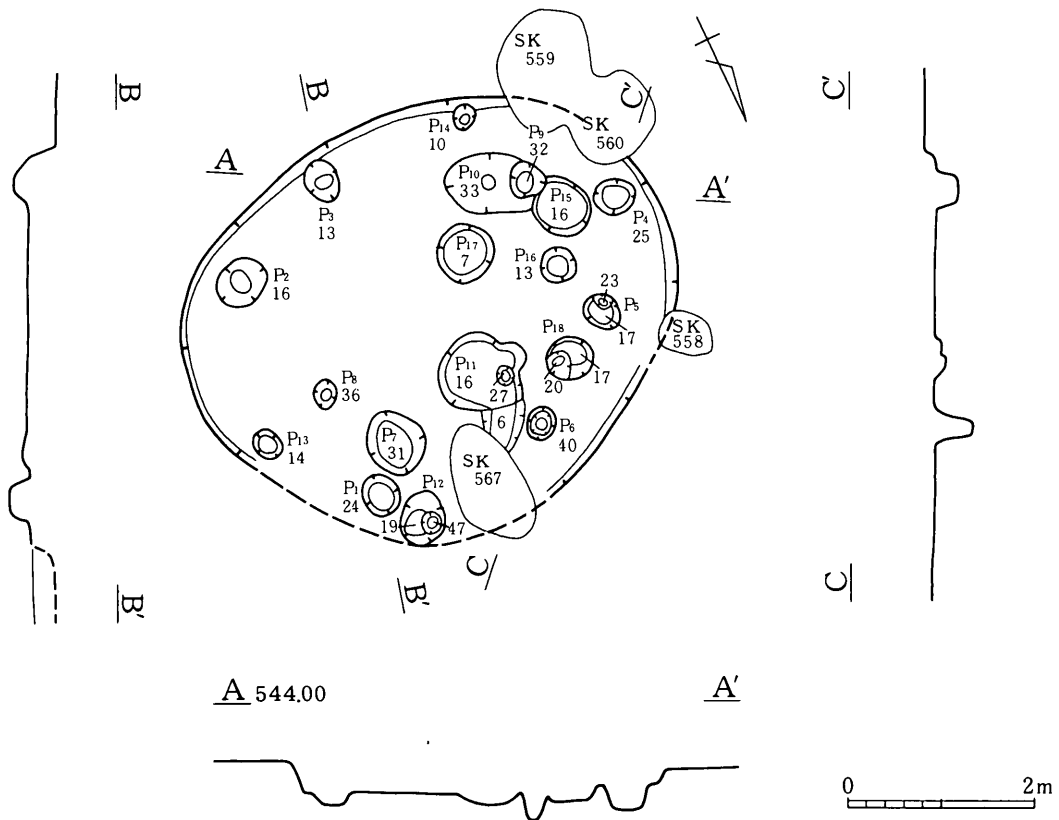
表25 57号住居址

検出位置	AA39	覆	土	暗褐色土	
切	切る	床	面	軟弱	
	切られる				59号住居址
規模・形状	プラン	住居内施設	主柱穴	P4・P5・P9・P11	
	規模m		貯蔵穴		
	主軸		入口		
	壁高cm		炉・竈	形状	
	状態			規模cm	140cm×105cm
				特記事項	炉の掘り込み痕を確認
【出土遺物】深鉢2個体分出土したが、他は小片のみ。深鉢により時期を判断。 住居址の壁は明確には判断できなかった。					
時期	縄文時代中期初頭	根拠	出土遺物より		

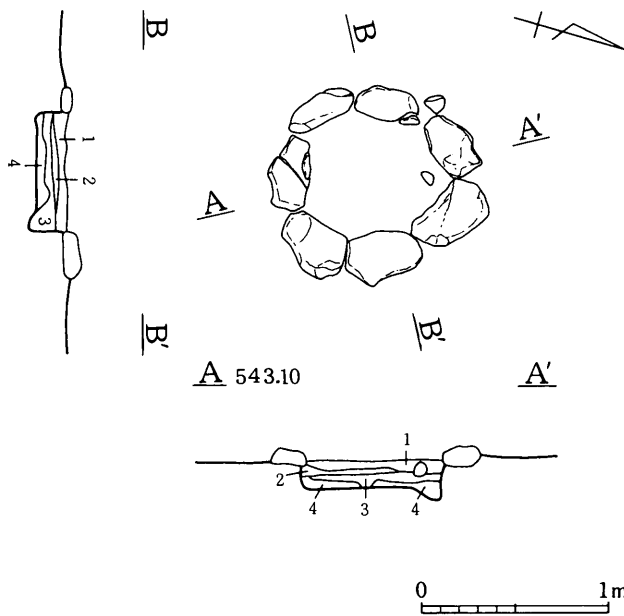
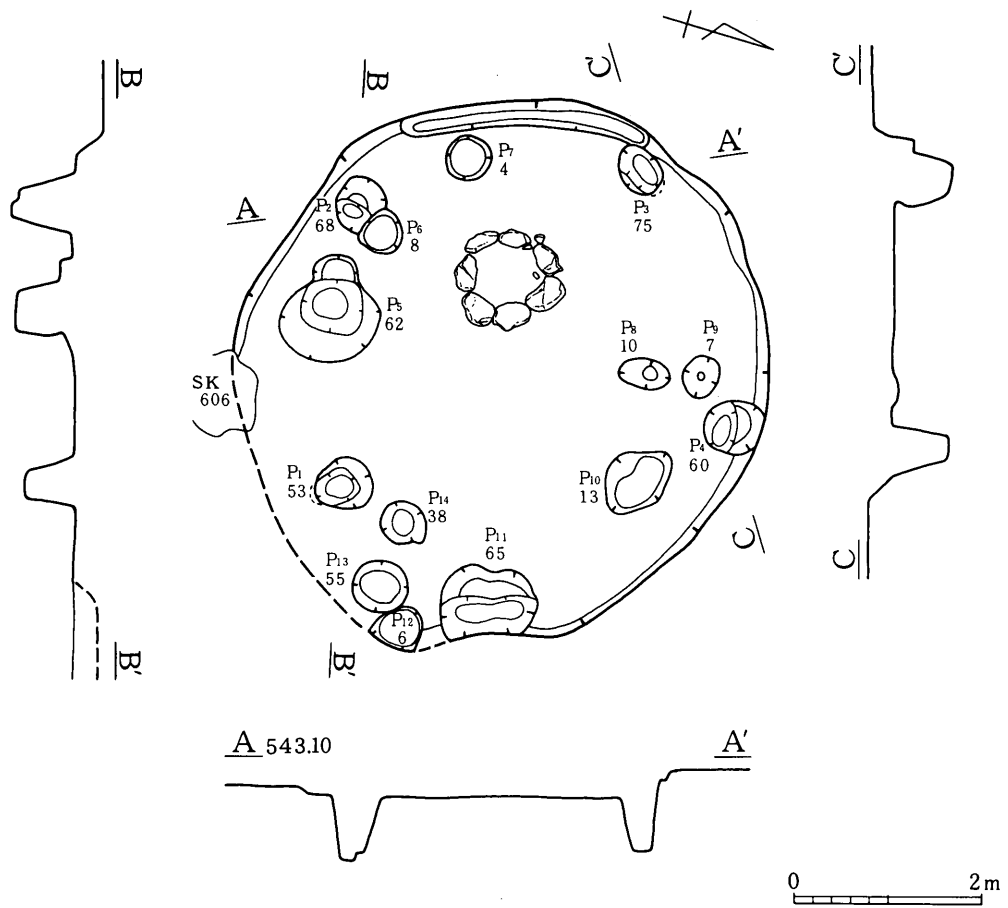
表26 58号住居址



挿図31 59号住居址



挿図32 60号住居址



1. 暗褐色土
2. 褐色土
3. 褐色土 (焼土・炭混り)
4. 褐色土 (粘性有)

插图33 63号住居址

検出位置	A B 40		覆土	暗褐色土			
切合	切る	58号住居址	床面	軟弱			
	切られる						
規模・形状	プラン	円形	住居内施設	主柱穴 P 1 ~ P 4			
	規模m	5.2m × 4.7m			貯蔵穴		
	主軸	N105° W				入口	
	壁高cm	19cm			炉・竈		形状
	状態	緩やか					
		特記事項	焼土を確認した程度				
【出土遺物】小破片がほとんど。 壁は明確には判断できなかった。							
時期	縄文時代中期中葉末から中期後葉		根拠	出土遺物より			

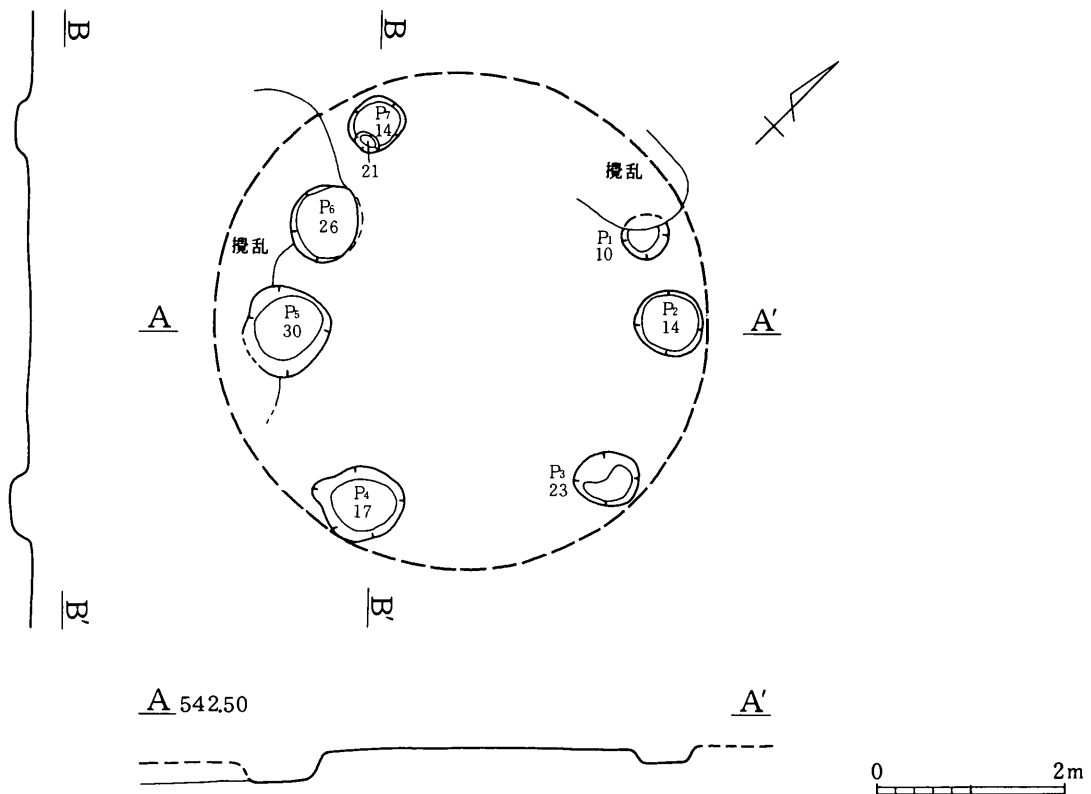
表27 59号住居址

検出位置	A E 41		覆土	暗褐色土			
切合	切る		床面	軟弱（地山）			
	切られる						
規模・形状	プラン	不整円形	住居内施設	主柱穴 P 1 ~ P 6			
	規模m	2.7m × 2.1m			貯蔵穴		
	主軸	N155° W				入口	
	壁高cm	10cm			炉・竈		形状
	状態	緩やか					
		特記事項					
【出土遺物】小破片のみ。時期は明確に判断できず。 柱穴は非常に浅い。検出状況で住居址と判断した。							
時期	縄文時代		根拠	出土遺物より			

表28 60号住居址

検出位置	A B 46		覆土	暗褐色土			
切合	切る	S K 606	床面	軟弱			
	切られる						
規模・形状	プラン	円形	住居内施設	主柱穴 P 1 ~ P 4			
	規模m	5.7m × 5.6m			貯蔵穴		
	主軸	N105° W				入口	
	壁高cm	32cm			炉・竈		形状
	状態	やや緩やか					
		特記事項					
【出土遺物】覆土中より多数の土器片出土。 今回調査の中では一番状態の良い住居址である。							
時期	縄文時代中期中葉末から中期後葉		根拠	出土遺物より			

表29 63号住居址

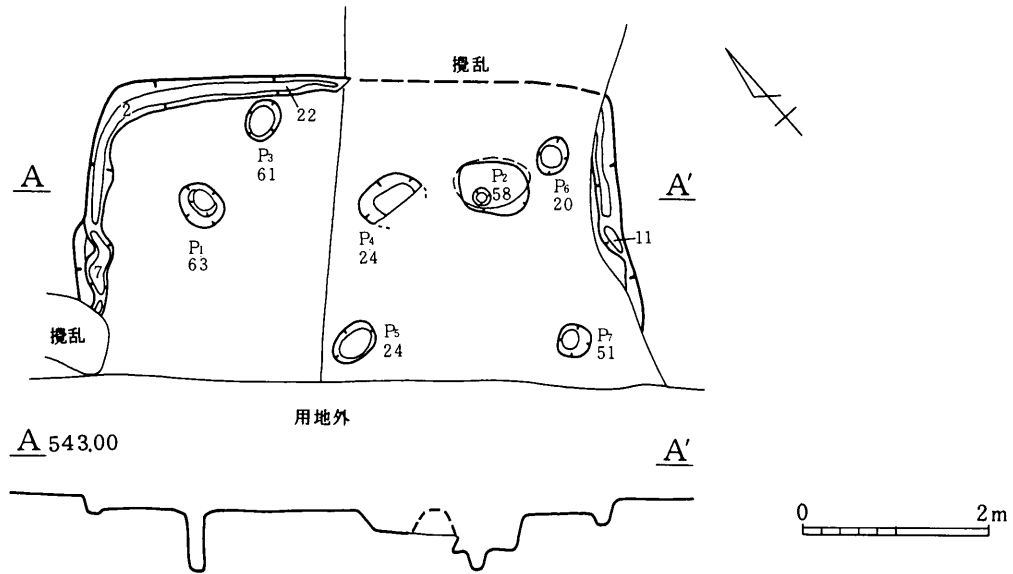


挿図34 64号住居址

検出位置	B B09		覆	土		
切	切		床	面	攪乱により確認できず	
	切られる	30号住居址	住居内施設	主柱穴	P1~P6	
規模・形状	プラン	(円形)		貯蔵穴		
	規模m	(5.2m×5.2m)		入口		
	主軸	不明		炉・竈	形状	不明
	壁高cm				規模cm	
	状態				特記事項	
【出土遺物】なし。 調査終了時に柱穴の状態から住居址と判断した。						
時期	縄文時代		根拠	住居址の形状より		

表30 64号住居址

(2) 弥生時代

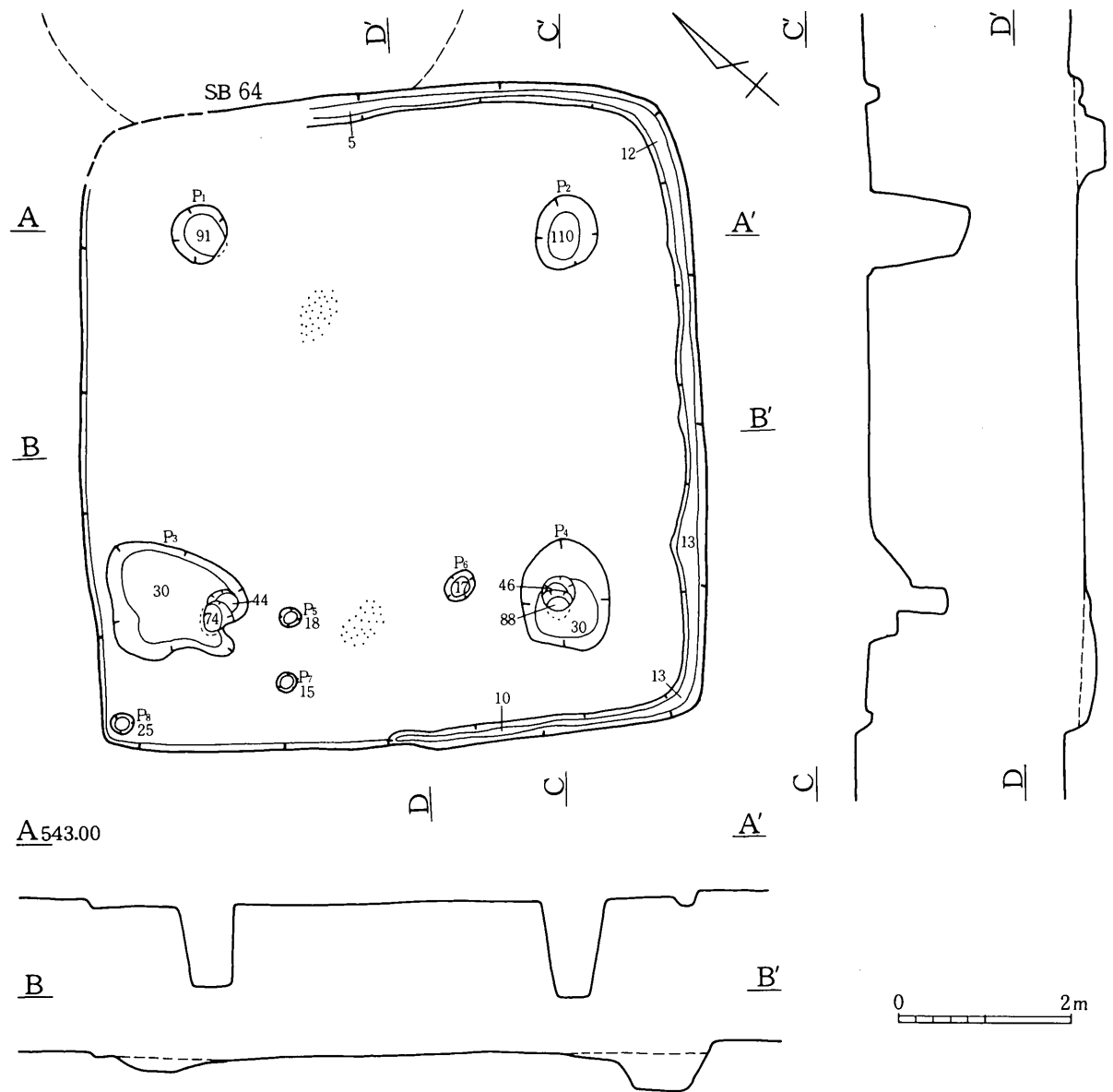


挿図35 62号住居址

検出位置	B V44	覆土	黒褐色土	
切合	切る	床面	堅固	
	切られる	住居内施設	主柱穴	P1・P2
規模・形状	プラン		貯蔵穴	
	規模m	入口		
	主軸	炉・竈	形状	不明
	壁高cm		規模cm	
	状態	特記事項	調査区外の可能性もある	
【出土遺物】壺一個体分（第11図11 胴上部に斜走短線文あり）ほか小片多数。 住居址東側壁は攪乱のため、若干誤差があることも考えられる。				
時期	弥生時代後期前半	根拠	出土遺物より	

表31 62号住居址

(3) 古墳時代

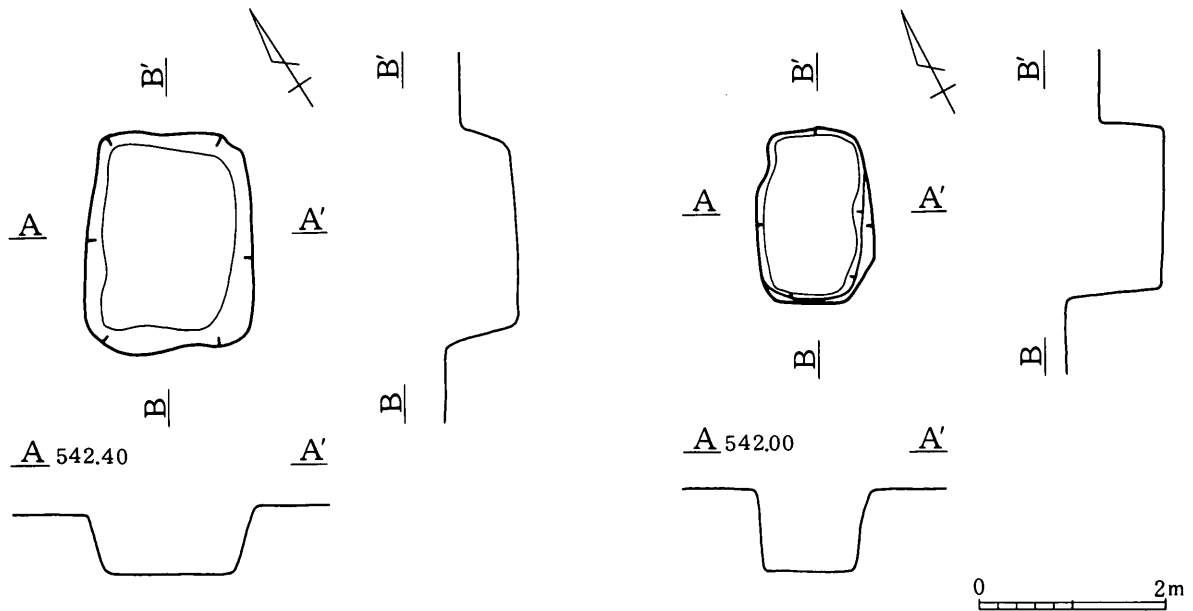


挿図36 30号住居址

検出位置	A Y 06	覆	土	暗褐色土
切合	切る	住居内施設	床	部分的に堅固
	切られる		主柱穴	P 1 ~ P 4
規模・形状	プラン	貯蔵穴		
	規模m	入口		
	主軸	炉・竈	形状	確認できず
	壁高cm		規模cm	
	状態		特記事項	
【出土遺物】甕以外の土器の小片は住居址埋没時の混入品。 断面図B・Dは掘方の実測図(点線は床面)				
時期	古墳時代後期	根拠	出土遺物と住居址の形状で判断	

表32 30号住居址

(4) 中世



挿図37 31号住居址

挿図38 32号住居址

検出位置	BH08		覆土	暗褐色土	
切合	切る		床面	堅固(地山)	
	切られる				
規模・形状	プラン	長方形	住居内施設	主柱穴	なし
	規模m	2.29m×1.78m		貯蔵穴	なし
	主軸	不明		入口	なし
	壁高cm	82cm	炉・竈	形状	
	状態	ほぼ垂直		規模cm	
			特記事項		
【出土遺物】					
なし					
時期	中世		根拠	形態より	

表33 31号住居址

検出位置	BK10		覆土	暗褐色土	
切合	切る		床面	堅固(地山)	
	切られる				
規模・形状	プラン	長方形	住居内施設	主柱穴	なし
	規模m	1.8m×1.25m		貯蔵穴	なし
	主軸	不明		入口	なし
	壁高cm	101cm	炉・竈	形状	
	状態	ほぼ垂直		規模cm	
			特記事項		
【出土遺物】					
なし					
時期	中世		根拠	形態より	

表34 32号住居址

2. 掘立柱建物址

掘立柱建物址 1

(検出位置) A J 44区

(重複関係) 52号住居址を切る。

土坑435・446とも切り合うが新旧関係は不明。

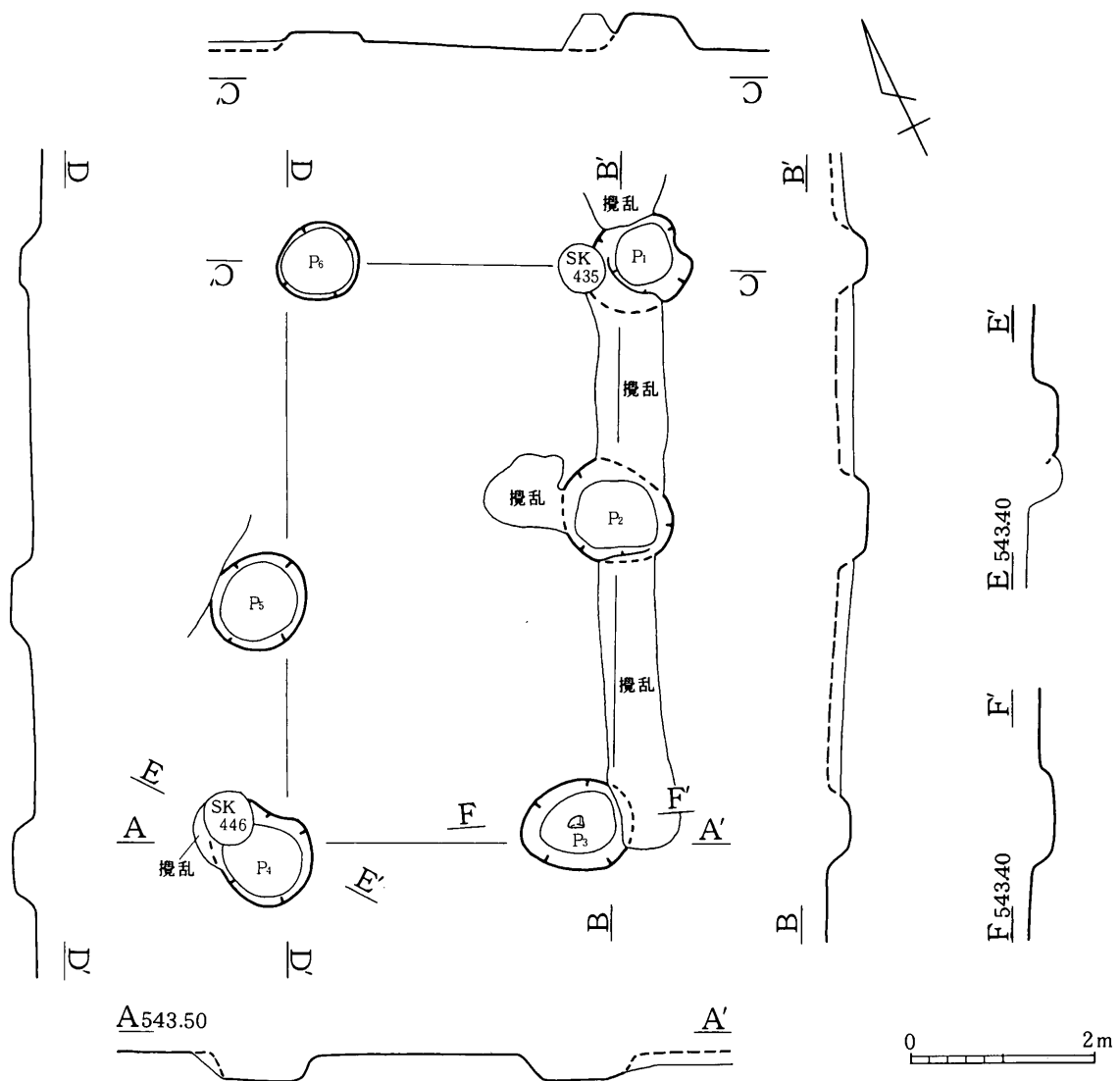
(規模・形態) 梁行6.3m×桁行3.5mの長方形。

柱間は梁行3.15m・桁行3.50m

柱穴の深さは0.24m

(時代) 出土遺物による明確な根拠は無いが、縄文時代中期と考えられる。

(出土遺物) 掘立柱建物址 1 に伴うと断定できる遺物は無いが、出土した土器の小片は縄文時代中期のものが多い。

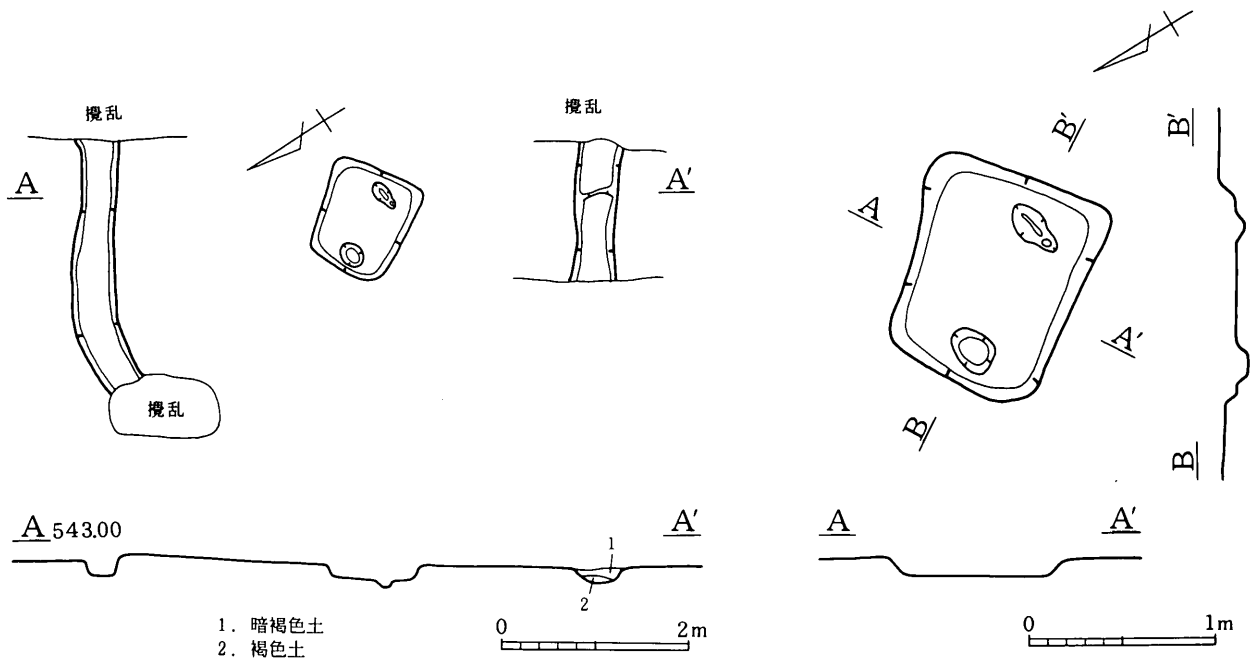


挿図39 掘立柱建物址 1

3. 方形周溝墓

方形周溝墓 5

- (検出位置) B V 47区
- (重複関係) 62号住居址と切り合う可能性もあるが、攪乱により判断できず。
- (規模・形態) 周溝は南北方向の2辺しか確認できず。周溝間の距離は5.8m
周溝の断面は上面幅48cm、深さは最大で24cmの逆台形。
周溝主軸はN120° E
- (主体部) 長辺1.15m×短辺0.95m×深さ0.2m・平面型は長方形。
主軸は周溝とは一致しない。N148° E
木口痕も確認できたが、遺物は無かった。
- (時代) 弥生時代と考えられる。
- (出土遺物) 全体に攪乱が激しく、遺物は確認できなかった。



挿図40 方形周溝墓 5

4. 溝址

溝址 5

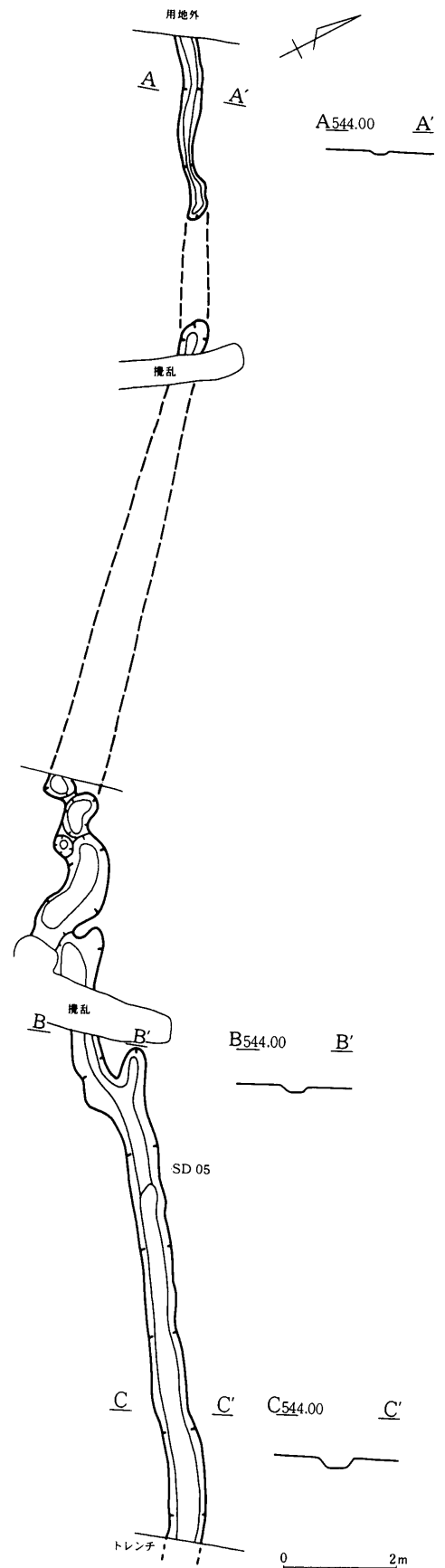
- (検出位置) A G42区から北東方向A K35区にかけて
- (重複関係) 49・45・47・60号住居址を切る
- (規模・形態) 確認できた範囲では長さ27.2m・最大幅1.0m・最大の深さ0.38m、上流側の方向はN63°Wであるが、途中からN69°Wと若干北に振れる。
- (遺構の性格) 中世の自然流路址と考えられる。
- (出土遺物) 中世陶器の小片が数点

5. 土坑

当遺跡の調査では多数の土坑を調査した。全体的に底部まで20cm前後と浅いものが多く、当遺跡内の攪乱の状況と合わせて考えると、遺構として把握することも難しかった。

そのため、中には住居址の柱穴、自然の窪地も含まれていると考えられるが、先述の理由により、攪乱や住居址の柱穴と判断できたもの以外は全て記載した。特記すべきものは、土坑277で長径1.46m・短径12.6m・深さ1.06mと今回調査の中では極端に大型のものや土坑546のように深鉢が一個体潰れた状態で出土したものがある。

時期は縄文時代中期初頭・中期中葉・中期中葉末から中期後葉にかけての3時期が主である。



挿図41 溝址 5

土坑番号	挿図No.	検出位置	規模(長/短/深cm)	形態	覆土	時代	備考
土坑 86	42	AV-05	142 / (34) / 44	楕円形	暗褐・褐		
87	42	AV-05	46 / 36 / 40	不整楕円形	暗褐		
88	42	AV-06	44 / 34 / 16	楕円形	褐	不明	
89	42	AV-06	50 / 50 / 18	円形	褐		
90	42	AV-06	46 / 30 / 24	楕円形	暗褐		
91	42	AV-07	62 / 62 / 18	円形	暗褐・褐		炭化物少量含む
92	42	AV-07	56 / 50 / 22	楕円形	褐		
93	42	AW-08	84 / 84 / 26	円形	黒褐	中期中葉末	
94	42	AW-09	56 / 52 / 12	楕円形	褐		
95	42	AW-09	70 / 66 / 20	楕円形	暗褐・褐		
96	42	AW-05	42 / 34 / 14	楕円形	褐		
97			/ /				34号住 P 7
98			/ /				34号住 P 6
99			/ /				64号住 P 6
100			/ /				64号住 P 7
101			/ /				64号住 P 5
102			/ /				64号住 P 4
103	42	AV-05	124 / - / 36	不明	暗褐		調査区断面で確認
104	41	BD-07	52 / 40 / 28	楕円形	褐		
105			/ /				64号住 P 1
106			/ /				64号住 P 3
107	42	AV-05	50 / (16) / 24	円形	別表参照		底部袋状に広がる
108			/ /				33号住 P 3
109			/ /				33号住 P 4
110			/ /				33号住 P 1
111			/ /				33号住 P 8
112			/ /				33号住 P 7
113			/ /				33号住 P 6
114			/ /				33号住 P 5
115	41	BE-07	50 / (42) / 40	円形	にぶい黄褐		
116	41	BE-07	80 / (76) / 40	円形	にぶい黄褐		
117			/ /				34号住 P 4
118			/ /				34号住 P 2
119			/ /				34号住 P 1
120			/ /				34号住 P 3
121			/ /				34号住 P 5
122			/ /				64号住 P 3
123			/ /				33号住 P 2
124	41	BE-07	74 / 65 / 18	楕円形			
125			/ /				欠番
126	46	AN-09	182 / 124 / 18	不整楕円形	褐	不明	
127	46	AP-08	(178) / 128 / 18	不整楕円形	暗褐	中期	
128	46	AQ-05	(110) / 70 / 16	不整楕円形	暗褐		
129	46	AP-05	90 / 82 / 18	不整円形	褐		
130	46	AP-05	62 / 40 / 10	楕円形	褐		
131	46	AO-05	62 / 50 / 10	楕円形	褐		
132	46	AO-05	114 / 88 / 22	楕円形	黒褐	不明	
133	46	AO-07	64 / 48 / 22	楕円形	暗褐		
134	46	AN-07	48 / 46 / 44	円形	暗褐	中期	
135	46	AJ-07	104 / 78 / 16	不整楕円形	暗褐		
136	46	AK-07	88 / 86 / 14	円形	暗褐	不明	
137	46	AN-07	78 / (50) / 8	不整形	暗褐		
138	46	AL-06	88 / 38 / 16	不整楕円形	黒褐		
139	46	AM-06	62 / 44 / 10	楕円形	黒褐		
140	46	AL-06	100 / 78 / 10	不整形	暗褐		
141	46	AL-06	70 / 56 / 10	楕円形	暗褐		

表35 土坑観察表 (1)

土坑番号	挿図No.	検出位置	規模(長/短/深cm)	形態	覆土	時代	備考
土坑 142	51	A I -06	32 / 24 / 16	橢円形	暗 褐		
143	51	A H -06	38 / 37 / 10	円形	黒		
144	46	A O -08	118 / 78 / 14	不整形	褐		
145	46	A H -06	40 / 36 / 8	不整円形	黒	中期	
146	51	A G -06	(45) / 42 / 12	橢円形	暗 褐		
147	51	A G -05	116 / 84 / 18	不整形	灰黄褐	中期初頭	
148	50	A F -05	74 / 68 / 46	不整円形	暗 褐		
149	50	A I -03	117 / 111 / 10	不整円形	灰 褐		
150	50	A I -03	56 / 42 / 15	不整橢円形	暗 褐		
151	50	A F -49	189 / 149 / 31	不整形	黒 褐	中期後葉	
152	50	A F -00	40 / 36 / 39	円形	暗 褐	不明	
153	50	A I -01	(102) / 102 / 50	不整円形	暗 褐		
154	46	A M -08	70 / 66 / 28	不整円形	暗 褐		炭化物微量含む
155	46	A J -06	(44) / 44 / 16	不整形	暗 褐		
156	46	A J -06	100 / 70 / 22	橢円形	暗 褐	不明	
157	50	A I -02	178 / 166 / 52	不整円形	別表参照	中期	
158	50	A H -03	83 / 59 / 18	不整橢円形	暗 褐		
159	50	A F -02	120 / 90 / 25	不整形	暗 褐		
160	45	A V -00	84 / 66 / 27	橢円形	暗 褐	不明	
161	45	A V -00	44 / 42 / 23	円形	暗 褐・褐	不明	
162	45	A T -01	57 / 48 / 20	橢円形	にぶい黄褐		
163	45	A T -00	84 / 66 / 12	橢円形	暗 褐	不明	
164	45	A S -00	70 / 55 / 18	不整橢円形	暗 褐		
165	45	A S -00	42 / 40 / 17	円形	褐		
166	45	A S -00	67 / 60 / 13	長方形	暗 褐		
167	45	A S -01	63 / 55 / 21	橢円形	暗 褐		
168	45	A S -01	143 / 120 / 24	橢円形	暗 褐	中期	
169	45	A S -01	(72) / 70 / 12	不整形	にぶい黄褐		
170	45	A S -01	(58) / 55 / 12	不整形	暗 褐		
171	45	A S -01	156 / 102 / 31	不整形	暗 褐		
172	45	A S -01	50 / 36 / 26	橢円形	別表参照	不明	
173	45	A T -02	65 / 60 / 17	不整方形	褐		
174	45	A R -01	51 / 48 / 23	不整円形	暗 褐		
175	45	A R -01	45 / 40 / 14	不整円形	暗 褐		
176	45	A R -01	93 / 64 / 19	不整橢円形	暗 褐・褐		
177	45	A R -00	76 / 62 / 16	橢円形	暗 褐・褐		
178	45	A Q -01	(80) / 76 / 43	不整形	暗 褐		
179	45	A R -02	65 / 51 / 30	橢円形	黒 褐	不明	
180	45	A R -02	120 / 106 / 46	不整円形	暗 褐	中期	
181	45	A R -03	64 / 52 / 16	不整橢円形	別表参照		
182	45	A R -04	76 / 52 / 22	橢円形	褐	中期初頭	
183	45	A R -03	43 / 38 / 28	不整円形	暗 褐	不明	
184	45	A R -04	112 / 84 / 24	不整形	黒 褐	中期初頭	
185	45	A R -04	80 / 74 / 33	不整形	暗 褐	中期中葉末	
186			/ /				46号住 P 7
187			/ /				46号住 P 2
188			/ /				46号住 P 1
189	45	A S -04	42 / 34 / 34	橢円形	暗 褐		
190	45	A S -05	135 / 130 / 8	不整形	暗 褐	後期	
191	45	A Q -03	124 / (90) / 21	不整円形	暗 褐	中期初頭	
192	45	A Q -03	(82) / 80 / 22	不整橢円形	暗 褐	中期中葉末	
193	45	A Q -03	68 / 54 / 36	橢円形	暗 褐	中期中葉末	
194	45	A Q -04	72 / 62 / 31	不整形	暗 褐	中期中葉末	
195	45	A P -03	116 / 82 / 50	不整橢円形	暗 褐	中期中葉末	
196	45	A Q -04	64 / 63 / 34	不整円形	黒 褐	中期中葉	
197	45	A P -03	70 / 33 / 18	橢円形	暗 褐		

表36 土坑観察表 (2)

土坑番号	挿図No.	検出位置	規模(長/短/深cm)	形態	覆土	時代	備考
土坑 198	45	AQ-04	60 / 52 / 32	不整円形	暗 褐	不 明	
199	45	AQ-04	58 / 54 / 18	不整円形	暗 褐	中期初頭	
200	45	AQ-04	50 / 33 / 12	楕円形	暗 褐		
201	45	AR-05	62 / 55 / 38	円形	別表参照	中 期	
202	46	AN-06	70 / 50 / 30	不整楕円形	褐		
203	46	AK-08	60 / 34 / 8	楕円形	暗 褐		
204	46	AM-09	56 / 52 / 20	不整円形	褐	不 明	
205	46	AO-06	(110) / (72) / 16	不整形	暗 褐	不 明	
206	46	AO-06	(56) / (40) / 14	不整形	暗 褐		
207	46	AP-07	84 / 60 / 12	楕円形	暗 褐		
208	45	AP-03	112 / 94 / 42	不整方形	暗 褐	中期中葉末	炭化物微量含む
209	45	AP-03	(108) / 76 / 19	不整長方形	暗 褐	中期中葉末	
210	44	AV-49	74 / 44 / 7	不整楕円形	暗 褐		
211	44	AU-48	78 / 70 / 10	円形	褐		
212	45	AU-00	54 / 50 / 18	不整円形	褐	中期中葉末	
213	50	AD-00	(50) / 50 / 8	長方形	黒 褐		
214	54	AD-48	75 / 50 / 33	楕円形	暗 褐		
215	54	AD-48	110 / 56 / 13	不整楕円形	褐		
216	54	AD-48	102 / 98 / 25	不整円形	にぶい黄褐		
217			/ /				欠番
218	44	AS-49	(49) / 45 / 20	楕円形	褐	不 明	
219	54	AD-48	74 / 73 / 20	円形	にぶい黄褐	不 明	
220	54	AD-47	110 / 96 / 14	不整円形	にぶい黄褐	中期中葉末	
221	55	AC-02	85 / 72 / 20	楕円形	暗 褐		
222			/ /				46号住 P 8
223	46	AM-06	120 / 92 / 28	不整楕円形	暗 褐	中期中葉	
224			/ /				欠番
225	46	AN-06	106 / 84 / 18	不整形	暗 褐	中 期	
226	46	AM-05	120 / 78 / 14	不整形	暗 褐・褐		炭化物微量含む
227	50	AI-04	72 / 68 / 24	方形	暗 褐		
228	46	AJ-06	62 / 54 / 10	不整形	黒 褐・褐		
229	46	AK-06	72 / 60 / 18	不整形	暗 褐・褐		
230	46	AO-09	68 / 54 / 14	不整楕円形	褐		
231	45	AR-00	53 / 40 / 20	楕円形	褐	中期中葉	
232	44	AR-49	63 / 48 / 14	楕円形	別表参照		
233	44	AR-49	66 / 59 / 15	長方形	暗 褐・褐		
234	44	AR-49	66 / (54) / 22	不整円形	暗 褐		
235	45	AQ-00	73 / 60 / 32	不整楕円形	暗 褐	不 明	
236	45	AQ-00	73 / 58 / 22	不整楕円形	暗 褐・褐	中期中葉	炭化物微量含む
237	44	AQ-49	66 / 52 / 24	楕円形	別表参照		
238			/ /				38号住
239	44	AP-48	96 / 86 / 66	不整円形	別表参照		炭化物微量含む
240	44	AP-47	50 / 40 / 23	円形	暗 褐		
241			/ /				50号住
242			/ /				50号住
243			/ /				50号住 P 13
244			/ /				50号住 P 3
245			/ /				50号住
246			/ /				50号住
247	50	AK-04	50 / 48 / 42	方形	褐		
248	46	AO-07	80 / 40 / 12	楕円形	暗 褐		
249	46	AN-07	56 / 54 / 14	円形	暗 褐		
250	46	AM-05	46 / (34) / 16	不整形	暗 褐		
251	46	AL-08	54 / 34 / 18	不整形	暗 褐・褐		
252	46	AL-08	122 / 106 / 26	不整形	暗 褐・褐	中 期	
253	46	AL-08	138 / (82) / 48	不整円形	褐		

表37 土坑観察表 (3)

土坑番号	挿図No	検出位置	規模(長/短/深cm)	形態	覆土	時代	備考
土坑 254	46	A K-08	54 / 38 / 14	楕円形	暗 褐		
255	46	A K-07	62 / 56 / 14	不整円形	暗 褐		
256	46	A K-08	54 / 52 / 16	不整円形	暗 褐		
257	46	A J-07	60 / 50 / 40	不整楕円形	にぶい黄褐		
258	46	A K-07	60 / 50 / 22	不整楕円形	にぶい黄褐		
259	46	A J-07	72 / 56 / 14	不整円形	にぶい黄褐	中 期	
260	46	A J-06	62 / 60 / 12	円 形	にぶい黄褐	中期初頭	
261	46	A J-06	68 / 52 / 20	不 整形	褐		
262	46	A J-06	120 / 72 / 22	不 整形	暗 褐・褐		
263	46	A I-05	80 / 72 / 20	不整円形	暗 褐	不 明	
264	51	A H-06	124 / 100 / 15	楕円形	褐		
265	51	A H-06	(62) / 55 / 64	不整方形	褐		
266	51	A H-04	82 / 60 / 24	楕円形	褐	中 期	
267			/ /				欠番
268			/ /				欠番
269	50	A I-03	95 / 82 / 16	不 整形	暗 褐	中期中葉末	
270	46	A L-05	60 / 40 / 18	不整楕円形	暗 褐		
271	46	A P-09	80 / 66 / 12	不整円形	褐		
272	46	A O-06	66 / (38) / 16	円 形	にぶい黄褐	不 明	
273	46	A N-06	(32) / 46 / 10	不 整形	暗 褐		
274	46	A L-06	54 / (38) / 20	不 整形	暗 褐		
275	46	A P-06	60 / 50 / 38	不 整形	暗 褐		
276	46	A J-06	(40) / 34 / 10	不 整形	暗 褐		
277	50	A L-03	146 / 126 / 106	不整円形	別表参照	中期中葉	炭化物微量含む
278	50	A J-01	100 / (78) / 16	方 形	褐		
279	50	A L-01	48 / 43 / 28	円 形	暗 褐		
280	50	A L-01	76 / 63 / 15	楕円形	褐		
281			/ /				46号住 P 3
282	45	A Q-03	80 / 63 / 47	長方形	暗 褐	中 期	
283			/ /				欠番
284			/ /				50号住
285			/ /				50号住
286			/ /				50号住 P 4
287	44	A O-47	129 / 113 / 29	不 整形	黒 褐	中期初頭	
288	49	A N-49	132 / 98 / 18	不 整形	黒 褐	中 期	
289	49	A N-49	110 / 54 / 20	不 整形	黒 褐		
290	49	A O-48	114 / 120 / 36	不 整形	暗 褐	中 期	炭化物微量含む
291	50	A F-01	76 / 64 / 8	長方形	にぶい黄褐		
292	55	A C-00	80 / 65 / 33	不 整形	暗 褐	中 期	
293	50	A D-00	84 / 64 / 12	不整楕円形	暗 褐	不 明	
294	55	A C-00	100 / 50 / 28	不整楕円形	暗 褐	中 期	
295	50	A H-00	102 / 94 / 49	不整円形	灰 黄 褐		
296	45	A P-49	60 / 58 / 28	円 形	暗 褐	中期中葉末	
297	45	A P-49	62 / 46 / 12	楕円形	暗 褐	不 明	
298			/ /				50号住 P 2
299	49	A O-47	70 / 50 / 18	楕円形	褐	中期中葉末	
300	49	A M-45	90 / 86 / 26	不整円形	黒 褐	中期中葉末	炭化物微量含む
301			/ /				42号住 P 8
302	49	A M-46	74 / 70 / 26	円 形	暗 褐		
303	49	A M-45	80 / 66 / 18	楕円形	褐		
304	49	A L-46	58 / 40 / 44	不 整形	暗 褐		炭化物微量含む
305	49	A N-47	60 / 54 / 18	不整円形	褐		
306	49	A N-48	114 / 70 / 20	不 整形	暗 褐		
307	49	A N-48	92 / 80 / 32	不 整形	暗 褐	中期初頭	
308			/ /				55号住
309			/ /				55号住

表38 土坑観察表(4)

土坑番号	挿図No	検出位置	規模(長/短/深cm)	形態	覆土	時代	備考
土坑 310			/ /				55号住 P 7
311	50	AL-01	120 / 84 / 50	不整形	別表参照	不明	
312	50	AL-01	105 / 59 / 18	不整形	にぶい黄褐	不明	焼成粘土塊出土
313	60	AL-01	118 / 94 / 25	不整形	にぶい黄褐		炭化物微量含む
314	45	AO-00	82 / 58 / 11	楕円形	褐		
315	45	AO-00	57 / 56 / 42	円形	暗褐	中期	
316	49	AN-47	146 / 124 / 52	不整楕円形	にぶい黄褐	後期	炭化物微量含む
317	44	AO-48	48 / 46 / 16	円形	暗褐		
318	48	AJ-42	98 / 92 / 38	不整円形	黒褐	中期初頭	
319	48	AJ-42	107 / 90 / 28	楕円形	暗褐	中期	
320	48	AG-43	74 / 60 / 20	方形	暗褐		
321			/ /				53号住 P 4
322			/ /				53号住 P 5
323			/ /				53号住 P12
324			/ /				53号住 P 1
325			/ /				53号住 P14
326	43	AS-43	62 / (36) / 16	楕円形	暗褐		
327	43	AS-42	110 / 80 / 10	不整形	暗褐		
328			/ /				欠番
329			/ /				欠番
330			/ /				欠番
331	48	AK-39	92 / 76 / 48	楕円形	暗褐	中期後葉	
332	48	AJ-39	118 / 112 / 20	不整円形	暗褐・褐	中期中葉	炭化物微量含む
333	49	AH-44	114 / 110 / 42	不整円形	黒褐・暗褐	中期	
334	48	AG-43	126 / 88 / 40	楕円形	黒褐・暗褐	中期初頭	
335	49	AG-44	144 / 110 / 54	不整楕円形	暗褐・褐	中期	
336	45	AM-01	67 / 62 / 18	楕円形	褐		
337	45	AO-02	56 / 54 / 28	方形	暗褐		
338	45	AO-03	(66) / 50 / 27	不整形	暗褐		
339	45	AO-02	86 / (62) / 16	不整形	褐		
340	45	AO-03	(102) / 65 / 37	不整形	褐		
341	47	AL-37	136 / 62 / 35	不整形	暗褐		
342	47	AL-36	83 / 80 / 28	円形	暗褐	中期初頭	
343	45	AP-03	107 / 78 / 20	不整形	黒褐	中期中葉末	
344	48	AK-40	82 / 68 / 18	不整形	暗褐		
345	47	AM-36	72 / 70 / 25	円形	暗褐		
346	48	AL-40	74 / 38 / 58	不整楕円形	暗褐		
347	48	AL-40	56 / 42 / 12	楕円形	暗褐		
348	48	AL-40	120 / (82) / 14	不整円形	暗褐		
349	48	AN-41	66 / 42 / 40	楕円形	暗褐	中期	
350	48	AO-42	94 / 80 / 22	不整楕円形	暗褐	中期	
351	48	AO-42	(54) / 54 / 20	不整円形	暗褐	不明	
352	48	AO-42	130 / (50) / 14	不整楕円形	暗褐	不明	
353			/ /				41号住 P 4
354	48	AO-42	78 / (54) / 18	不整円形	暗褐	不明	
355			/ /				欠番
356			/ /				41号住 P 2
357	43	AR-40	106 / 102 / 10	不整楕円形	暗褐	不明	
358	43	AR-40	74 / 42 / 21	不整楕円形	暗褐		
359	43	AR-40	50 / 46 / 14	不整楕円形	褐		
360	43	AR-40	62 / 44 / 16	不整楕円形	暗褐		
361	43	AR-40	78 / 64 / 24	不整楕円形	暗褐		
362	43	AS-40	104 / 70 / 18	楕円形	暗褐		
363	43	AS-40	74 / 68 / 22	円形	暗褐		
364			/ /				53号住
365			/ /				53号住 P 2

表39 土坑観察表 (5)

土坑番号	挿図No	検出位置	規模(長/短/深cm)	形態	覆土	時代	備考
土坑 366			/ /				53号住
367			/ /				53号住 P 3
368			/ /				53号住 P11
369			/ /				53号住 P 6
370			/ /				53号住 P13
371			/ /				欠番
372	48	A I -41	120 / 112 / 24	不整円形	暗 褐	不 明	
373	48	A I -42	104 / 100 / 30	円 形	暗 褐	中 期	
374	48	A I -39	118 / (82) / 26	不 整形	暗 褐		
375	48	A J -39	74 / 60 / 16	不整円形	暗 褐		
376	47	A I -37	84 / 53 / 21	不整楕円形	暗 褐	中期中葉末	
377	48	A H -38	(58) / 46 / 34	不整方形	暗 褐		
378	47	A I -38	106 / 104 / 10	不 整形	暗 褐	中 期	
379	48	A I -38	126 / 104 / 54	不 整形	暗 褐・褐	不 明	
380	47	A I -37	76 / 54 / 40	不整楕円形	黒 褐	中期中葉末	
381	48	A M -42	68 / 58 / 27	楕 円 形	暗 褐	不 明	
382	48	A M -43	80 / 54 / 24	不整楕円形	褐	中 期	
383	48	A N -43	66 / 46 / 30	楕 円 形	暗 褐		
384	48	A N -42	90 / 56 / 34	楕 円 形	暗 褐		
385	48	A N -43	(82) / 52 / 14	不整楕円形	褐	不 明	
386	48	A O -43	136 / 100 / 14	不整楕円形	黒 褐		
387	48	A O -43	(86) / 76 / 14	不整円形	暗 褐		
388			/ /				欠番
389	48	A O -43	94 / 80 / 12	不整楕円形	暗 褐		
390	48	A P -43	94 / 88 / 16	不整円形	褐		
391	47	A J -36	53 / 37 / 44	不整楕円形	暗 褐		
392			/ /				49号住 P 8
393	49	A N -44	78 / 78 / 28	不整円形	暗 褐		
394	44	A P -44	98 / (52) / 24	長 方 形	暗 褐	中 期	
395	44	A P -45	41 / 34 / 12	楕 円 形	褐		
396	44	A P -45	35 / 30 / 14	楕 円 形	褐		
397	43	A Q -44	70 / 30 / 20	不 整形	暗 褐		
398	44	A Q -44	92 / (60) / 10	長 方 形	暗 褐	中期中葉末	
399	48	A J -40	50 / 48 / 30	円 形	暗 褐	中期中葉末	
400	48	A J -40	70 / 66 / 34	円 形	暗 褐	中 期	
401	47	A N -36	114 / 76 / 23	不 整形	暗 褐		
402	47	A N -37	80 / 62 / 16	不整楕円形	暗 褐	不 明	
403	47	A N -37	84 / 68 / 14	不整楕円形	褐		
404	43	A P -42	118 / 96 / 42	不整円形	別表参照	中期中葉末	炭化物少量含む
405			/ /				40号住 P 5
406			/ /				40号住 P 4
407	43	A Q -41	78 / 76 / 20	円 形	暗 褐		
408			/ /				44号住 P 5
409	43	A S -41	94 / 70 / 20	不整楕円形	暗 褐		
410			/ /				44号住 P 6
411			/ /				41号住 P 1
412	48	A J -43	68 / (20) / 16	不 整形	暗 褐	中期中葉末	
413	43	A Y -43	124 / 122 / 26	円 形	黒 褐	中 期	
414	44	A T -47	114 / 110 / 23	不整円形	黒 褐		
415	53	A G -42	126 / 118 / 94	不 整形	暗 褐	中期中葉末	
416	49	A L -44	140 / (68) / 24	不 整形	暗 褐		
417	48	A H -43	124 / 90 / 16	不整楕円形	暗 褐		
418	48	A H -43	100 / 98 / 28	円 形	暗 褐	中期中葉末	
419	48	A H -42	70 / 48 / 12	不整円形	褐	中 期	
420	48	A H -41	130 / (88) / 26	不整円形	褐	中 期	
421	48	A J -42	100 / 84 / 10	楕 円 形	褐	中 期	

表40 土坑観察表(6)

土坑番号	挿図No.	検出位置	規模(長/短/深cm)	形態	覆土	時代	備考
土坑 422	48	A I - 40	58 / 44 / 26	楕円形	暗 褐		
423	48	A H - 41	64 / 46 / 20	不整楕円形	褐		
424	48	A H - 42	88 / 74 / 48	不整形	暗 褐	中期初頭	
425	48	A H - 42	80 / (52) / 20	不整円形	暗 褐		
426	48	A H - 42	140 / 70 / 38	不整形	暗 褐	中期初頭	
427	48	A H - 42	82 / (44) / 8	不整形	暗 褐		
428	49	A L - 45	120 / (72) / 20	不整形	暗 褐	中期中葉末	
429	49	A K - 45	(120) / 98 / 14	不整形	暗 褐・褐	中期中葉	炭化物微量含む
430	49	A K - 45	(94) / 90 / 12	不整形	暗 褐・褐		炭化物微量含む
431	49	A K - 45	108 / 44 / 16	不整形	暗 褐・褐		
432	49	A K - 45	50 / 50 / 20	不整円形	にぶい黄褐		
433	49	A L - 46	70 / (62) / 44	不整円形	褐		
434			/ /				1号建物址 P 2
435	49	A K - 46	54 / 52 / 34	不整円形	暗 褐・褐		炭化物微量含む
436			/ /				1号建物址 P 3
437			/ /				58号住 P 17
438	49	A O - 47	100 / (44) / 30	不整形	暗 褐	中期中葉末	炭化物微量含む
439	48	A L - 41	80 / (44) / 16	不整形	褐		
440	48	A K - 41	74 / 58 / 14	不整形	褐		
441	48	A K - 42	96 / 66 / 12	楕円形	褐		
442	44	A P - 47	86 / 77 / 18	不整形	褐		
443	49	A M - 46	96 / 88 / 20	不整形	暗 褐		
444	49	A L - 47	120 / 102 / 46	不整形	暗 褐	中期中葉末	
445	49	A L - 47	90 / 82 / 18	不整形	暗 褐	中期中葉末	
446	48	A J - 47	60 / 58 / 40	不整方形	暗 褐	中 期	
447	48	A H - 43	112 / (96) / 28	不整楕円形	暗 褐	中期初頭	炭化物少量含む
448	48	A H - 43	64 / (50) / 16	不整形	暗 褐	不 明	
449	48	A I - 43	110 / 96 / 32	楕円形	暗 褐	不 明	
450			/ /				1号建物址 P 4
451			/ /				60号住
452	48	A J - 42	52 / 40 / 8	不整形	暗 褐		
453	48	A I - 42	80 / (60) / 8	不整形	褐		
454	45	A P - 04	(66) / (60) / 36	不整形	暗 褐		
455	45	A O - 04	65 / 54 / 19	不整形	暗 褐		
456	54	A E - 46	82 / (60) / 24	不整方形	暗 褐		
457	54	A F - 46	140 / 124 / 25	不整楕円形	暗 褐	不 明	焼土微量含む
458	49	A G - 47	80 / 70 / 26	不整円形	暗 褐		
459	44	A P - 48	88 / 80 / 24	不整円形	暗 褐		
460	49	A H - 44	68 / (50) / 22	不整円形	暗 褐	不 明	
461	49	A H - 44	126 / (86) / 20	不整楕円形	暗 褐		
462	49	A E - 46	88 / (74) / 26	不整形	暗 褐		
463	54	A G - 45	118 / (80) / 30	不整形	暗 褐		
464			/ /				56号住 P 8
465	49	A H - 47	(114) / 104 / 28	不整円形	暗 褐	中期中葉末	
466			/ /				55号住 P 14
467			/ /				56号住 P 14
468			/ /				56号住
469	49	A G - 45	126 / 52 / 22	不整楕円形	暗 褐		
470	49	A H - 48	72 / 60 / 20	楕円形	暗 褐	中期後葉	
471	49	A I - 00	96 / 78 / 26	楕円形	暗 褐	中期後葉	
472	54	A F - 47	56 / 55 / 18	円形	暗 褐	中 期	
473			/ /				56号住 P 5
474	49	A J - 49	112 / 88 / 30	楕円形	暗 褐	中期中葉末	
475	49	A I - 49	72 / 57 / 38	長方形	暗 褐	中 期	
476	50	A K - 01	62 / 56 / 26	楕円形	暗 褐		
477	45	A N - 03	(98) / 83 / 20	長方形	褐		

表41 土坑観察表 (7)

土坑番号	挿図No.	検出位置	規模(長/短/深cm)	形態	覆土	時代	備考
土坑 478	45	AN-04	80 / 68 / 20	不整方形	褐	中期	
479	46	AP-06	112 / (78) / 24	不整円形	褐	中期	
480	46	AJ-07	122 / (114) / 32	不整円形	暗褐	中期	
481	54	AF-45	60 / 58 / 25	不整円形	暗褐	中期	
482	49	AH-47	68 / 50 / 48	楕円形	暗褐		
483	49	AH-47	44 / 37 / 30	不整楕円形	暗褐		
484	49	AH-47	98 / 70 / 21	不整楕円形	暗褐		
485			/ /				56号住
486	49	AJ-47	120 / 97 / 34	不整形	暗褐		
487	50	AK-01	93 / 64 / 19	楕円形	暗褐	中期	
488	50	AK-00	126 / 74 / 32	不整形	暗褐	中期後葉	
489	50	AD-49	70 / 53 / 17	楕円形	暗褐	中期	
490			/ /				欠番
491	54	AF-47	86 / 75 / 26	不整円形	暗褐		
492	54	AF-48	(64) / 60 / 12	不整楕円形	暗褐	中期	
493			/ /				欠番
494	46	AP-06	(40) / 44 / 16	不整楕円形	暗褐		
495	49	AK-49	85 / 72 / 40	不整形	暗褐		
496			/ /				55号住 P 11
497			/ /				55号住 P 3
498			/ /				55号住 P 8
499			/ /				55号住 P 2
500			/ /				55号住 P 16
501			/ /				55号住 P 15
502			/ /				55号住 P 18
503			/ /				56号住 P 11
504	49	AK-46	170 / 134 / 26	楕円形	暗褐	中期中葉末	
505	49	AH-44	94 / (38) / 26	不整形	暗褐		
506	49	AL-48	88 / 82 / 34	円形	暗褐	不明	
507	49	AL-47	50 / 48 / 38	円形	暗褐		
508	49	AL-47	52 / 50 / 26	円形	暗褐		
509			/ /				55号住 P 4
510	49	AM-48	54 / 52 / 42	円形	暗褐	不明	
511	58	BY-30	116 / 110 / 24	不整方形	暗褐	中期中葉末	
512	53	AF-44	94 / 86 / 30	不整形	暗褐		
513	58	BX-30	64 / 62 / 20	不整円形	暗褐	中期中葉末	
514	59	BS-34	124 / 100 / 50	不整楕円形	暗褐		
515	59	BQ-36	135 / 94 / 60	不整楕円形	暗褐		
516	59	BT-35	126 / 120 / 45	不整楕円形	暗褐	中期中頭	
517	59	BS-36	78 / 68 / 24	楕円形	暗褐		
518	59	BS-36	76 / 66 / 16	楕円形	暗褐		
519	59	BS-35	(90) / 100 / 10	楕円形	暗褐		
520	59	BT-36	88 / 78 / 26	不整形	暗褐	不明	
521	59	BU-37	(110) / (86) / 18	不整形	暗褐	中期中頭	
522	59	BV-36	102 / 82 / 30	楕円形	暗褐	中期中頭	
523	59	BW-36	94 / (84) / 15	不整形	暗褐		
524			/ /				欠番
525	47	AJ-35	104 / 103 / 10	円形	暗褐	中期中頭	
526	47	AJ-35	56 / 50 / 23	方形	褐		
527	52	AF-35	100 / 80 / 10	不整楕円形	黒褐		
528	47	AI-34	(67) / 66 / 12	不整楕円形	褐	中期中頭	
529			/ /				57号住 P 9
530			/ /				57号住 P 6
531	47	AH-36	131 / 100 / 18	長方形	褐	不明	
532	47	AH-36	88 / 86 / 34	円形	暗褐	中期中葉	
533			/ /				欠番

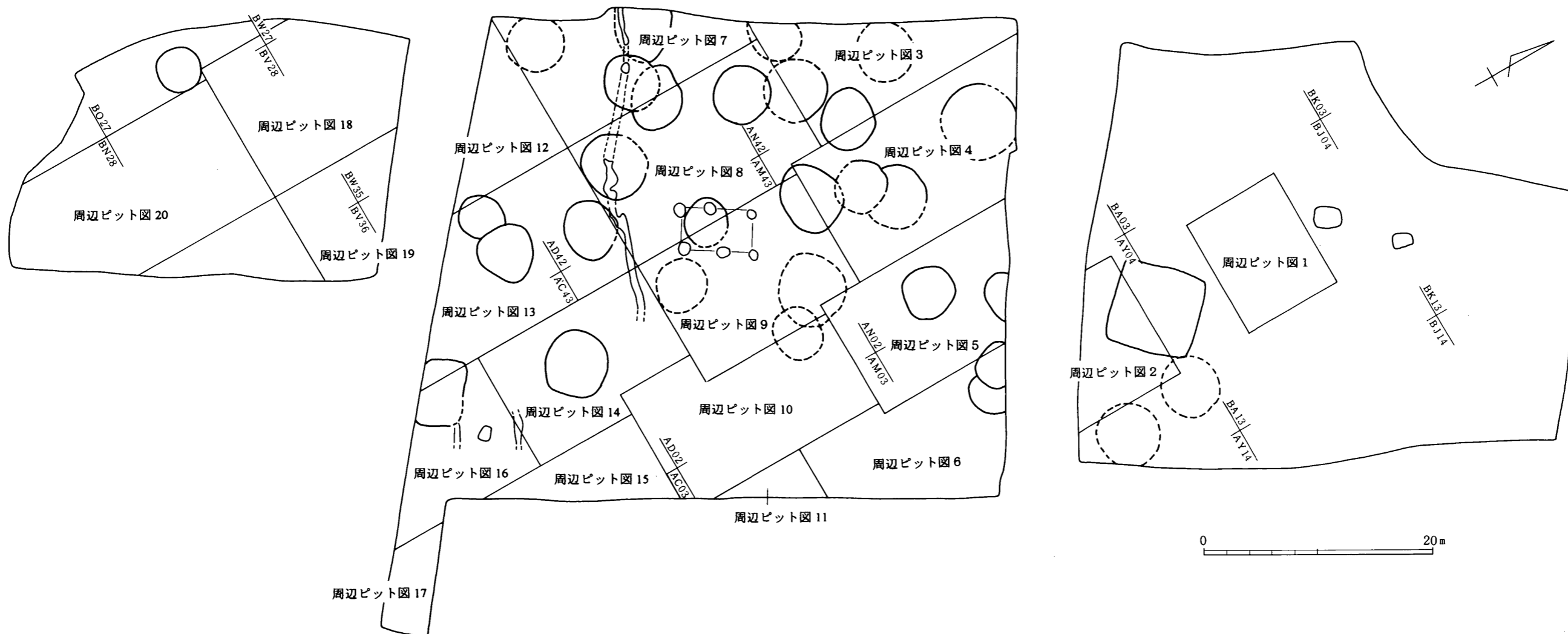
表42 土坑観察表(8)

土坑番号	挿図No.	検出位置	規模(長/短/深cm)	形態	覆土	時代	備考
土坑 534	47	A G-37	190 / (78) / 28	不整形	暗 褐	中 期	
535	52	A E-36	100 / 88 / 14	不整形	暗 褐	不 明	炭化物微量含む
536	52	A E-36	114 / 110 / 34	不整円形	黒 褐	中 期	
537	52	A D-35	90 / (56) / 12	不整円形	暗 褐		
538	52	A D-35	94 / 92 / 14	不整形	別表参照		
539	52	A E-35	(74) / 68 / 14	不整楕円形	褐	中期中葉末	
540	52	A E-34	70 / 68 / 12	不整円形	黒 褐		
541			/ /				欠番
542	47	A G-37	76 / 59 / 21	楕円形	暗 褐・褐		
543	52	A E-38	116 / 64 / 12	不整形	褐		
544	52	A D-37	84 / 52 / 8	不整形	黒 褐		
545	53	A F-40	76 / 74 / 16	円形	褐		
546	53	A C-38	180 / 104 / 20	不整楕円形	暗 褐	中期中葉末	
547	53	A C-38	92 / 92 / 18	円形	暗 褐		
548	53	A C-39	(98) / 98 / 28	不整円形	暗 褐	中期中葉末	
549	53	A C-39	(94) / 80 / 10	不整楕円形	暗 褐	中期中葉末	
550	47	A G-37	78 / 58 / 11	不整方形	褐		
551	47	A G-36	106 / 83 / 15	不整楕円形	にぶい黄褐		
552	47	A G-36	67 / 62 / 18	不整円形	暗 褐・褐		炭化物微量含む
553	52	A F-36	94 / 86 / 22	不整円形	暗 褐	中 期	
554	53	A E-38	82 / 80 / 12	円形	褐	中 期	
555	53	A E-39	86 / 48 / 20	不整形	暗 褐		
556	53	A F-39	90 / 84 / 32	不整円形	にぶい黄褐	後 期	炭化物微量含む
557	53	A E-39	144 / 98 / 26	不整形	黒 褐		
558	53	A F-41	58 / 46 / 36	不整楕円形	暗 褐	不 明	
559	53	A E-41	130 / (98) / 30	不整形	黒 褐	中期中葉末	
560	53	A E-40	100 / (80) / 22	不整円形	暗 褐	中期中葉末	
561	57	B O-02	98 / (34) / 17	不整形	暗 褐		
562	57	B N-02	82 / (40) / 41	不整形	暗 褐		
563	57	B N-02	65 / 42 / 36	不整楕円形	暗 褐	中期中葉末	
564	57	B P-00	(86) / 64 / 38	不整楕円形	暗 褐		
565	56	B S-48	62 / 54 / 21	楕円形	暗 褐	不 明	
566	53	A E-40	62 / 58 / 20	円形	暗 褐	中期中葉末	
567	53	A F-42	130 / 76 / 26	不整楕円形	暗 褐		
568	53	A F-42	66 / 60 / 28	不整円形	暗 褐	中期中葉末	
569	53	A D-40	60 / 56 / 22	不整円形	暗 褐	不 明	
570	53	A C-39	128 / 46 / 14	不整楕円形	暗 褐	中期中葉末	
571			/ /				57号住 P 12
572	47	A G-35	122 / 100 / 17	楕円形	暗 褐	中期中葉末	
573	47	A G-36	128 / 98 / 44	楕円形	暗 褐	中期中葉末	
574			/ /				57号住
575			/ /				57号住
576			/ /				57号住 P 3
577			/ /				57号住 P 11
578	53	A E-40	82 / 80 / 12	不整円形	暗 褐	不 明	
579	53	A F-40	80 / (58) / 36	不整形	褐		
580	53	A A-42	90 / 76 / 20	不整円形	褐	中期中葉末	
581	53	B Y-41	92 / (66) / 20	不整形	褐 不	明	
582	53	B Y-41	102 / 80 / 22	不整形	にぶい黄褐		
583	53	B Y-42	76 / 66 / 30	不整円形	暗 褐	中期中葉末	
584							欠番
585	53	A B-42	44 / (36) / 52	不整楕円形	暗 褐		
586	53	B X-42	80 / 64 / 28	不整円形	暗 褐	中期中葉末	
587	53	B W-42	110 / 98 / 26	不整円形	黒 褐	中期中葉末	
588	53	B Y-43	146 / 60 / 16	不整形	にぶい黄褐	中期中葉末	
589	53	B X-43	134 / 62 / 42	不整形	褐	中期中葉末	

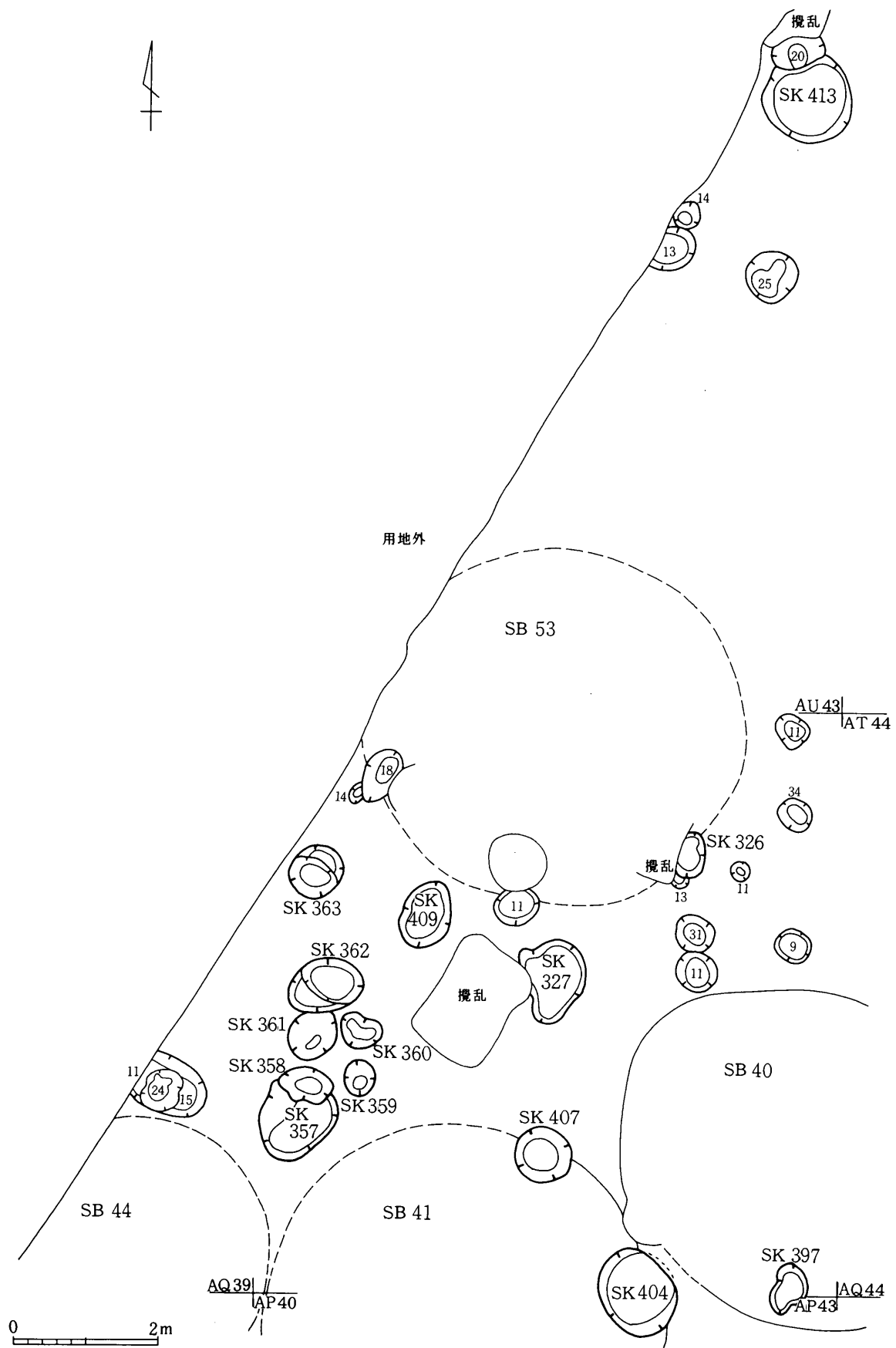
表43 土坑観察表(9)

土坑番号	挿図No.	検出位置	規模(長/短/深cm)	形態	覆土	時代	備考
土坑 590	56	BW-43	94 / 85 / 39	不整楕円形	黒 褐	中期初頭	
591	53	AD-43	98 / 86 / 66	不整方形	暗 褐	中 期	
592	56	BW-44	106 / (40) / 24	楕 円 形	暗 褐	中 期	
593	54	BX-45	72 / 56 / 26	楕 円 形	暗 褐		
594	56	BT-47	93 / 75 / 51	不整楕円形	黒褐・暗褐	中期初頭	炭化物微量含む
595	56	BV-45	82 / 66 / 45	楕 円 形	暗 褐	中期中葉	
596	56	BW-44	(120) / 94 / 26	不整楕円形	暗 褐		
597	56	BW-44	78 / (45) / 16	楕 円 形	暗 褐		
598	55	BW-49	80 / 68 / 22	楕 円 形	暗 褐	中期中葉末	
599			/ /				欠番
600	55	BY-01	(82) / (50) / 14	不整楕円形	暗 褐	中 期	
601	55	AA-01	105 / 103 / 27	不整円形	暗 褐	中期中葉末	
602	56	BU-47	96 / 94 / 35	方 形	暗 褐	中 期	
603	56	BT-47	92 / 74 / 27	楕 円 形	暗 褐	中期中葉末	
604	56	BU-46	56 / 52 / 41	不整円形	暗 褐		
605	56	BS-47	66 / 58 / 32	方 形	暗 褐	中 期	
606	54	AA-47	94 / 80 / 13	不 整 形	暗 褐	中 期	
607	53	BY-41	68 / 66 / 40	不整円形	暗 褐	中 期	
608	53	AA-43	114 / 106 / 40	不整円形	暗 褐	不 明	
609	54	AD-44	83 / 72 / 30	不 整 形	暗 褐		
610	54	AD-44	65 / 62 / 54	不整円形	暗 褐	中期中葉末	
611	53	AC-41	82 / (70) / 22	不整円形	暗 褐	不 明	
612	56	BW-47	(116) / 82 / 45	不 整 形	暗 褐	中期中葉末	
613	56	BV-46	68 / 60 / 39	楕 円 形	暗 褐	中期中葉	
614	56	BV-46	76 / 74 / 29	円 形	暗 褐		
615	54	BY-49	132 / 73 / 34	不 整 形	暗 褐	中 期	
616	54	BX-47	166 / (115) / 43	不 整 形	暗 褐	中期初頭	
617	54	AB-45	65 / 47 / 27	長 方 形	暗 褐	中期中葉末	

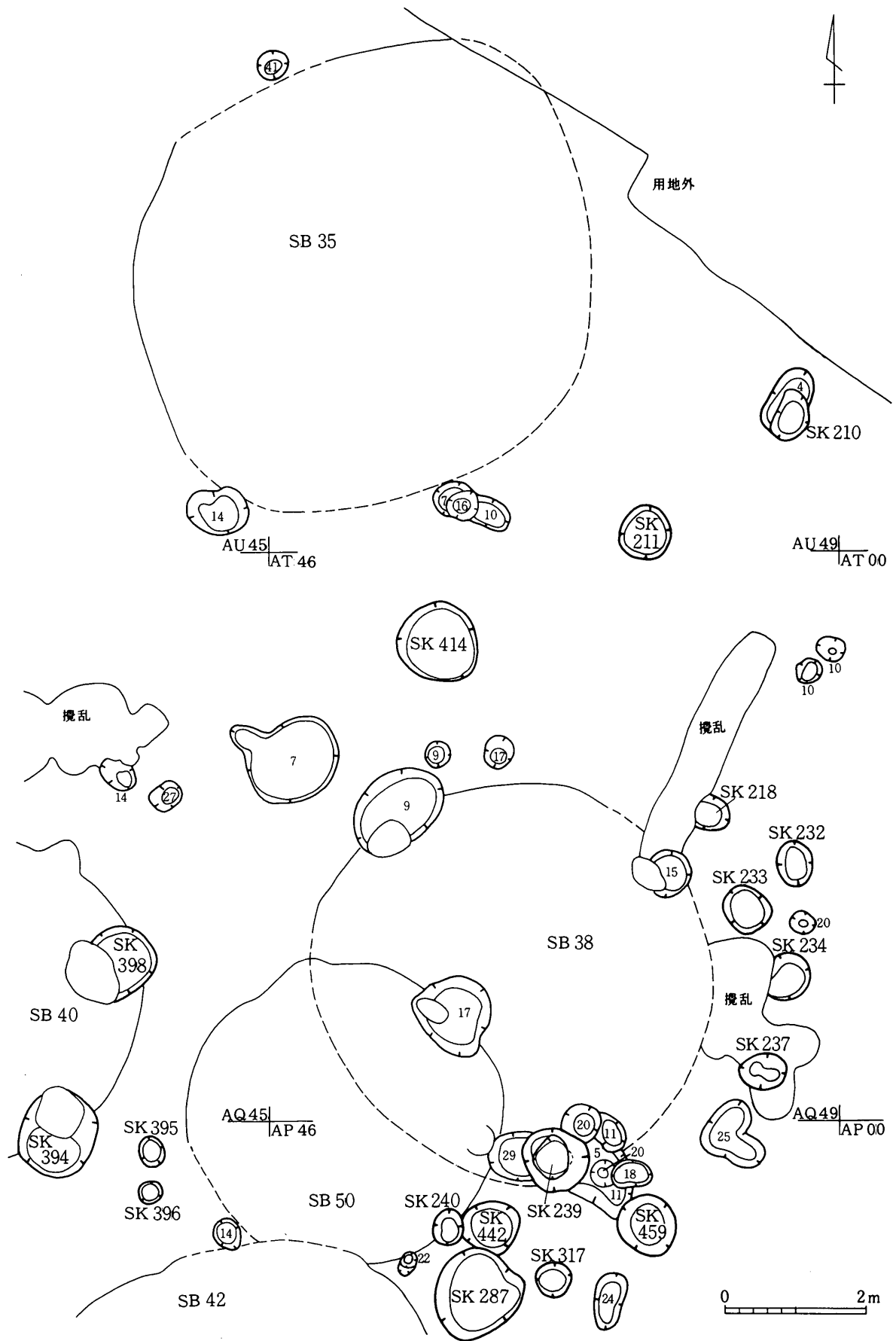
表44 土坑観察表 (10)



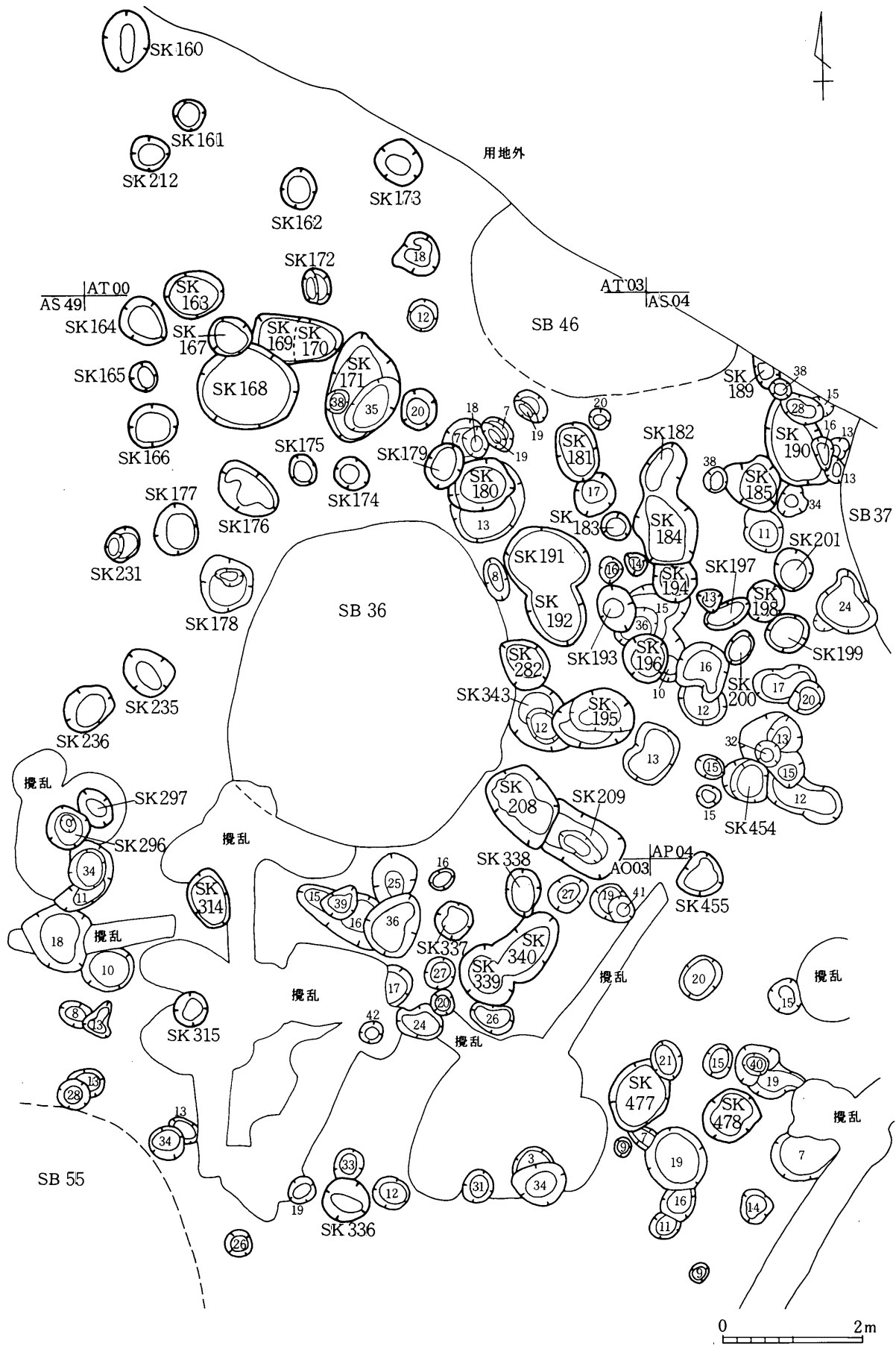
挿図42 周辺ピット割付図



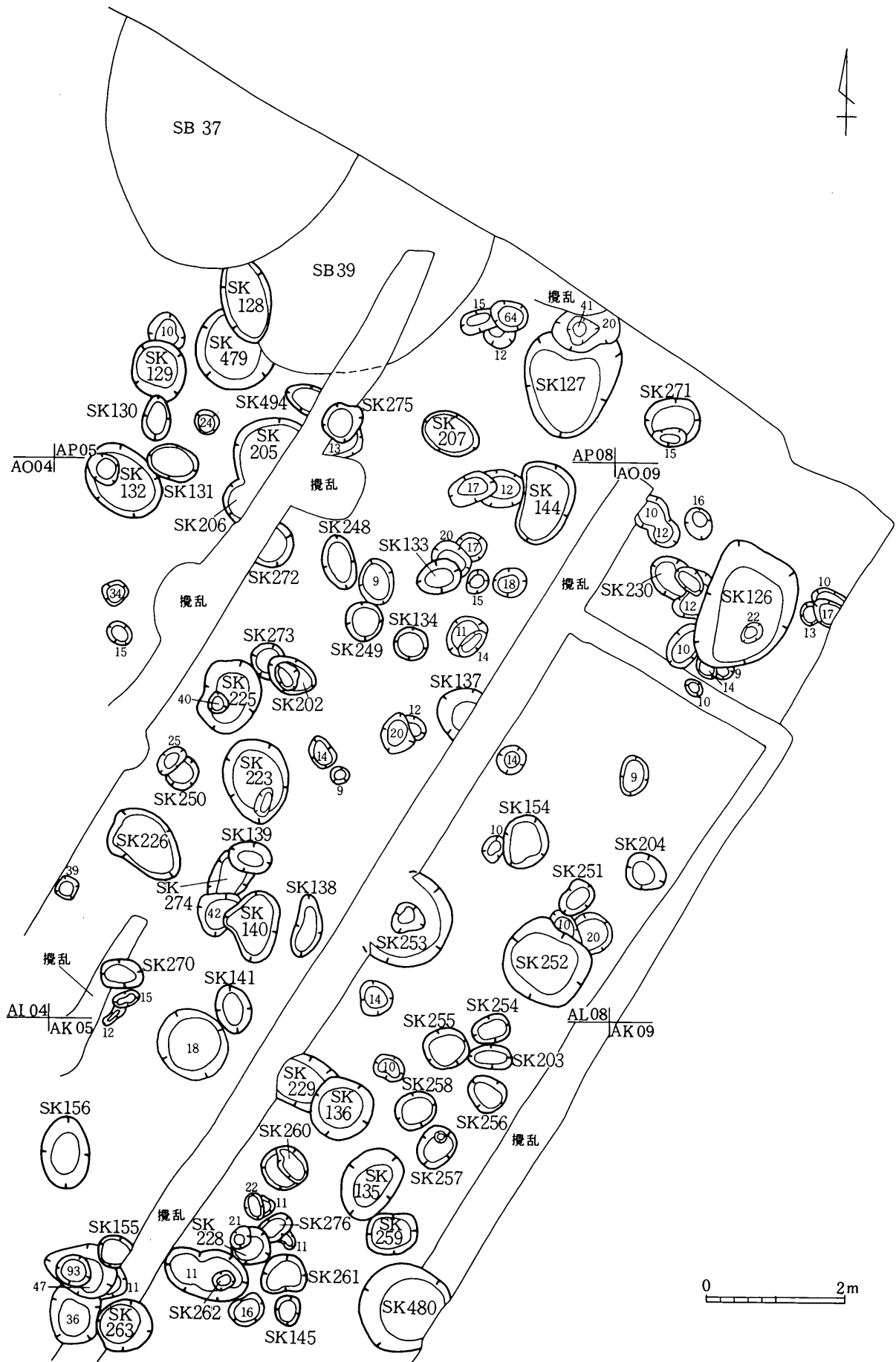
挿図45 周辺ピット図3



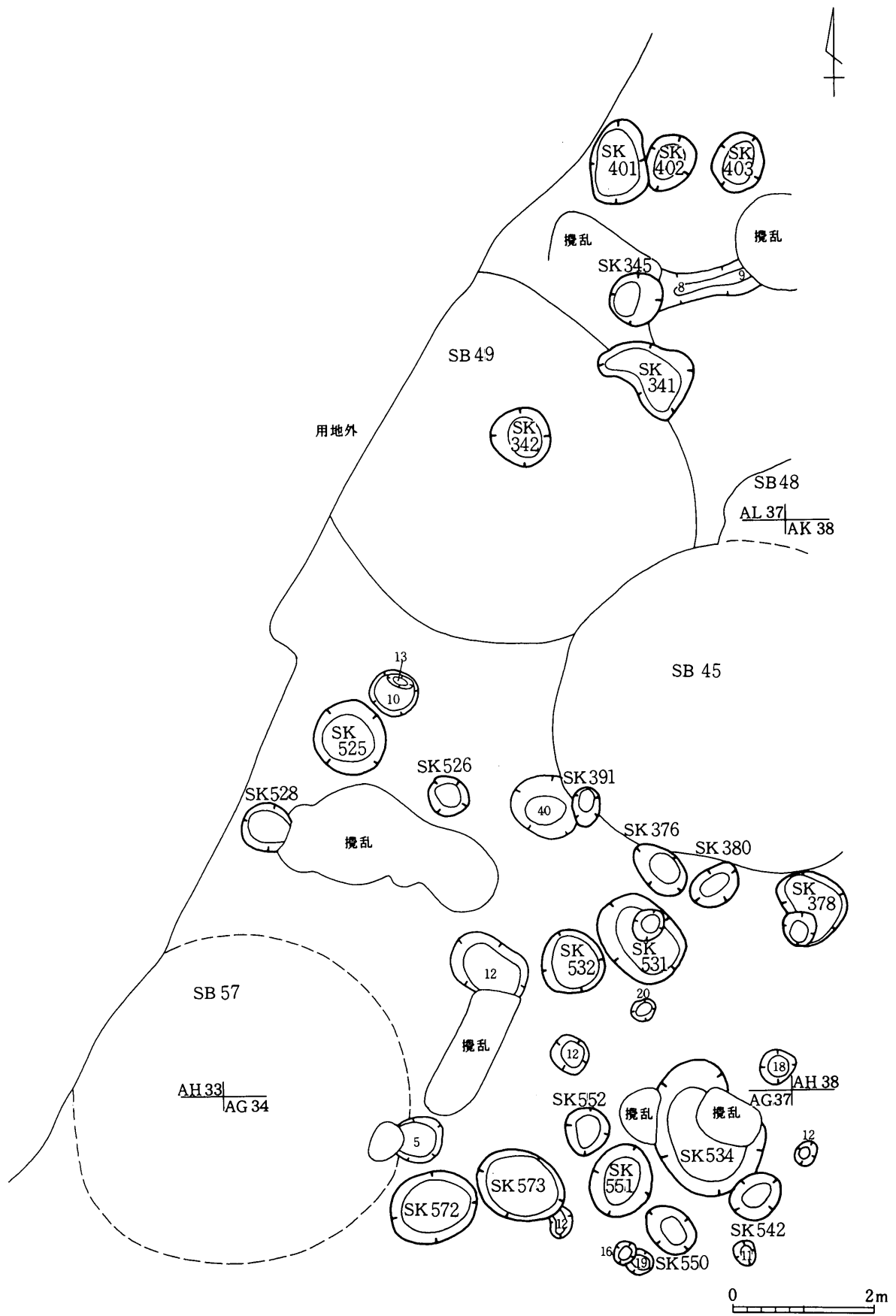
挿図46 周辺ピット図4



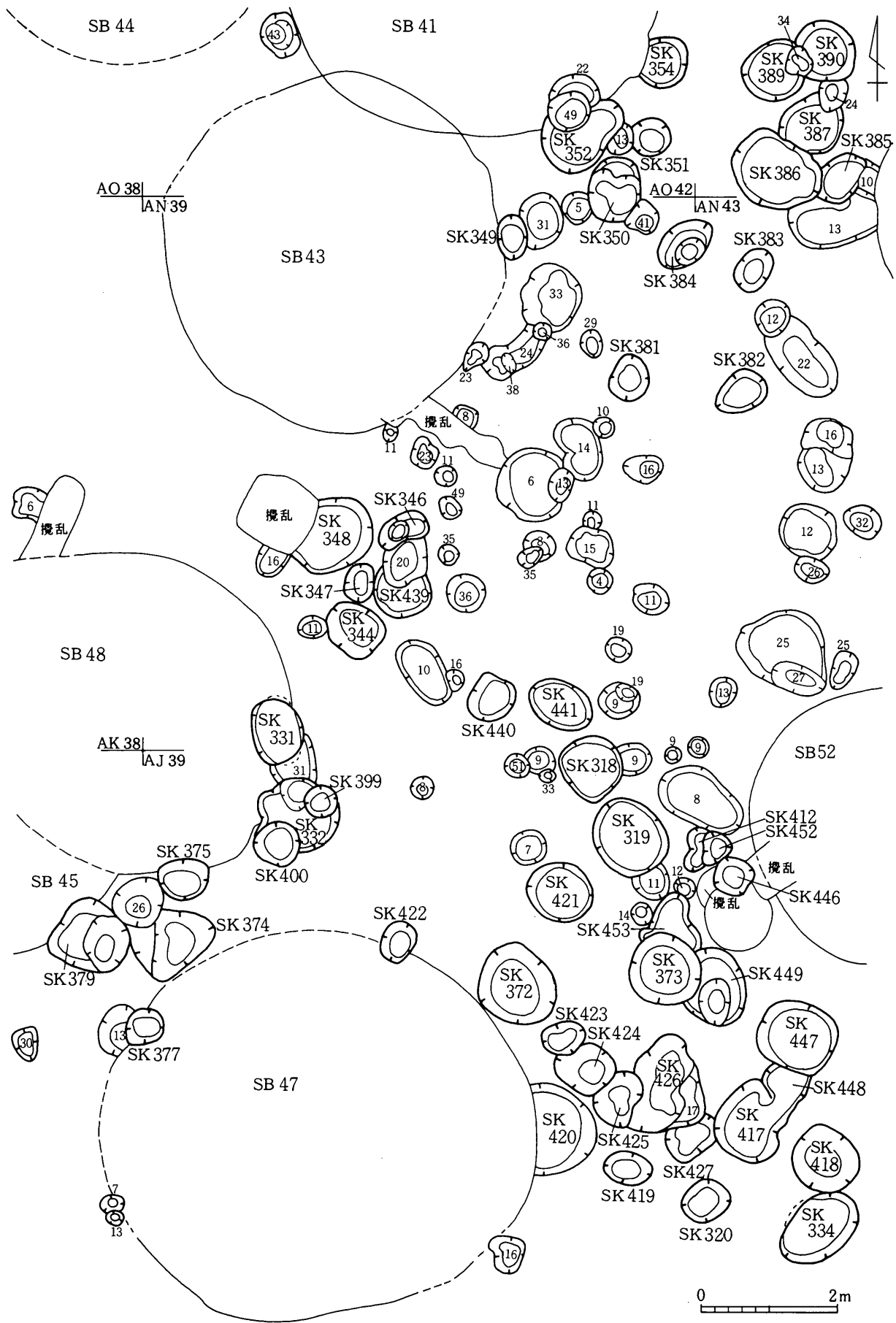
挿図47 周辺ピット図5



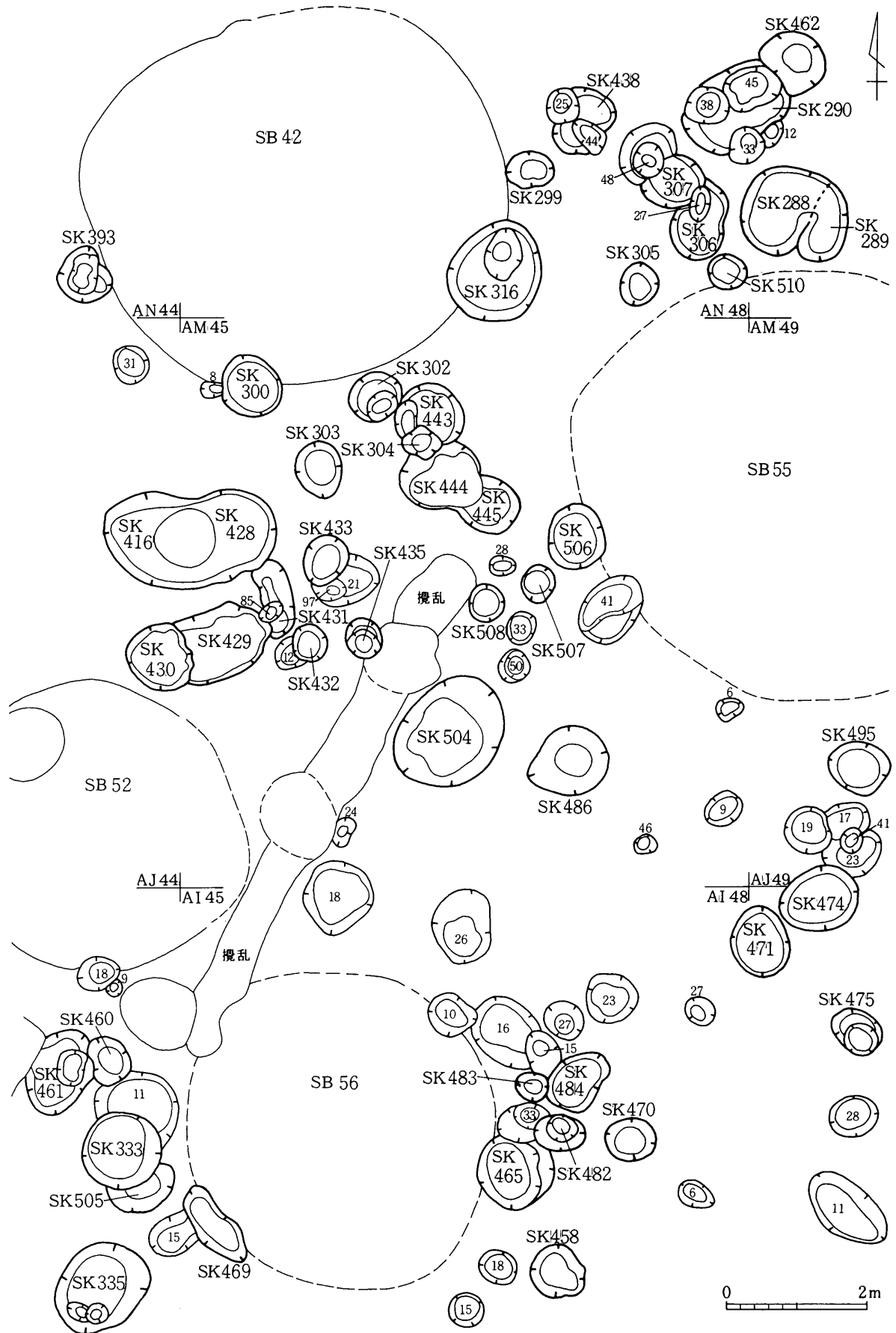
挿図48 周辺ピット図6



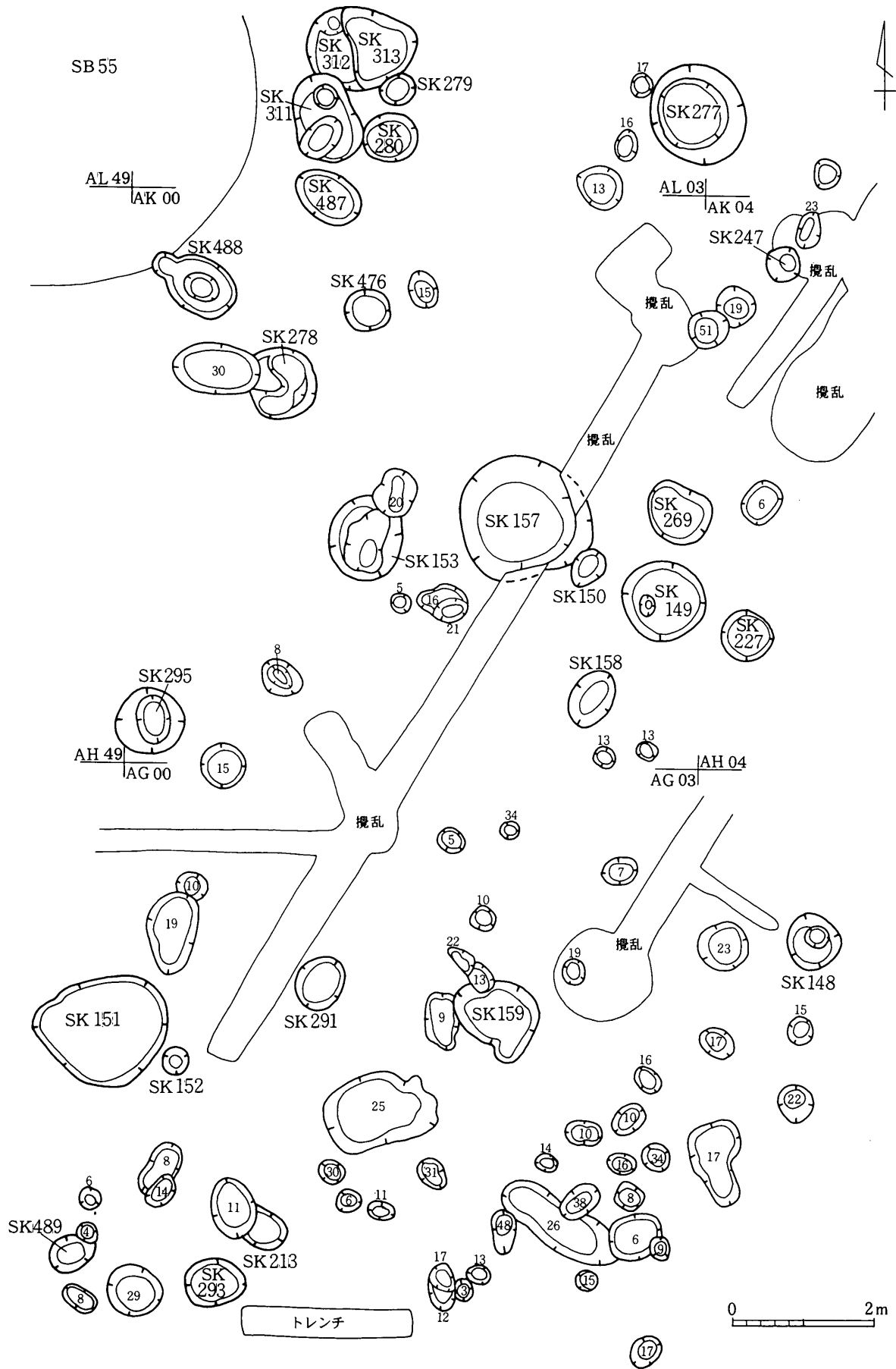
挿図49 周辺ピット図7



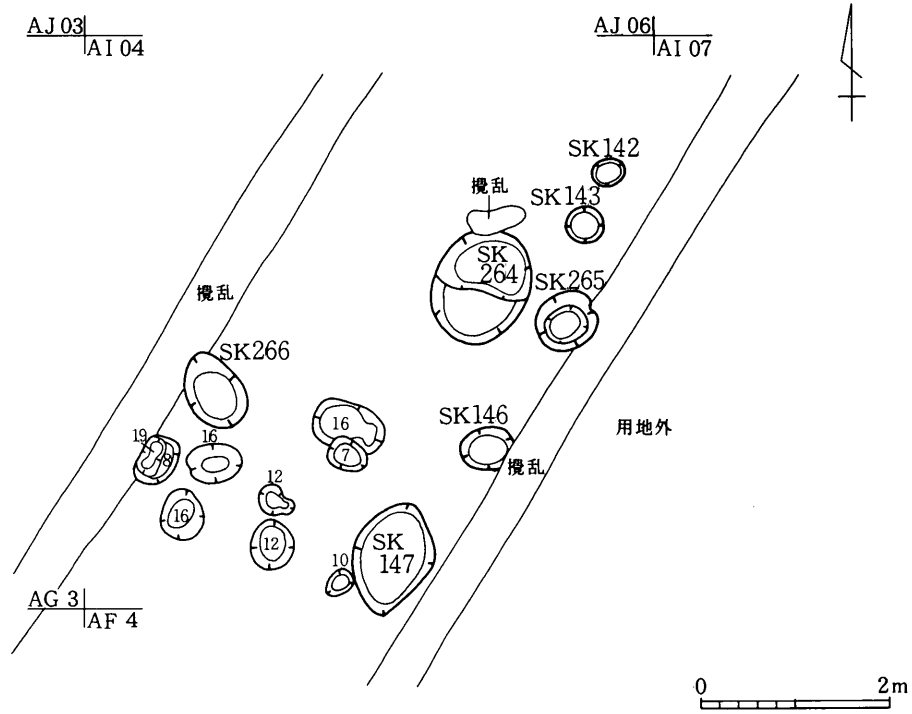
挿図50 周辺ピット図8



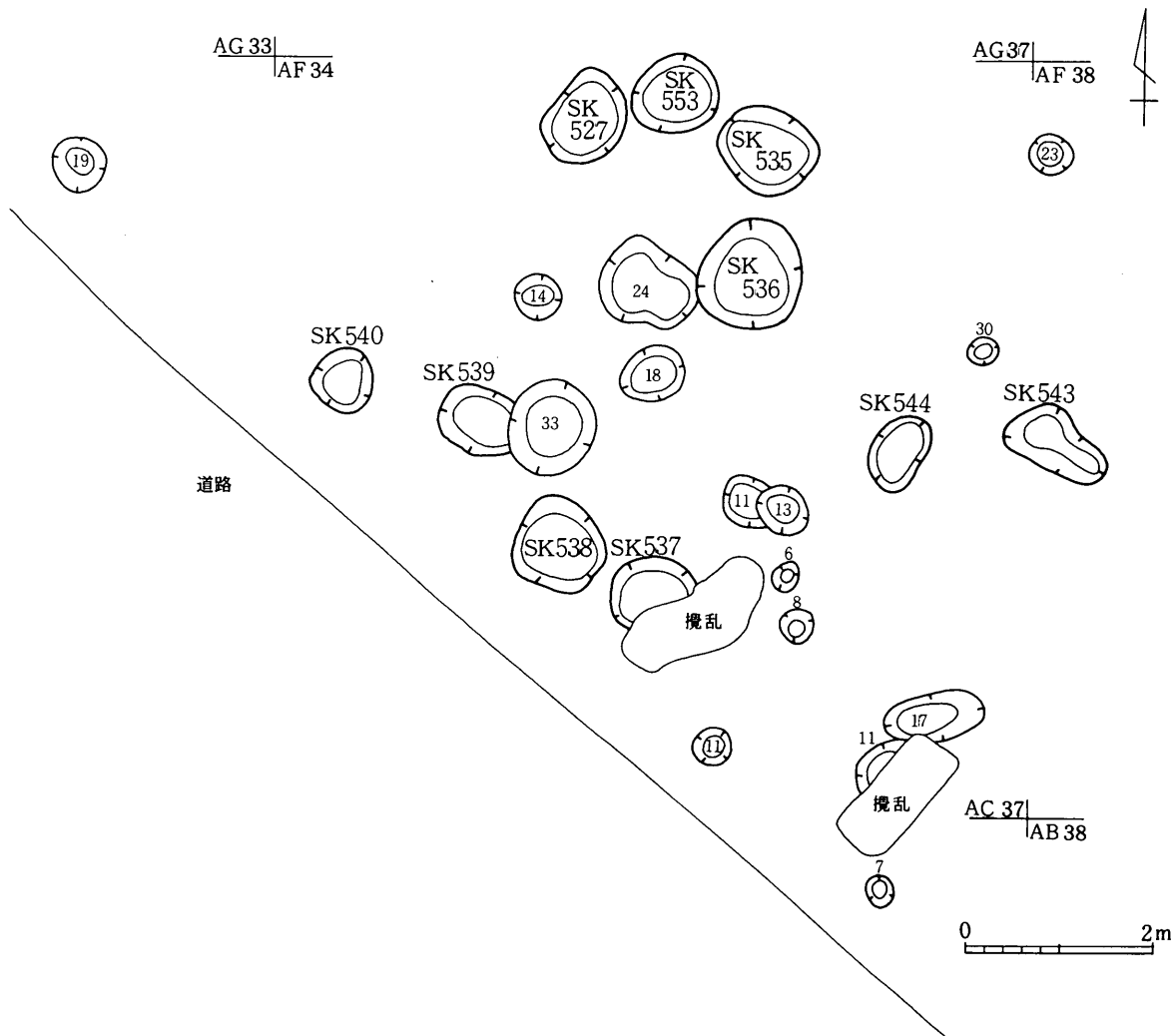
挿図51 周辺ピット図9



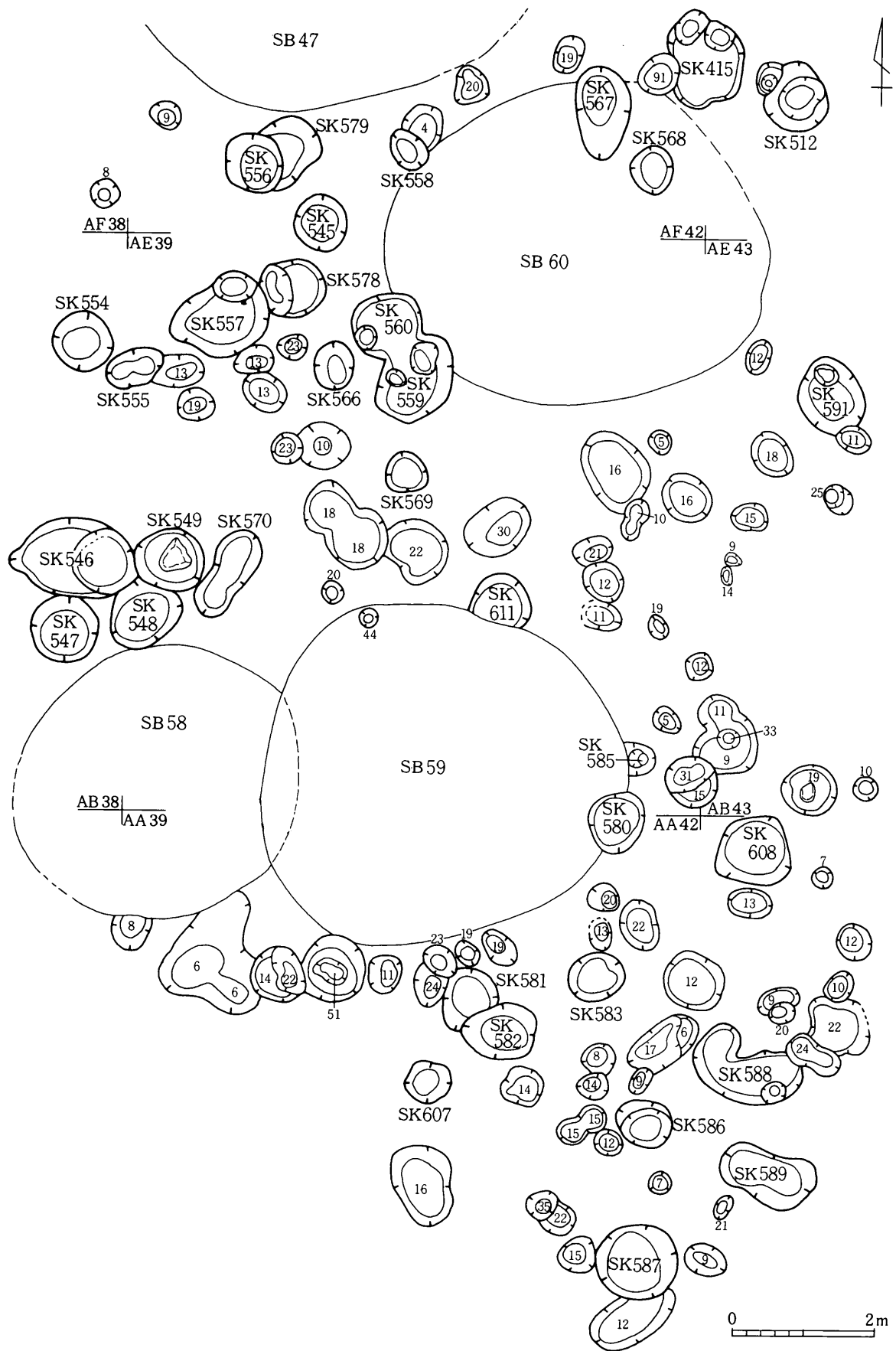
挿図52 周辺ピット図10



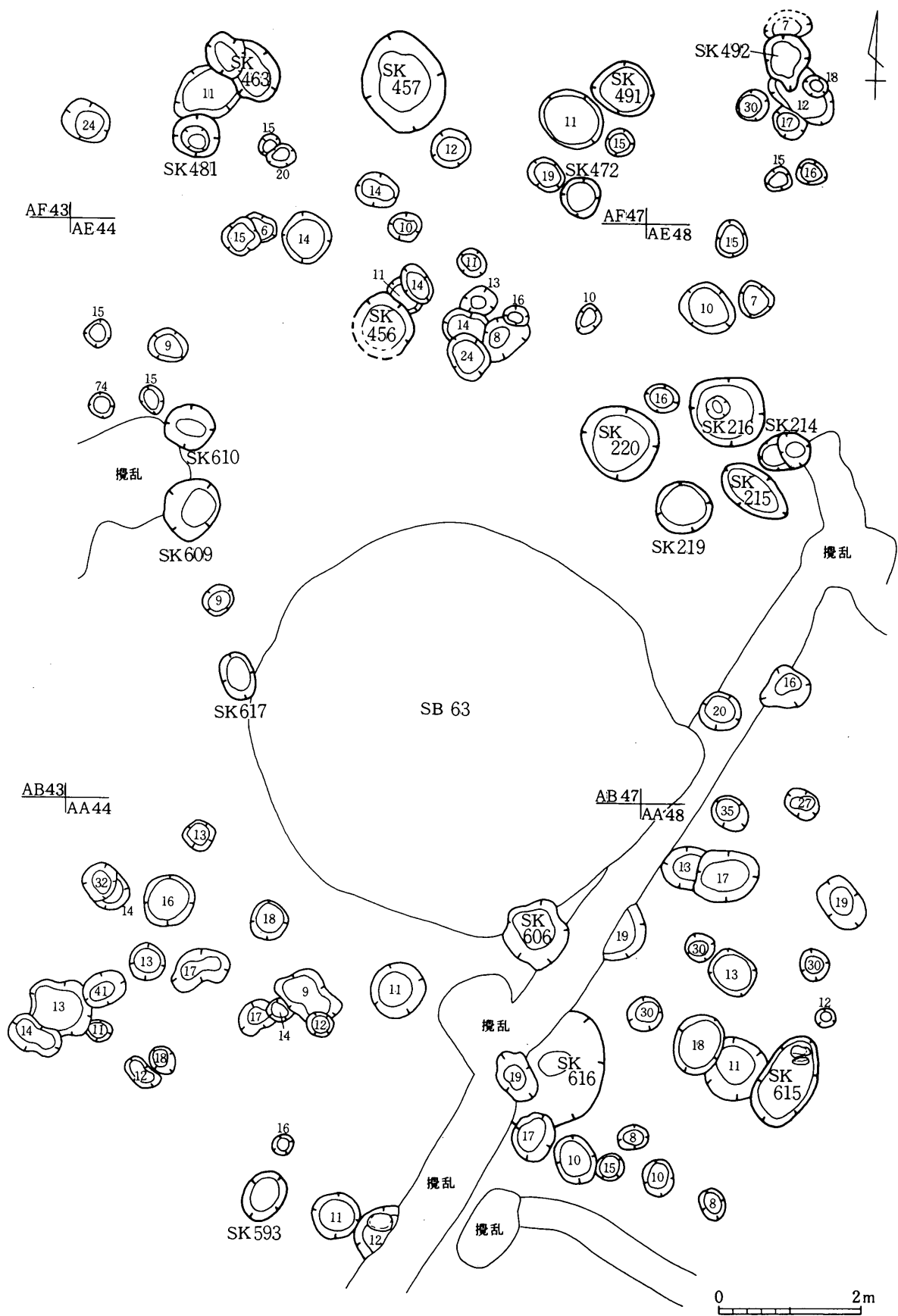
挿図53 周辺ピット図11



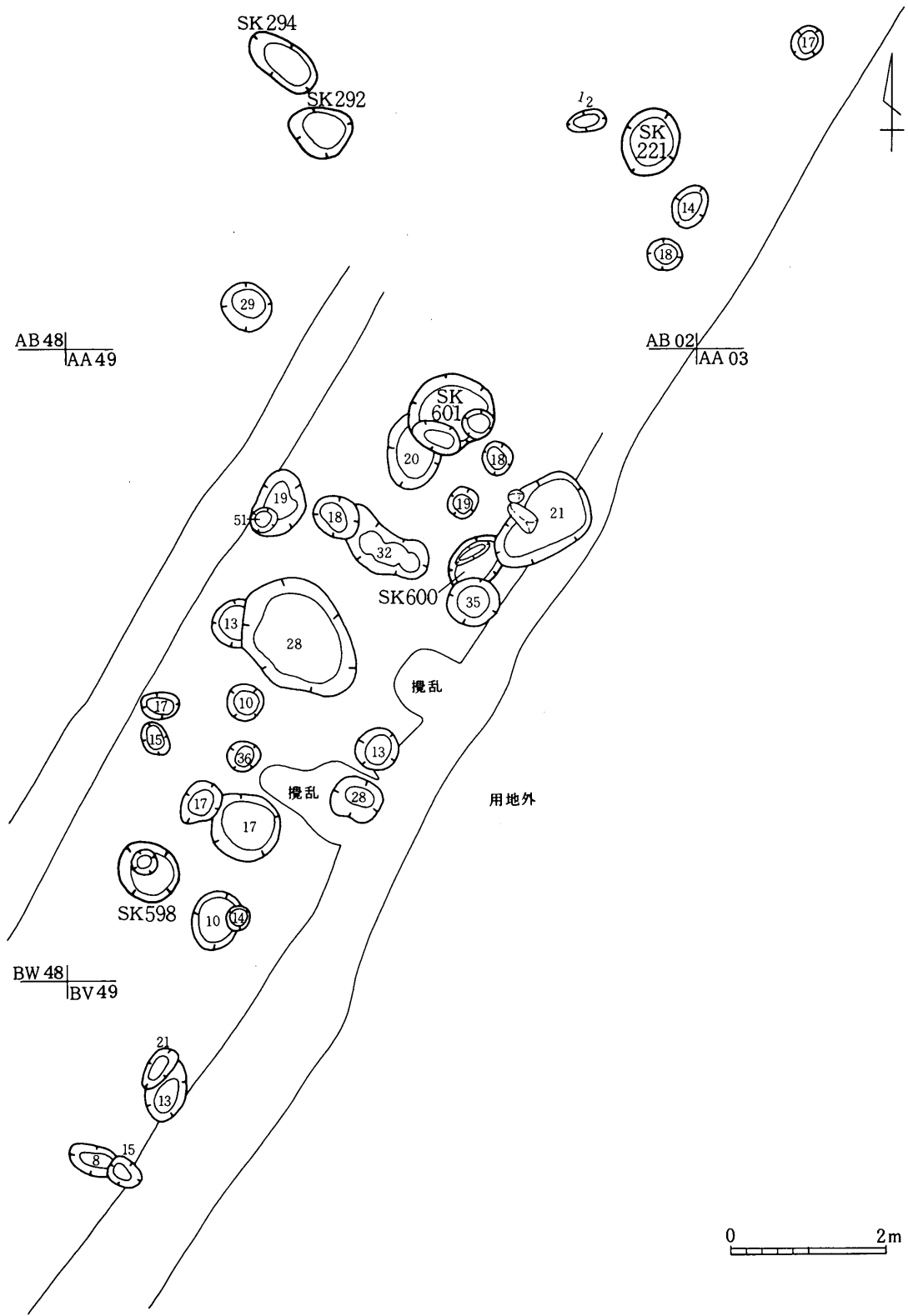
挿図54 周辺ピット図12



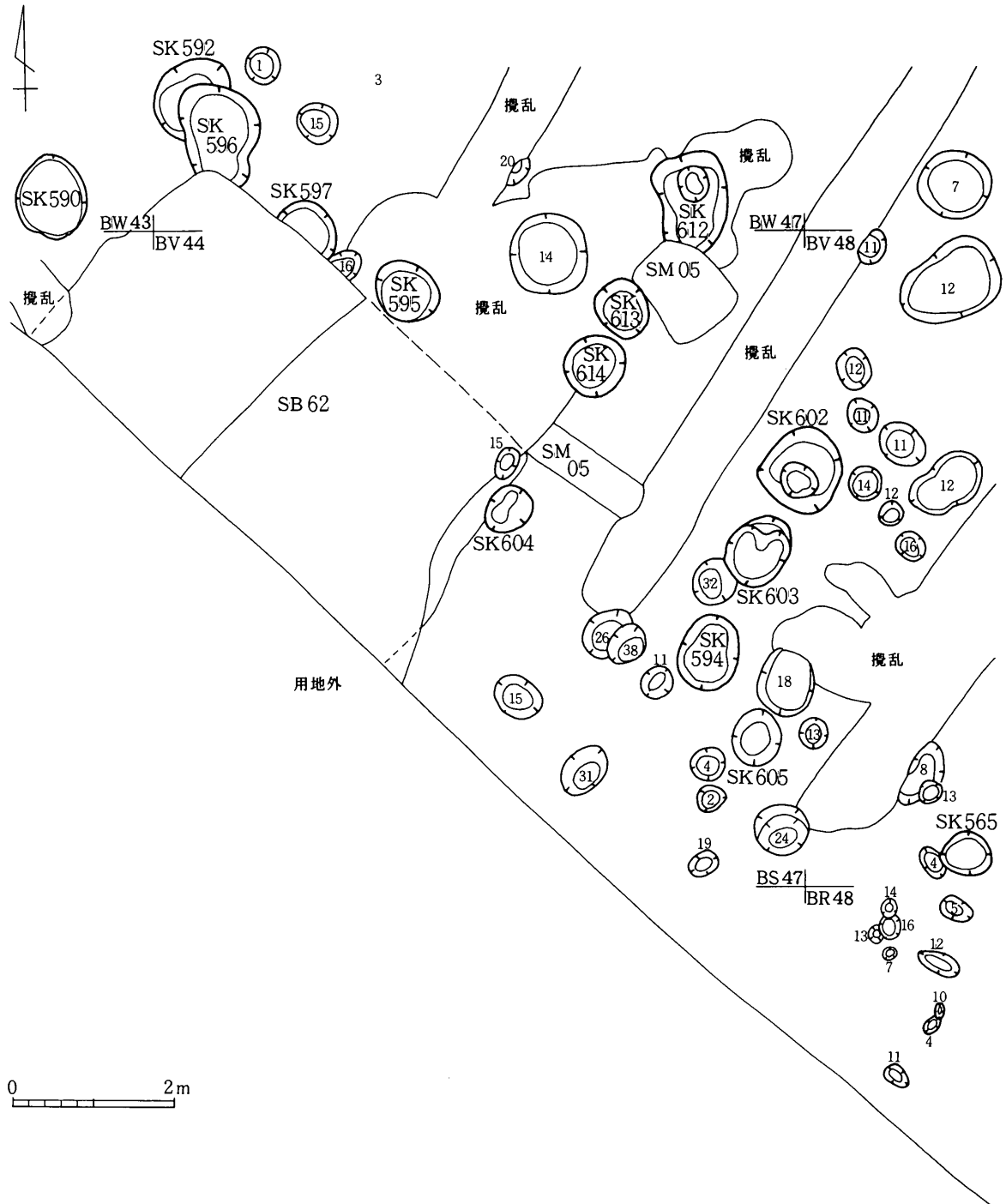
挿図55 周辺ピット図13



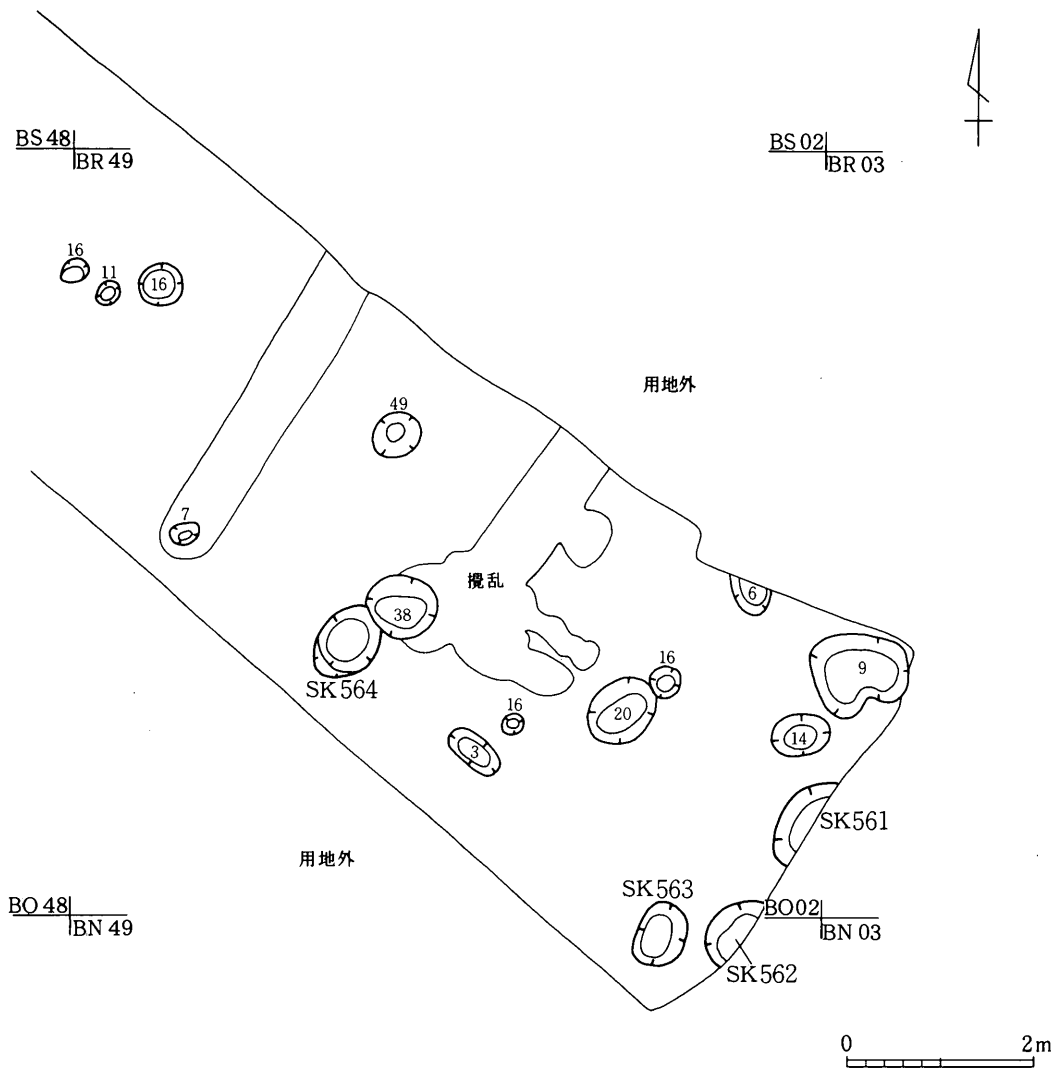
挿図56 周辺ピット図14



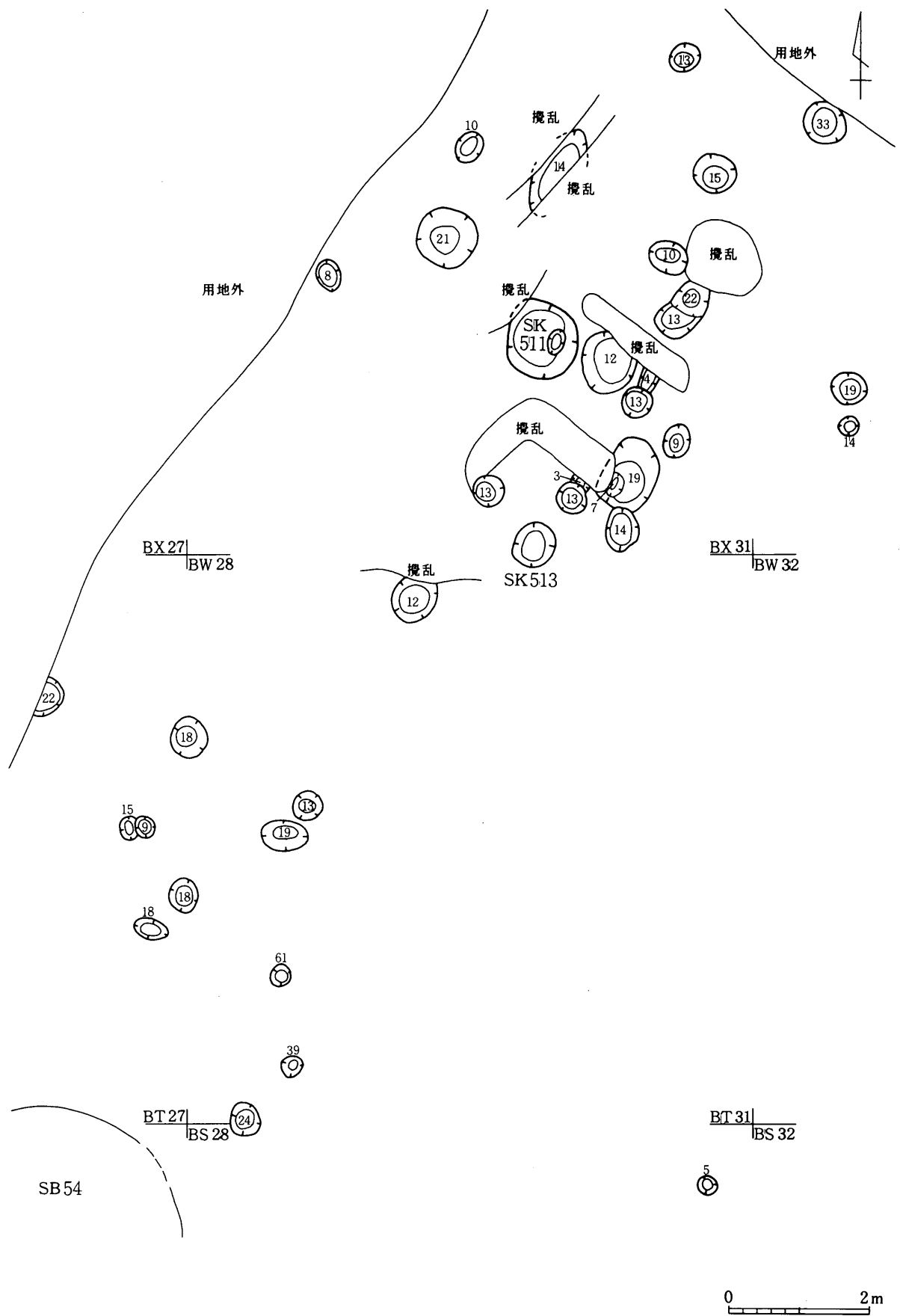
挿図57 周辺ピット図15



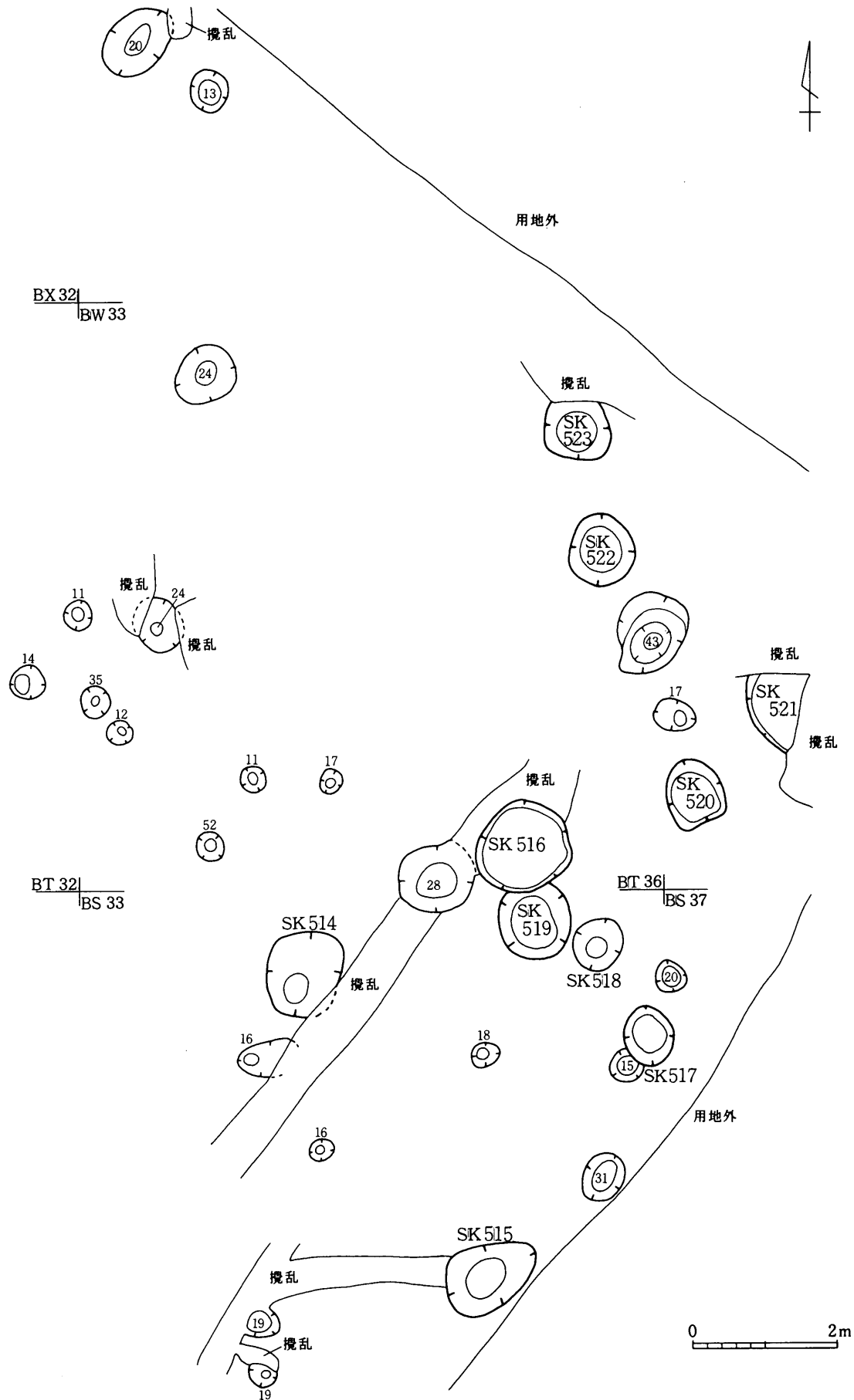
挿図58 周辺ピット図16



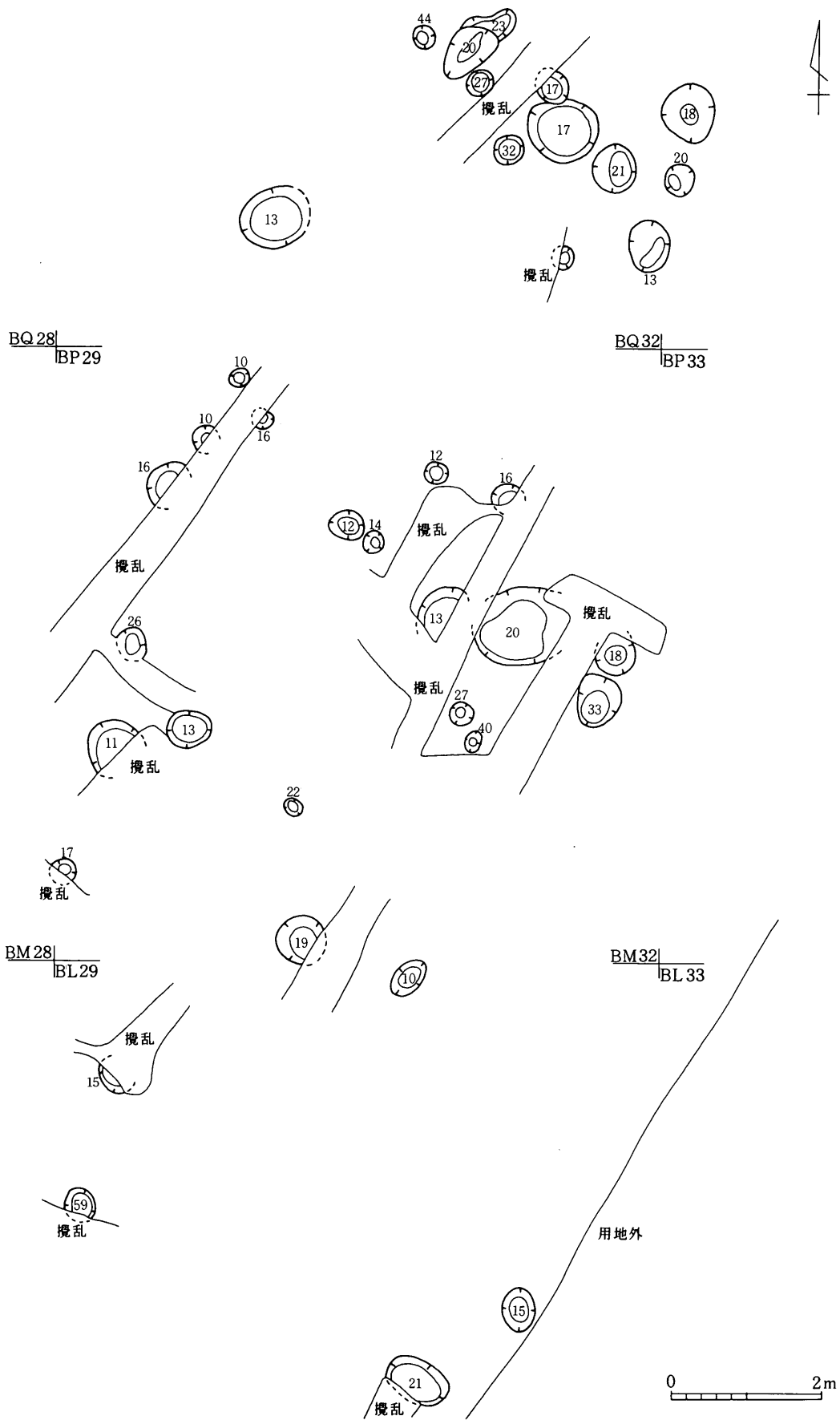
挿図59 周辺ピット図17



挿図60 周辺ピット図18

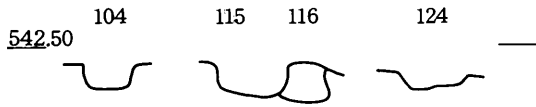


挿図61 周辺ピット図19

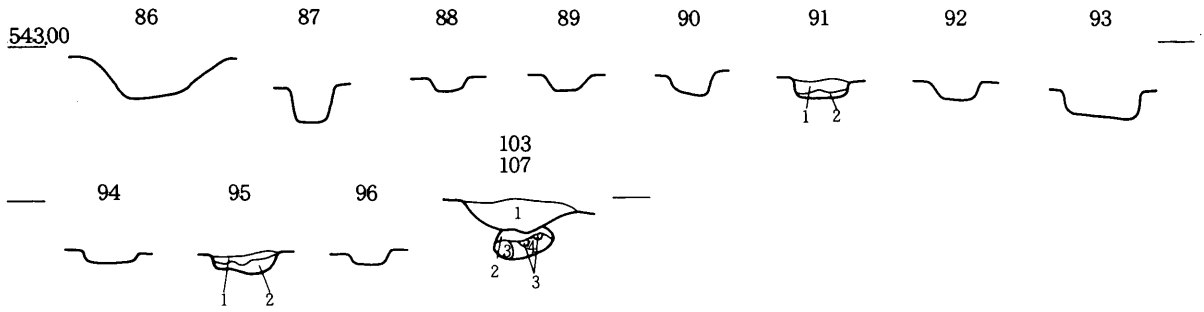


挿図62 周辺ピット図20

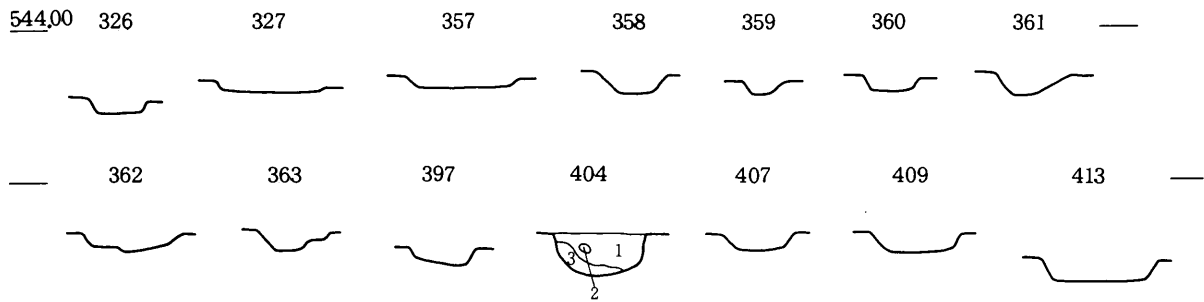
周辺ビット図 1



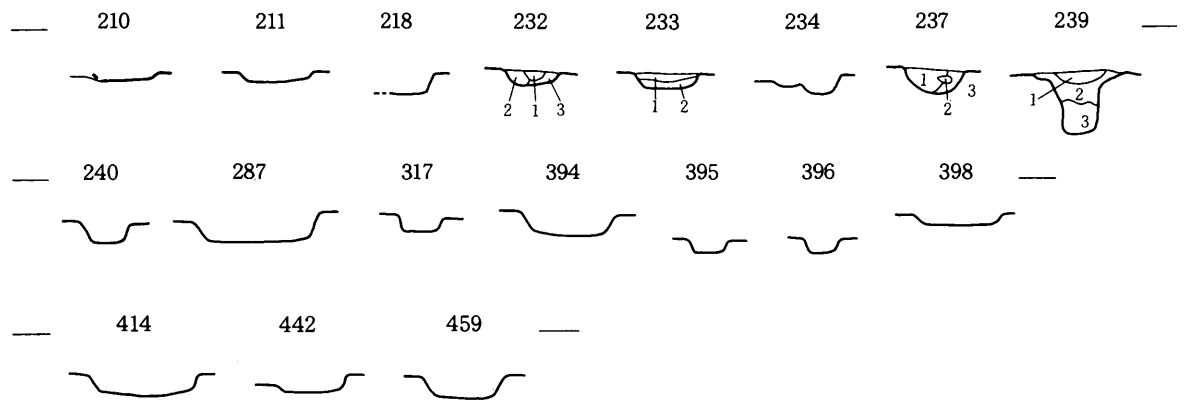
周辺ビット図 2



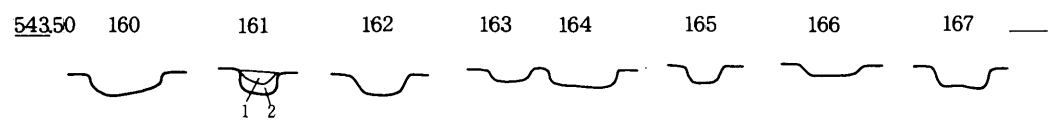
周辺ビット図 3



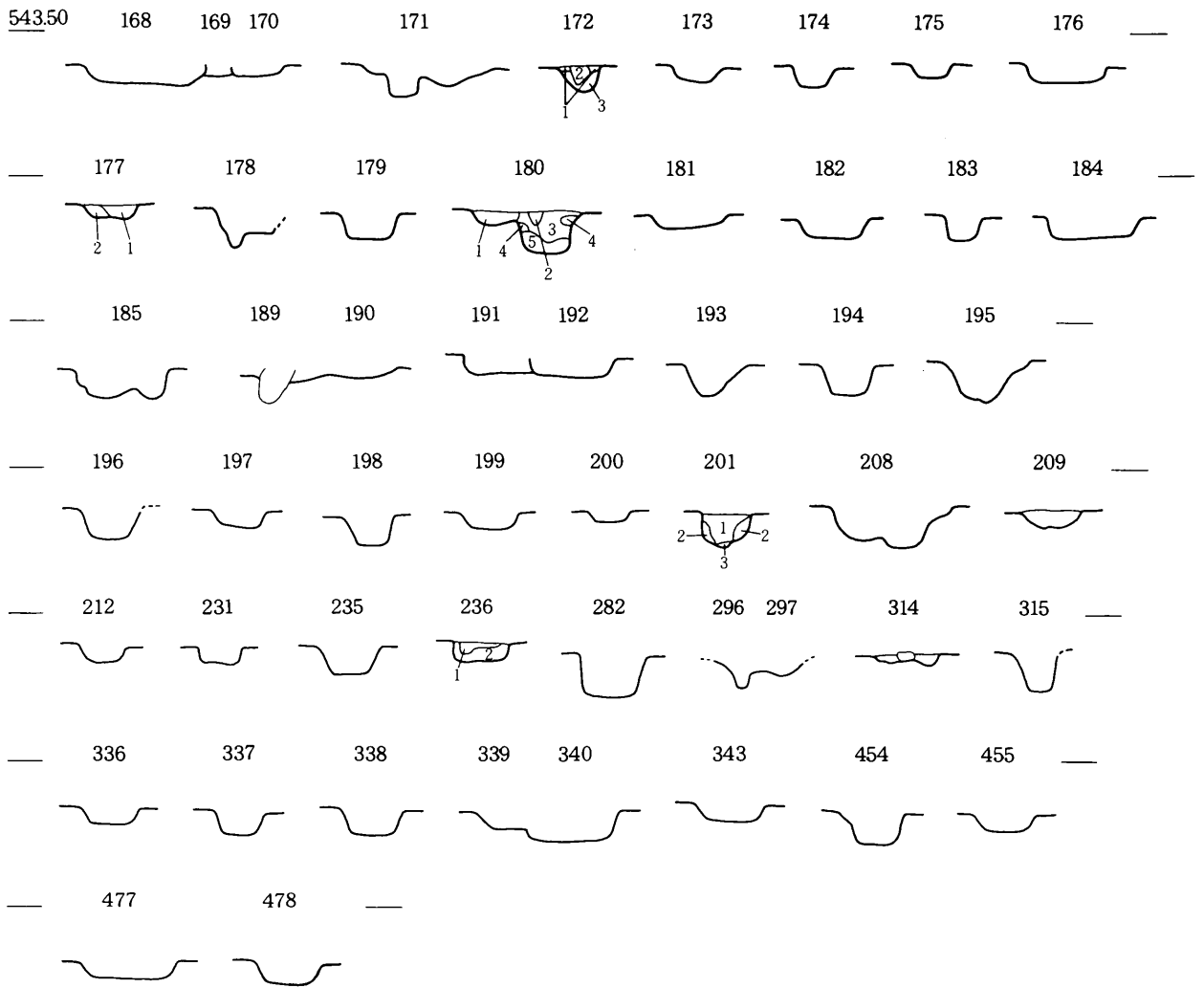
周辺ビット図 4



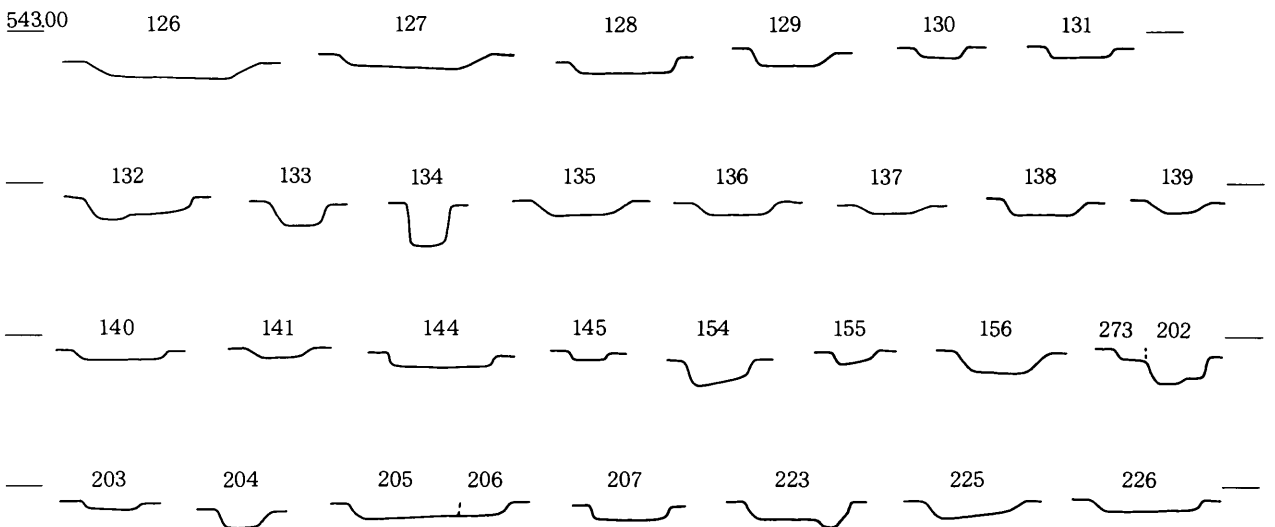
周辺ビット図 5



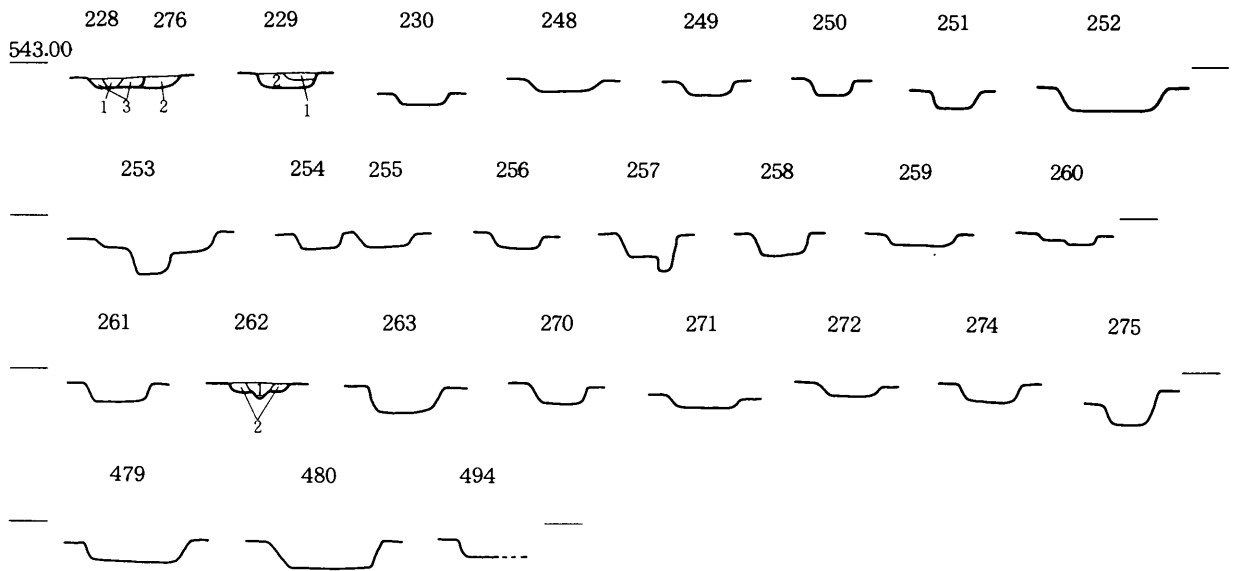
挿図63 土坑断面図 1



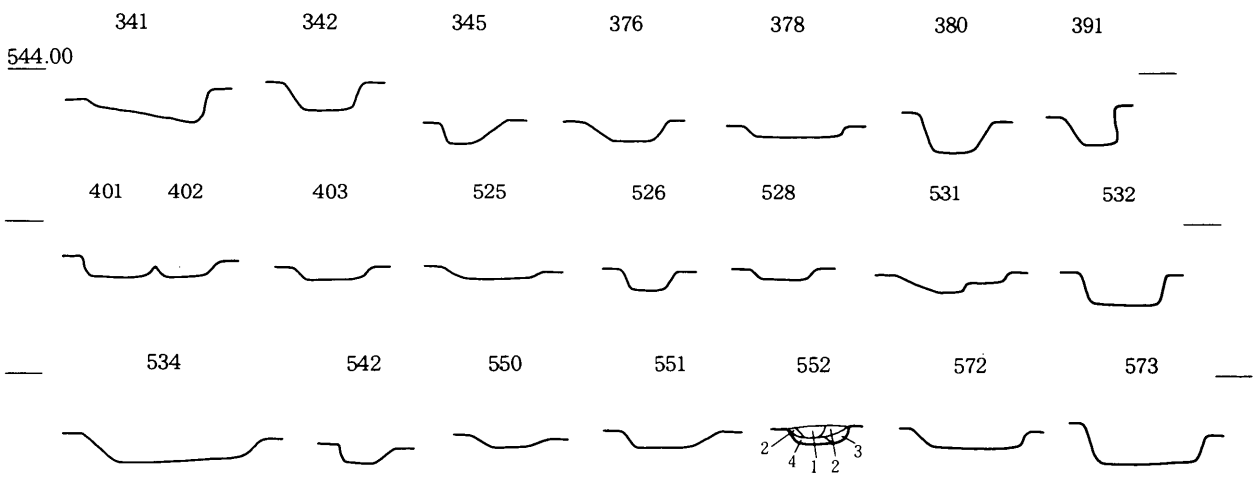
周辺ピット図 6



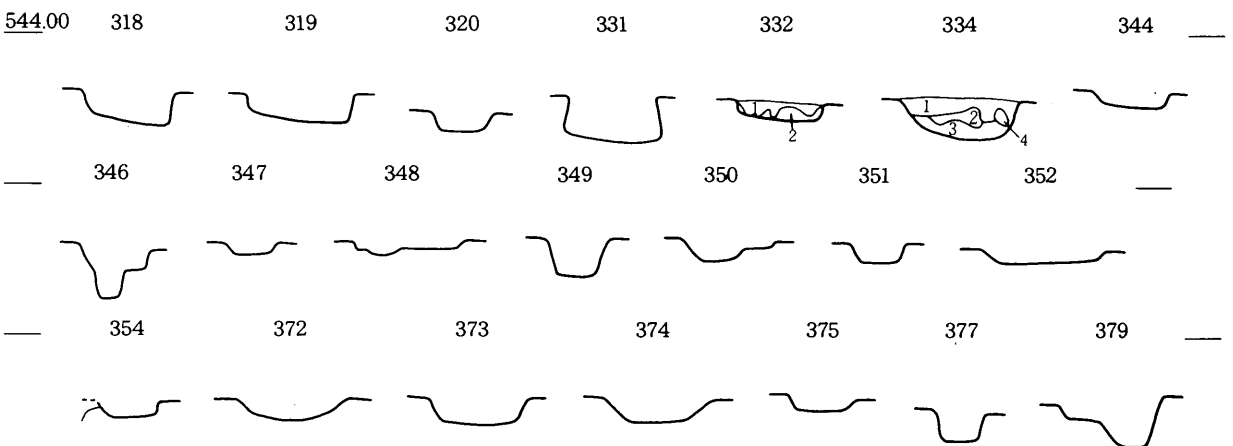
挿図64 土坑断面図 2



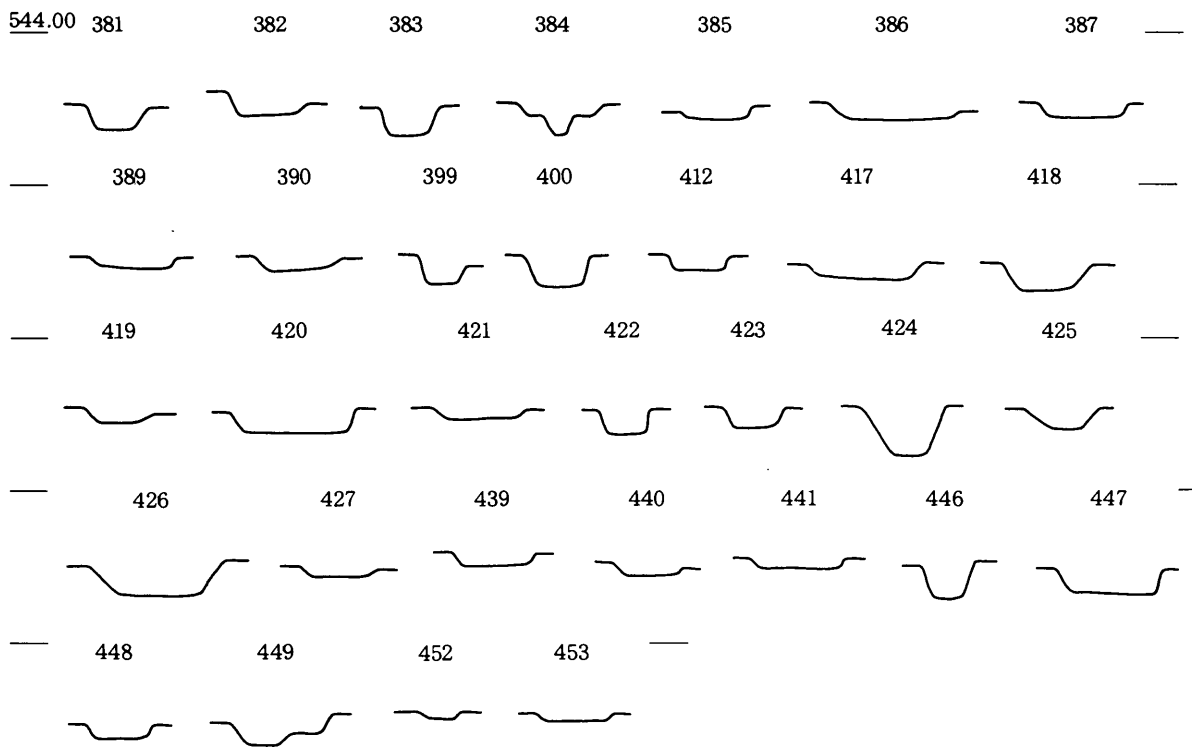
周辺ピット図 7



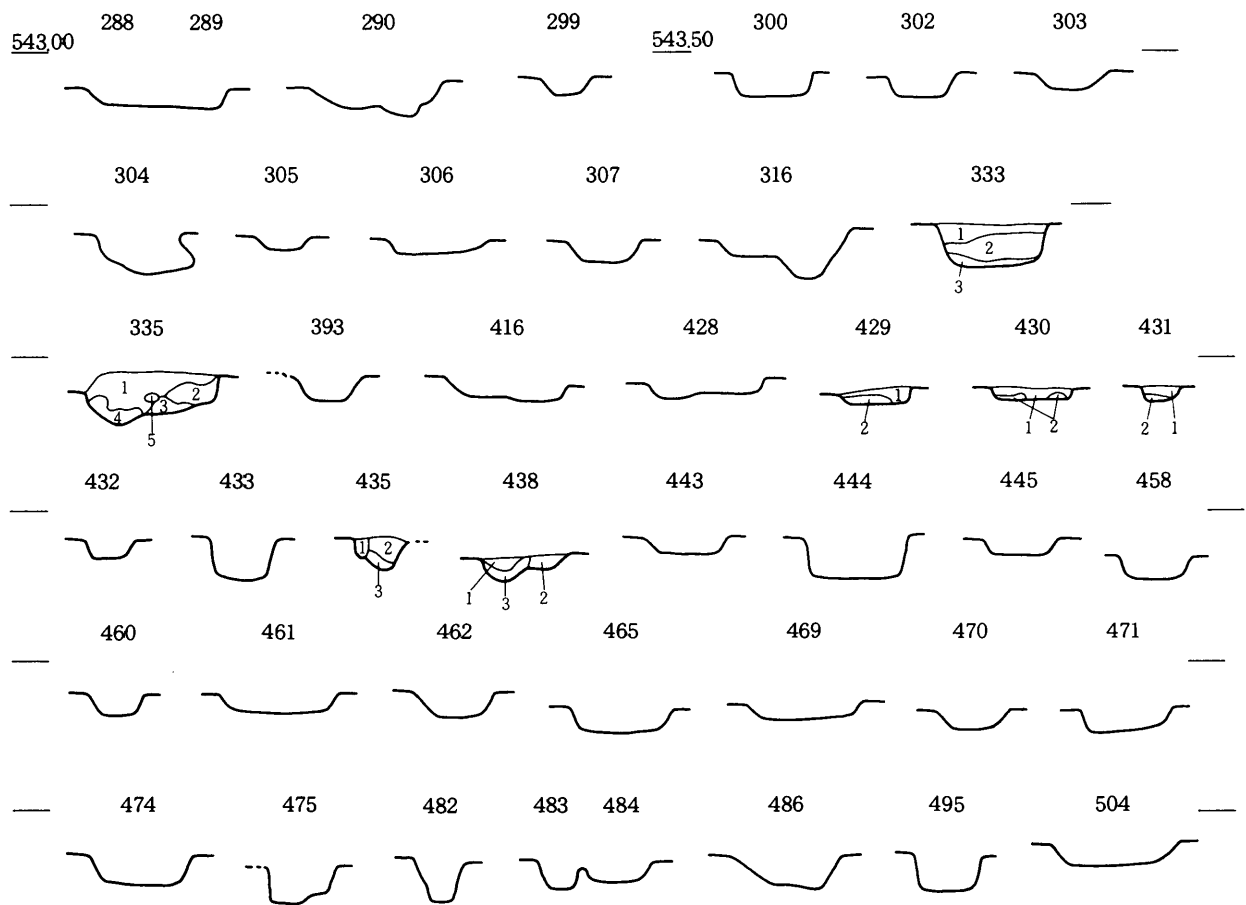
周辺ピット図 8



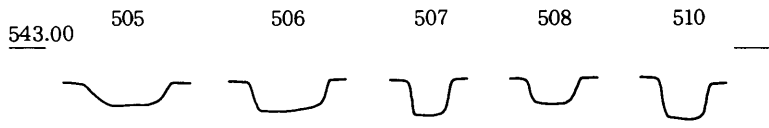
挿図65 土坑断面図 3



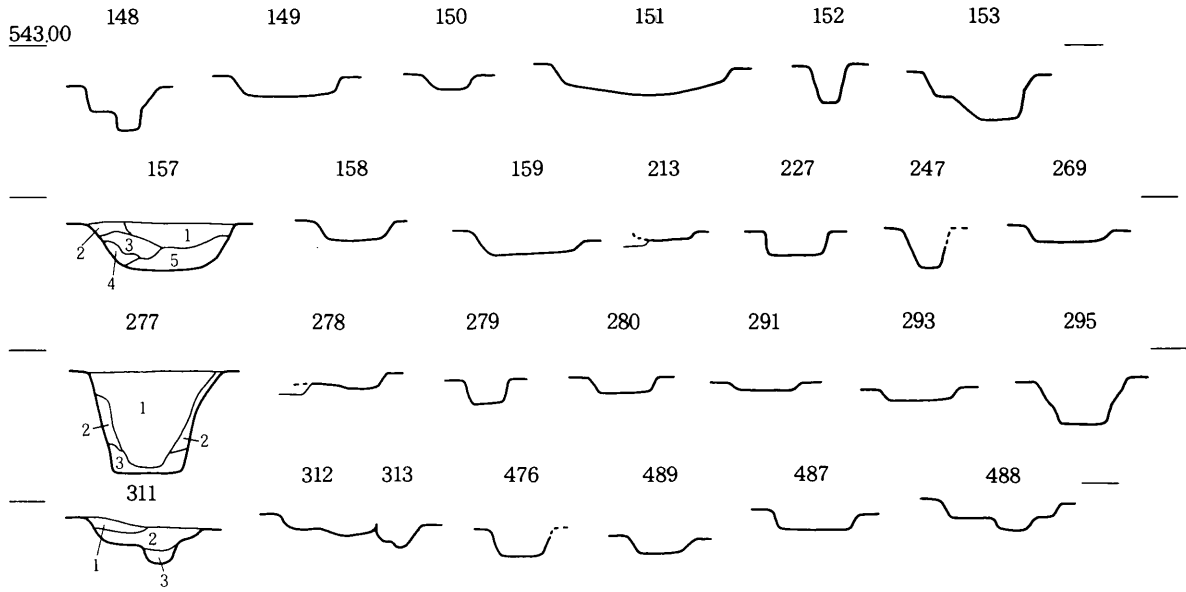
周辺ピット図 9



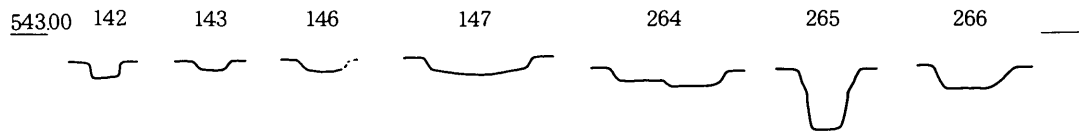
挿図66 土坑断面図 4



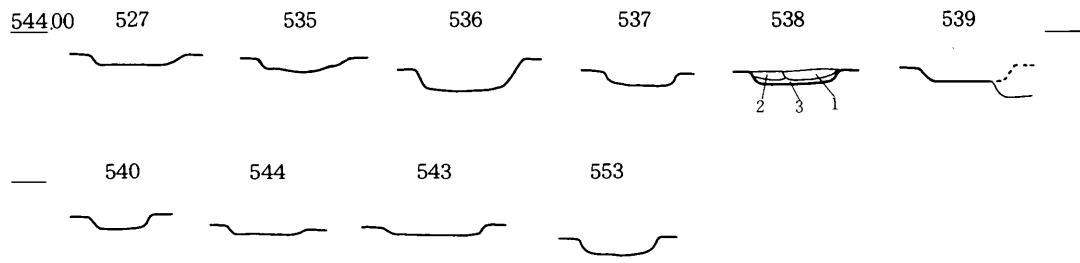
周辺ピット図 10



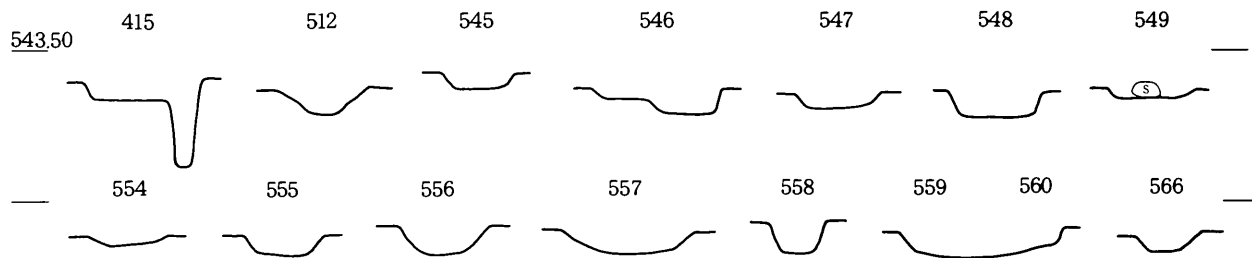
周辺ピット図 11



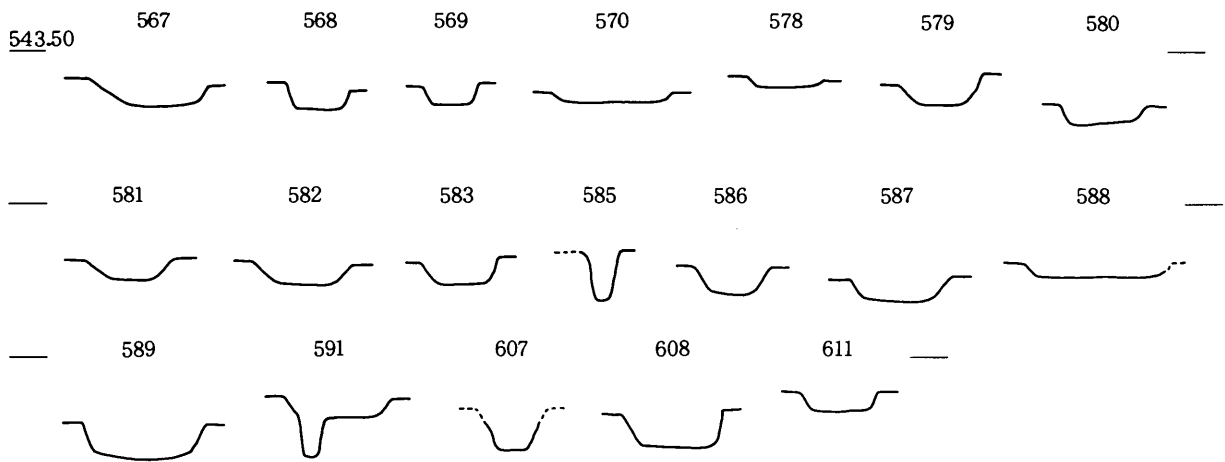
周辺ピット図 12



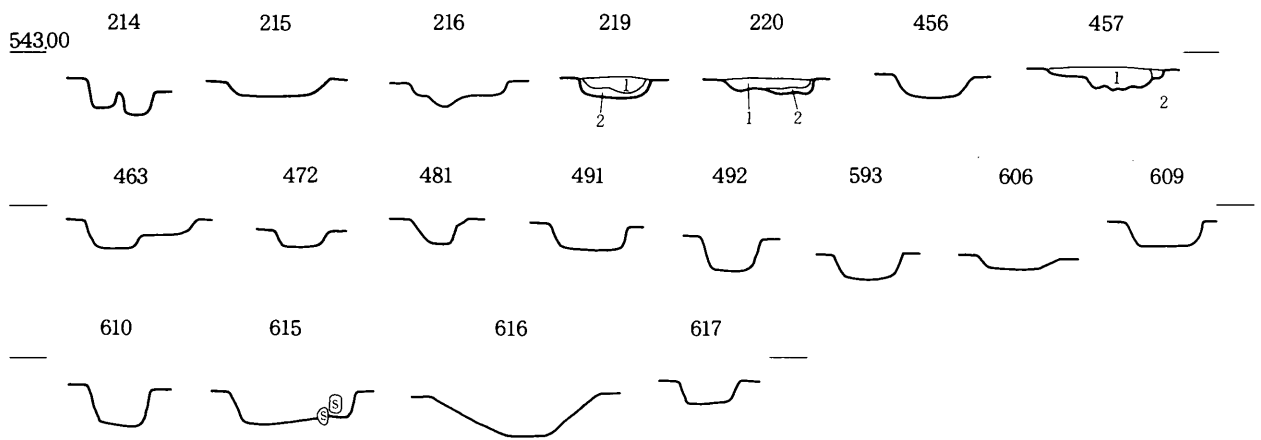
周辺ピット図 13



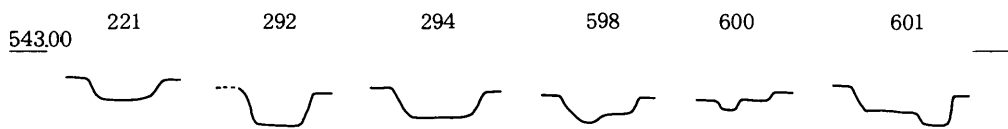
挿図67 土坑断面図5



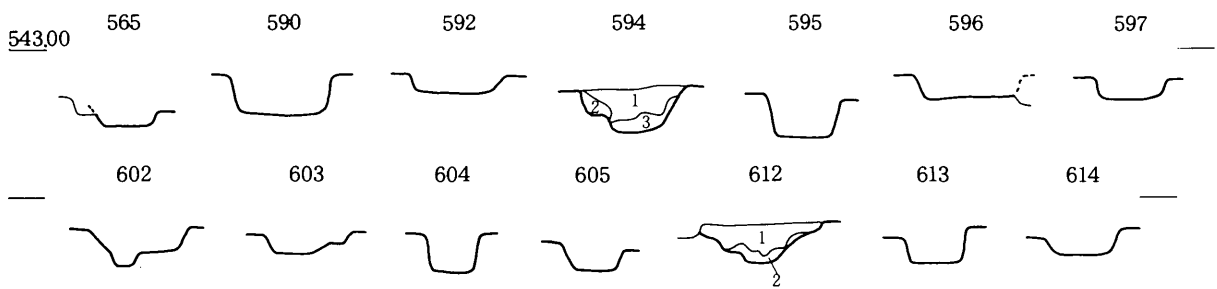
周辺ピット図 14



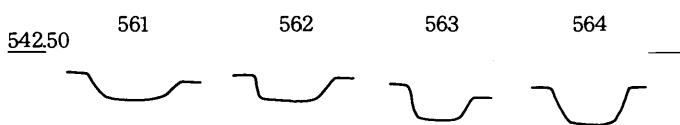
周辺ピット図 15



周辺ピット図 16

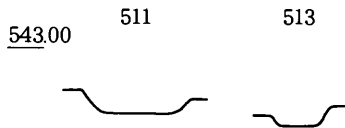


周辺ピット図 17

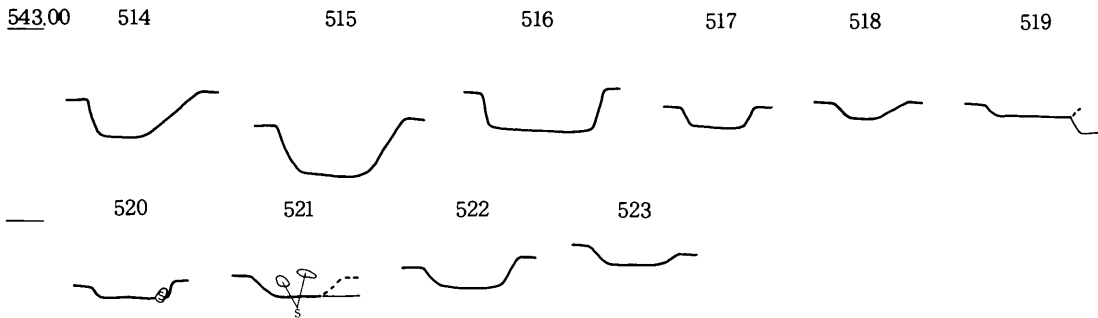


挿図68 土坑断面図6

周辺ピット図 18



周辺ピット図 19



挿図69 土坑断面図 7

土坑断面図No.	土坑No.	第1層	第2層	第3層	第4層	第5層
1	107	黒褐色土	黒褐色土	褐色土	黄褐色土	—
1	404	黒褐色土	黄褐色土	にぶい黄褐	—	—
1	232	暗褐色土	にぶい黄褐	褐色土	—	—
1	237	暗褐色土	褐色土	にぶい黄褐	—	—
1	239	暗褐色土	褐色土	暗褐色土	—	—
2	172	褐色土	暗褐色土	褐色土	—	—
2	180	褐色土	黒褐色土	暗褐色土	褐色土	暗褐色土
2	201	黒褐色土	暗褐色土	褐色土	—	—
3	552	暗褐色土	黒褐色土	褐色土	褐色土	—
3	334	黒褐色土	黒褐色土	暗褐色土	褐色土	—
4	333	黒褐色土	黒褐色土	暗褐色土	—	—
4	335	暗褐色土	暗褐色土	黒褐色土	褐色土	暗褐色土
4	435	褐色土	暗褐色土	黒褐色土	—	—
4	438	暗褐色土	褐色土	褐色土	—	—
5	157	褐色土	にぶい黄褐	暗褐色土	褐色土	暗褐色土
5	277	灰黄褐色土	にぶい黄褐	暗褐色土	—	—
5	331	暗褐色土	暗褐色土	褐色土	—	—
5	538	暗褐色土	褐色土	にぶい黄褐	—	—
6	594	黒褐色土	褐色土	暗褐色土	—	—

表45 土坑埋土土色表

IV ま と め

今回の調査結果はこれまでに述べてきたとおりである。当黒田大明神原遺跡では昭和59～61年に当時の上郷町教育委員会によって、今回調査地点付近も含めた黒田大明神原の台地東側半分ほどの範囲で道路新設部分が調査され、縄文時代中期後葉の集落の存在が確認されている。(1990上郷町教育委員会他) このときの調査結果から、今回調査をするに当たって、この時期の集落の一端を確認できることは予想されたが、調査された遺構は中期初頭・中期中葉・中期中葉末から中期後葉にかけての3時期に大別され、その内住居址はおおかた中期中葉末から中期後葉にかけてのものであった。

また、平成7年には黒田大明神原北側の突端で土曾川の浸食谷を見下ろす、今回調査位置からは北側の標高差10mほどの比較的急な斜面下の平坦部分の調査が行われている。このとき確認された遺構の主体となる時期は縄文時代早期から前期(1997 飯田市教育委員会)であり、台地上で確認された集落とは様相を異にする。このことから、今回確認された集落は、先に調査されたどちらの集落とも別のものであり、当遺跡内の集落の変遷を考える上で大きな成果があったと言える。

今回調査地点は全体的に攪乱による遺構の破損が激しく、不明確なことが多く残ってしまったが、今回調査された住居址を時期別に見ると次の通りであり、これまでにわかったことを時代ごとに述べてまとめたい。

縄文時代	30軒
(内) 中期初頭	2軒 (52・58号住居址)
中期中葉末	15軒 (35～39・42～44・47・49～51・53・59・63号住居址)
不明確	13軒
弥生時代後期前半	1軒 (62号住居址)
古墳時代後期	1軒 (30号住居址)
中世方形竪穴	2基 (31・32号住居址)

1. 縄文時代

縄文時代早期・前期

今回調査では縄文時代中期より古い遺構は確認できなかった。35号住居址からは早期前半の押型文土器(第1図23)が、また42号住居址においては早期末の木島式土器(第3図21)が出土しているが、他に出土した土器から判断すると住居址の埋没時に混入したものと考えられ、当該期の住居址ではないと判断される。また、今回の調査ではその他に古い遺物は確認されなかった。また、昭和59～61年の調査においても、当該期の古い遺構は確認されていない。

しかし、平成7年度調査では、草創期の土坑が1基、早期の住居址が2軒・土坑4基・集石2基、続く前期の遺構は住居址が4軒・掘立柱建物址1棟・土坑11基・集石4基確認されており、当遺跡における集落の成立時期を遡らせることとなった。

縄文時代中期初頭

当遺跡の中心をなす時代の一つである。確認された遺構は土坑が多く、出土した土器は五領ヶ台併行の土器であった。土坑は調査区の西側にまんべんなく点在しており、この時期の土坑からは比較的良好な土器資料（S K 516 第14図7・S K 546 第15図1 他）も出土しているが、掘り込みは浅く形状はあまり統一性がみられなかった。住居址では52・58号住居址の2軒がこの時期に当たる。平成7年の調査でも前期終末から中期初頭の土器を出土した住居址が1軒調査されているが、この住居址の炉には関西地方の大歳山式の土器が使われていたなど、関西の影響を受けていたことが確認されている。今回の調査では良好な資料が乏しいこともあり、そこまでは確認できなかった。

縄文時代中期中葉

今回の調査で確認できた遺構は土坑だけである。数は他の時期に比べると非常に少なく、出土した土器は小さな破片のみであった。この結果だけでは、当遺跡内における当該期集落の有無までは判断できないが、昭和59年の調査では、この時期の住居址が2軒確認されており、この台地上のどこかに当該期の集落が存在していることは十分に考えられることである。

縄文時代中期中葉末

確認された縄文時代の住居址30軒中15軒と、時期の判断できた土坑のおよそ半分がこの縄文時代中期中葉末から中期後葉にかけての時期に当たる。この時期の当地方の土器は「細隆線文土器」として研究されているところであるが、中期中葉末と中期後葉の線引きは、未だ明確にできていない状況にある。

今回の調査では調査された住居址は多かったものの、良好な土器資料に恵まれず、新たな事実を把握するまでには至らなかった。住居址の形態についても遺存状態が悪く、多くの検討事項を残したままとなってしまった。しかし、集落の状況については今回調査区内の東側をみると遺構・遺物はあまり存在せず、広場的な状態を思わせる部分が存在する。このことから、今回の調査で黒田大明神原における該期集落のおよそ西側半分を調査できたと考えられる。

縄文時代中期後葉・後期

今回の調査では中期後葉・後期の確認された遺構は少なく、中期後葉は6基、後期に至っては3基、土坑が確認されただけで住居址は確認されなかった。また、縄文時代中期後葉以降出土する遺物数もこの地点では極端に減少する。しかし、昭和61年の調査では、今回調査地点から東に250mほどのところで中期後葉の住居址の存在が確認されており、黒田大明神原の人々はこの時期に東へ移動し、新たに集落を作ったものと考えられる。

2. 弥生時代

弥生時代で確認された遺構は住居址1軒と方形周溝墓1基である。住居址については出土した土器から弥生時代後期前半と判断できたが、方形周溝墓については出土遺物がなく時期の判断はできなかった。しかし昭和61年の調査では弥生時代後期の甕を伴う方形周溝墓が確認されていることから、今回調査された方形周溝墓は同時期のものと考えられる。

弥生時代の住居址は昭和59年の調査で2軒確認されているが、今回の調査と合わせても当該期の集落

を把握できたとは言えず、今後の課題といえる。また、周辺の調査例（1989『ツルサシ・ミカド・増田・垣外遺跡』上郷町教育委員会）などを見ると、弥生時代では当地方でも集落域と墓域は区別されることが確認されており、住居址と方形周溝墓が切り合うような状況で確認された今回の調査結果から、弥生時代においても当遺跡内で集落の移動が行われていたと考えられる。

3. 古墳時代

今回調査では古墳時代の住居址が1軒確認された。しかし、出土遺物も乏しい上に過去の調査では古墳時代の遺構は確認されておらず、不明確な点が多い。さらに、ツルサシ遺跡・ミカド遺跡・増田遺跡・垣外遺跡ほか上郷地区の「上段」といわれる中位段丘面に立地する遺跡を見ても調査例が無く、当地区の古墳時代の集落を考える上で新たな問題点が提示されたと言える。

4. 中世

中世の遺構は方形竪穴が2基確認された。遺物は出土しなかったため時期までは特定できなかったが、中世城郭址において同様な遺構が多数調査されているため、この時期の遺構であると判断した。平成7年の調査では、2棟の掘立柱建物が廊下でつながれた状態の特殊な機能を持つと推測される建物址が確認されており、中世城郭が存在した可能性も含めて、当遺跡は中世において何か特別な施設があったことも考えられる。

以上、黒田大明神原遺跡について充分とは言えないまでも、時代ごとにまとめてみた。これまで行われた調査は、広大な黒田大明神原遺跡の中でもごく一部であり、全体像を掴むまでには至らないが、これまでの調査結果から、当遺跡内の集落の変遷を推測してみたい。

黒田大明神原遺跡においては、まず平成7年に調査の行われた、台地北側で土曾川の浸食谷を見下ろす、黒田大明神原の中では一段低い平坦面に人々が住み着いたと考えられる。集落の初見は縄文時代早期であるが、草創期の土坑が見つまっていることから、更に遡ることも考えられる。続く前期においても、集落の中心はここ北側の平坦面であったと考えられる。やがて縄文時代中期初頭になると集落は南側の台地上にまで広がるようになる。

縄文時代中期中葉の集落については今までの調査結果ではとらえようがなく、今後の調査を待たなければならぬが、中期中葉末から中期後葉の時期に集落の規模は拡大し、台地の一番狭まった場所である今回調査地点で、平成7年調査地から見るとすぐ南の高台に移動をする。さらに、中期後葉になると集落は東の台地の一番広い部分に移動をしたと考えられる。黒田大明神原は平坦部分が広く、南は広範囲に湿地帯が広がっているため、集落を営む上で土地利用に制約をあまり受ける必要もなく、集落を廃棄して他の場所に移動をするということが容易にできたのであろう。

縄文時代中期後葉に集落が営まれた以後、弥生時代後期まで人々の生活した痕跡は途絶える。弥生時代・古墳時代のについては当遺跡における調査例が少なく、不明確であるが、いずれにしても付近の集落と密接に関係していたと考えられ、集落の様相を掴むためには遺跡の枠を越えて広い範囲でとらえていく必要があろう。

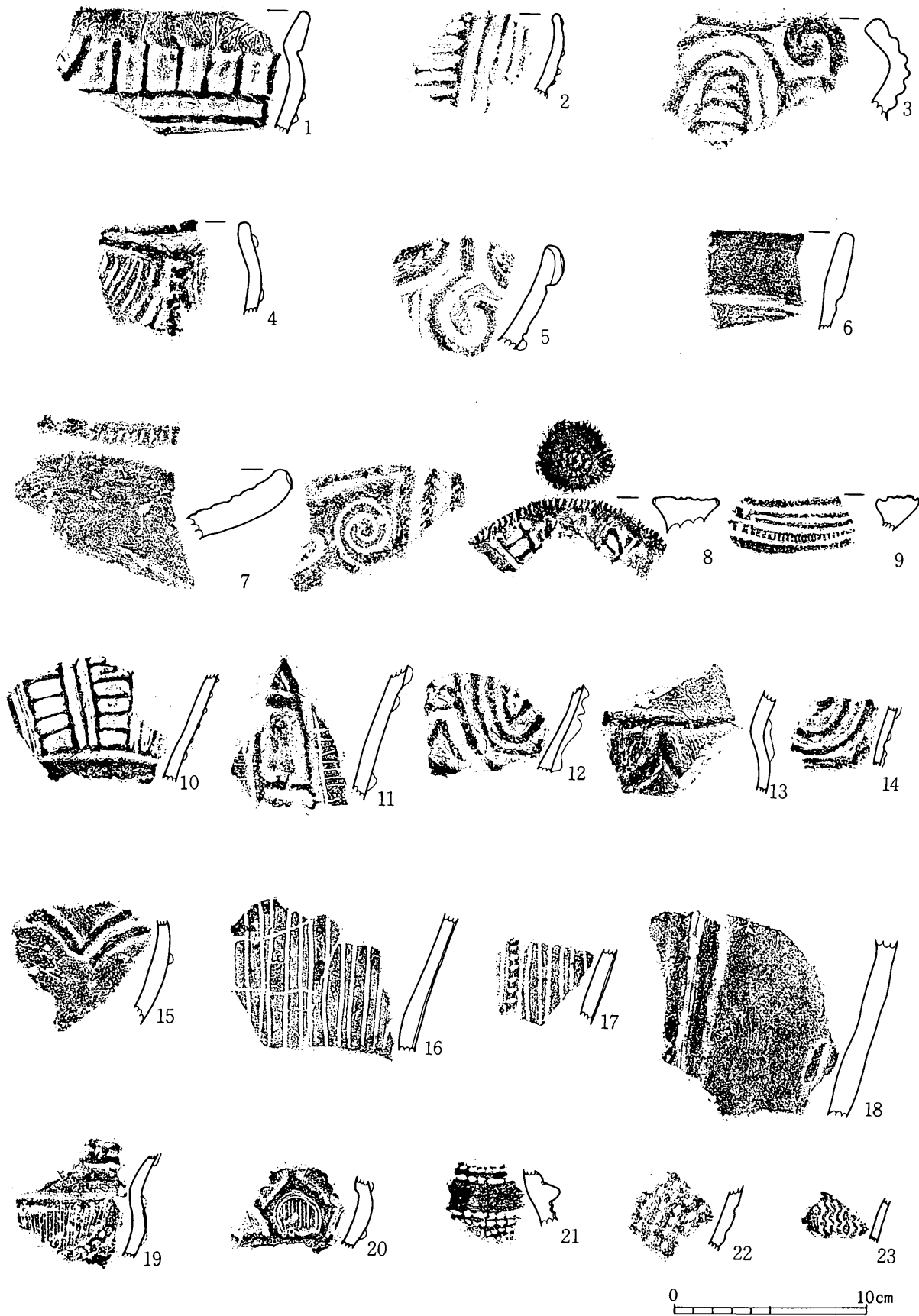
昭和59年以降、幾たびも行われた調査により、ぼんやりではあるが黒田大明神遺跡の様相が見えてき

たといえる。しかし、それだけ遺跡が破壊されてしまったということを忘れてはならない。当遺跡における開発はこれからも進められることが予想される。今後も文化財保護の本旨に則った遺跡保護を心がけていく必要がある。

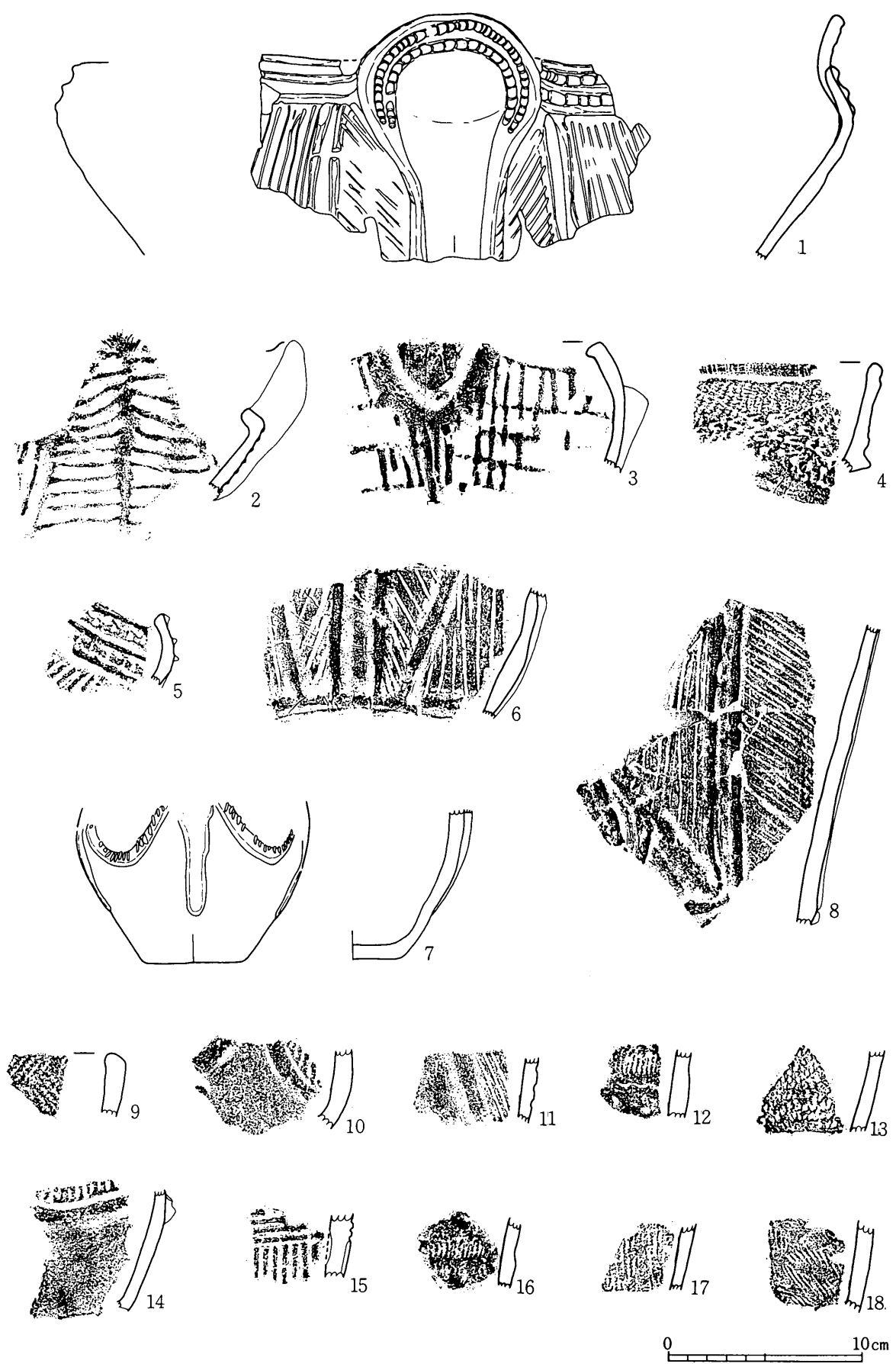
参考文献

- 1997 『黒田大明神原遺跡』 飯田市教育委員会
1996 『増泉寺付近遺跡』 飯田市教育委員会
1995 『北方大原遺跡Ⅱ』 飯田市教育委員会
1991 『下伊那史』第1巻 下伊那史編纂会
1990 『大明神原遺跡Ⅲ』 上郷町教育委員会
1989 『ツルサシ遺跡・ミカド遺跡・増田遺跡・垣外遺跡』 上郷町教育委員会
1988 『長野県史 考古資料編 遺構・遺物』全1巻(4) 財団法人 長野県史刊行会
1986 『恒川遺跡群』 飯田市教育委員会
1986 『梨久保遺跡』 岡谷市教育委員会
1972 『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書ー下伊那郡高森町地内その2ー』
長野県教育委員会

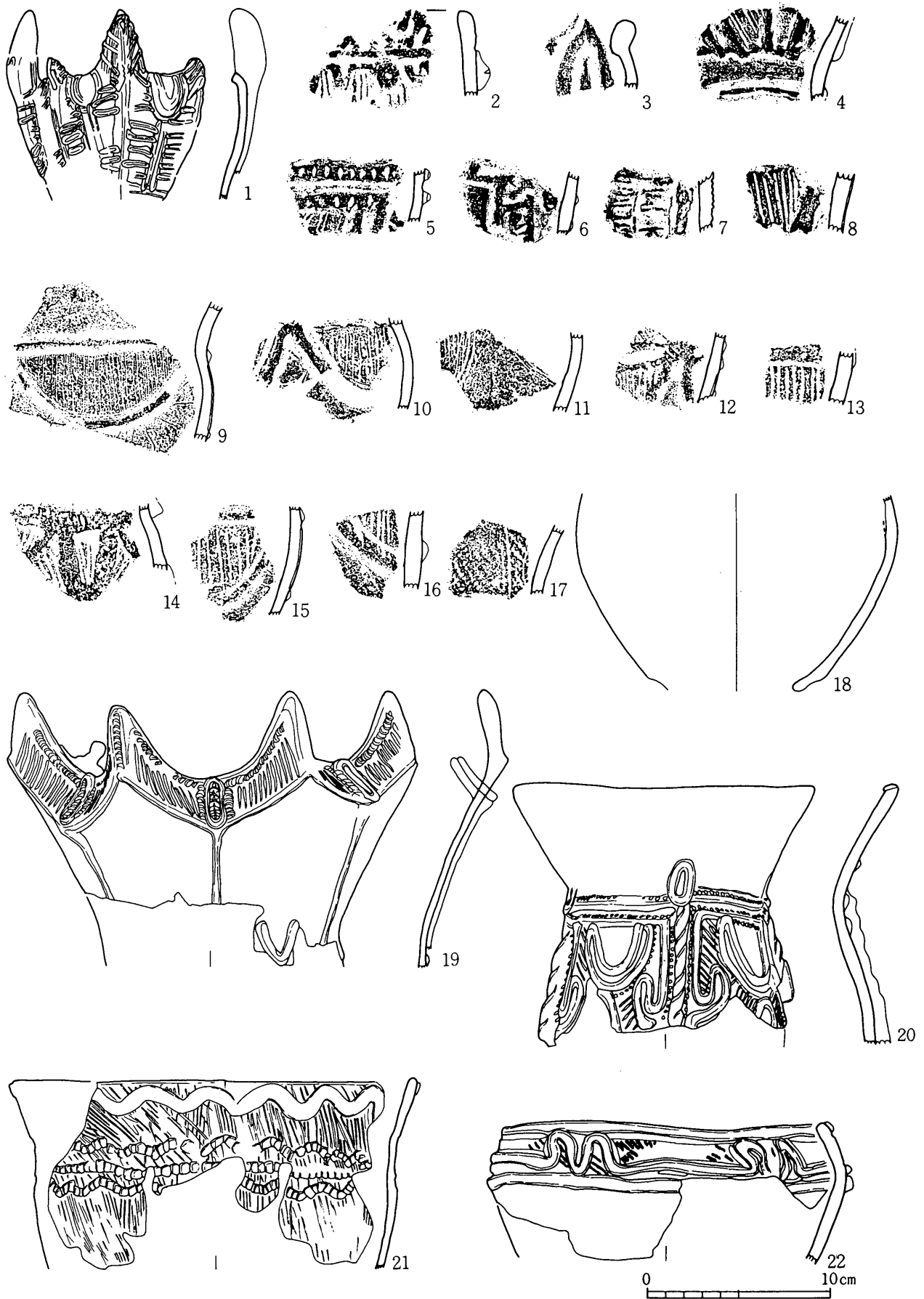
遺 物 図 版



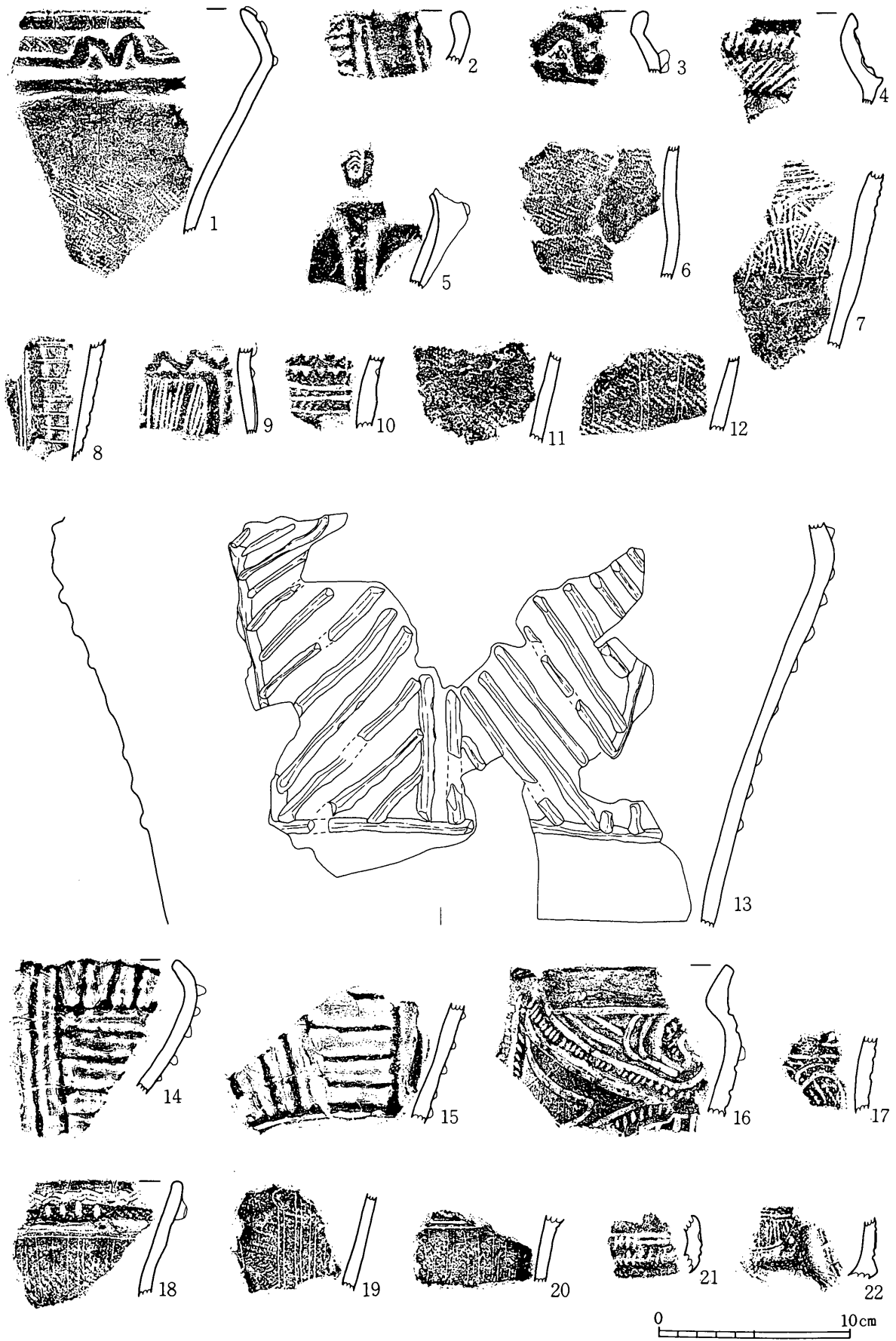
第 1 图 35号住居址出土遗物



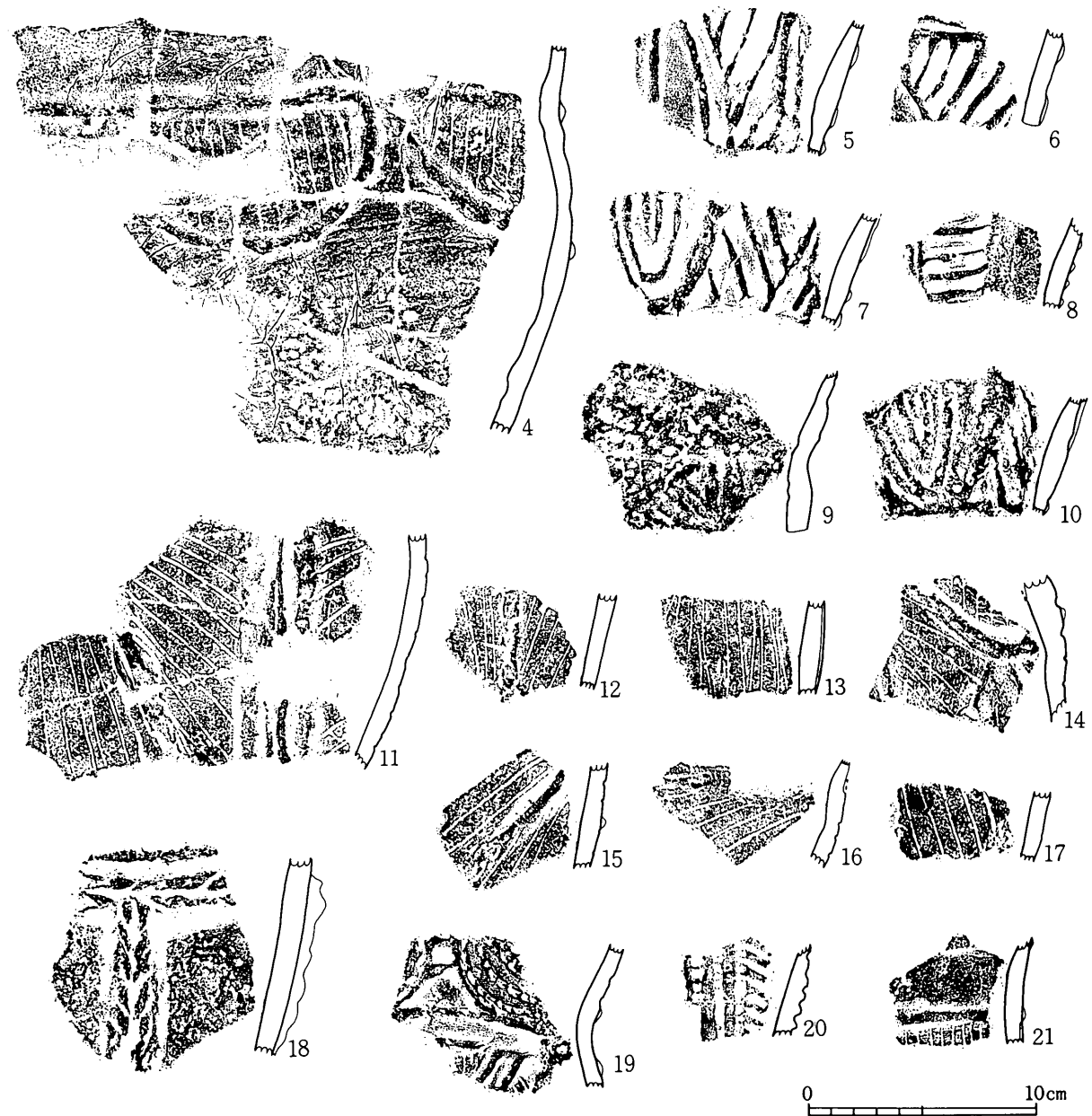
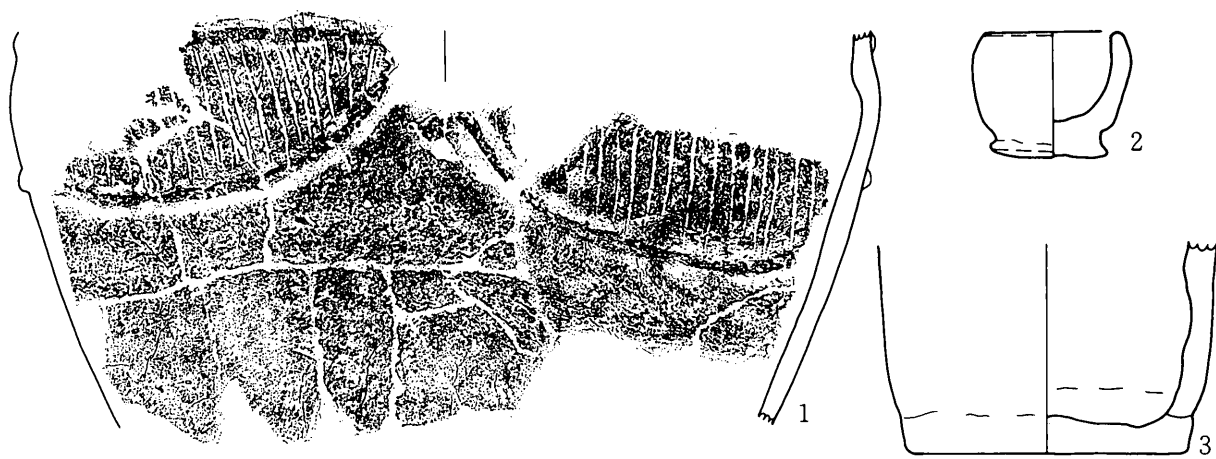
第2图 36·37号住居址出土遺物 (36住1~8·37住9~18)



第3图 38·39·41·42号住居址出土遺物 (38住1~13·39住14~17·41住18·42住19~22)

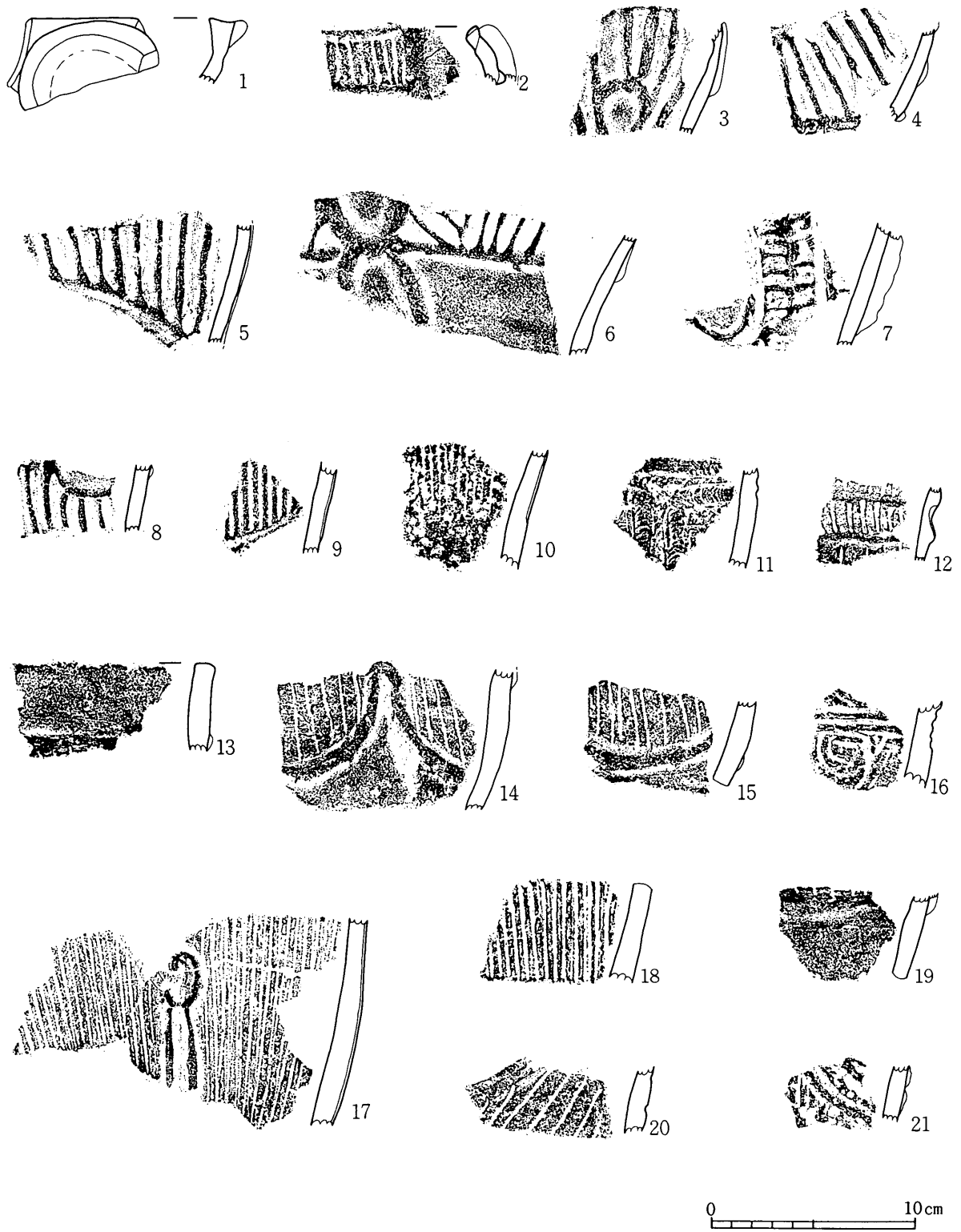


第4图 42·43号住居址出土遺物 (42住1~12·43住13~22)

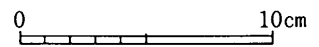
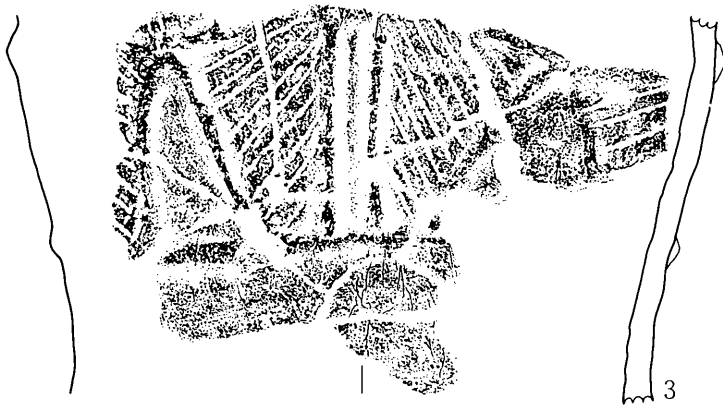
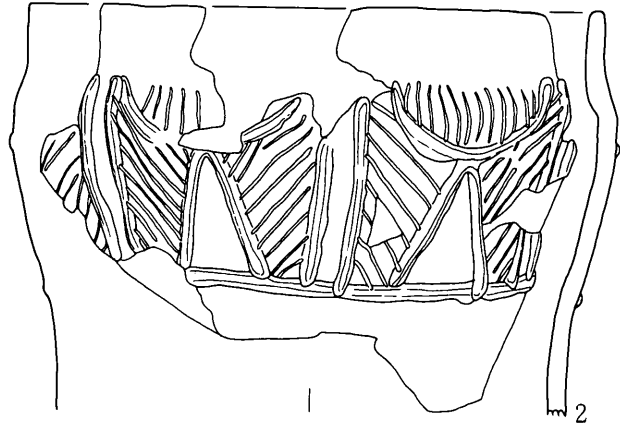
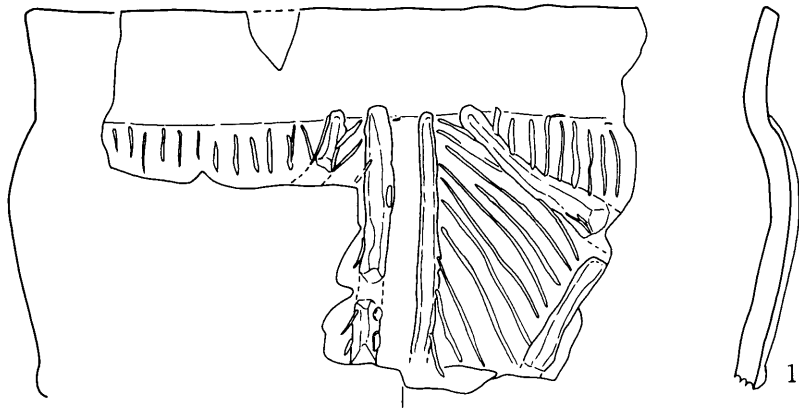


0 10cm

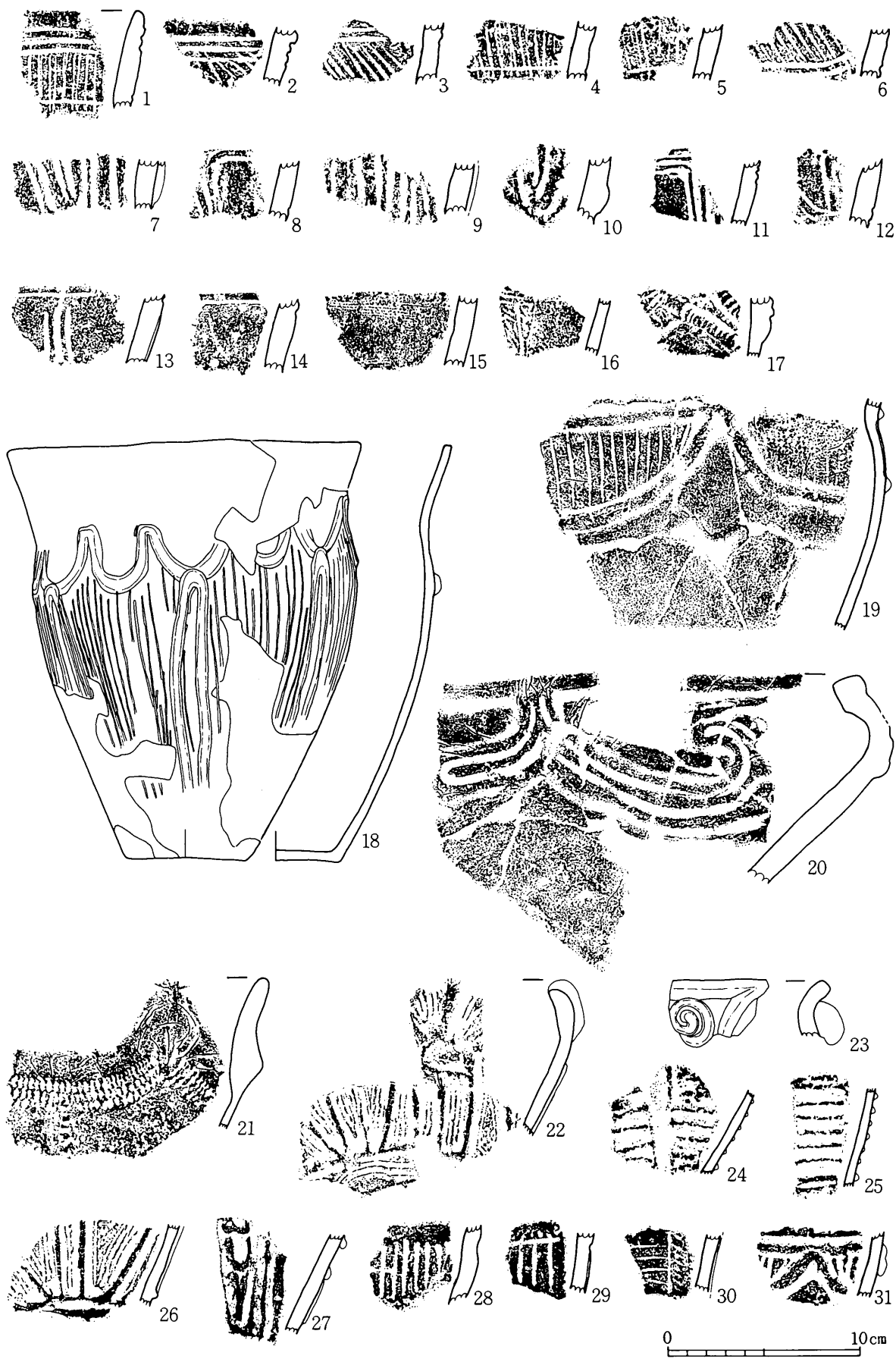
第5图 44·46·47号住居址出土遗物 (44住1·46住2~3·47住4~21)



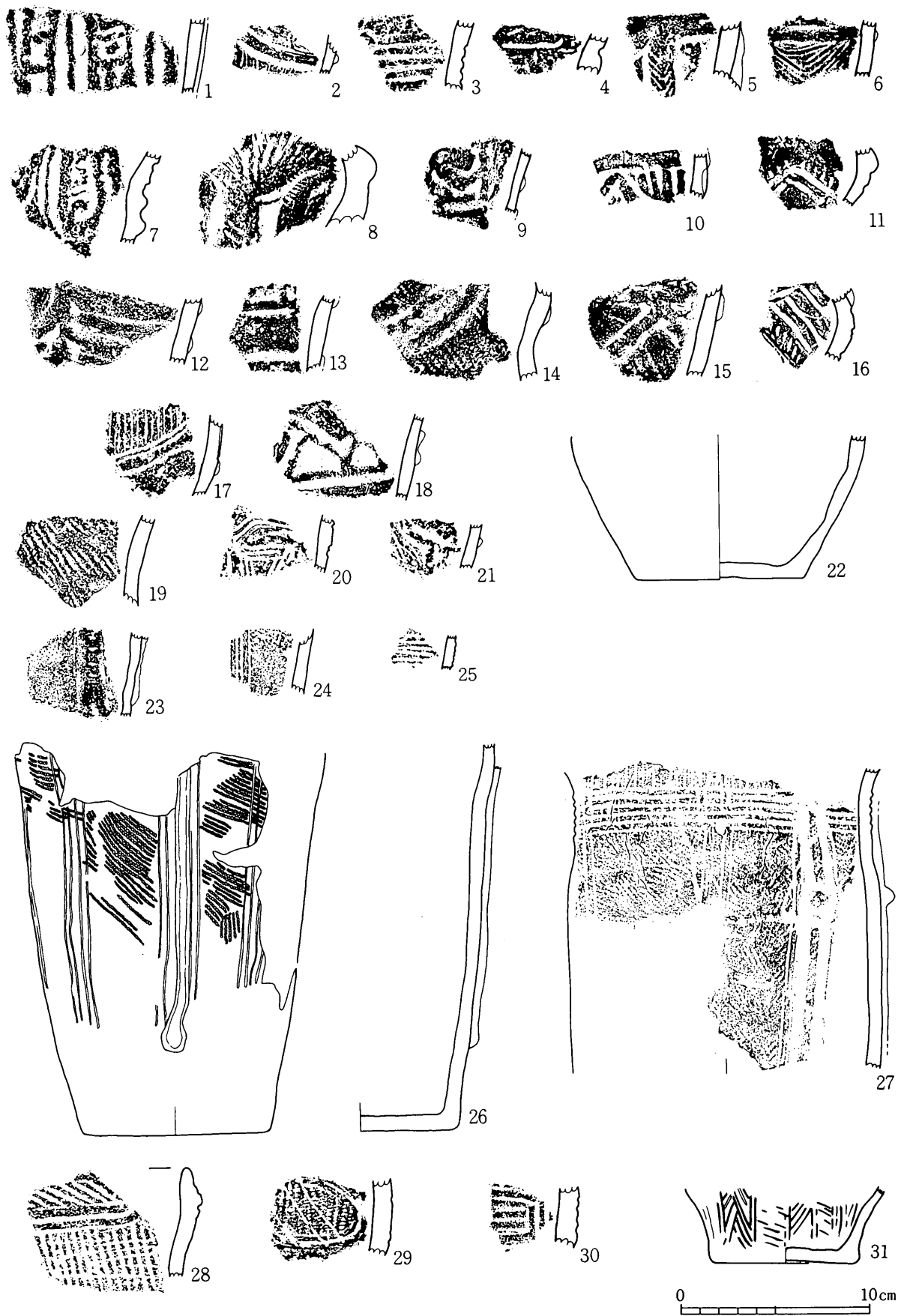
第 6 图 49·50号住居址出土遺物 (49住 1~12·50住 13~21)



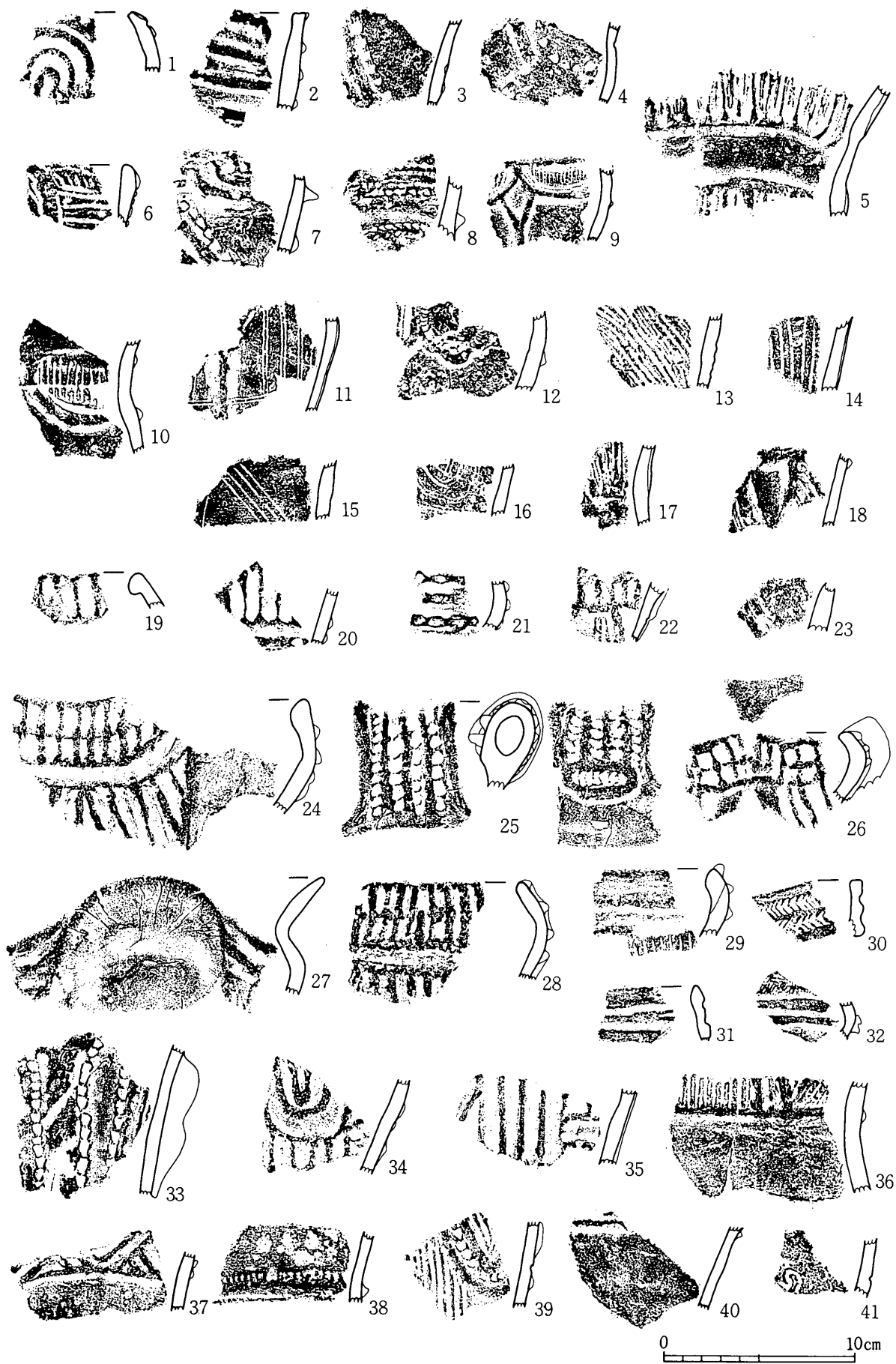
第7图 51号住居址出土遺物



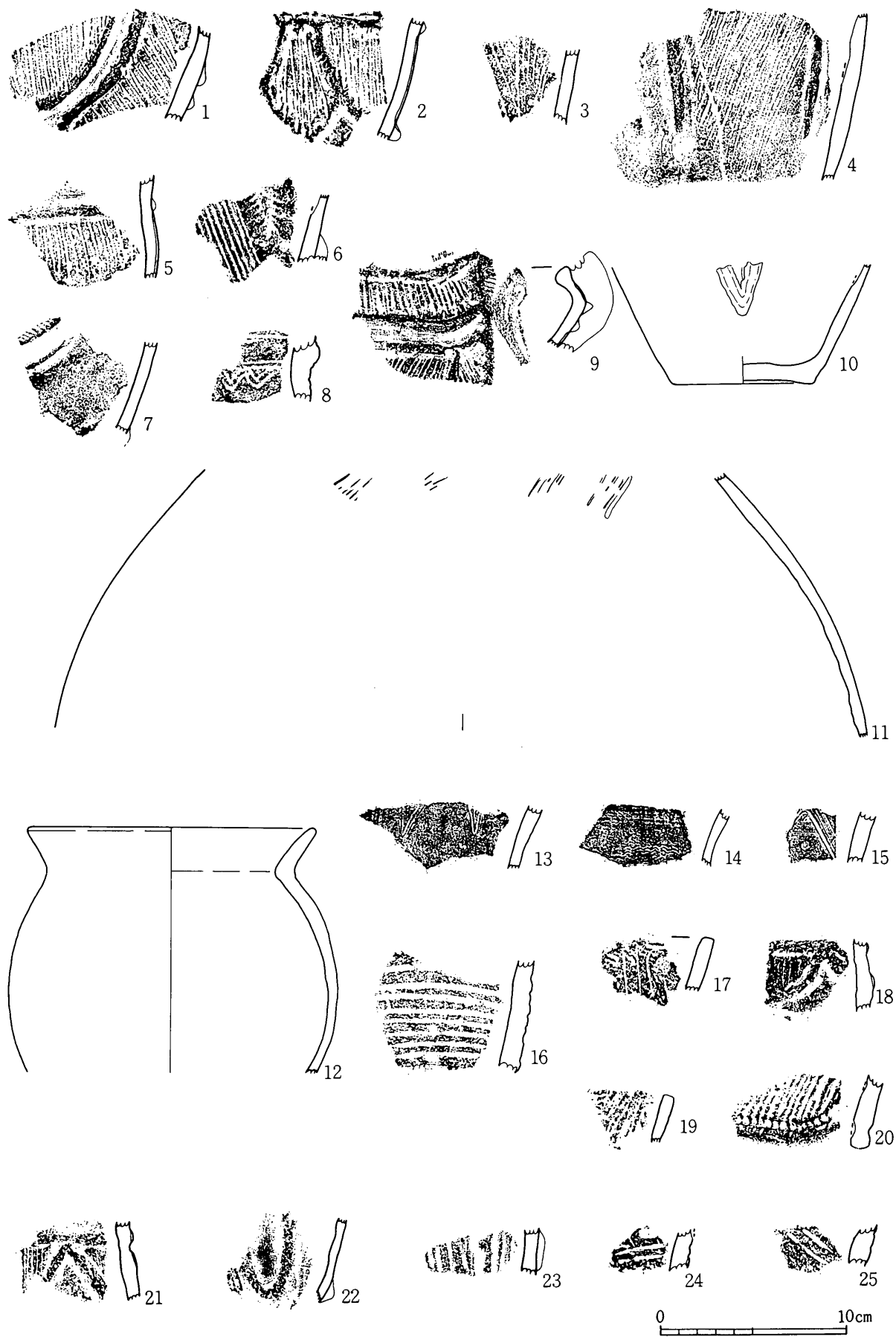
第 8 图 52·53·54号住居址出土遺物 (52住 1~17·53住 18~19·54住 20~31)



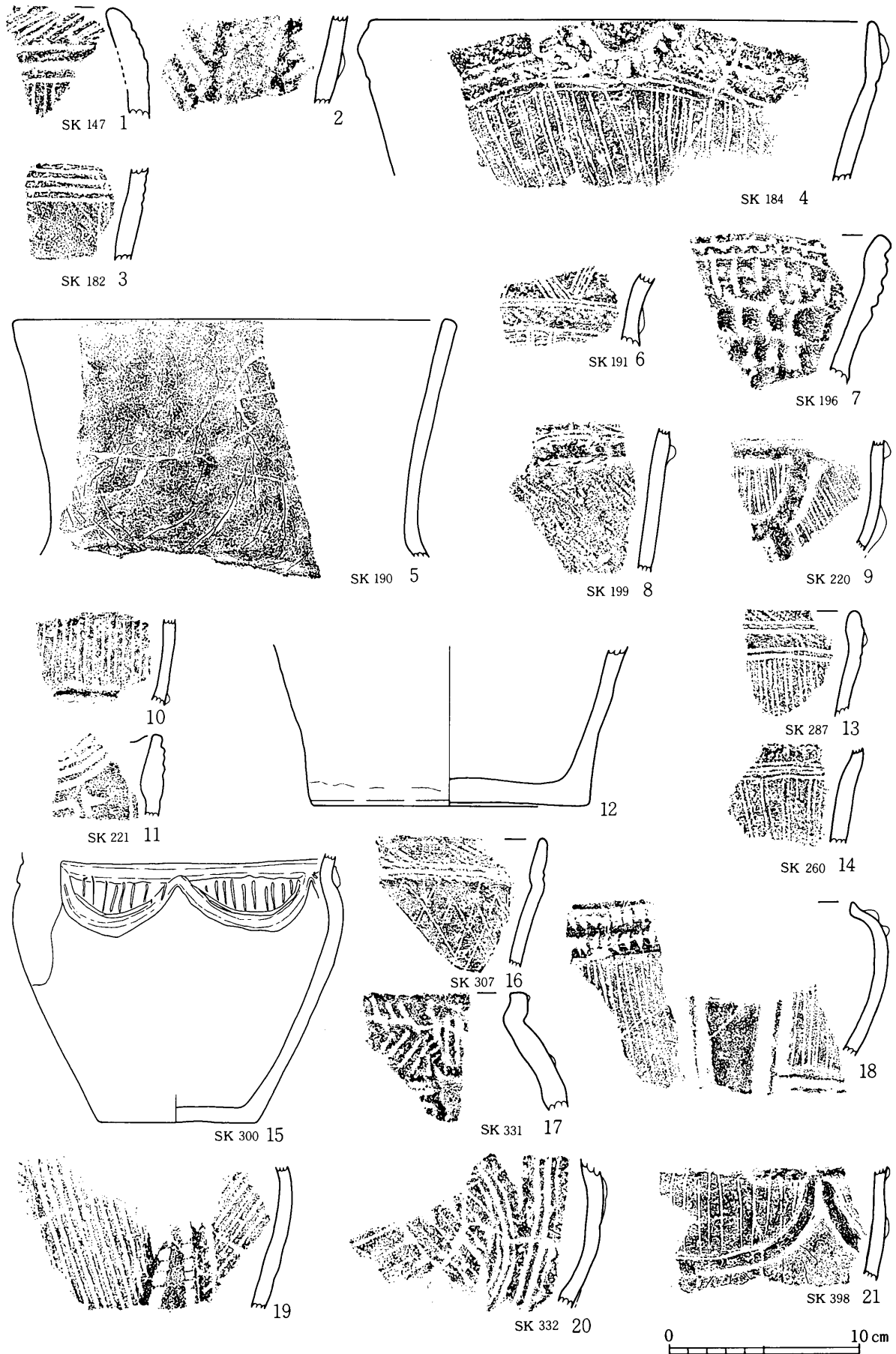
第9图 54·55·58号住居址出土遺物 (54住1~22·55住23~25·58住26~31)



第10图 59·60·63号住居址出土遗物 (59住1~18·60住19~23·63住24~41)



第11图 63·62·30号住居址出土遺物 (63住1~10·62住11·30住12~25)



第12图 土坑出土遺物



第13图 土坑出土遺物



SK 504 1



2



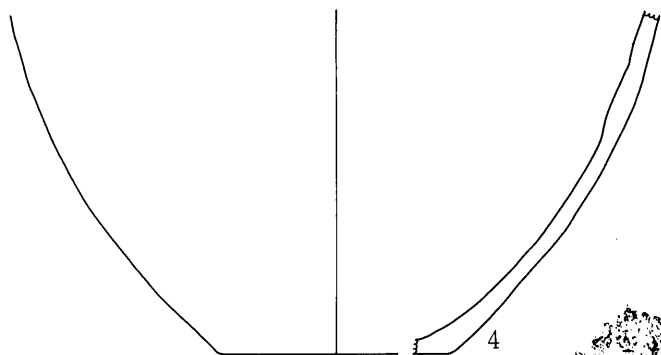
3



5



6



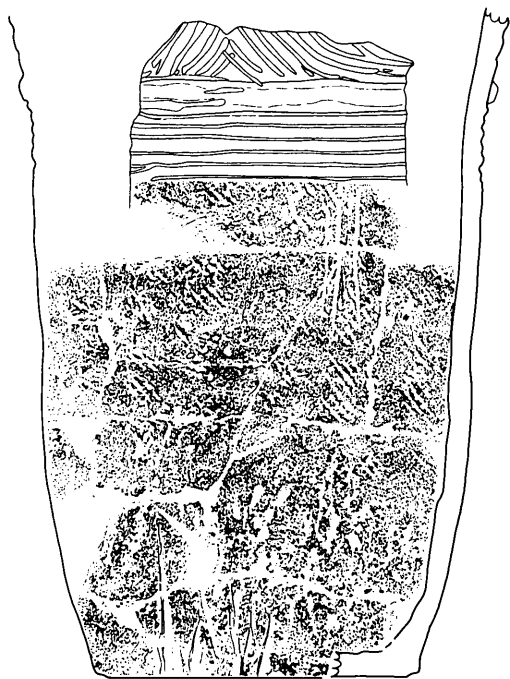
4



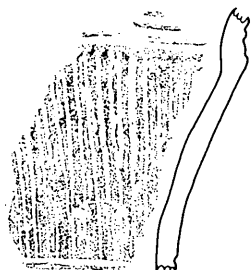
8



SK 522 9



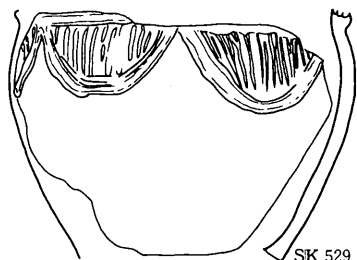
SK 516 7



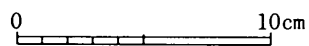
SK 525 10



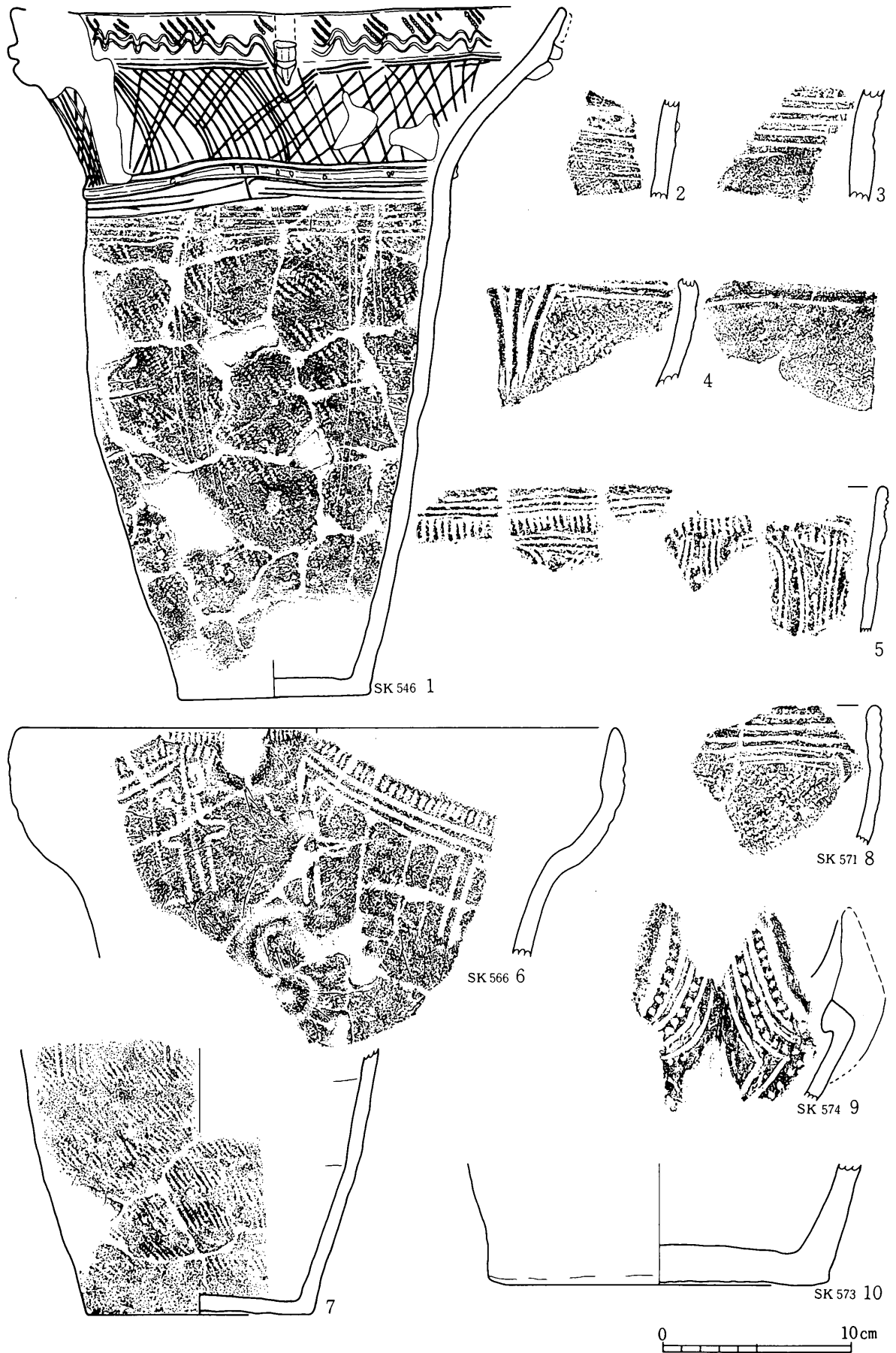
SK 528 11



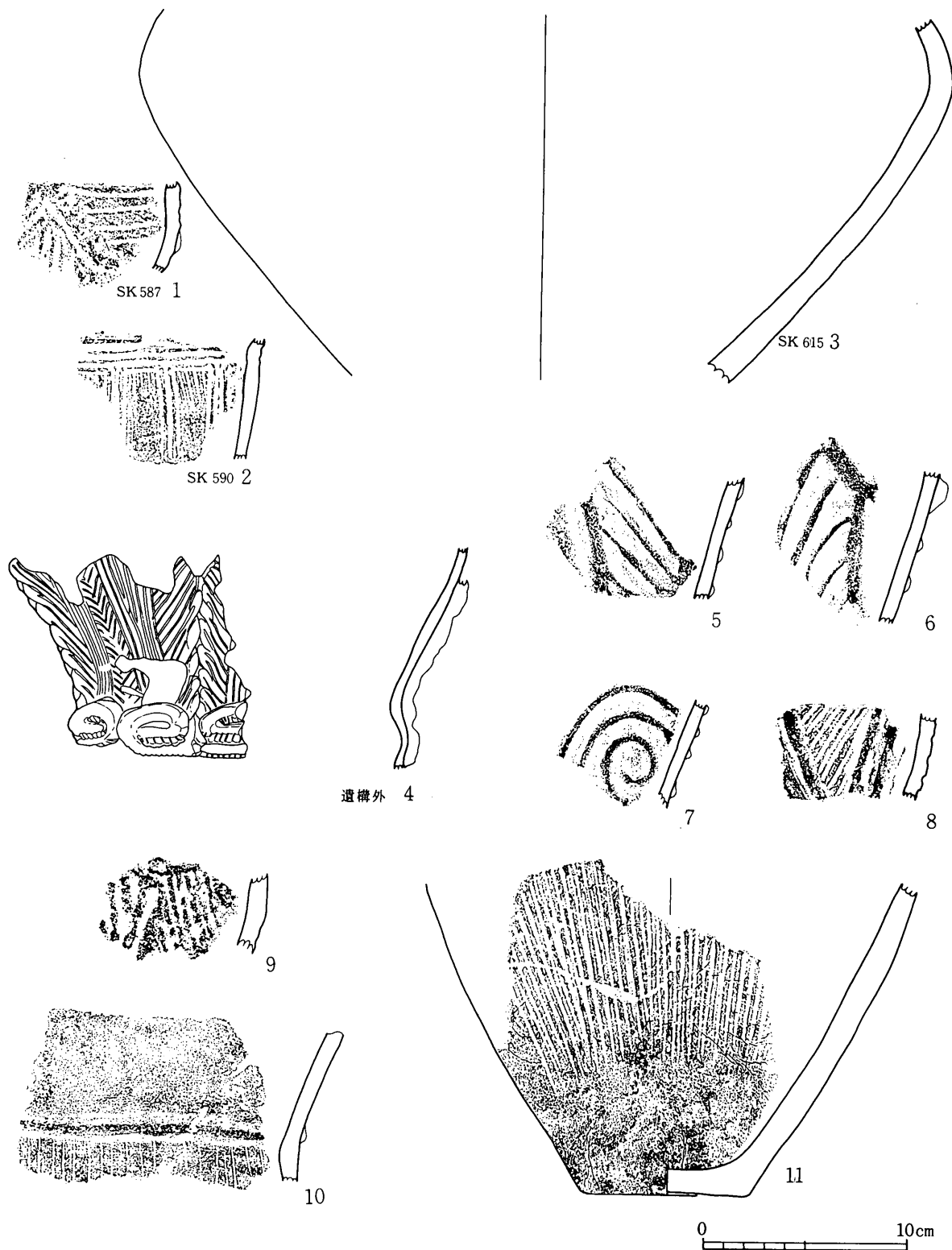
SK 529 12



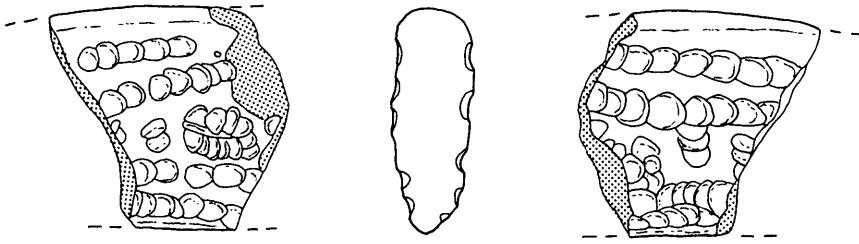
第14图 土坑出土遗物



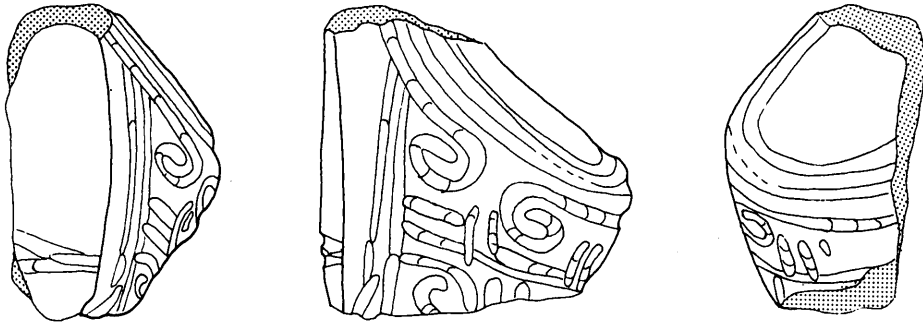
第15图 土坑出土遺物



第16图 土坑出土遺物



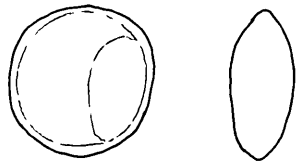
SB41 1



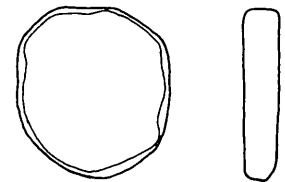
SB53 2



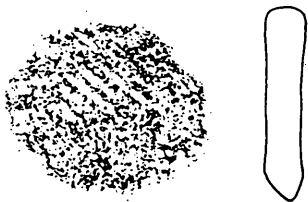
SB63 3



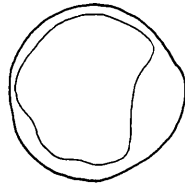
SK522 4



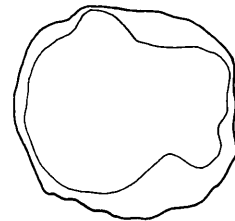
SK604 5



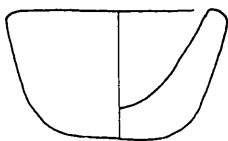
zzz 6



7



8



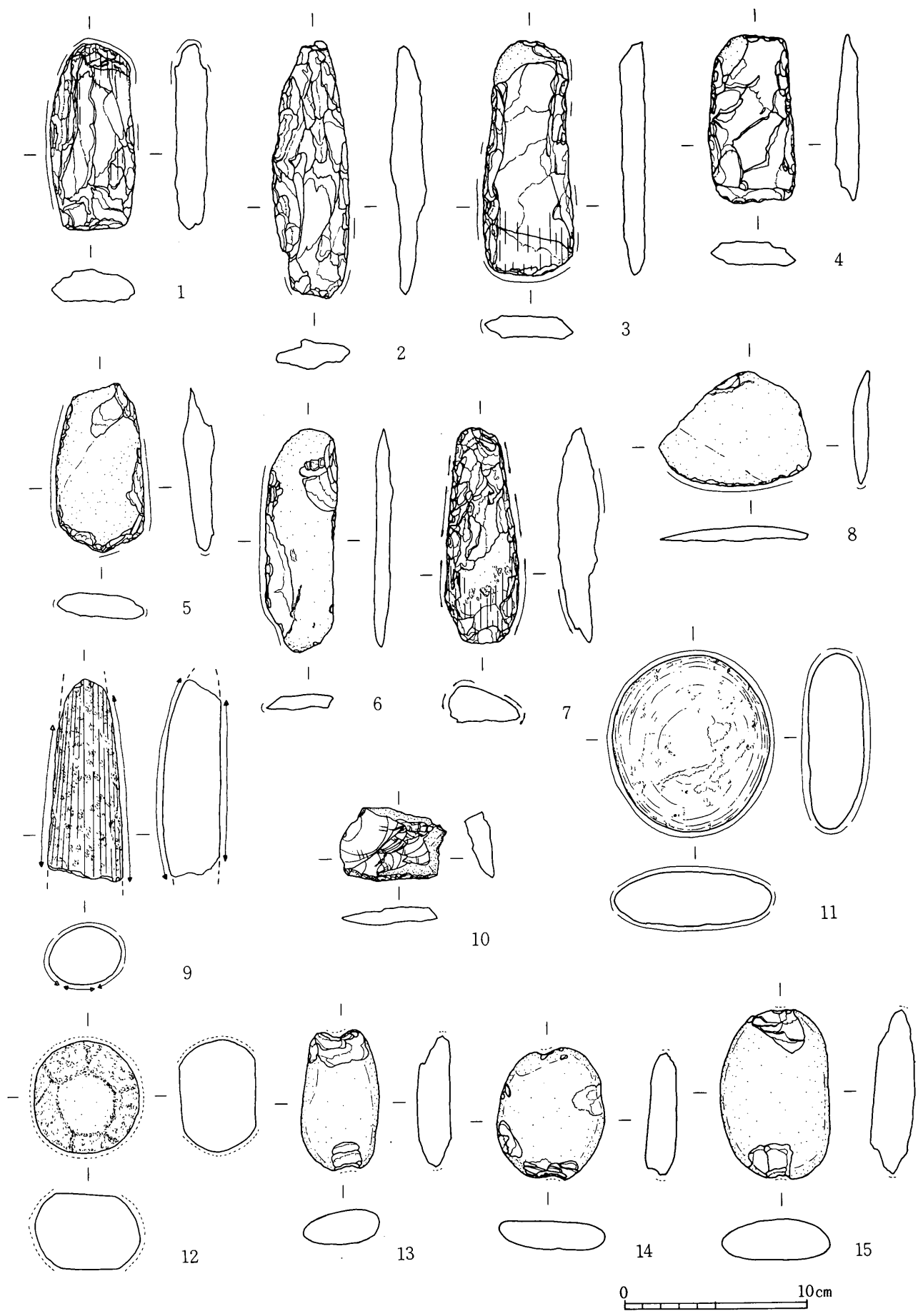
SK194 9



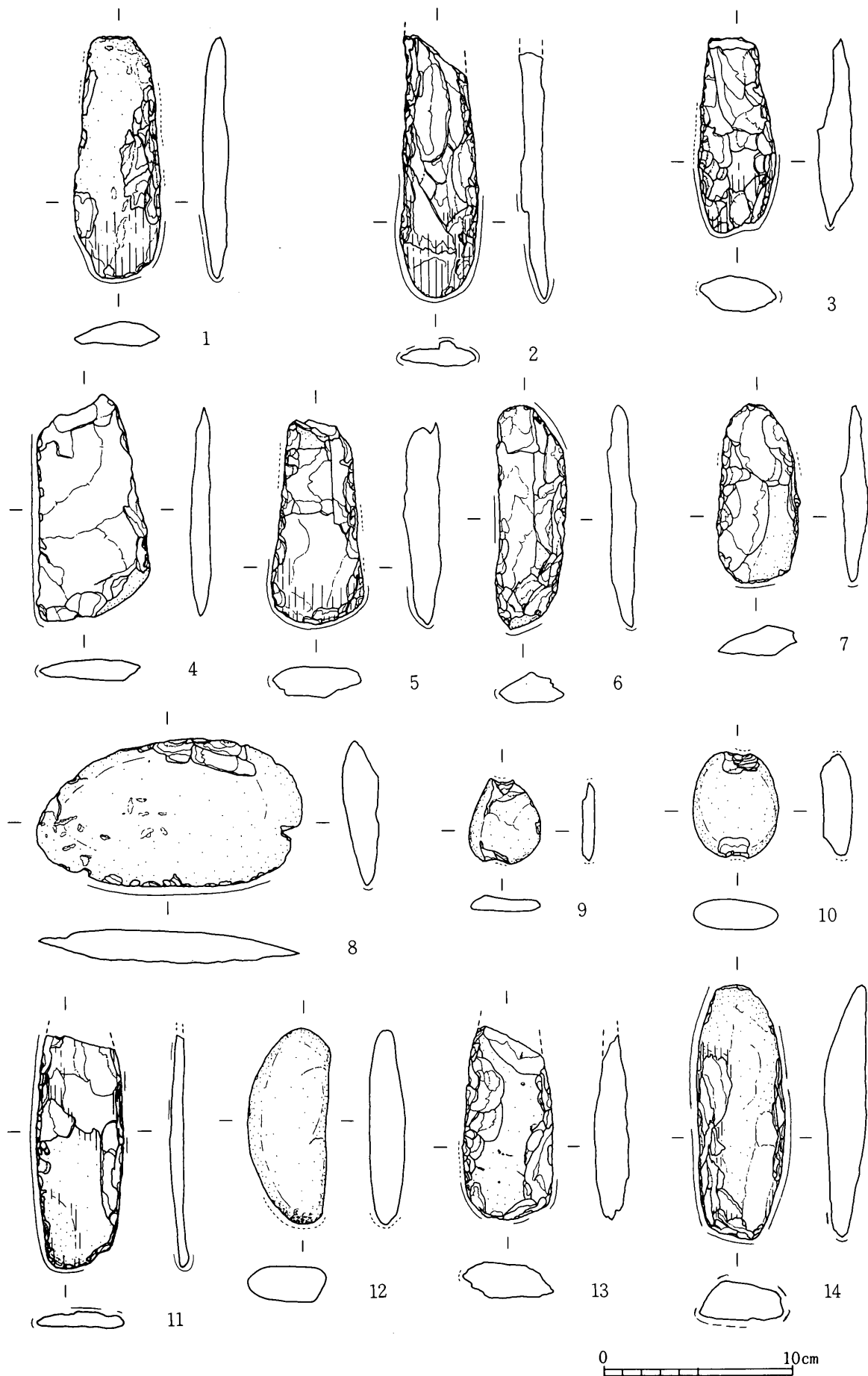
SK411 10



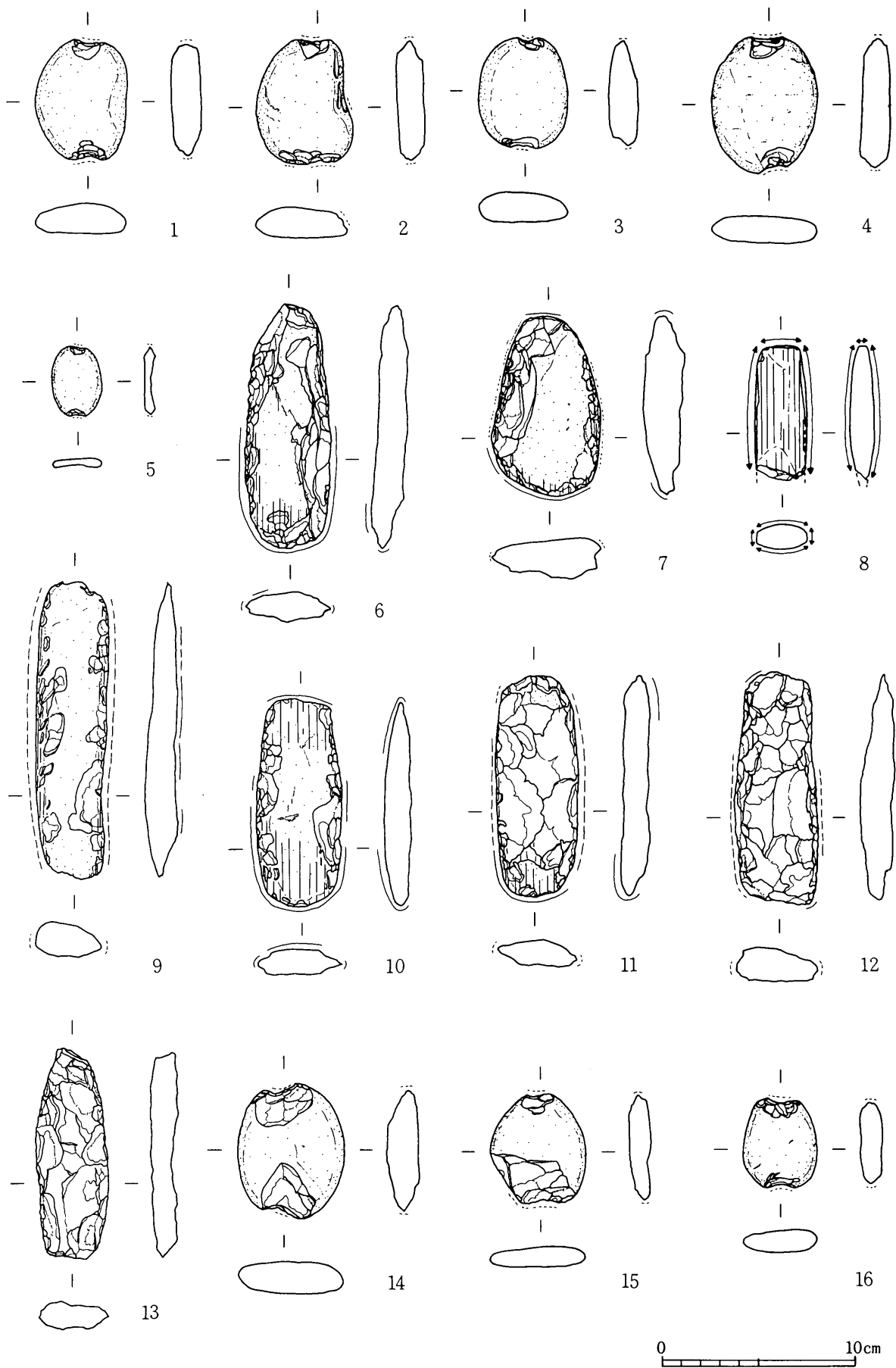
第17図 土偶他土製品



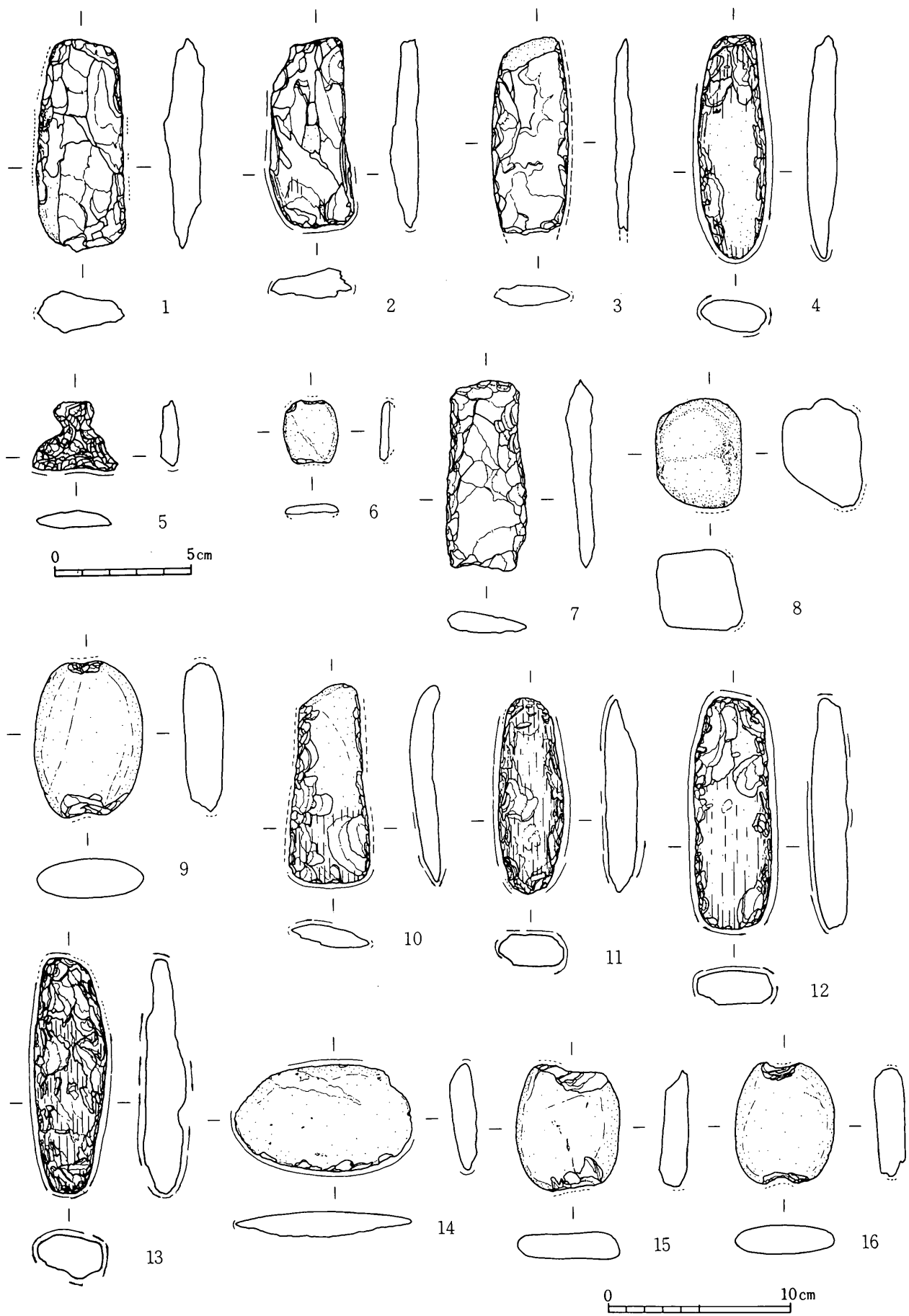
第18图 35号住居址出土遺物



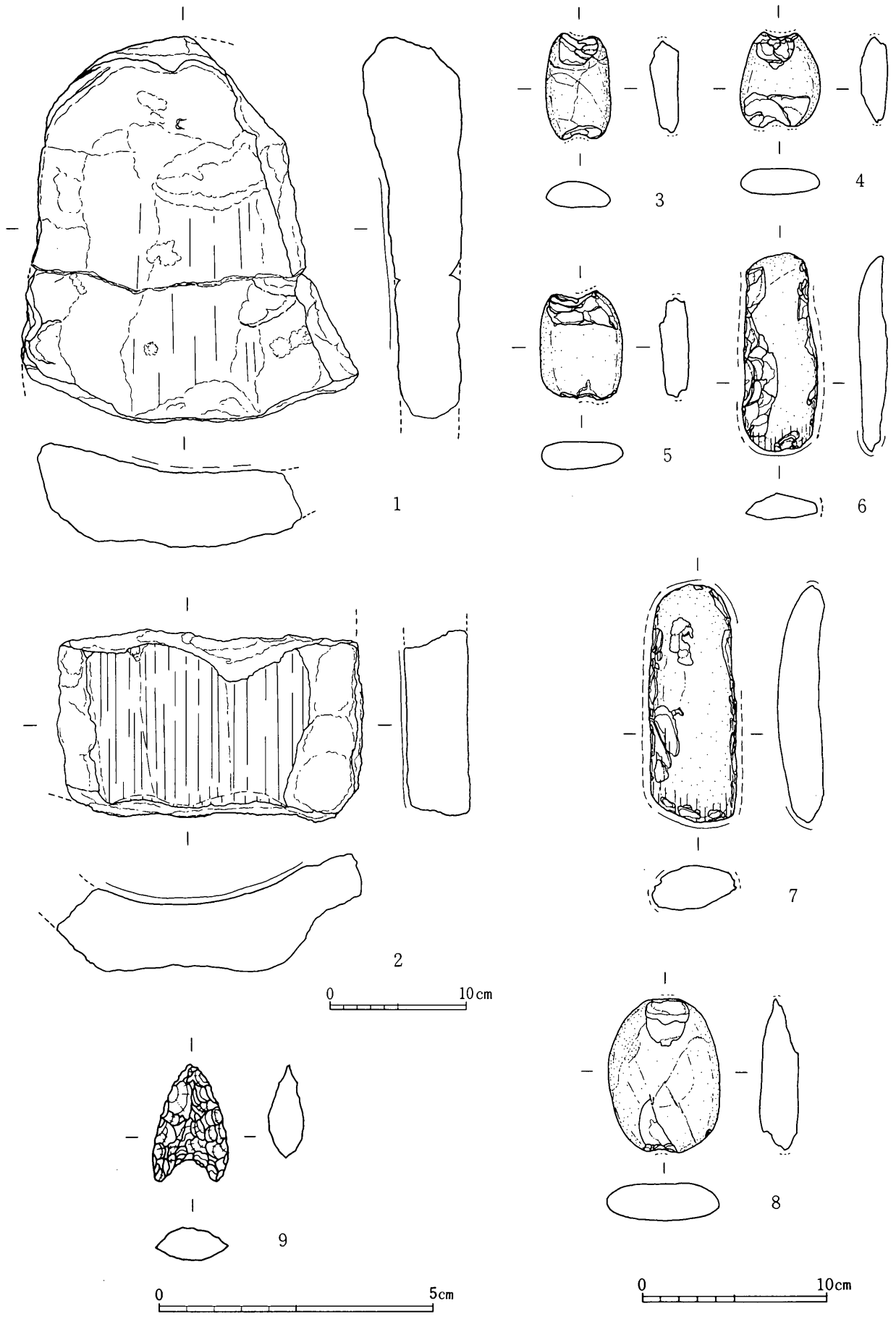
第19图 36·37·38·39号住居址出土遗物。(36住1~3·37住4~10·38住11~12·39住13~14)



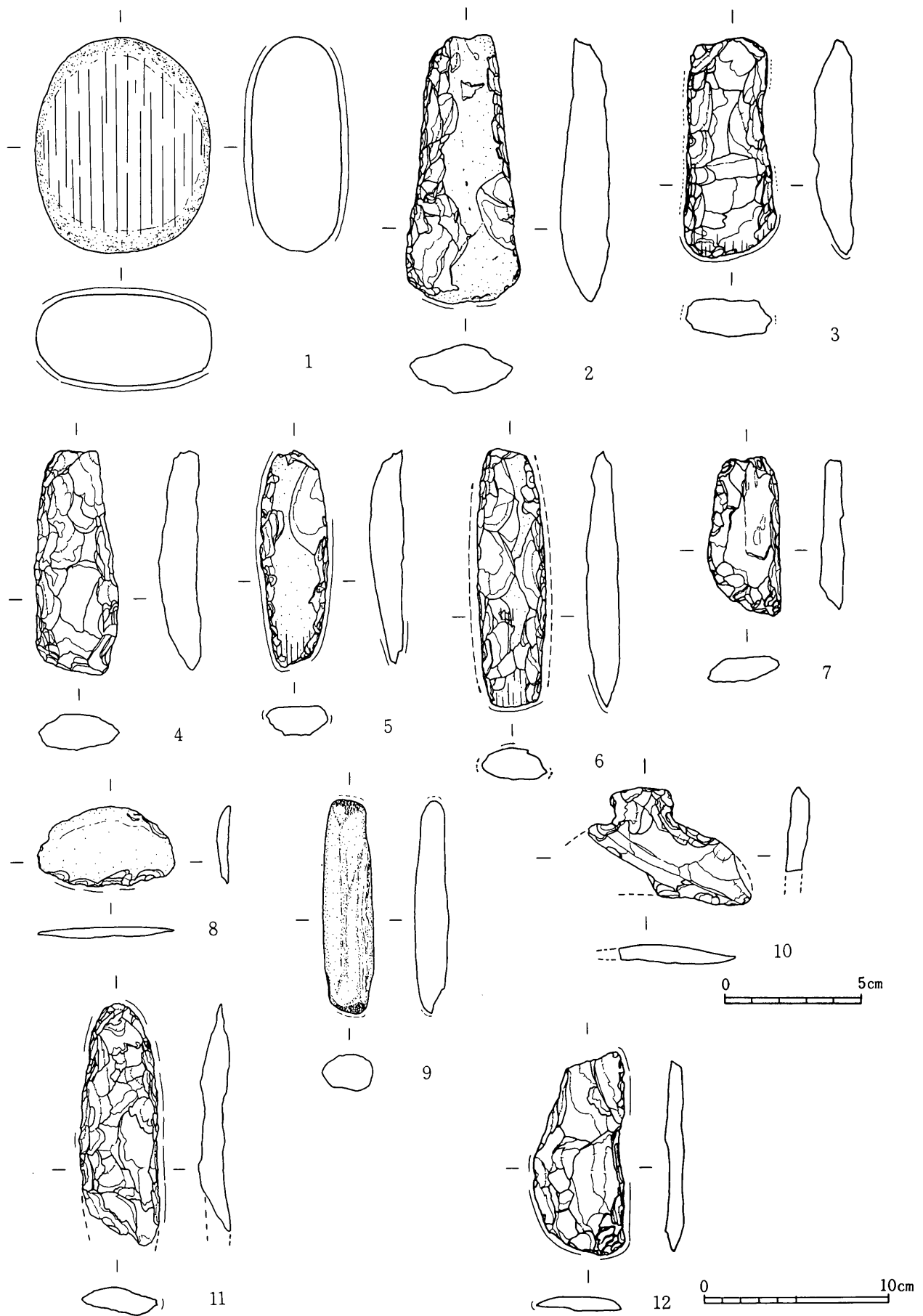
第20图 39·41·42号住居址出土遺物 (39住1~5·41住6~8·42住9~16)



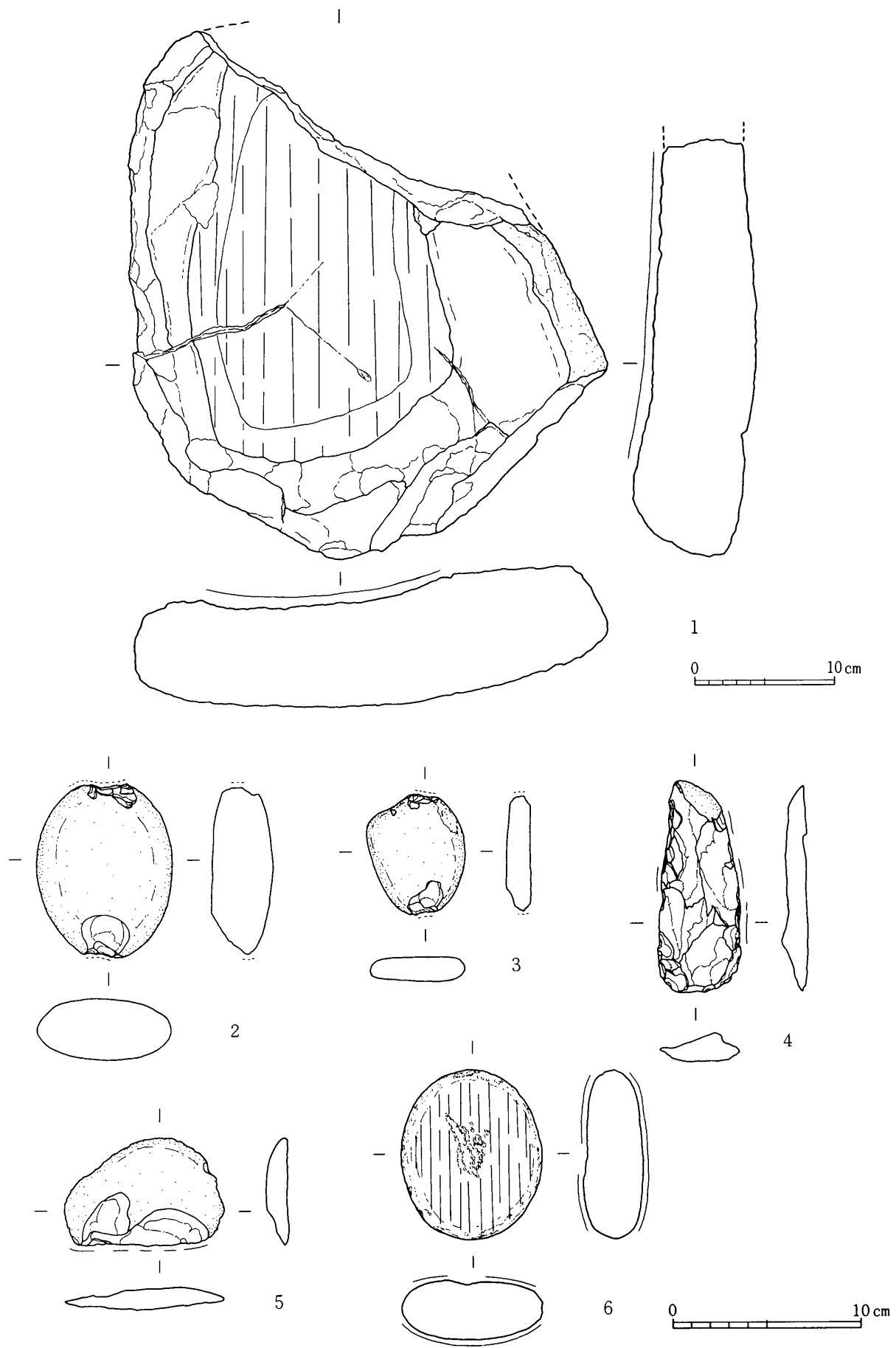
第21图 43·45·47号住居址出土遺物 (43住1~6·45住7~9·47住10~16)



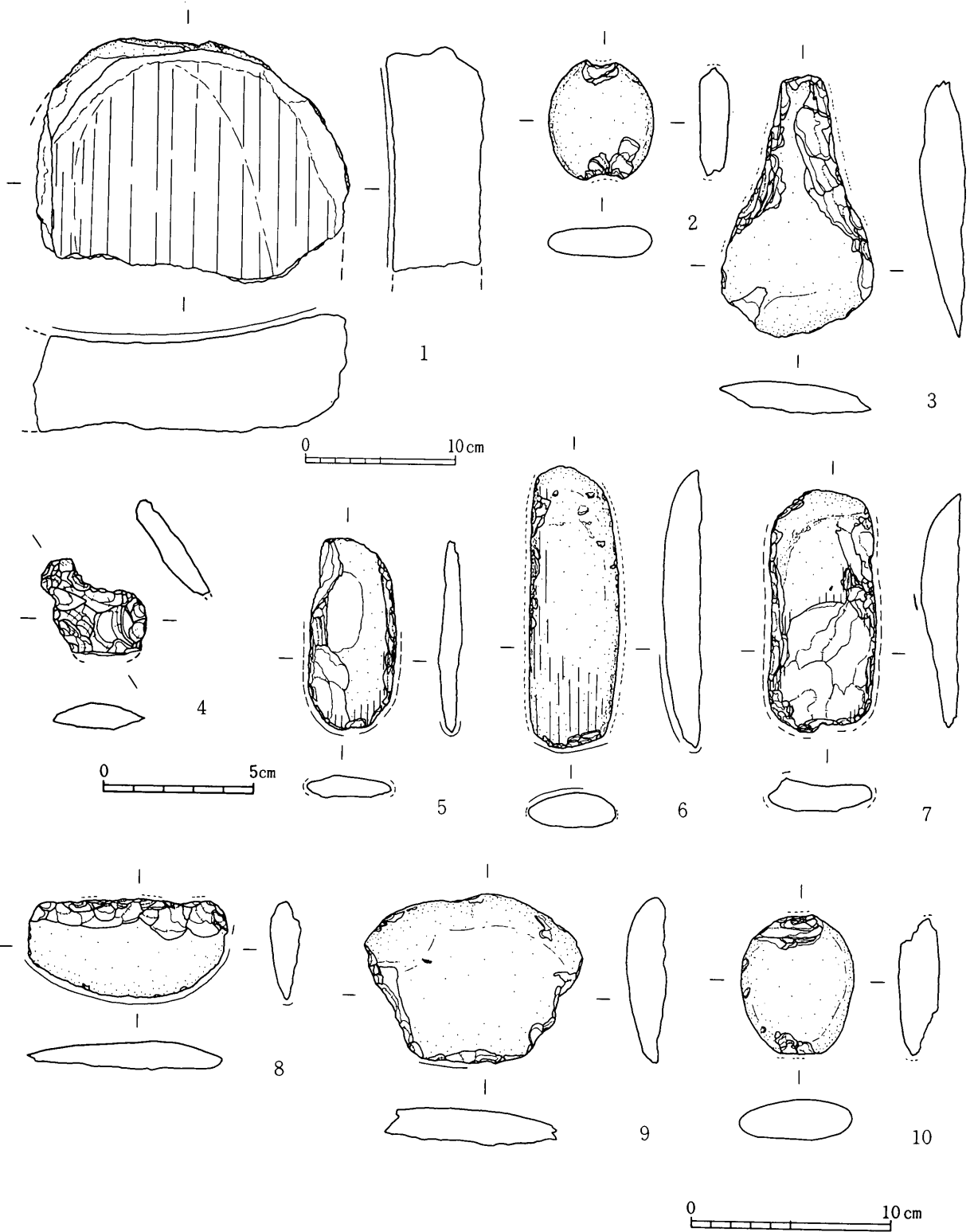
第22图 47・49・50号住居址出土遺物（47住1～5・49住6～8・50住9）



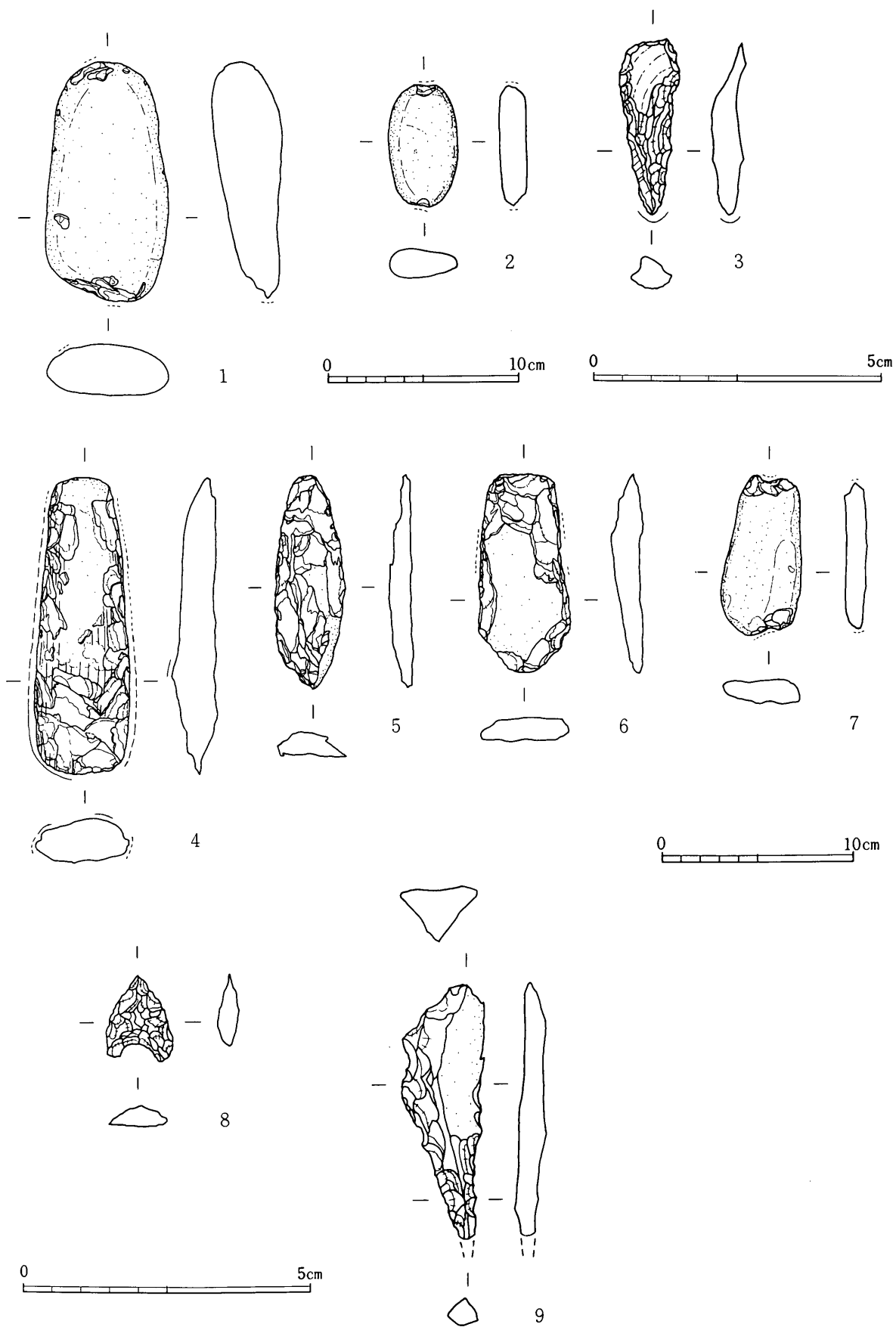
第23图 52·54·58号住居址出土遺物 (52住1·54住2~10·58住11~12)



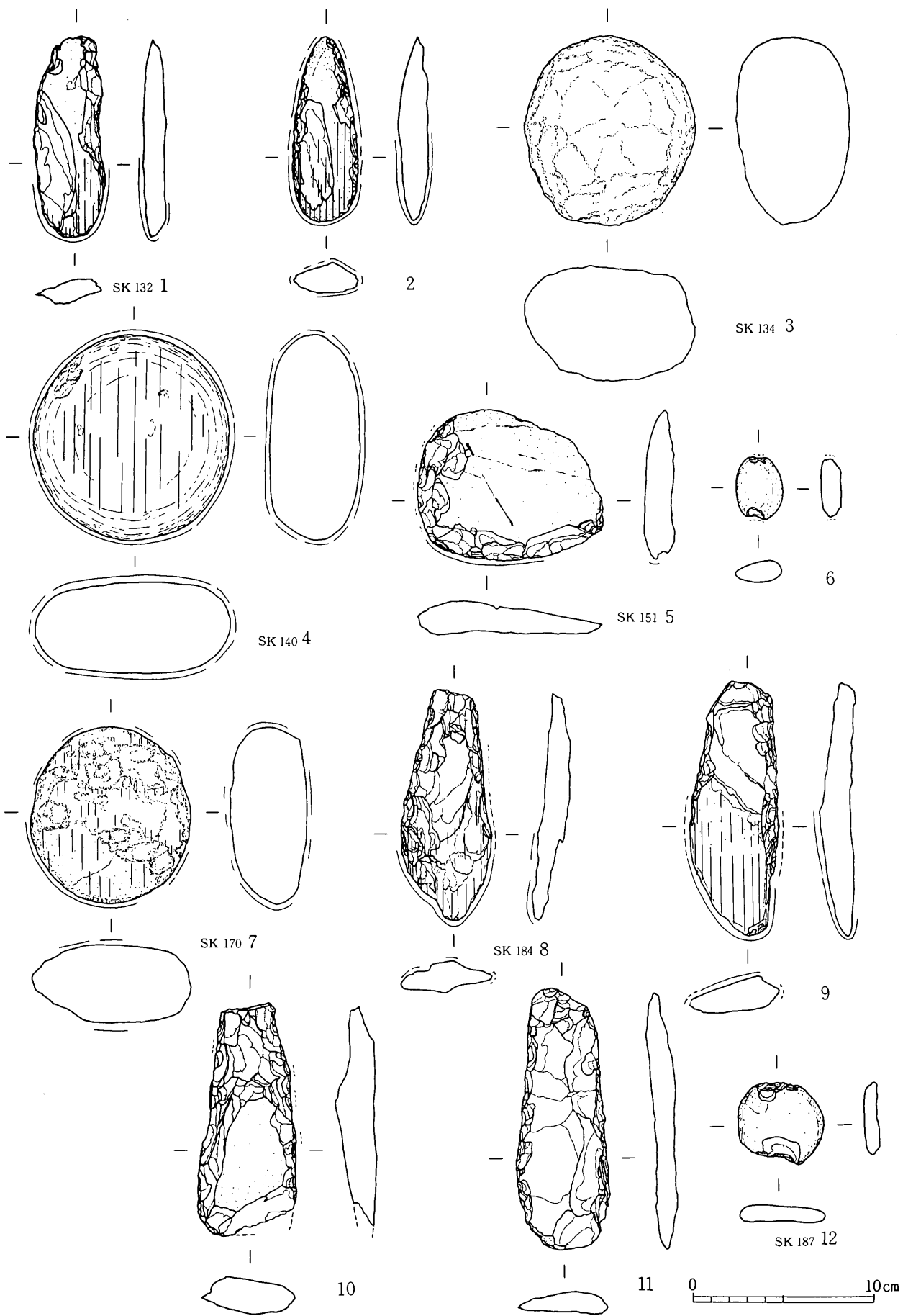
第24图 58・59号住居址出土遺物 (58住1~3・59住4~6)



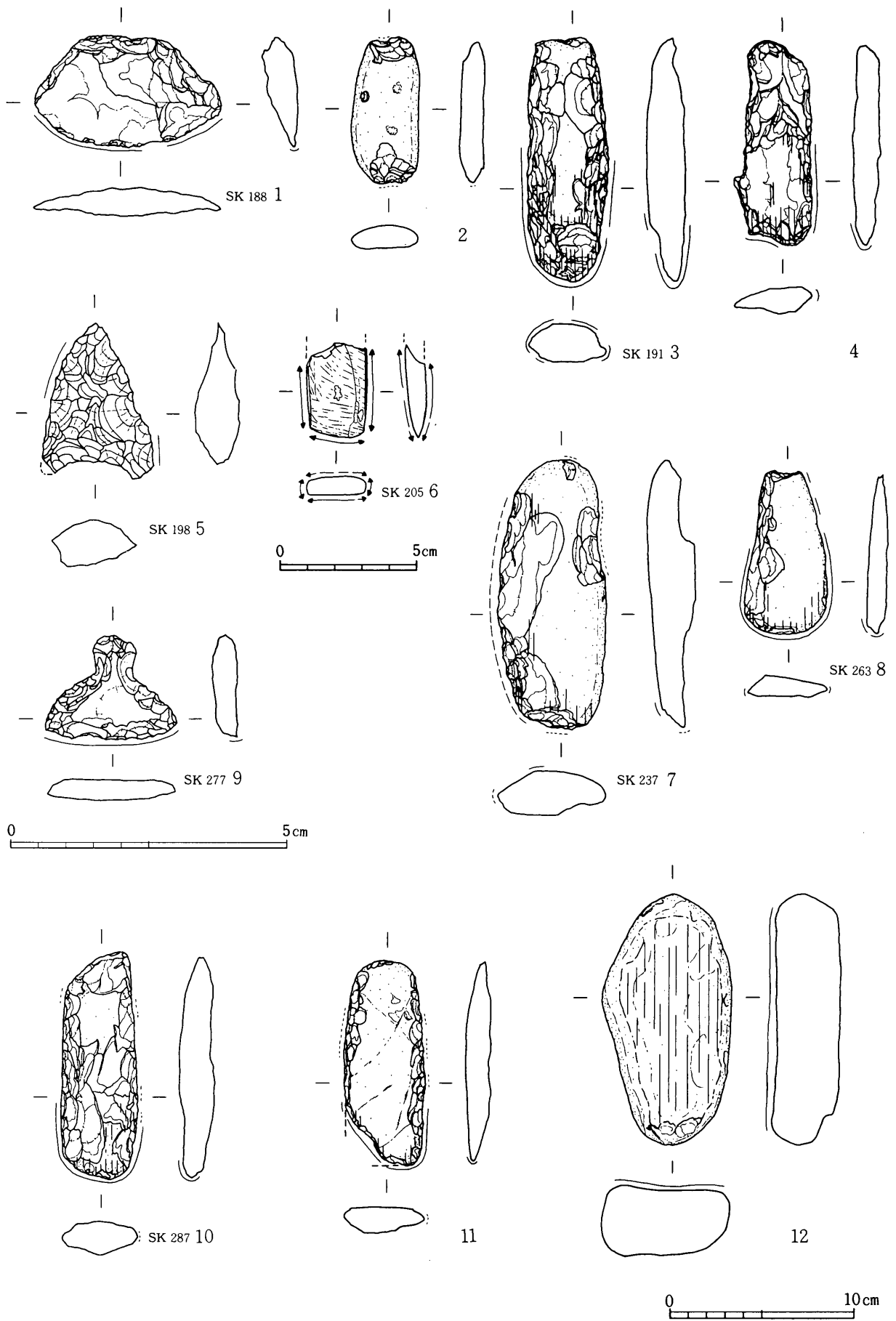
第25图 59·60·61·63号住居址出土遗物 (59住1~2·60住3·61住4·63住5~10)



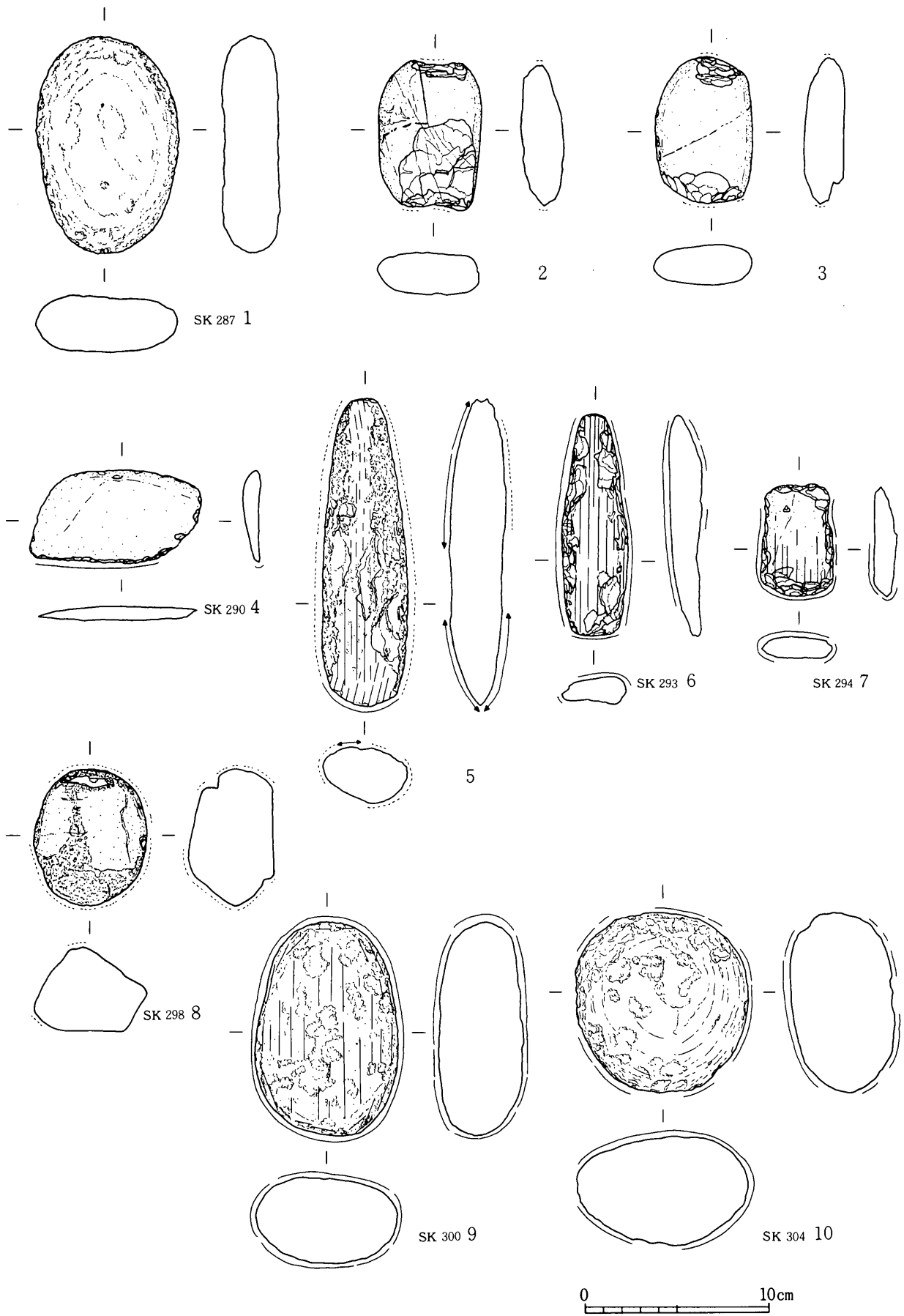
第26図 62・30号住居址出土遺物 (62住1～3・30住4～9)



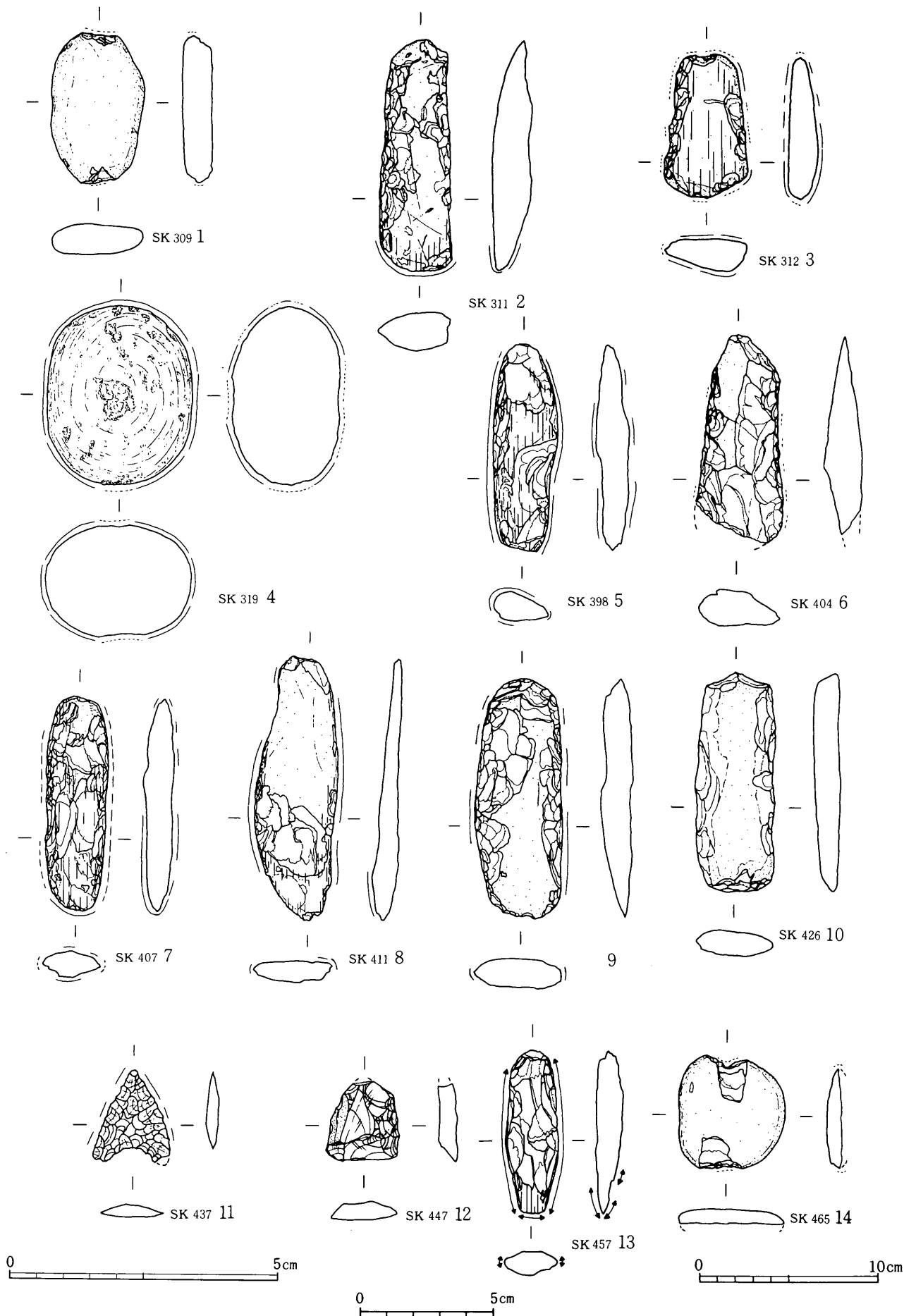
第27图 土坑出土遺物



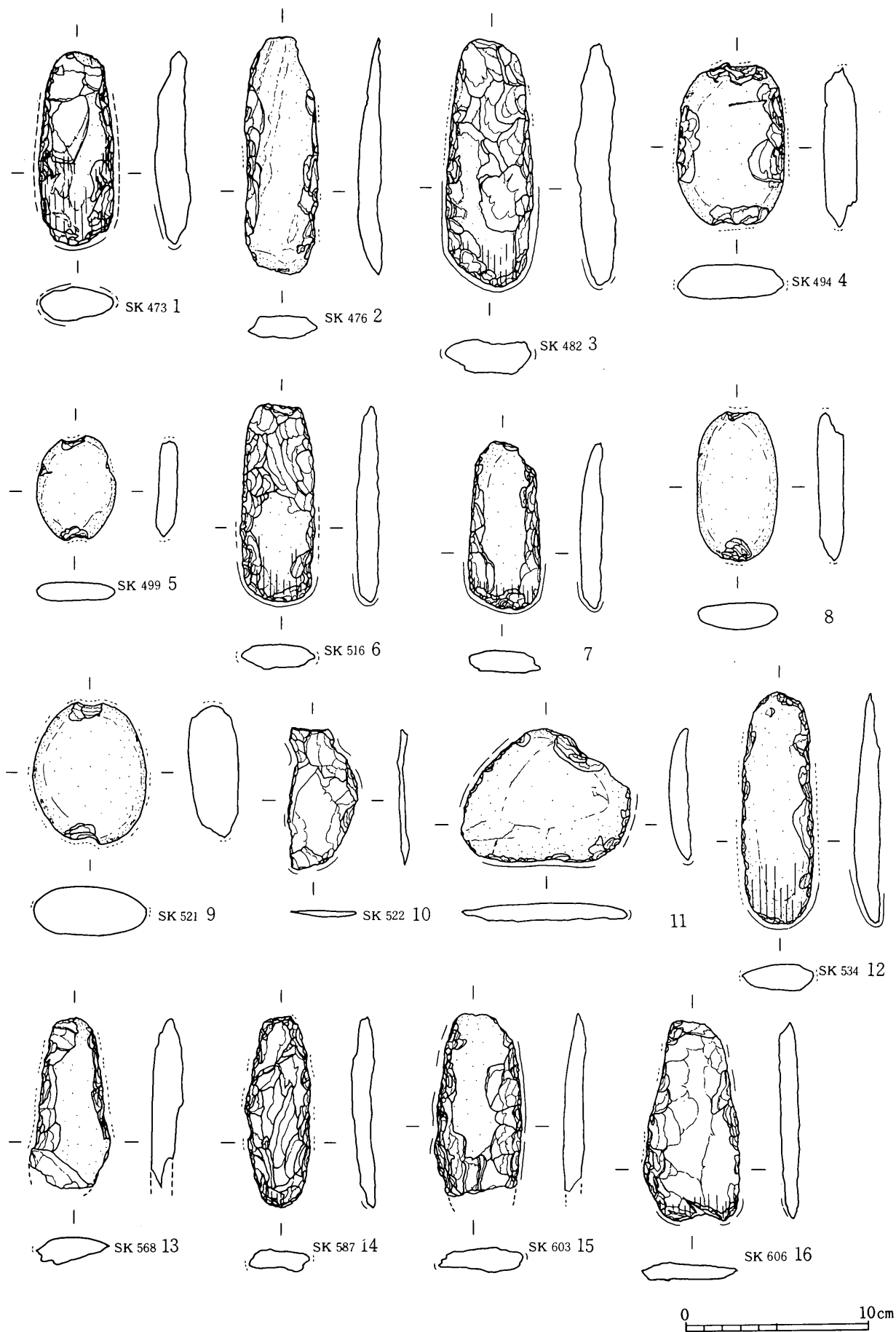
第28图 土坑出土遺物



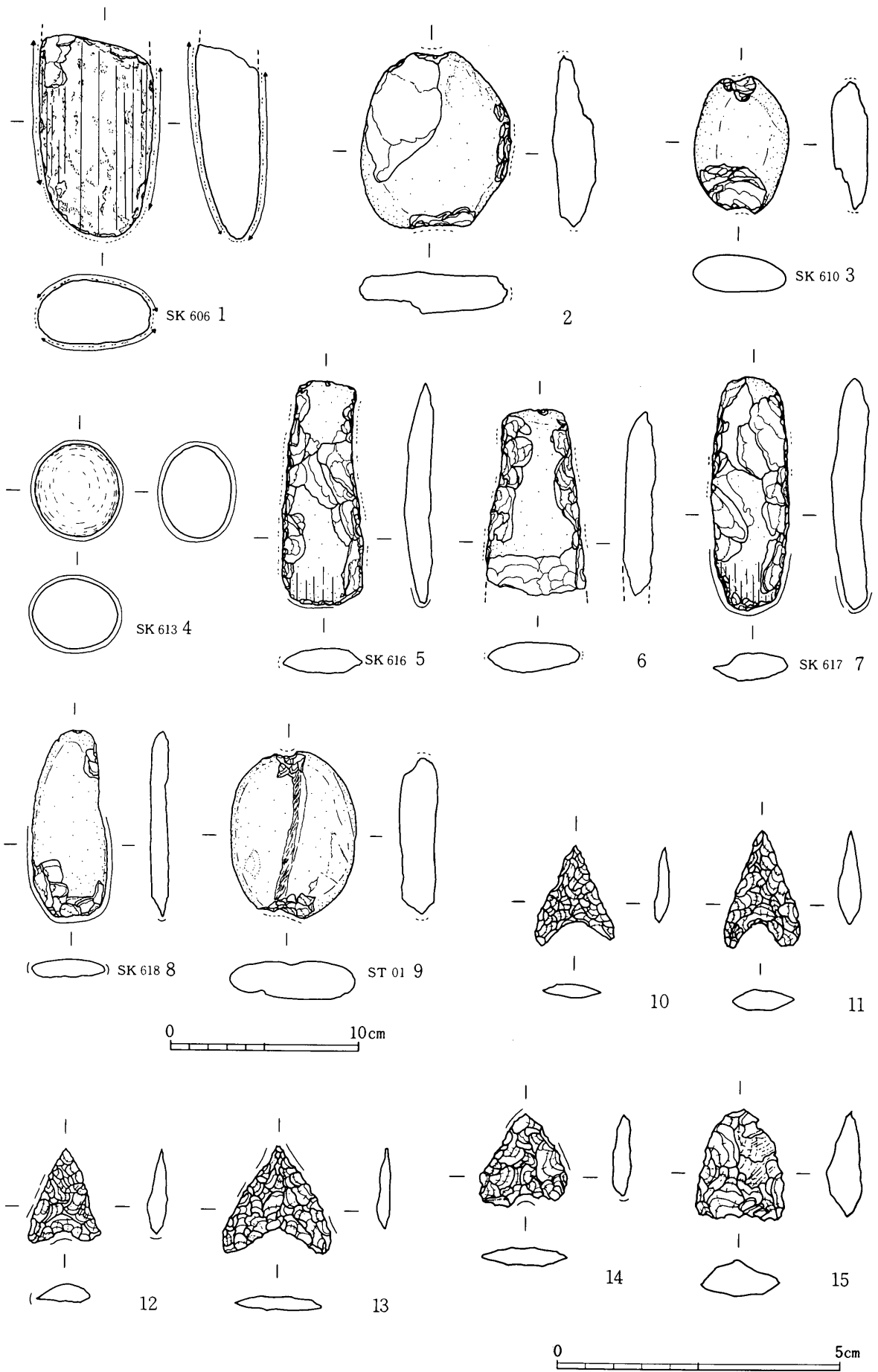
第29图 土坑出土遺物



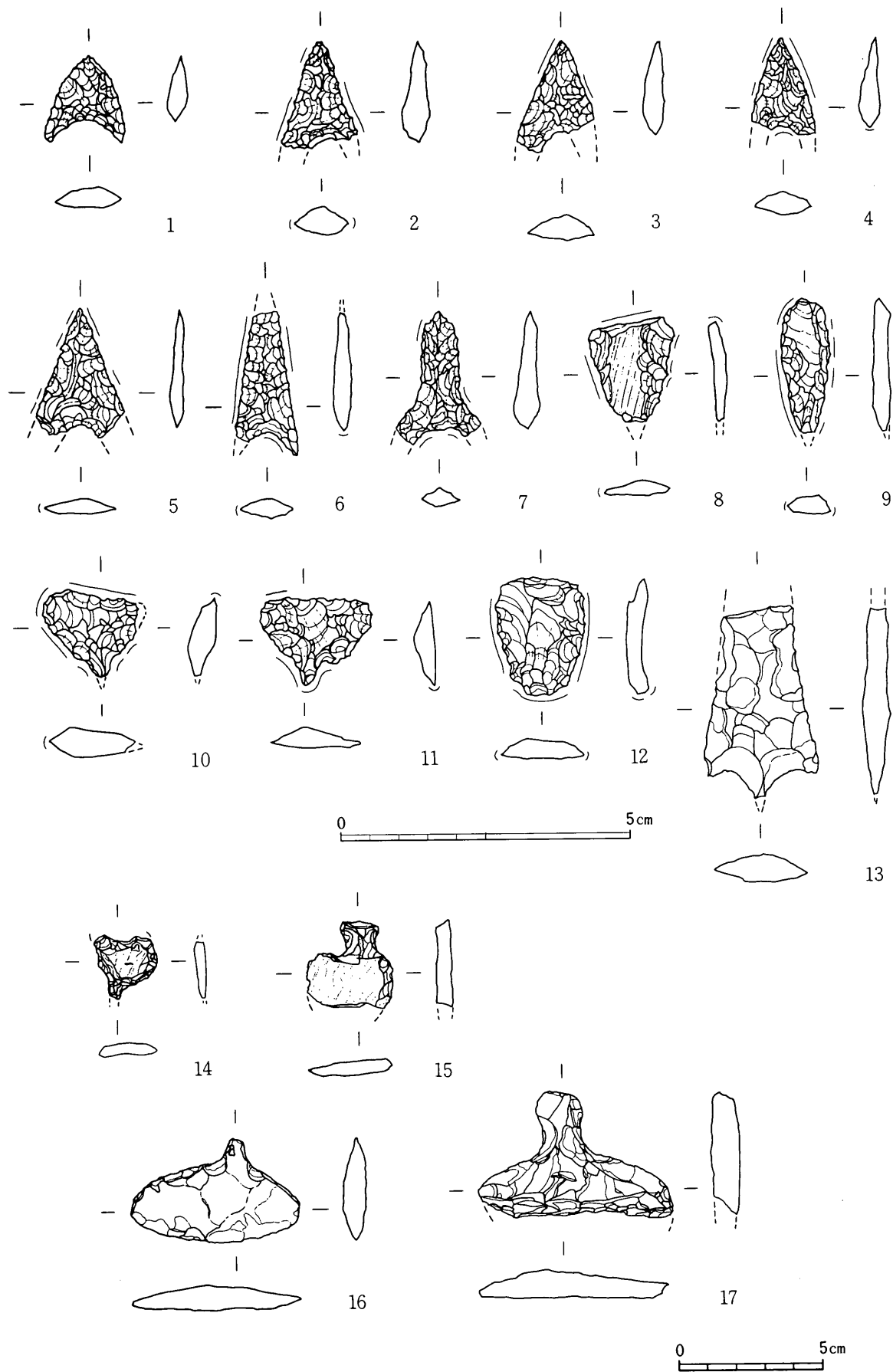
第30图 土坑出土遺物



第31图 土坑出土遗物



第32図 土坑・1号建物址(9~11)遺構外(12~)出土遺物



第33図 遺構外出土遺物

写 真 图 版



調査区全景



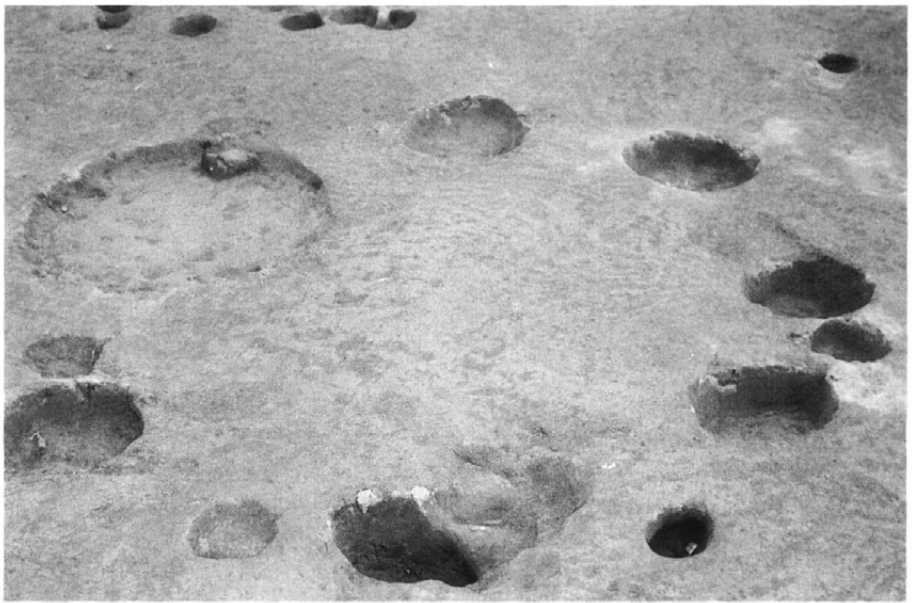
調査前風景



重機作業風景



33号住居址



34号住居址



35号住居址



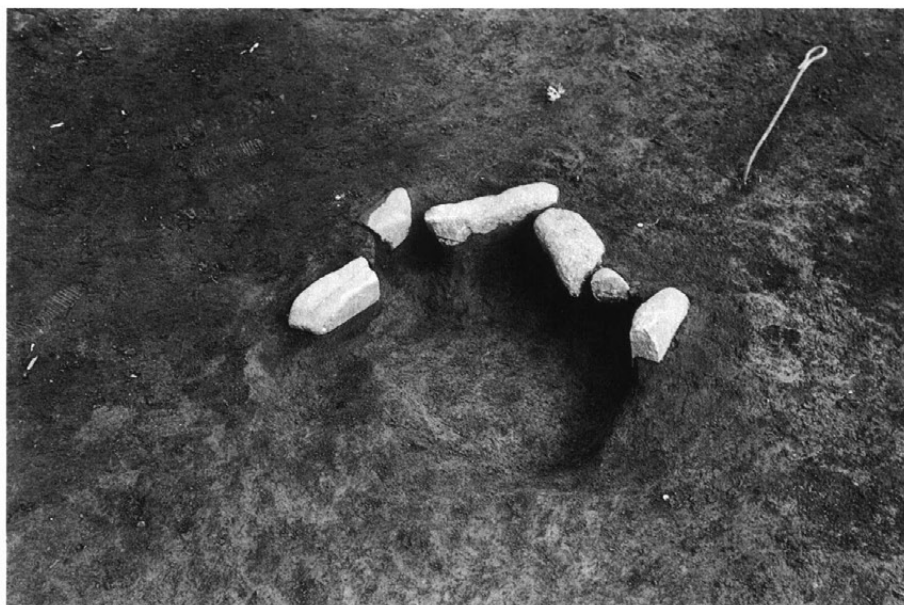
36号住居址



37号住居址



38号住居址



40号住居址炉



41号住居址



42号住居址



43号住居址



44号住居址



46号住居址



47号住居址



48号住居址



49号住居址



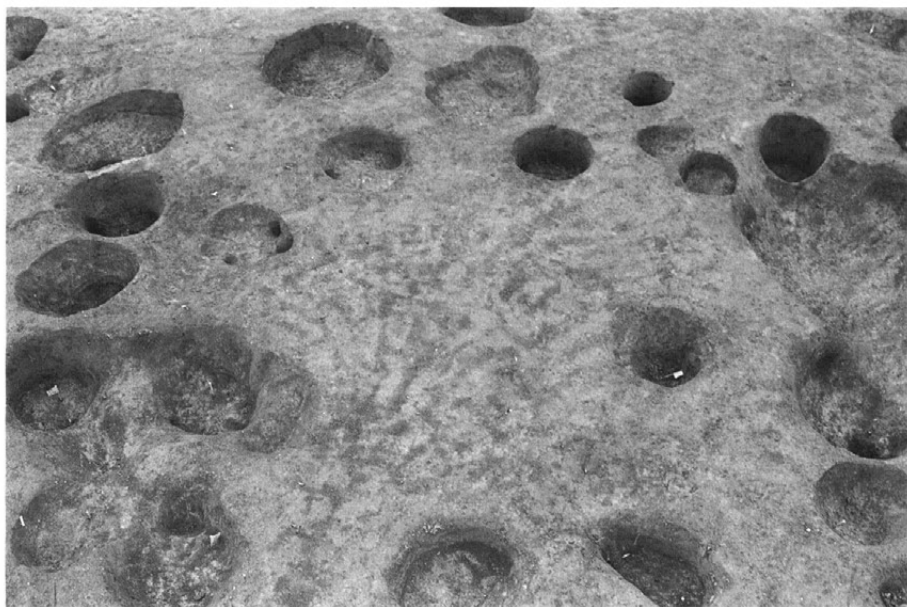
50号住居址



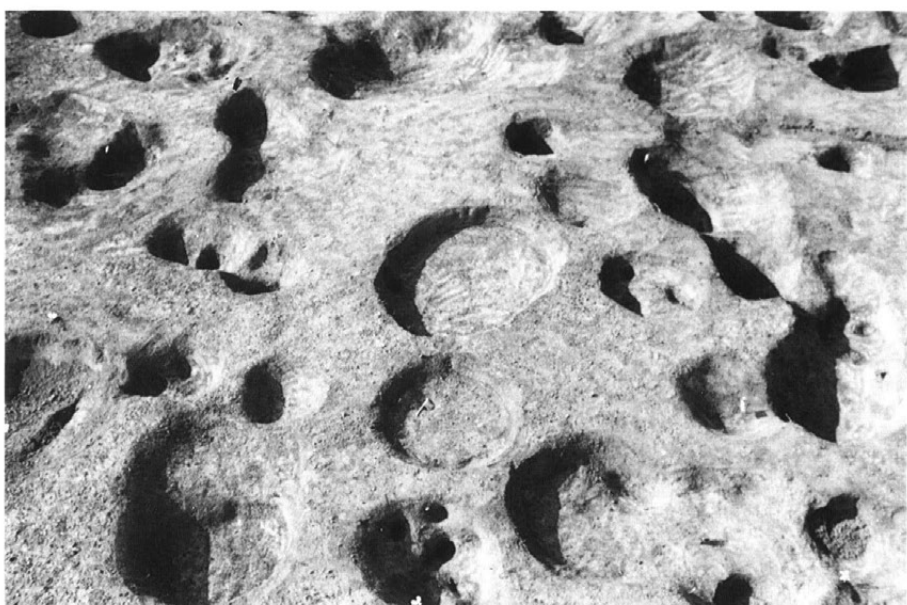
51号住居址炉



54号住居址



55号住居址



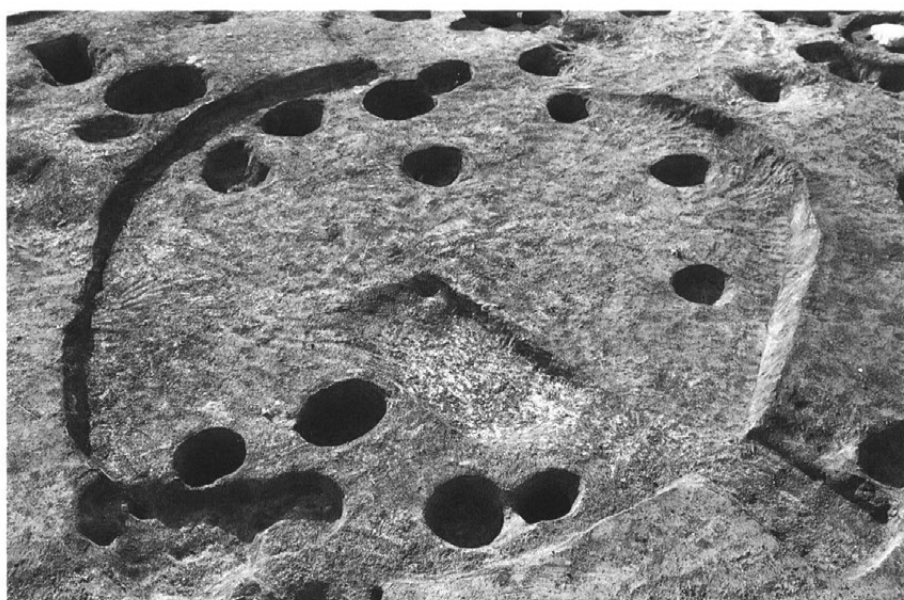
56号住居址



57号住居址



58号住居址



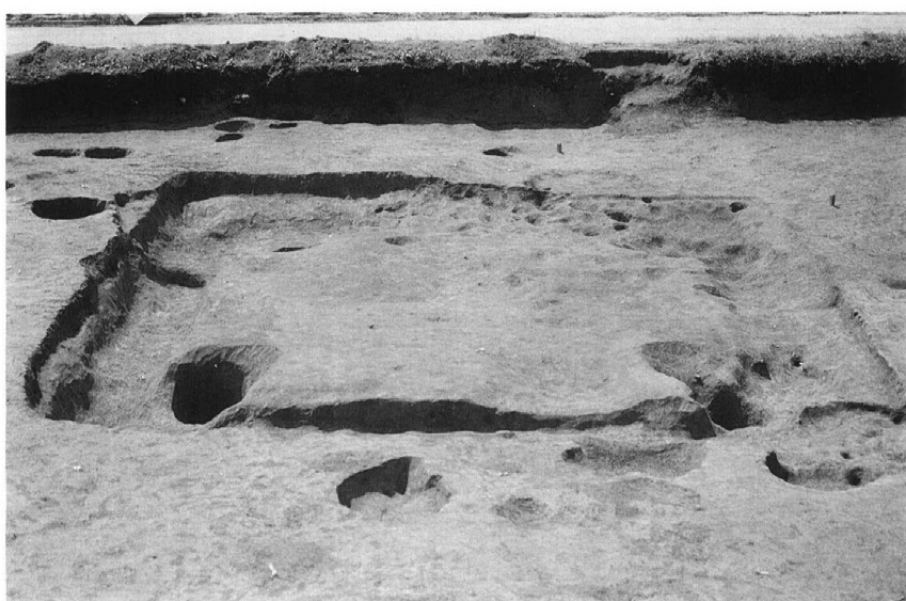
59号住居址



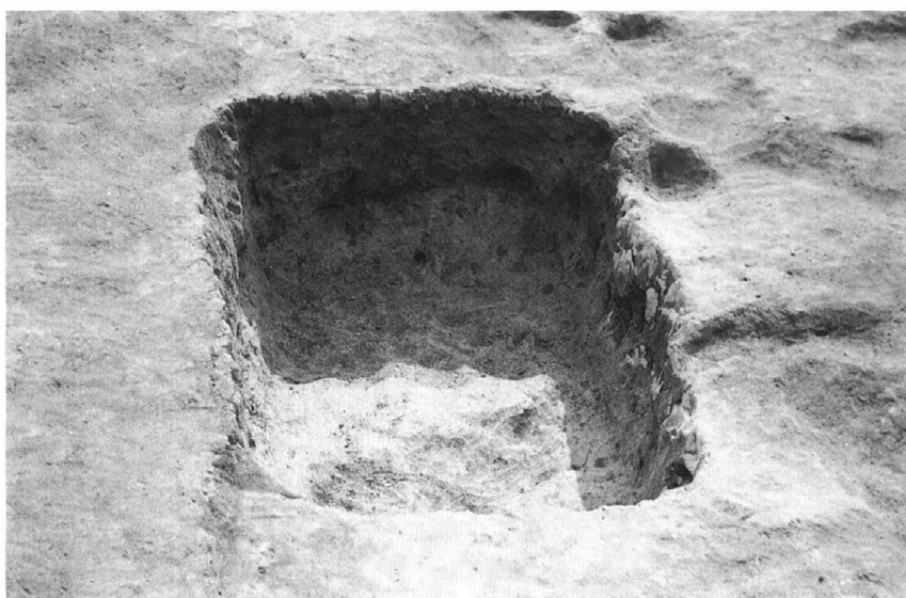
63号住居址



62号住居址



30号住居址



31号住居址



32号住居址



方形周溝墓 5



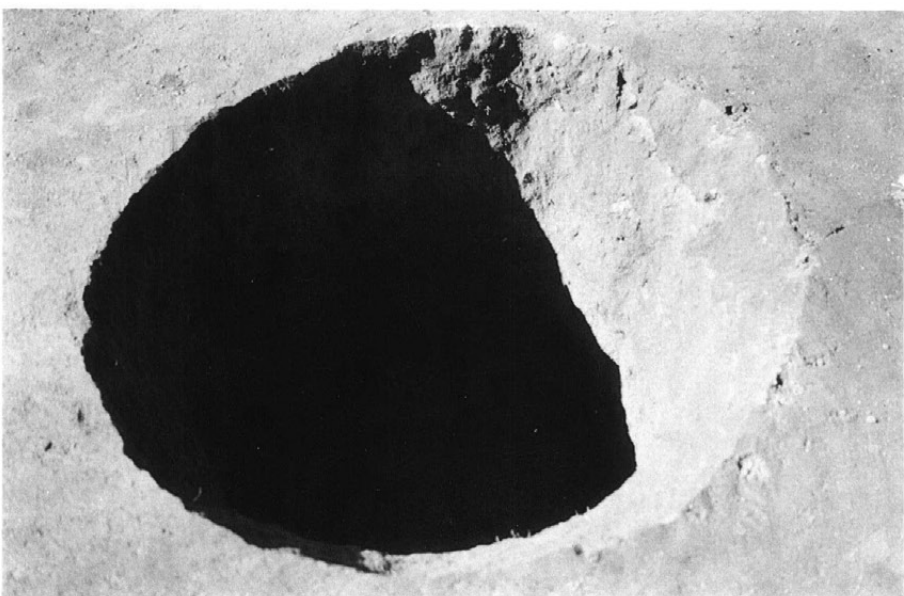
掘立柱建物址 1



土坑150



土坑221



土坑227



土坑546



土坑556



53号住居址遺物

自然科学分析調査
トレンチ断面



作業風景

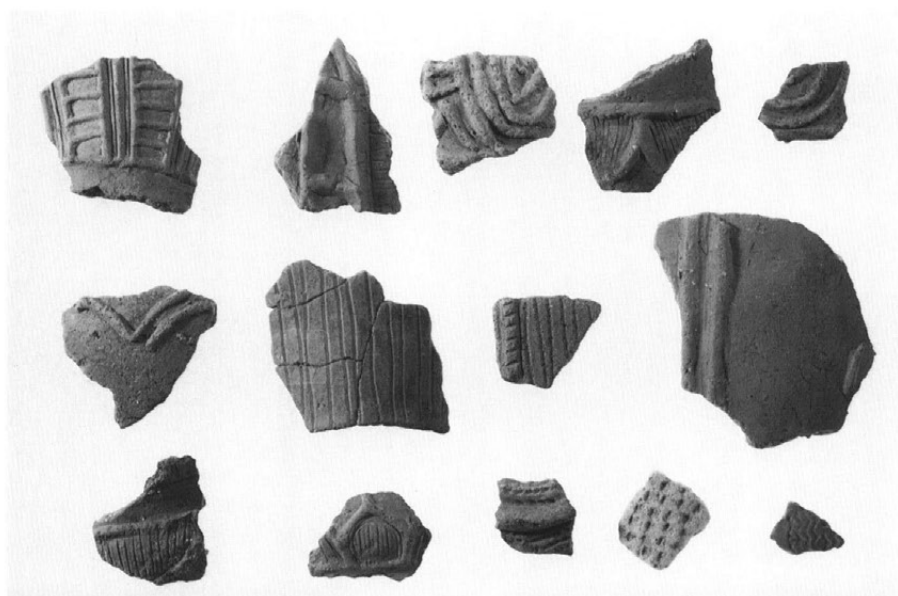


委託測量風景

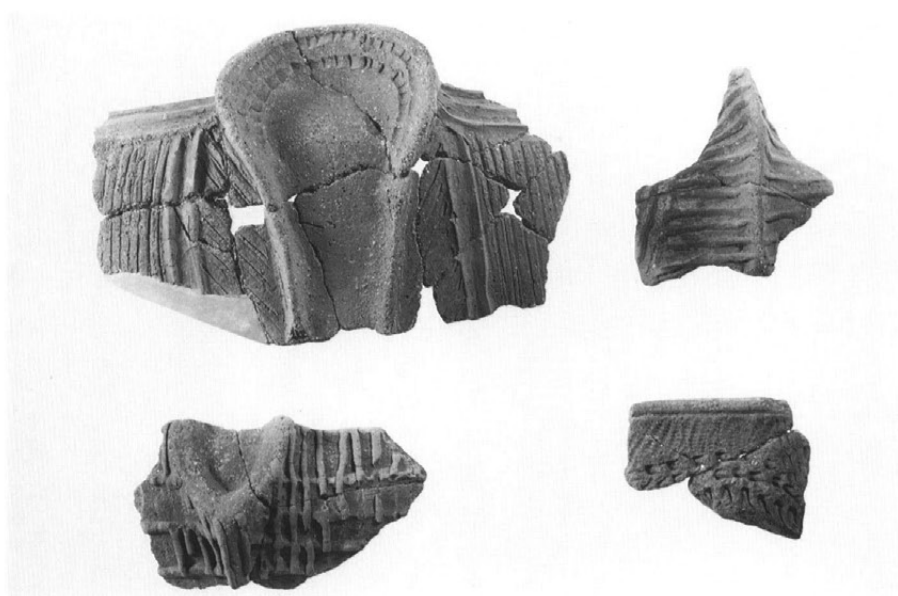




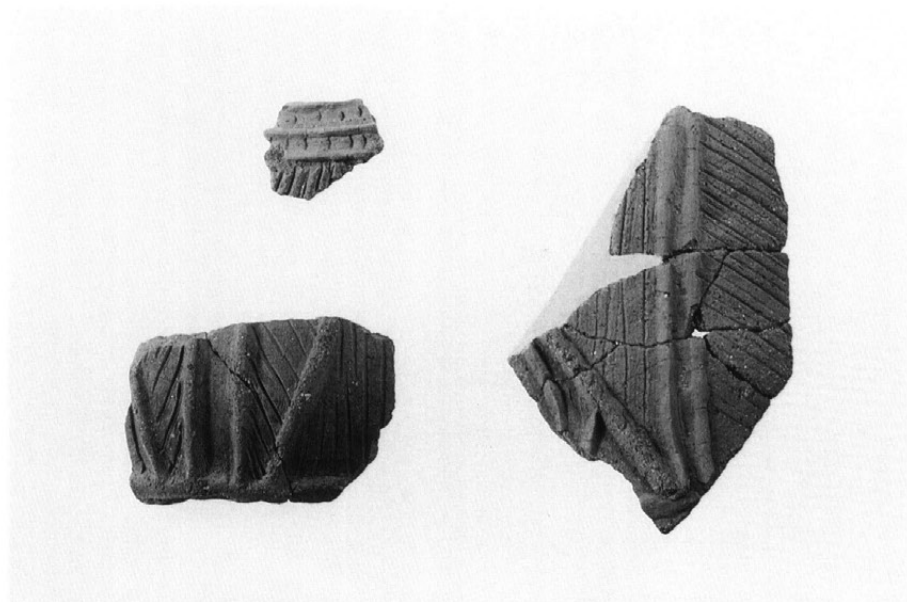
35号住居址出土遺物



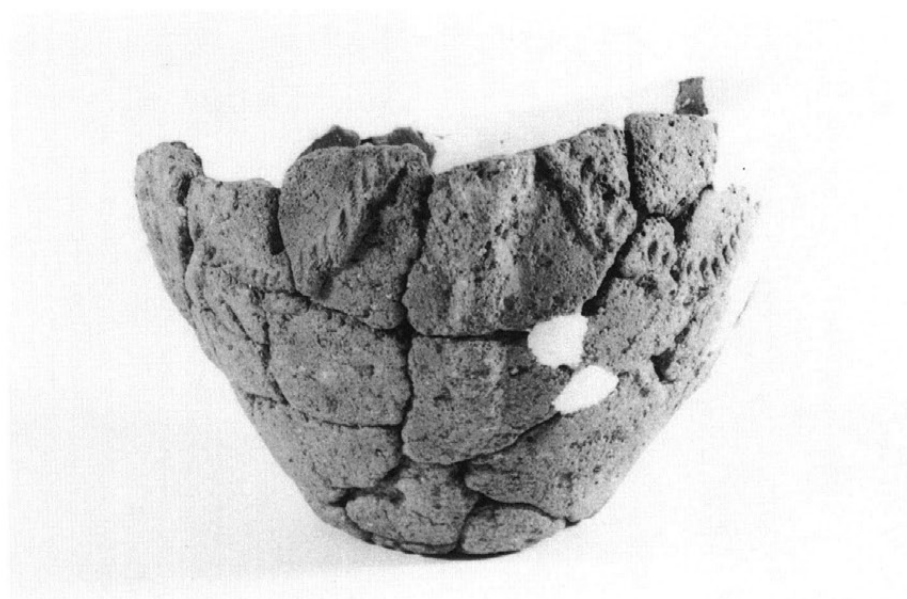
35号住居址出土遺物



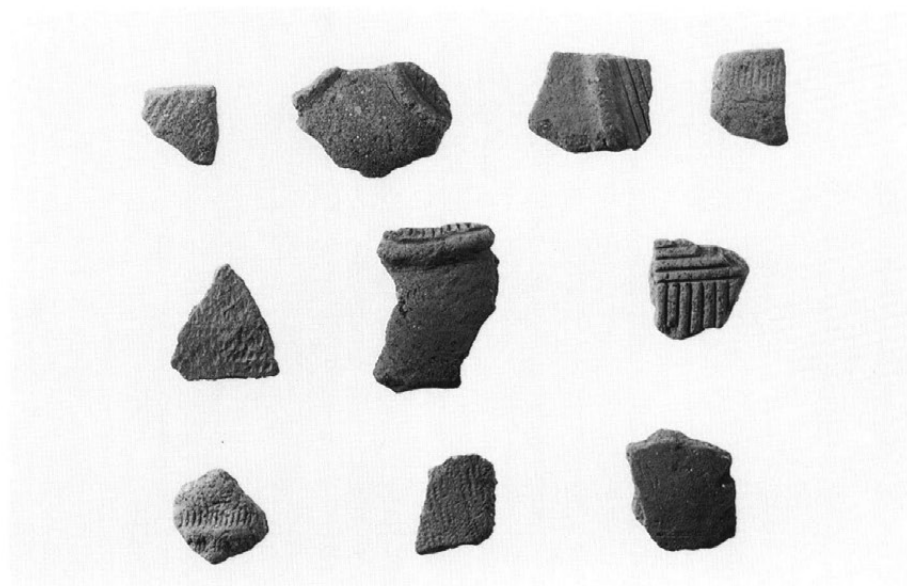
36号住居址出土遺物



36号住居址出土遺物



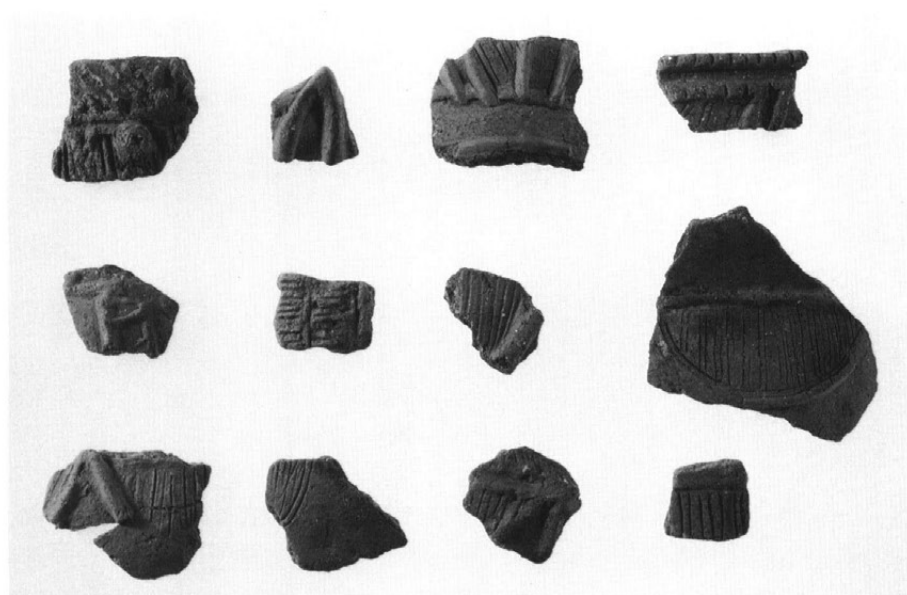
36号住居址出土遺物



37号住居址出土遺物



38号住居址出土遺物



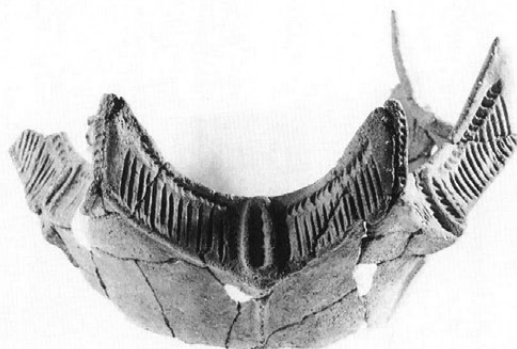
38号住居址出土遺物



39号住居址出土遺物



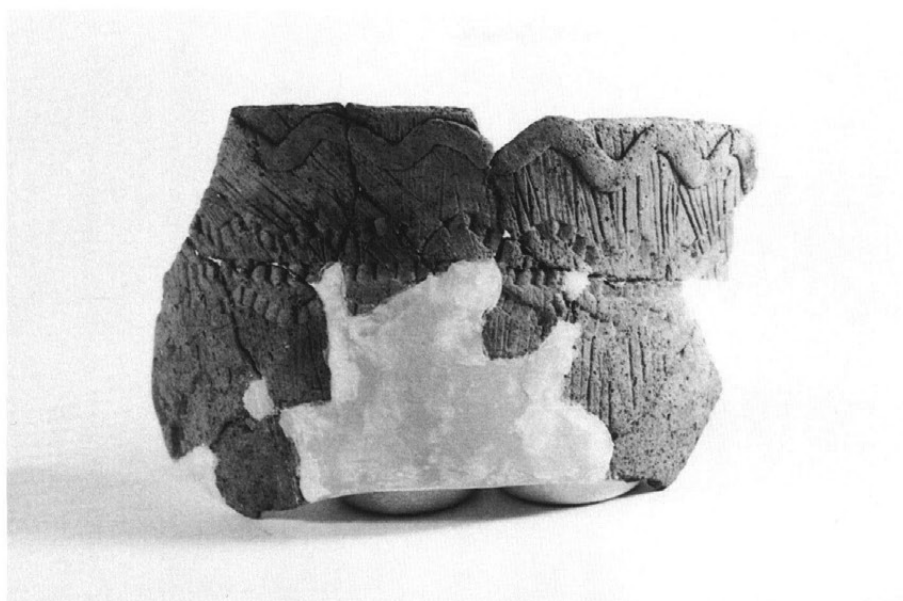
41号住居址出土遺物



42号住居址出土遺物



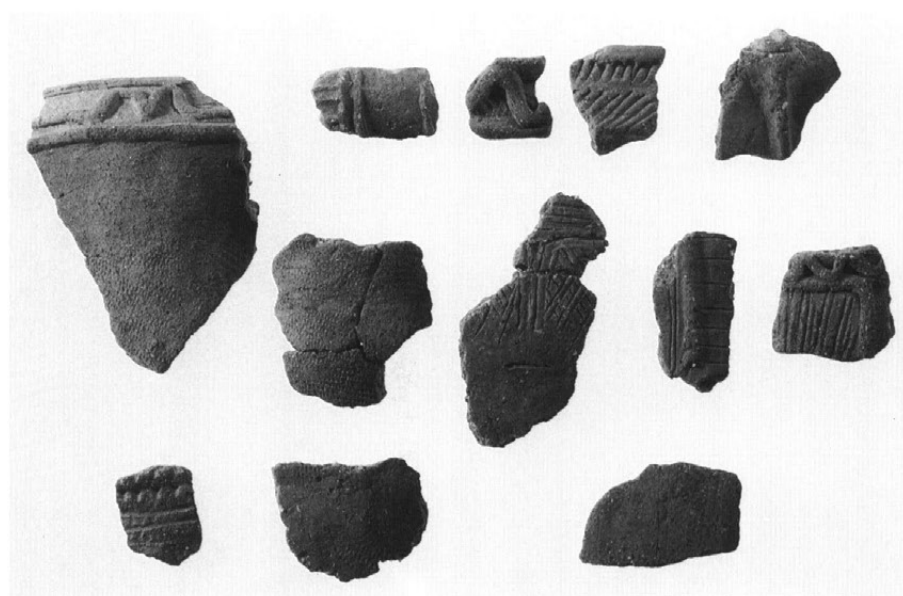
42号住居址出土遺物



42号住居址出土遺物



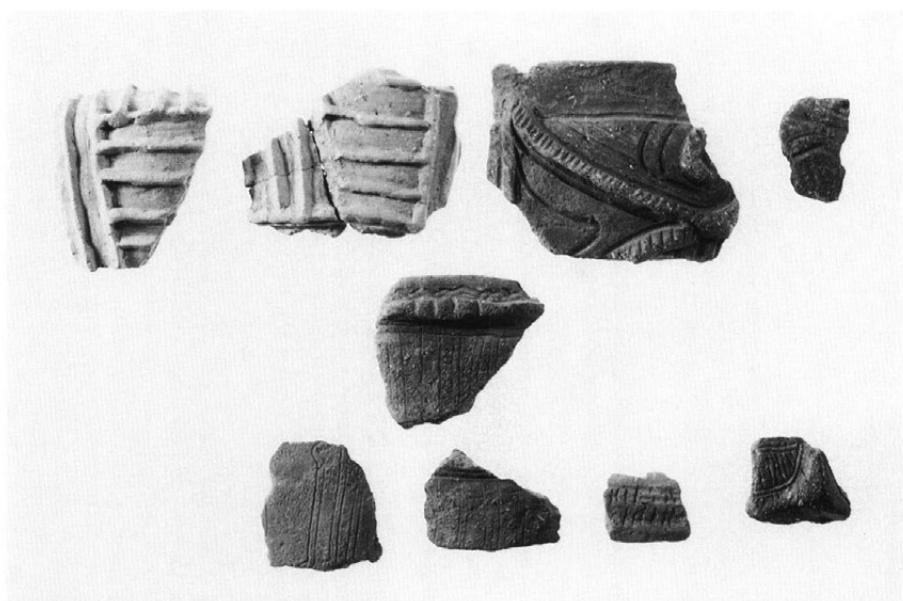
42号住居址出土遺物



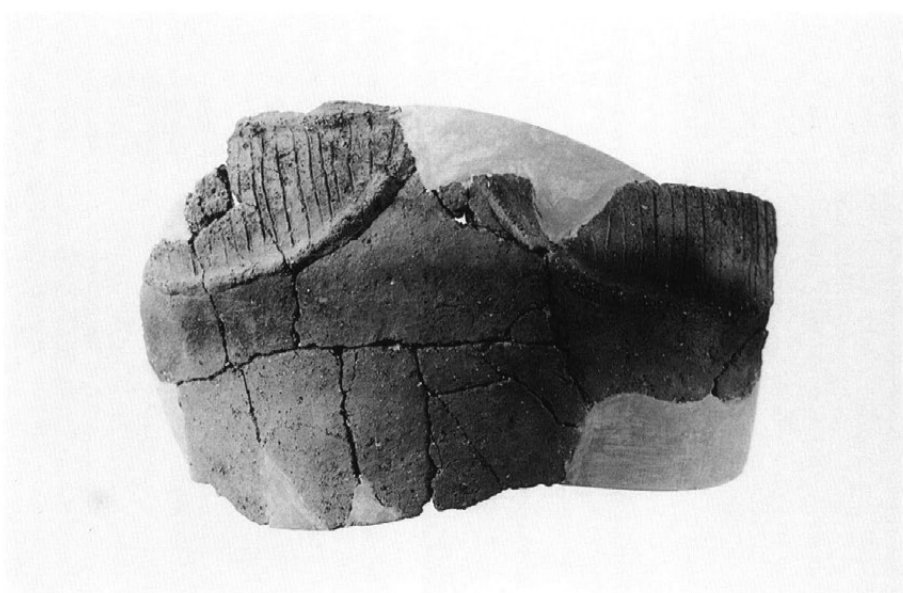
42号住居址出土遺物



43号住居址出土遺物



43号住居址出土遺物



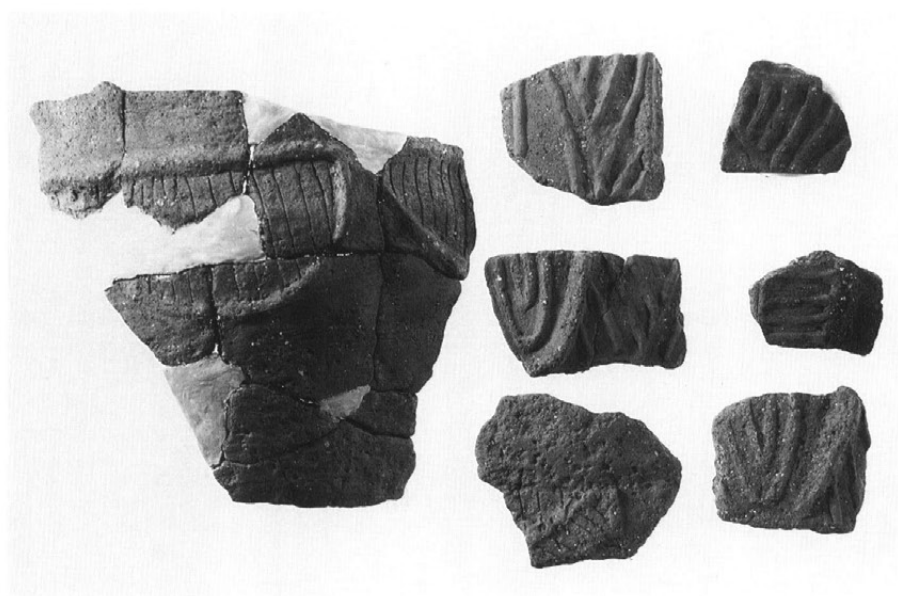
44号住居址出土遺物



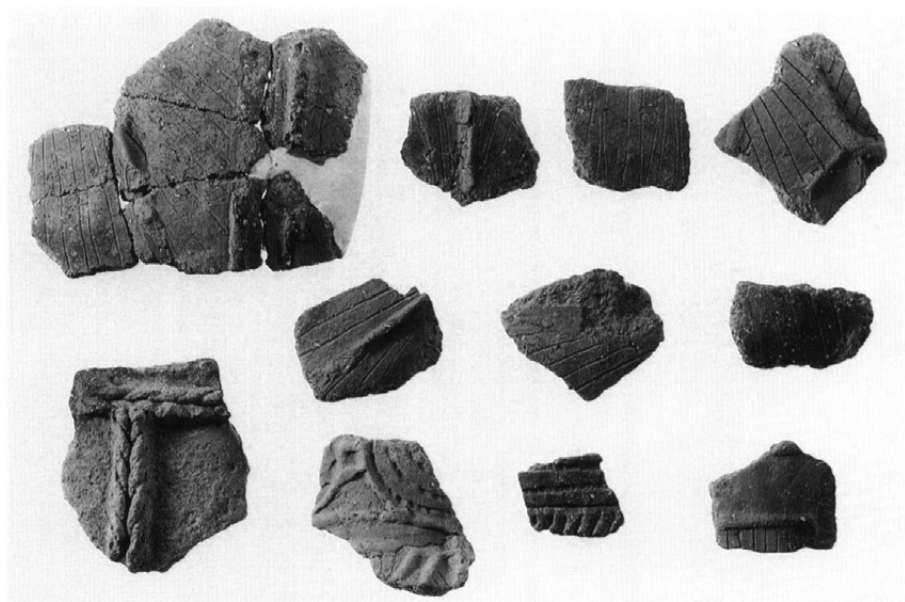
46号住居址出土遺物



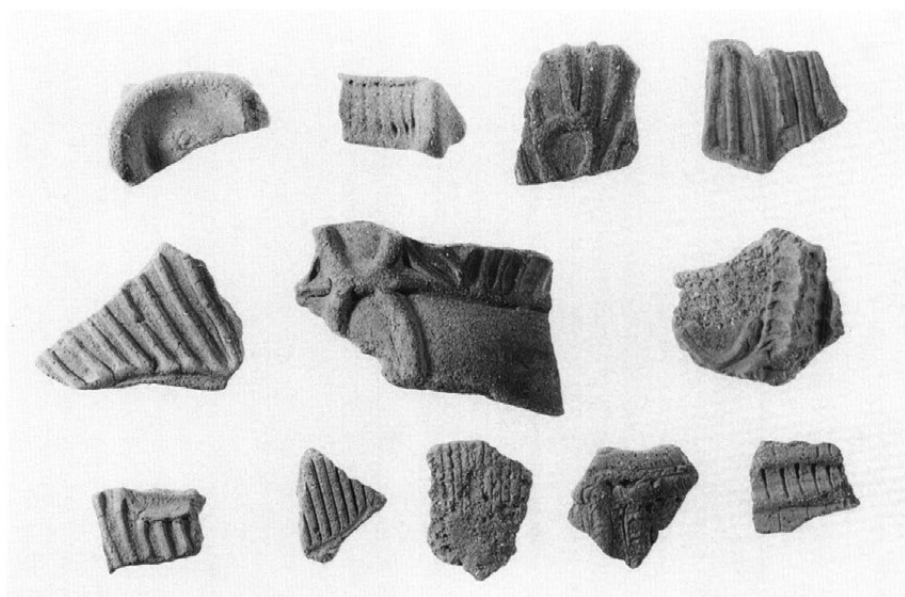
46号住居址出土遺物



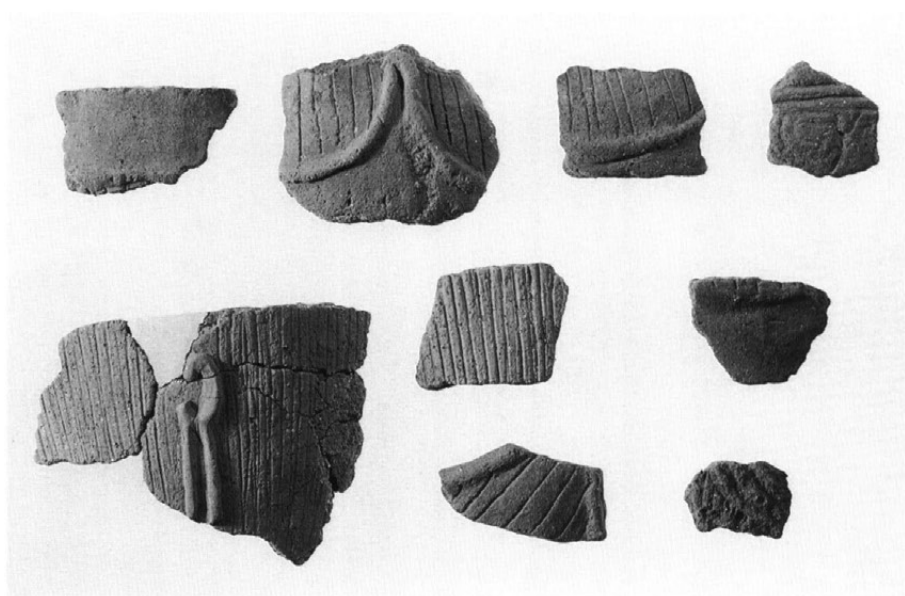
47号住居址出土遺物



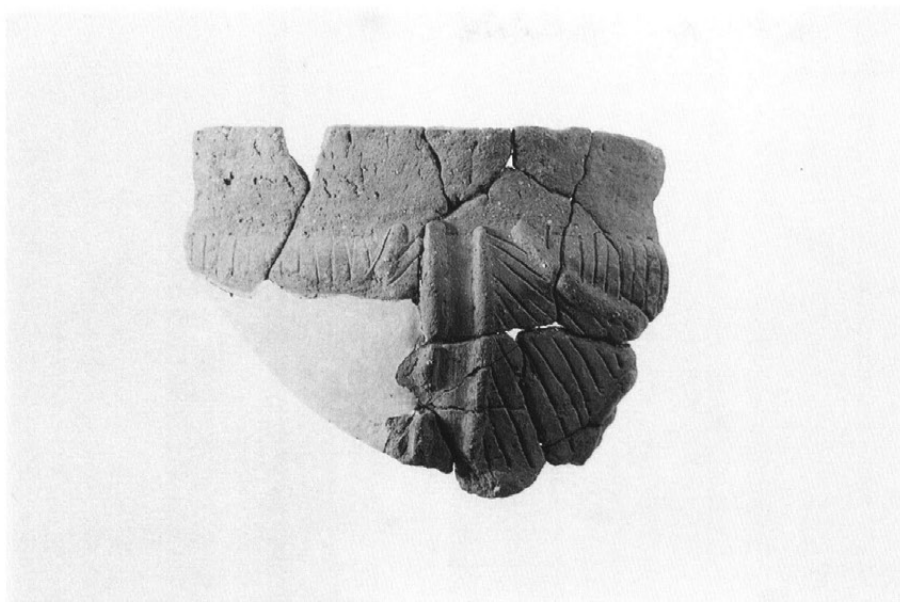
47号住居址出土遺物



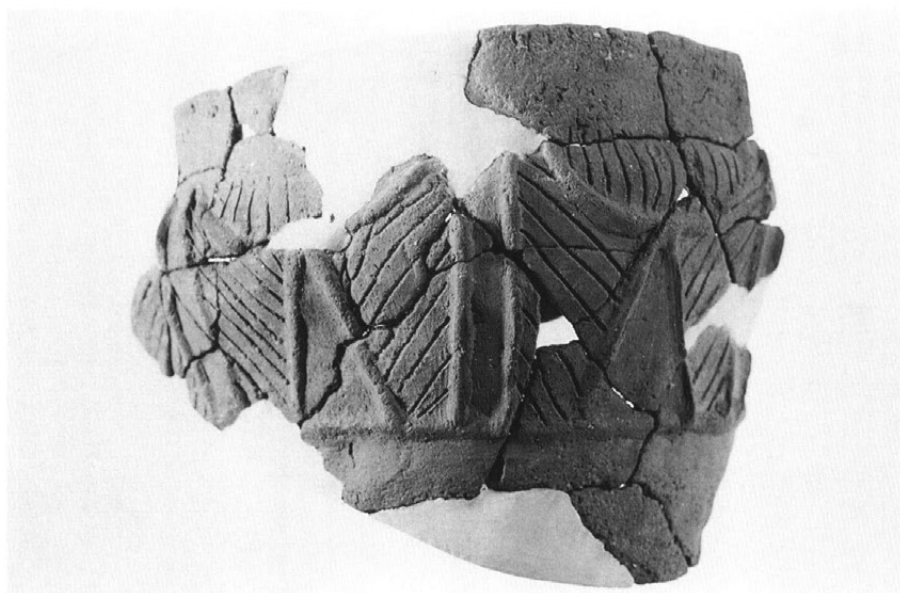
49号住居址出土遺物



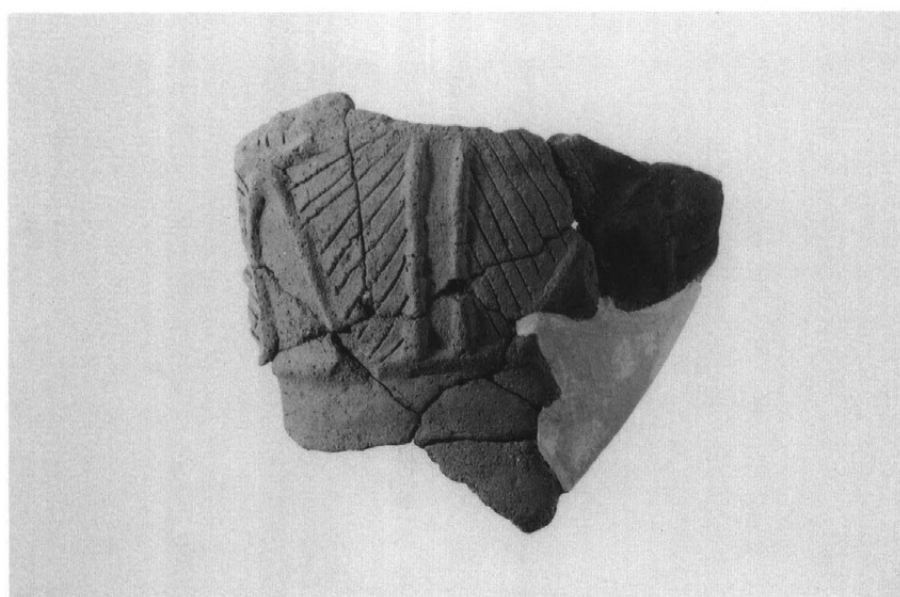
50号住居址出土遺物



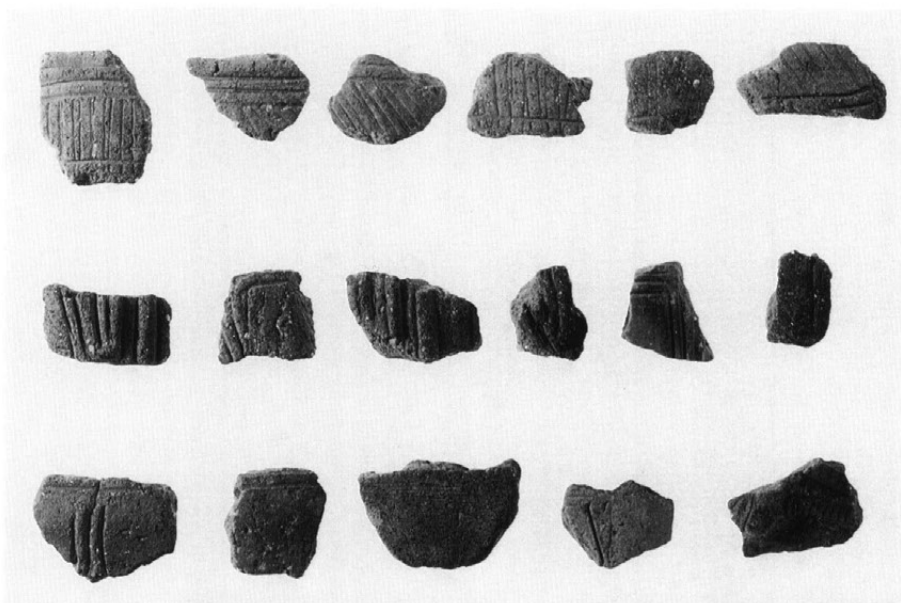
51号住居址出土遺物



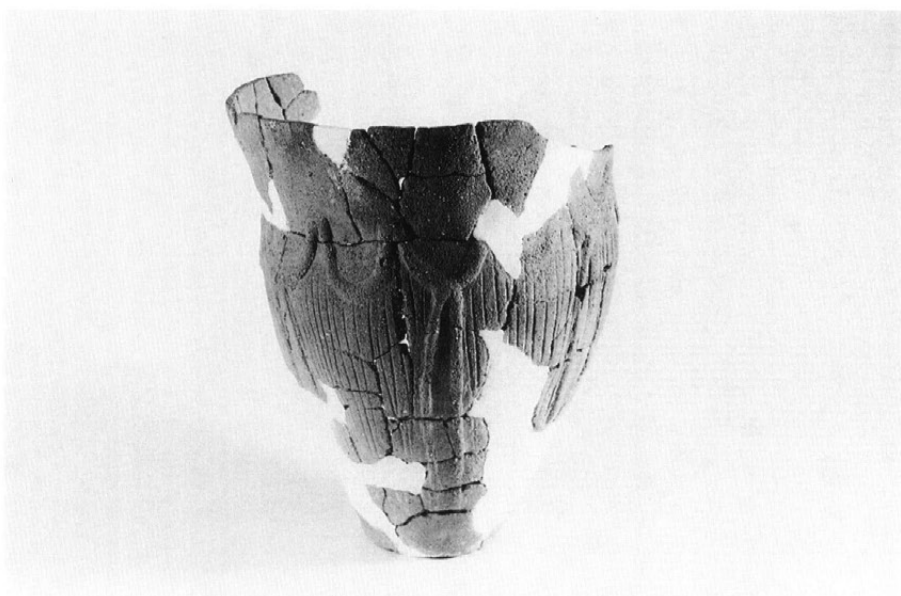
51号住居址出土遺物



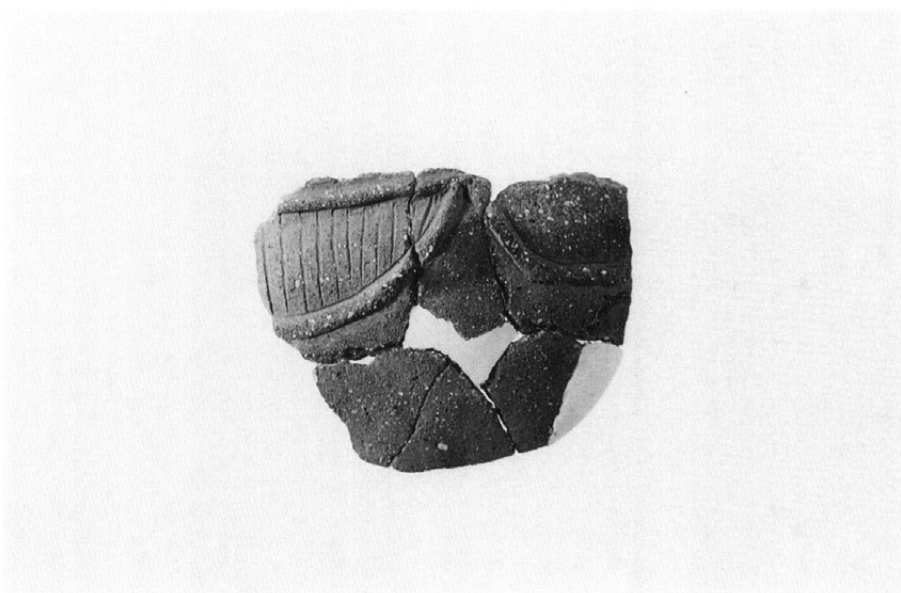
51号住居址出土遺物



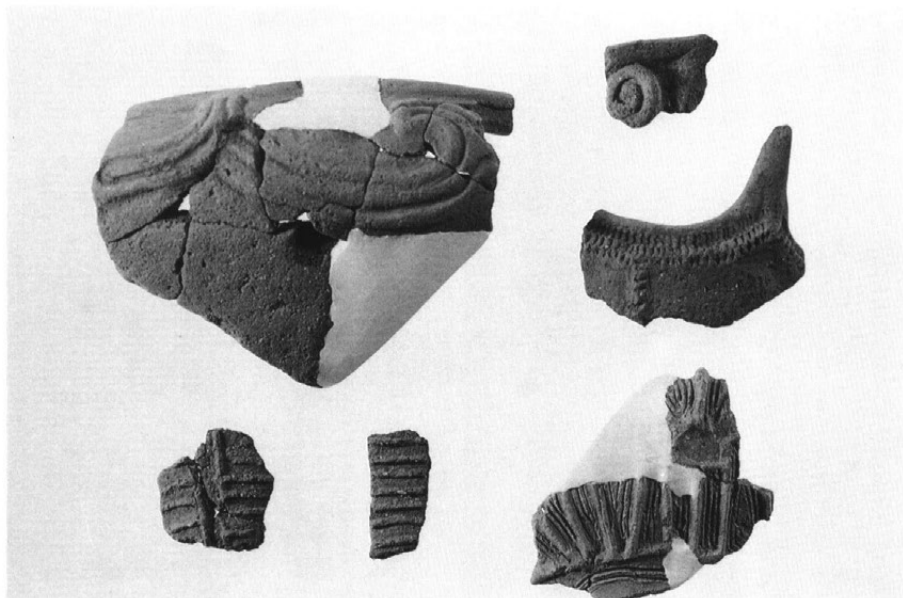
52号住居址出土遺物



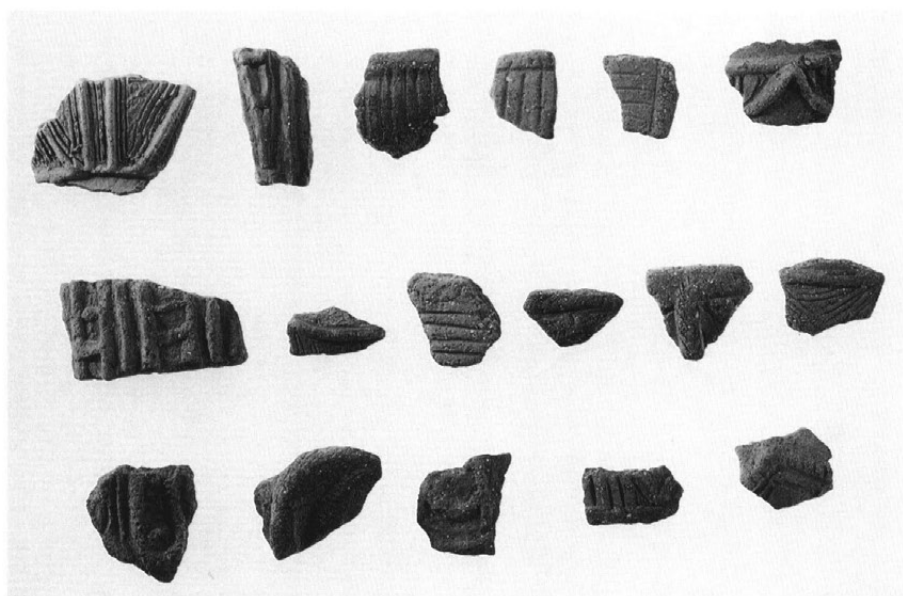
53号住居址出土遺物



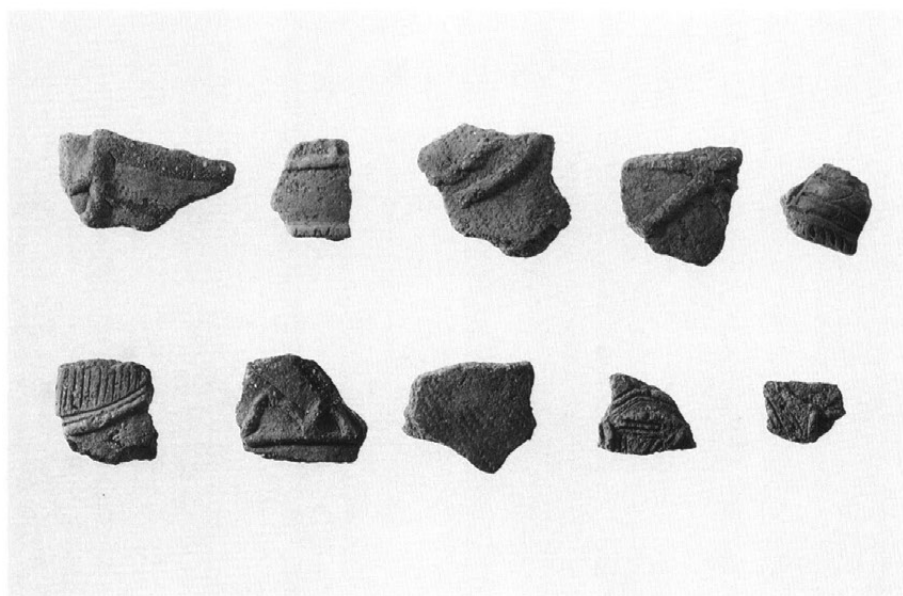
53号住居址出土遺物



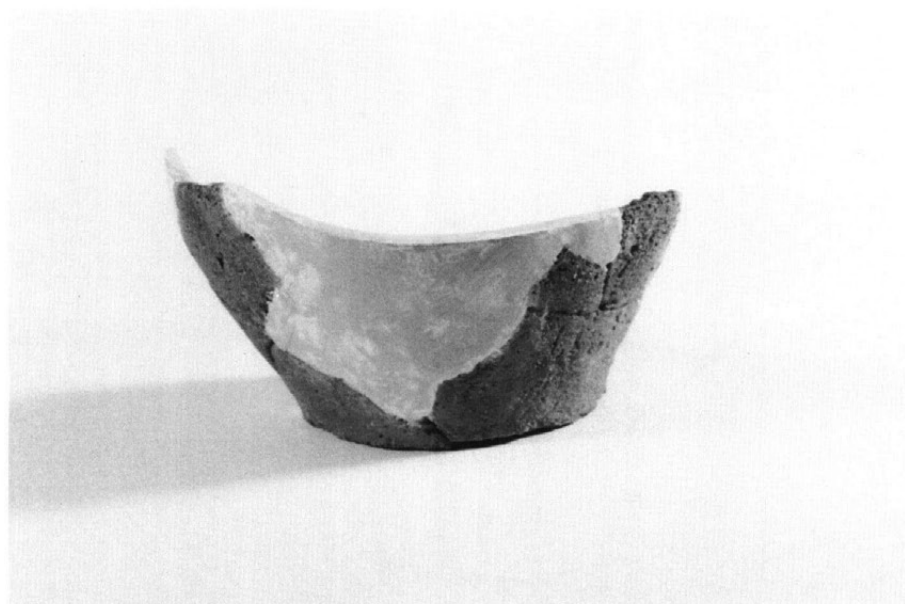
54号住居址出土遺物



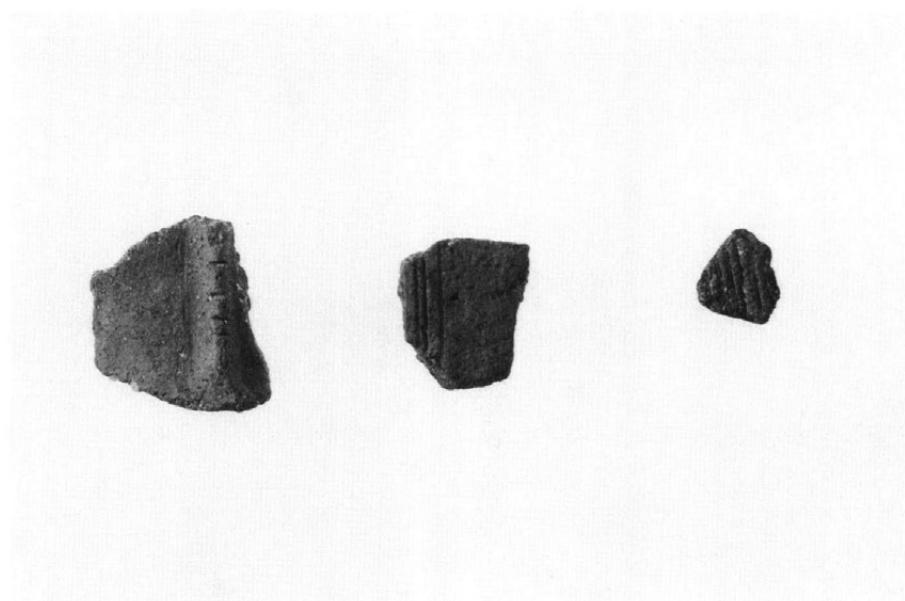
54号住居址出土遺物



54号住居址出土遺物



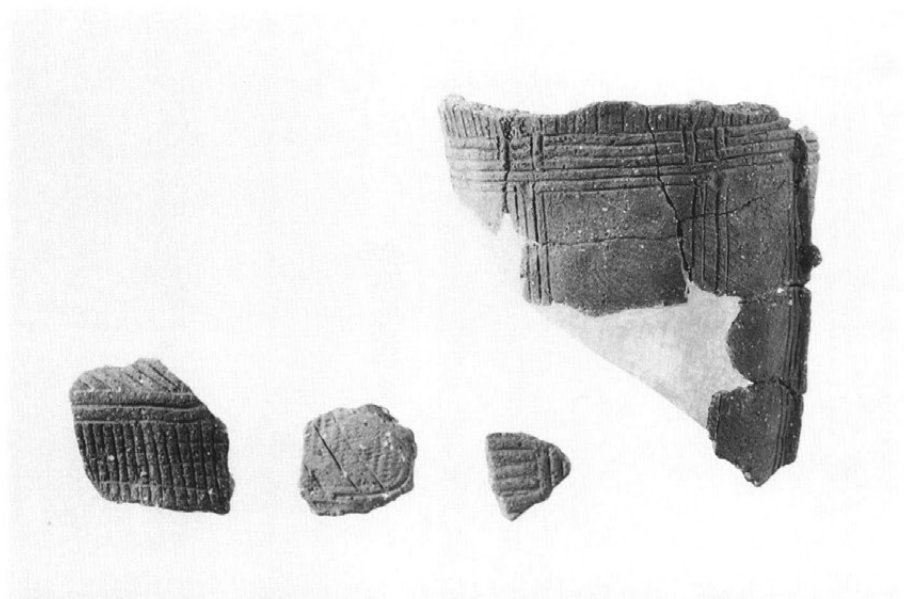
54号住居址出土遺物



55号住居址出土遺物



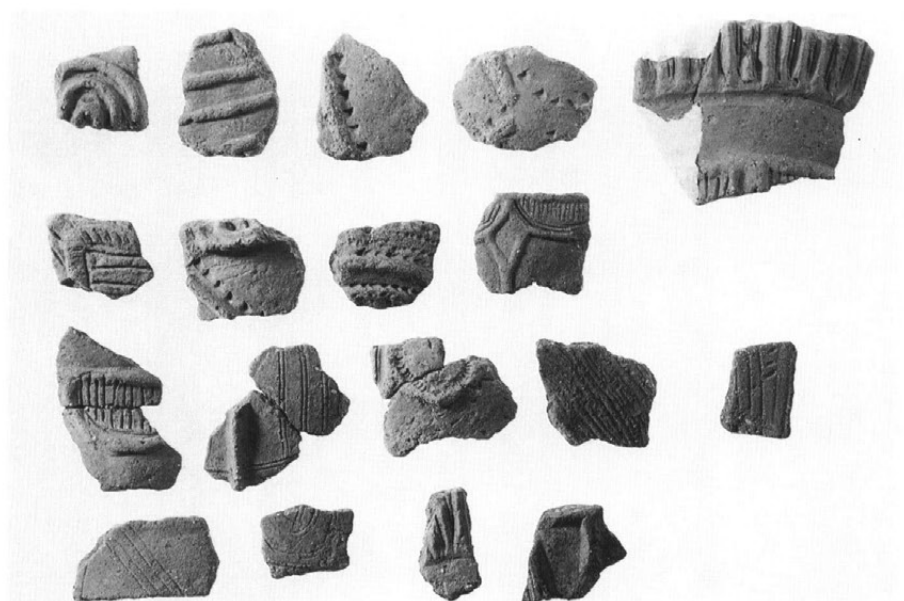
58号住居址出土遺物



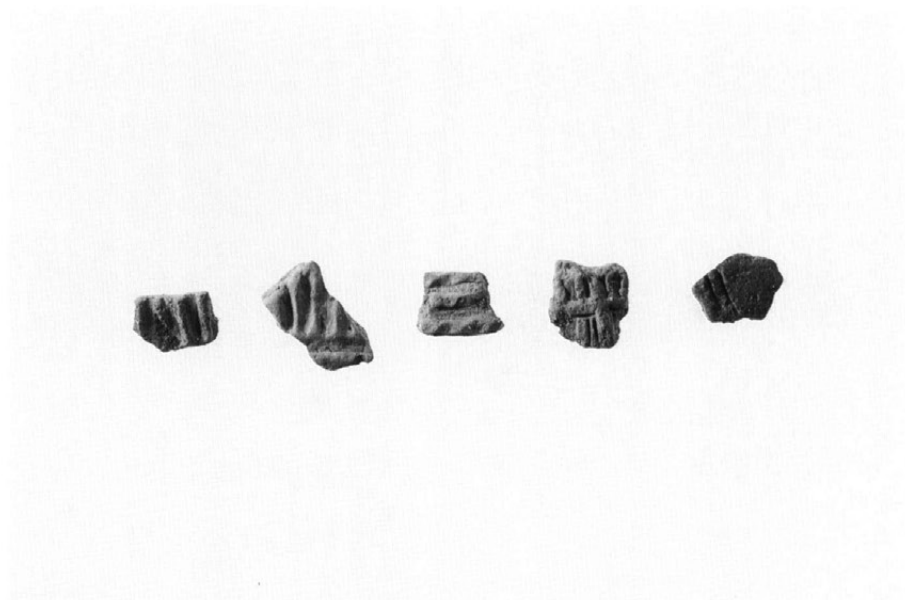
58号住居址出土遗物



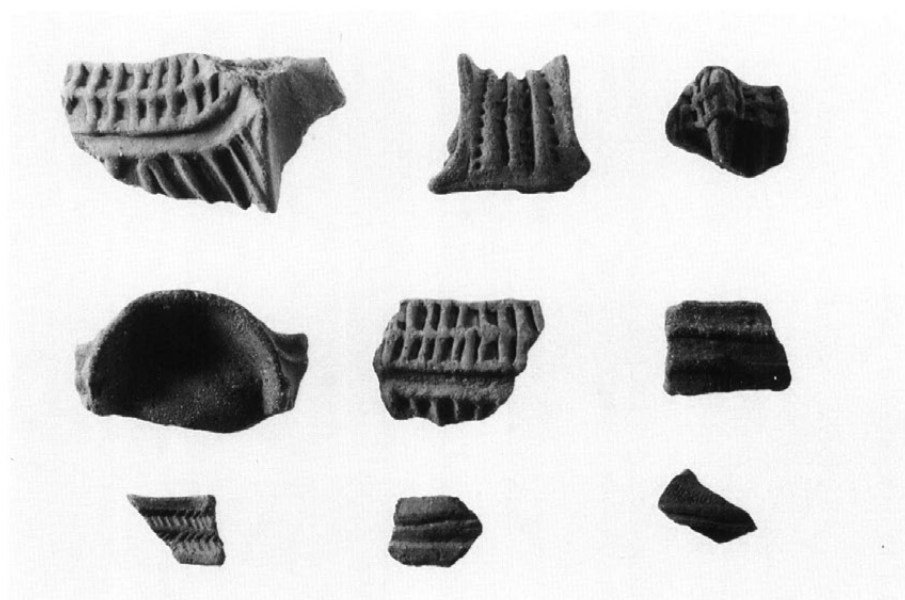
58号住居址出土遗物



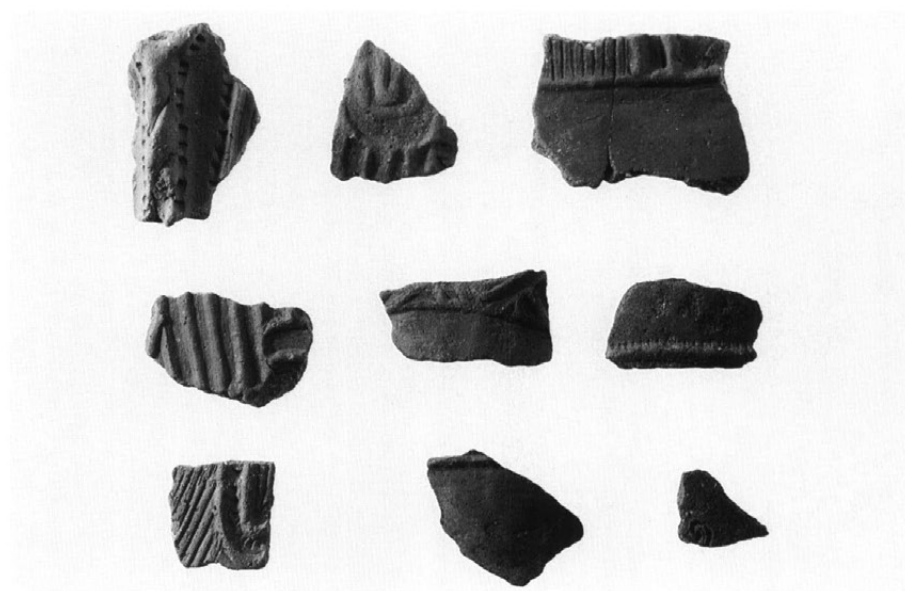
59号住居址出土遗物



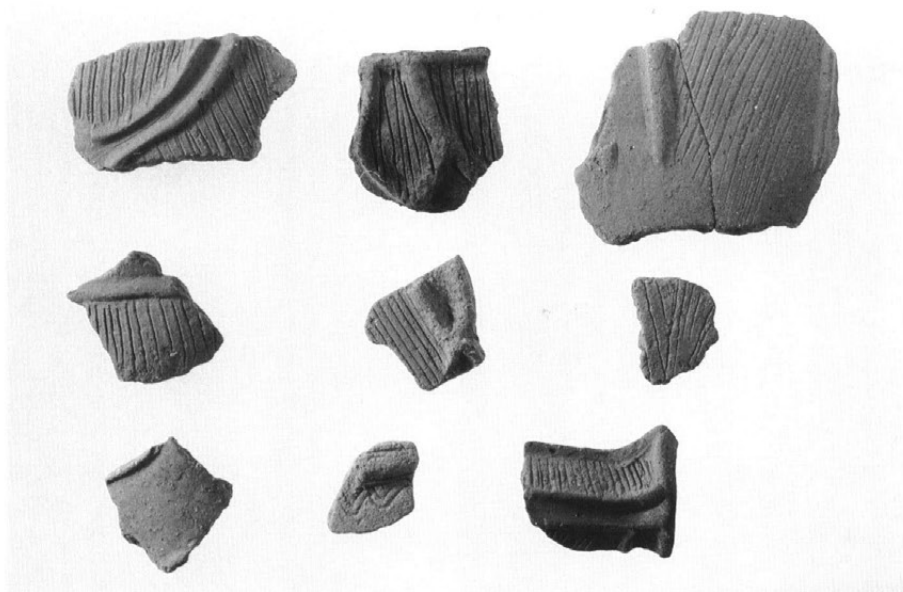
60号住居址出土遺物



63号住居址出土遺物



63号住居址出土遺物



63号住居址出土遺物



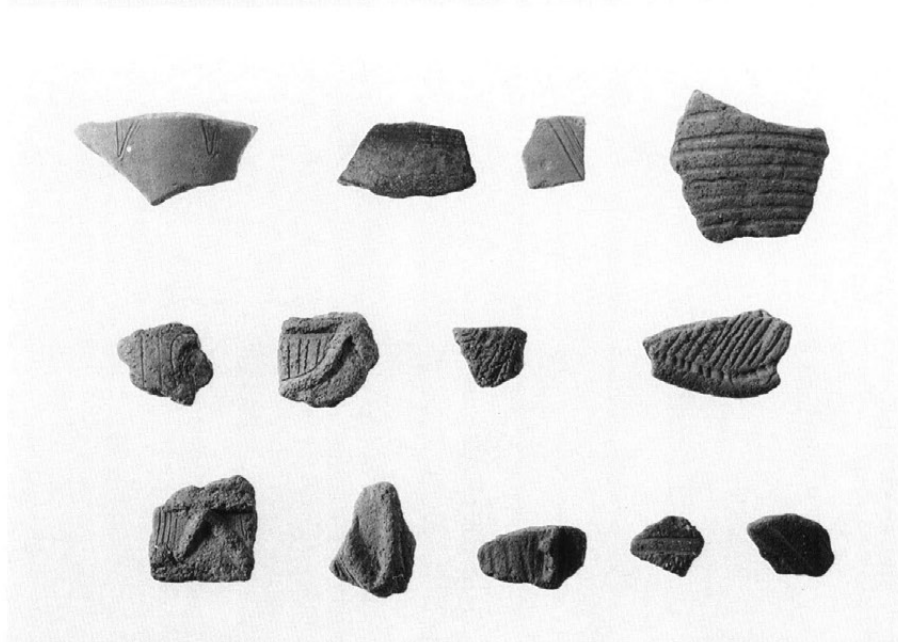
63号住居址出土遺物



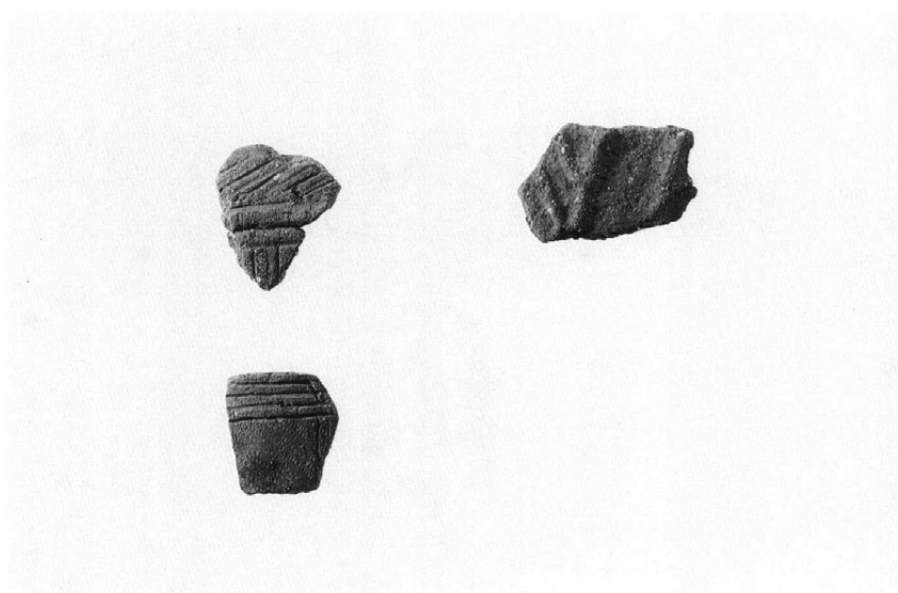
62号住居址出土遺物



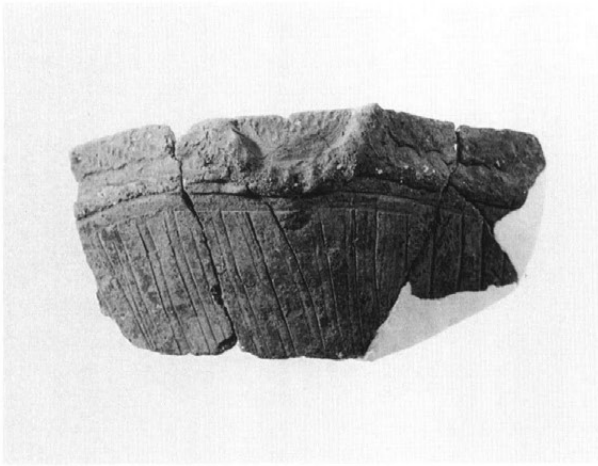
30号住居址出土遺物



30号住居址出土遺物



土坑147・182出土遺物



土坑184出土遺物



土坑190出土遺物



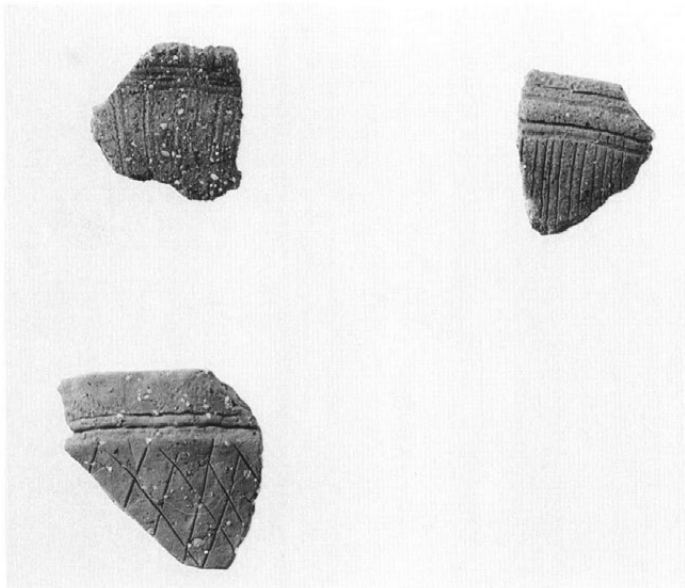
土坑191・196・199・220出土遺物



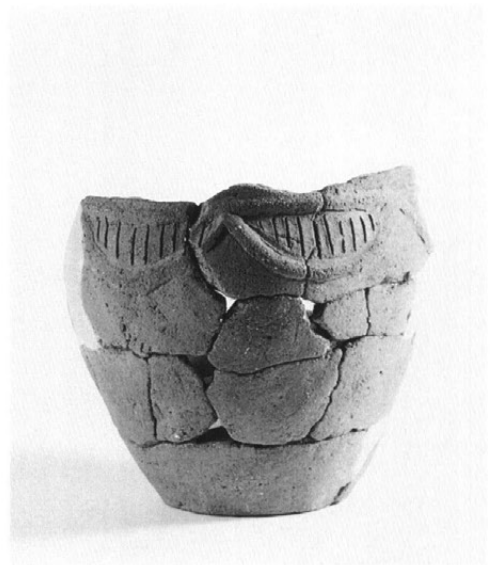
土坑221出土遺物



土坑221出土遺物



土坑260・287・307出土遺物



土坑300出土遺物

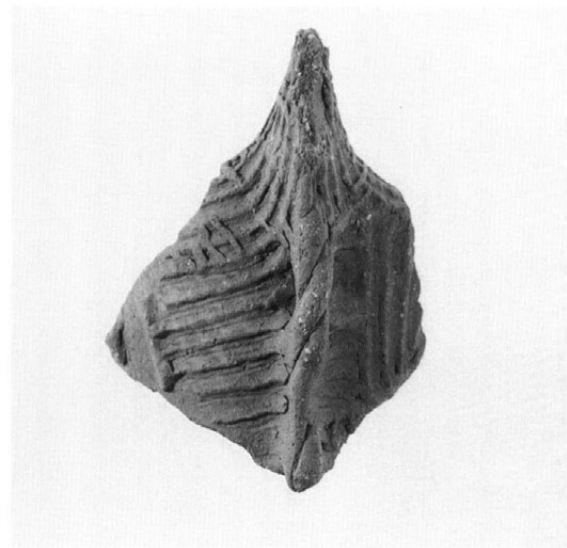


土坑332出土遺物



土坑331出土遺物

土坑398出土遺物



土坑408出土遺物

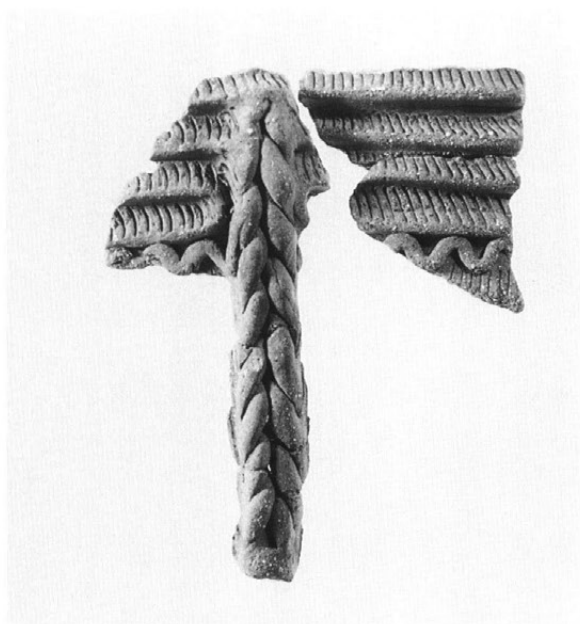
土坑438出土遺物



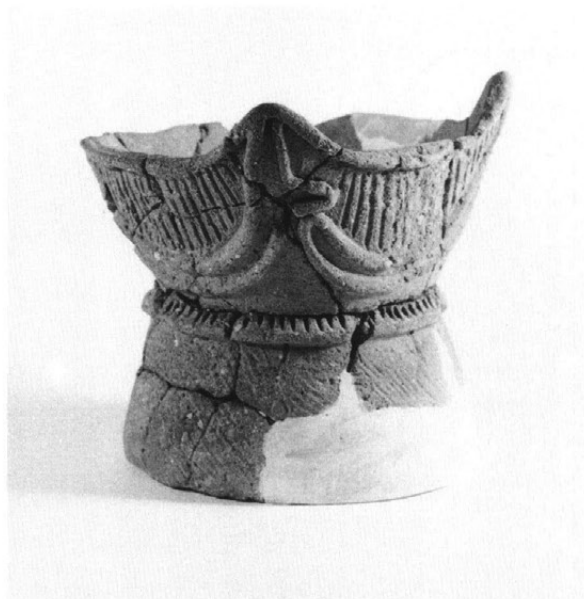
土坑447出土遺物



土坑410・429出土遺物



土坑471出土遺物



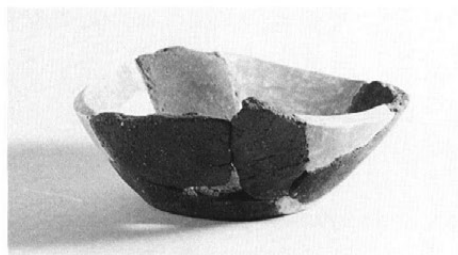
土坑488出土遺物



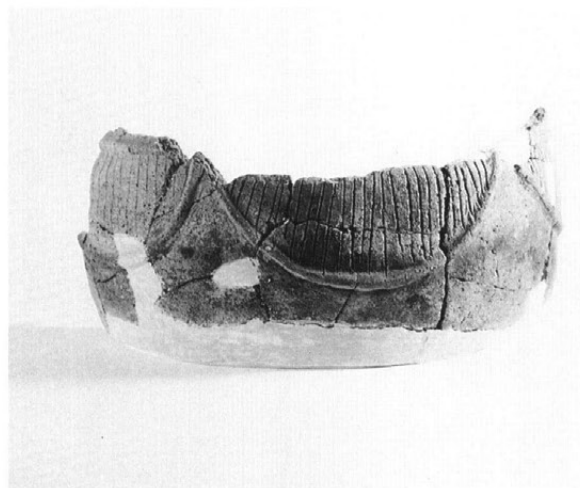
土坑496出土遺物



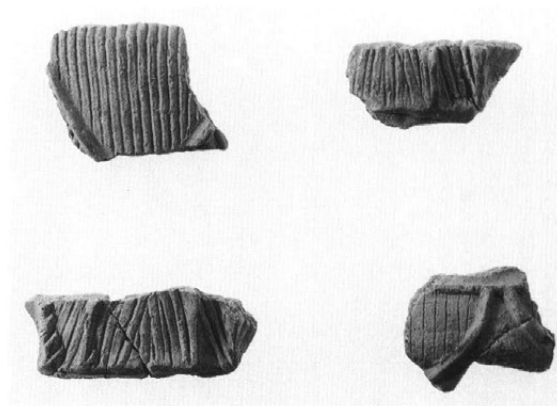
土坑497出土遺物



土坑497出土遺物



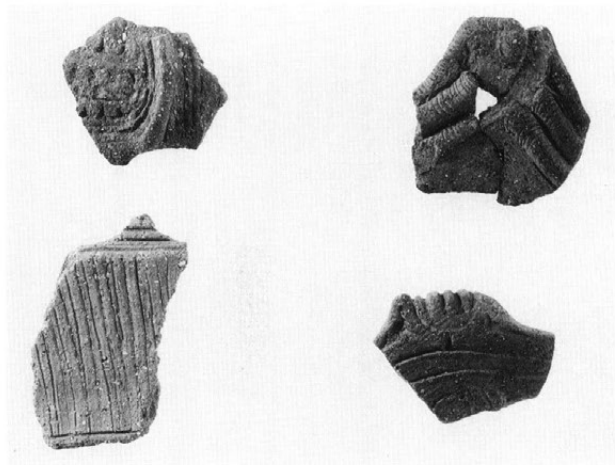
土坑504出土遺物



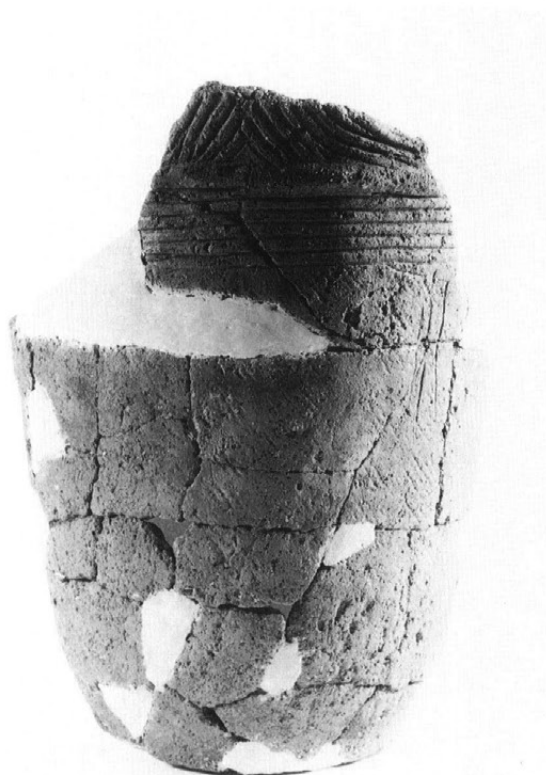
土坑504出土遺物



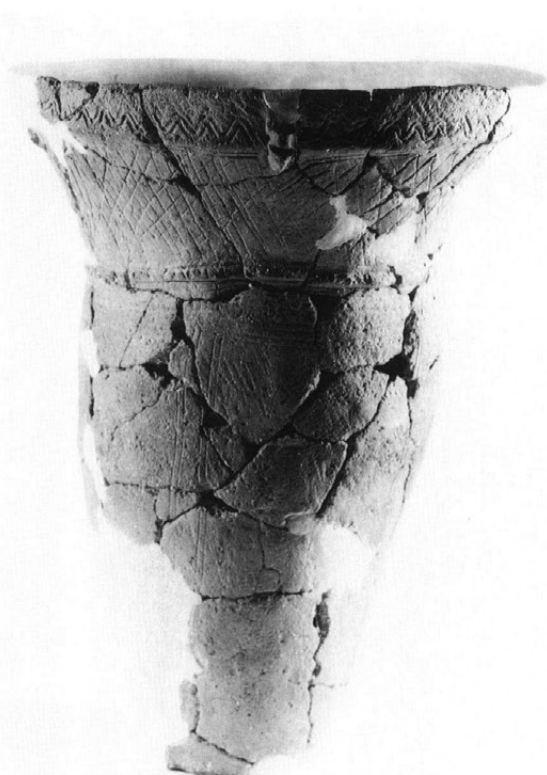
土坑504出土遺物



土坑516・522・525・528出土遺物



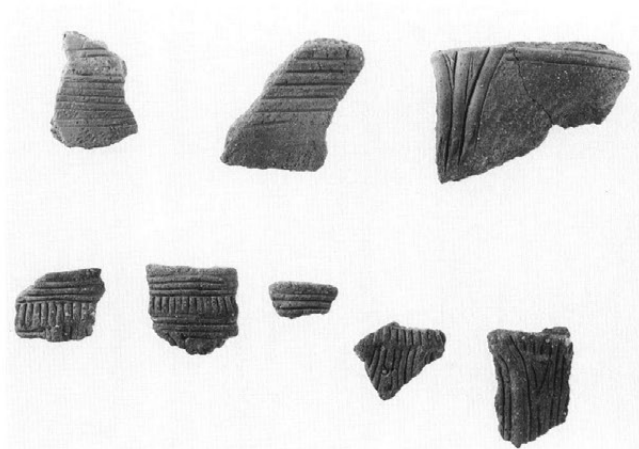
土坑516出土遺物



土坑546出土遺物



土坑529出土遺物



土坑546出土遺物



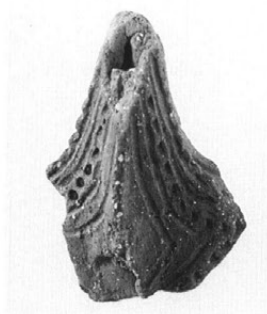
土坑566出土遺物



土坑566出土遺物



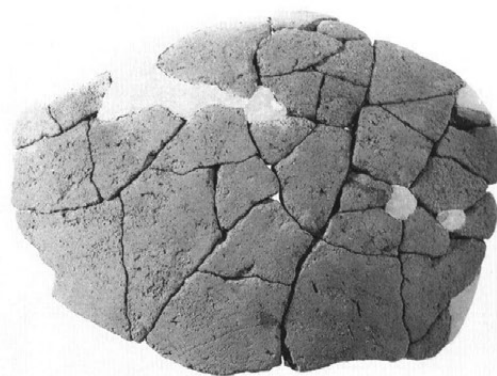
土坑571出土遺物



土坑574



土坑573



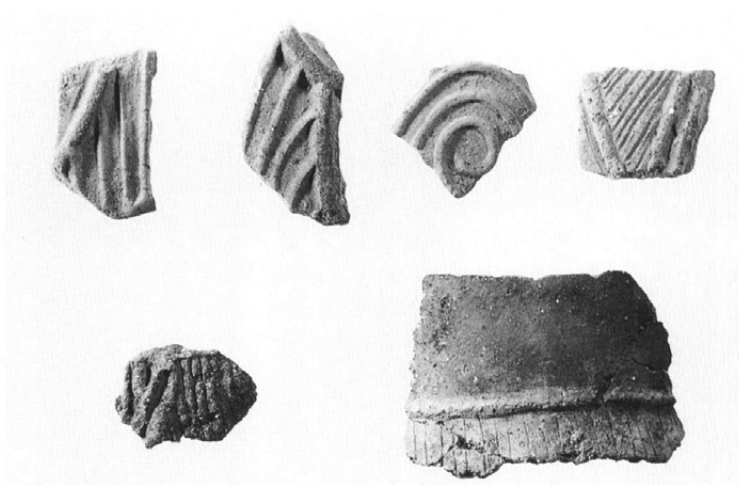
土坑615出土遺物



土坑587・590出土遺物

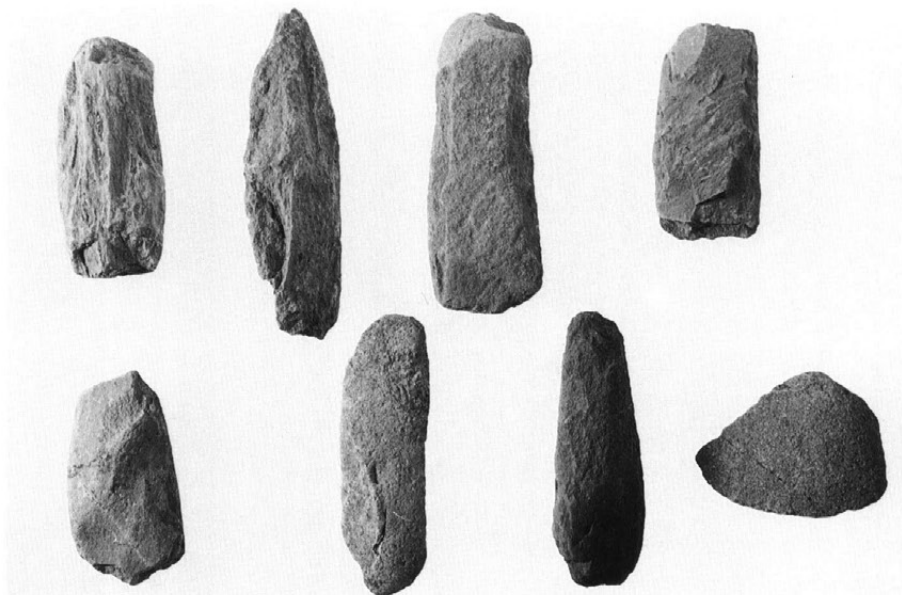


遺構外出土遺物

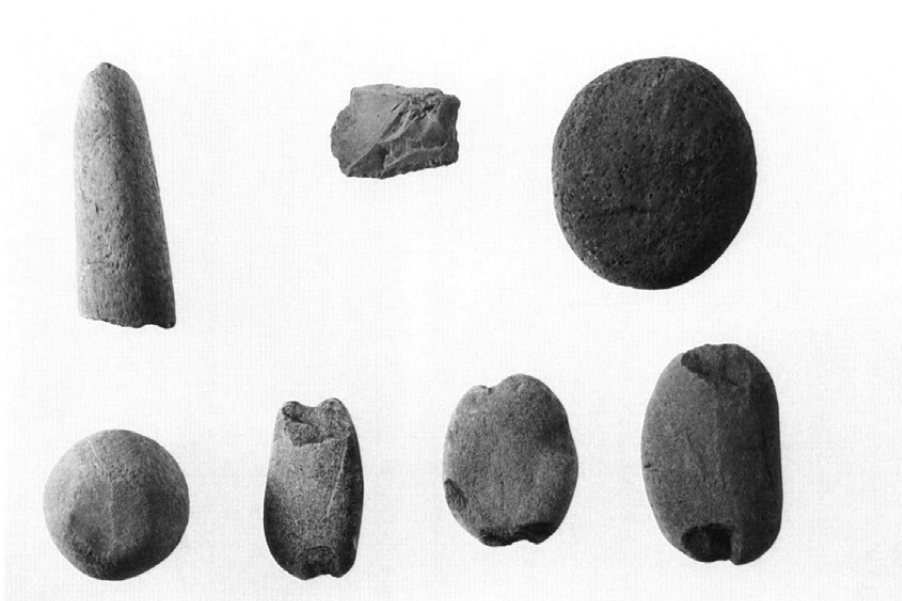


(左・上) 遺構外出土遺物

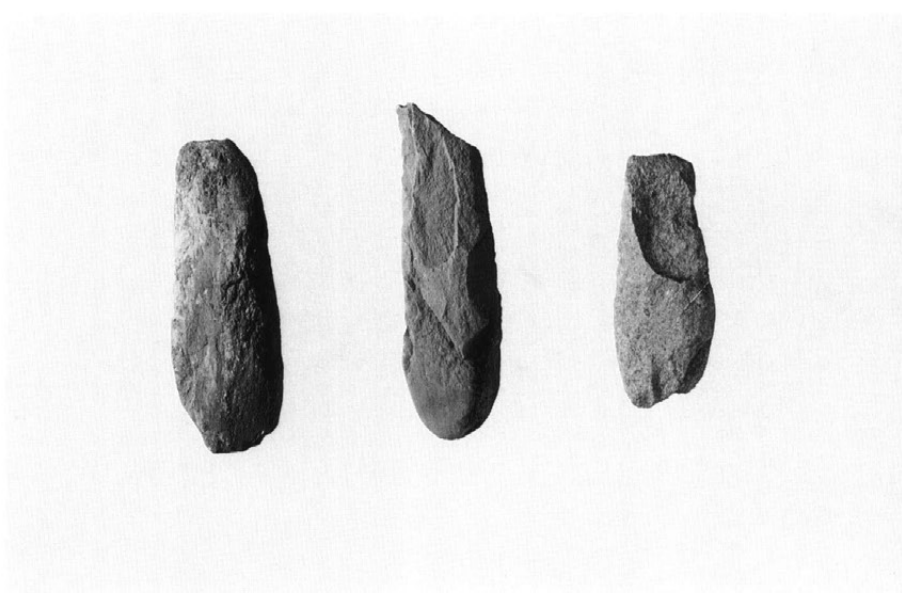




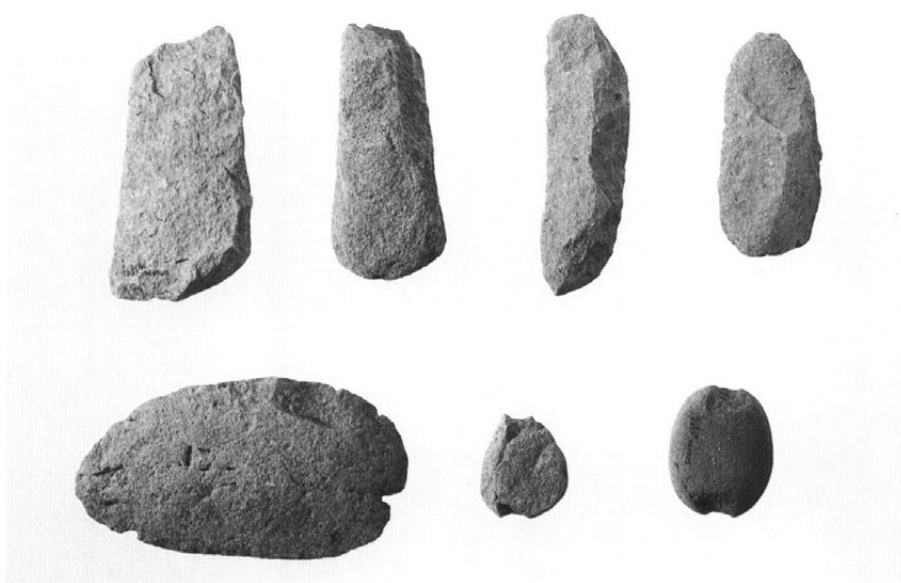
35号住居址出土遺物



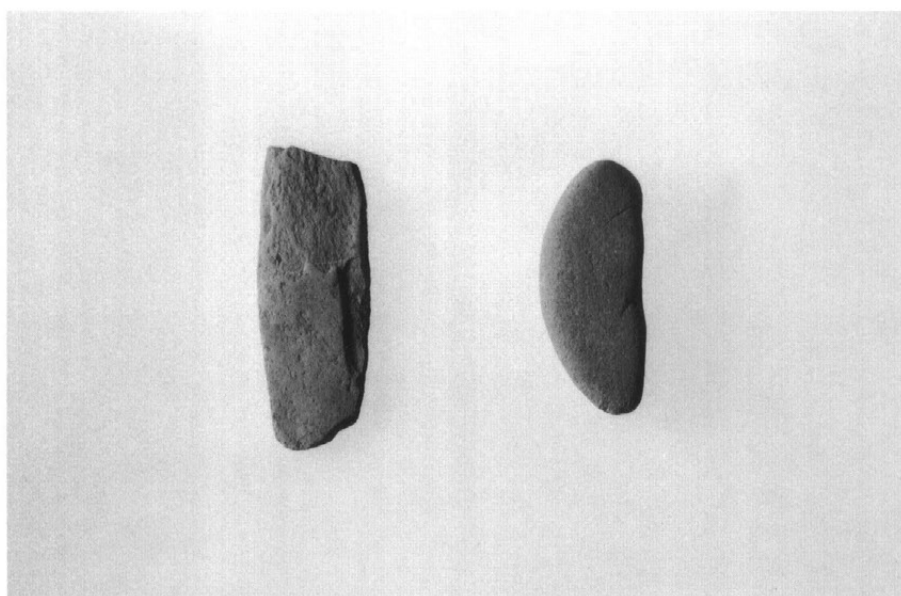
35号住居址出土遺物



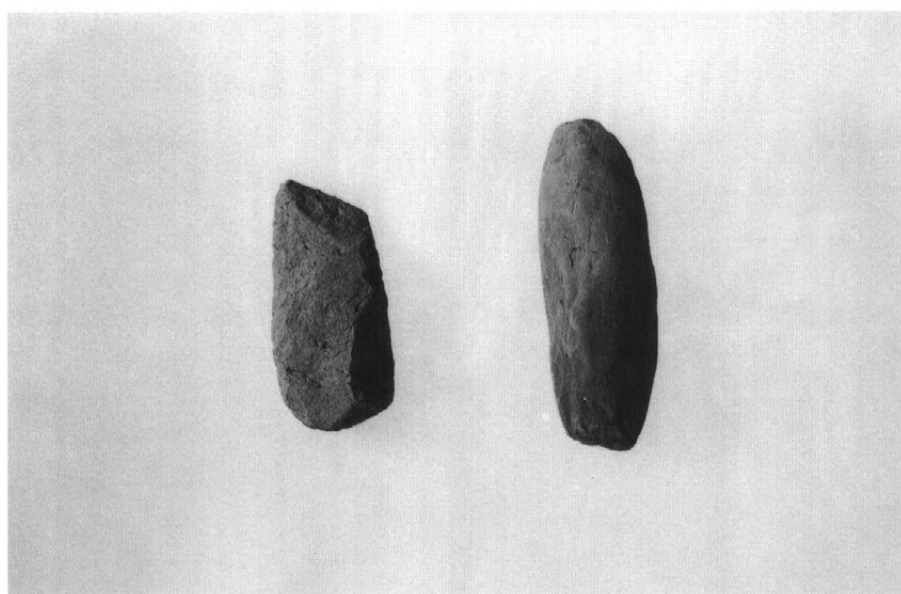
36号住居址出土遺物



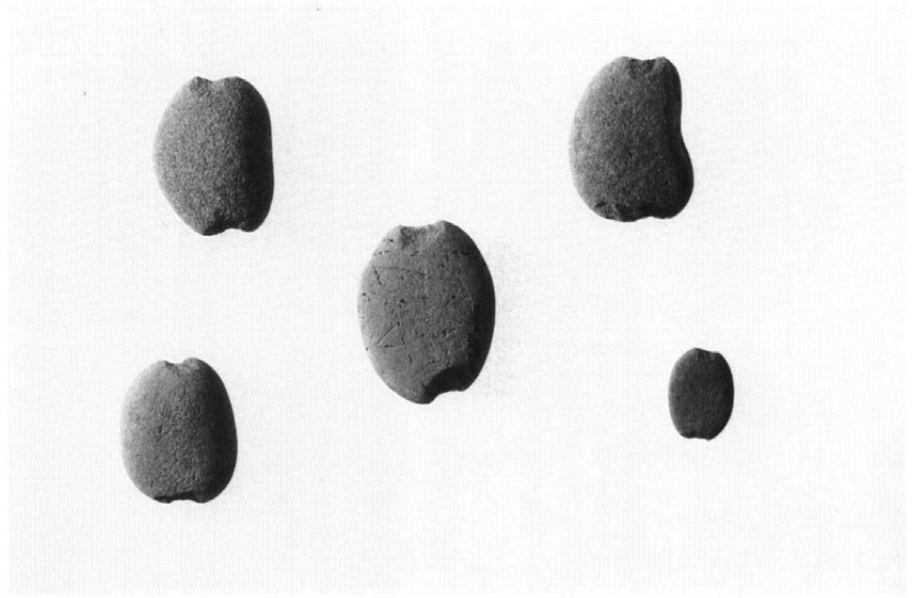
37号住居址出土遺物



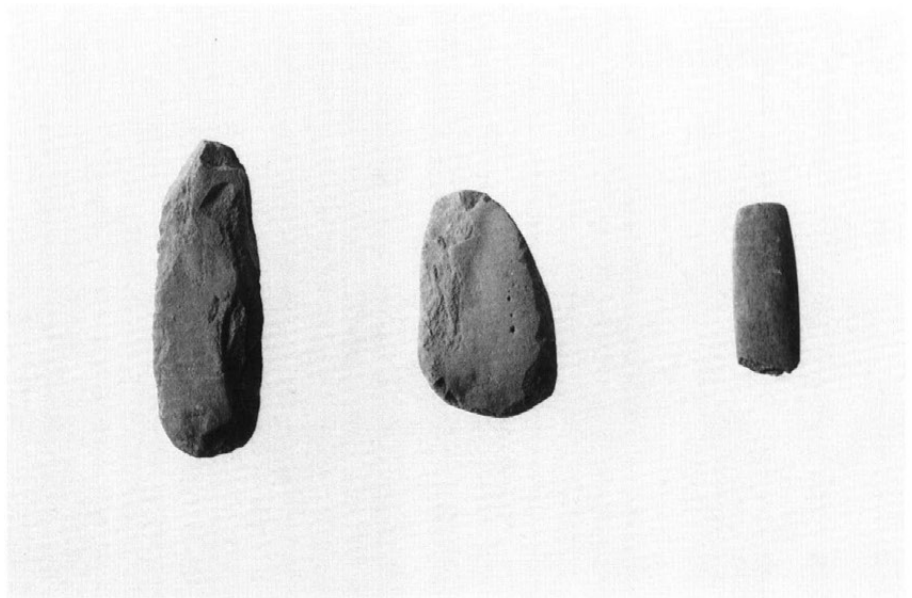
38号住居址出土遺物



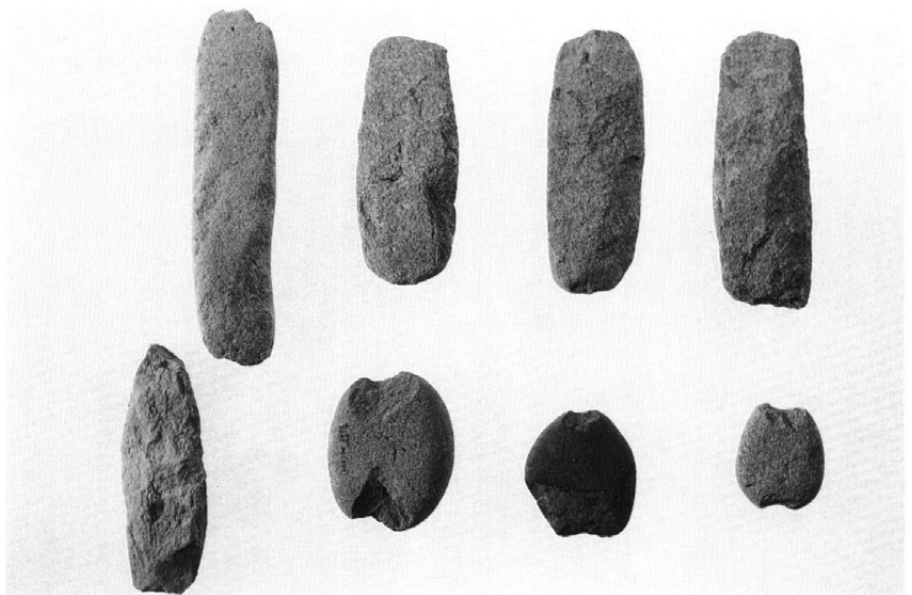
39号住居址出土遺物



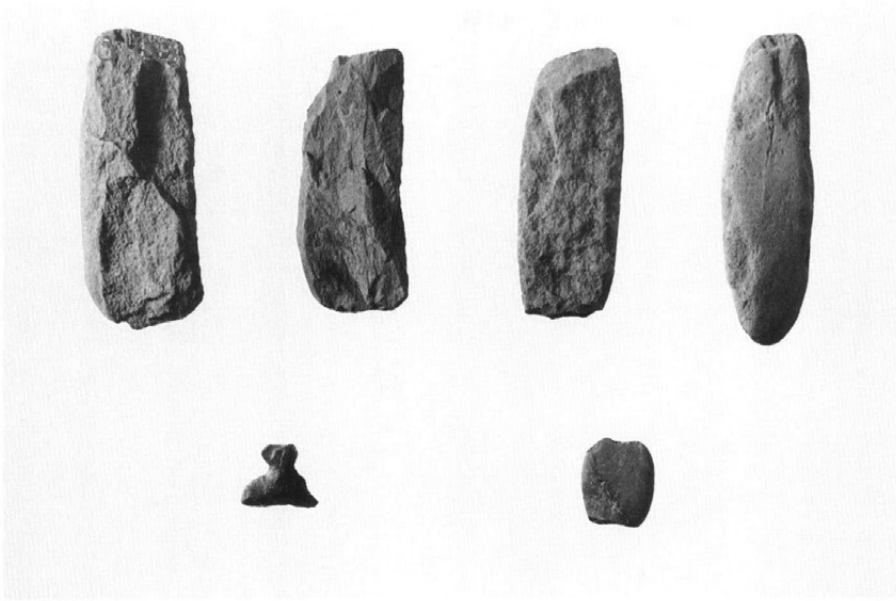
39号住居址出土遺物



41号住居址出土遺物



42号住居址出土遺物



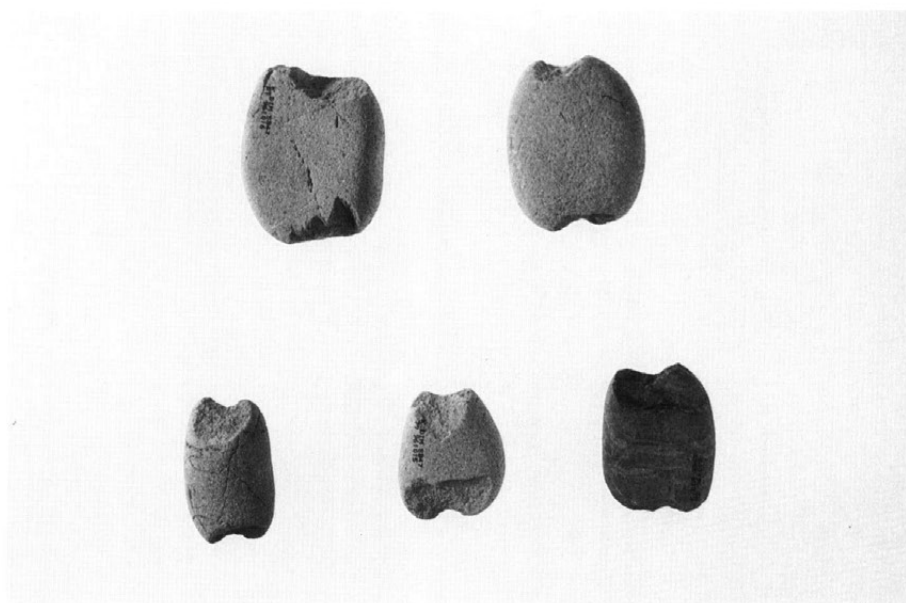
43号住居址出土遺物



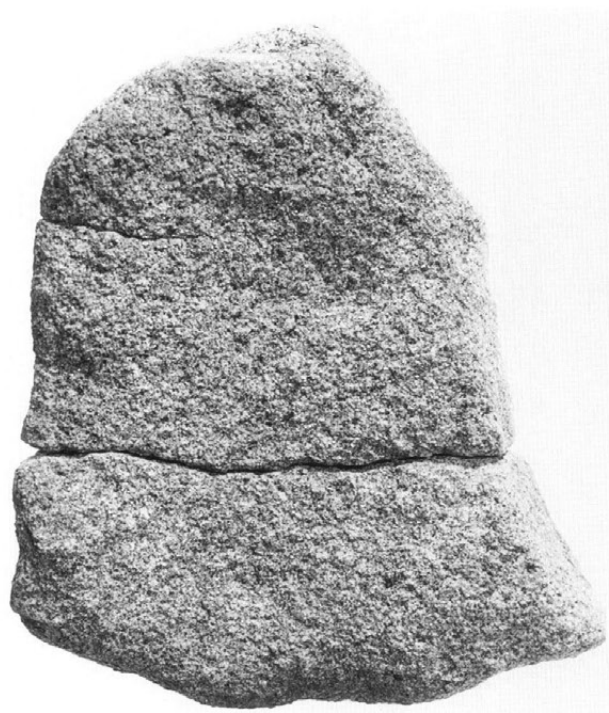
45号住居址出土遺物



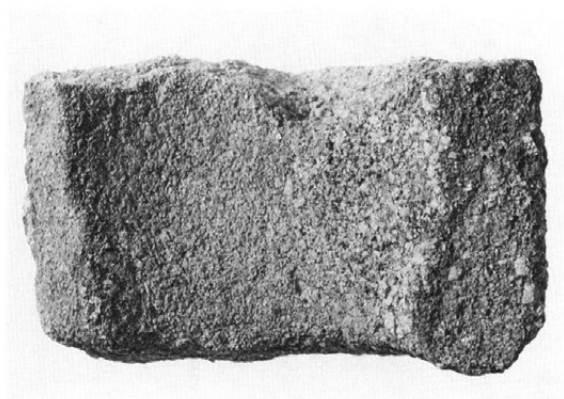
47号住居址出土遺物



47号住居址出土遺物



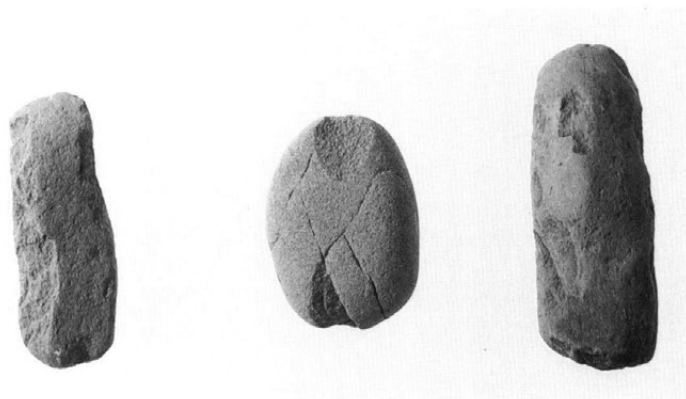
47号住居址出土遺物



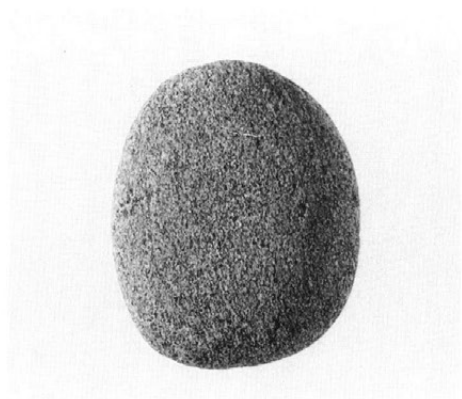
47号住居址出土遺物



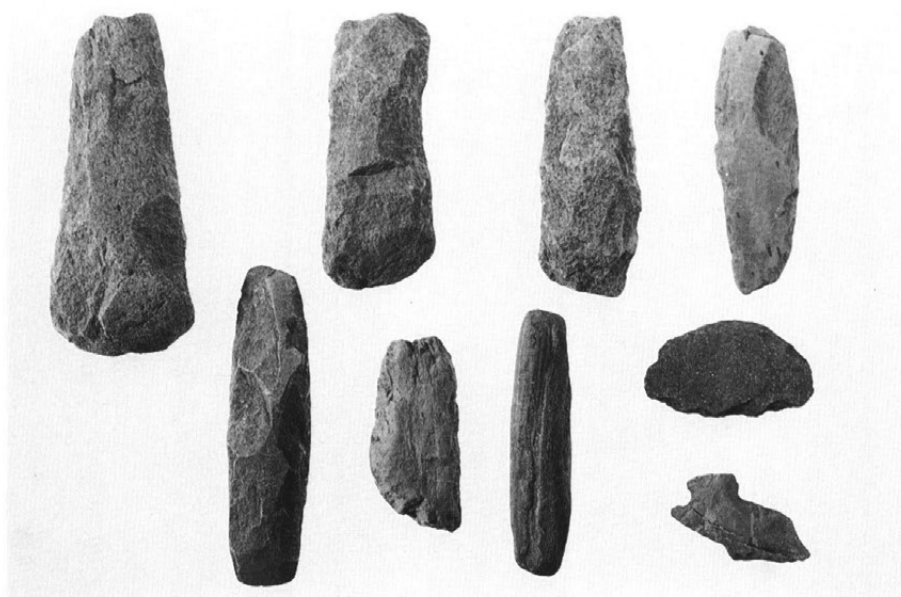
50号住居址出土遺物



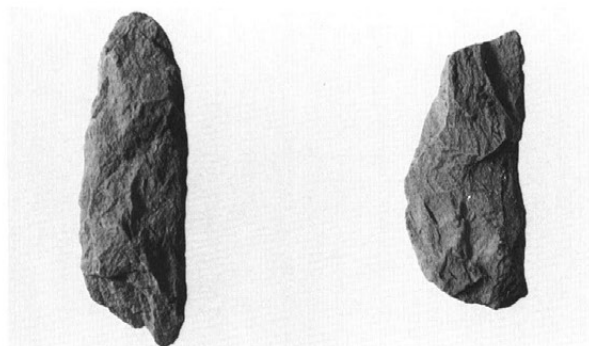
49号住居址出土遺物



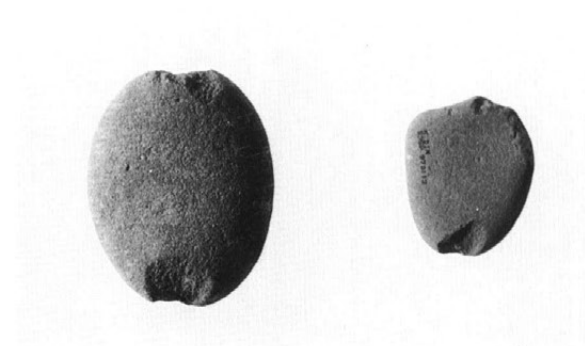
52号住居址出土遺物



54号住居址出土遺物



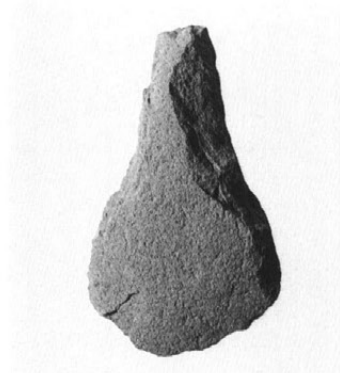
58号住居址出土遺物



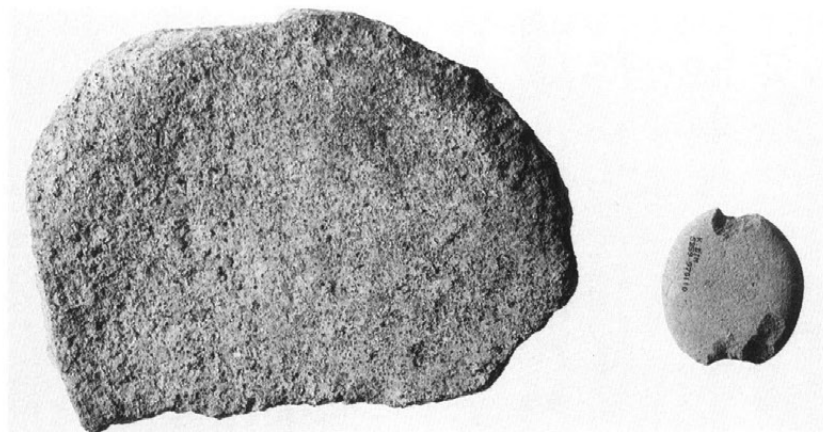
58号住居址出土遺物



59号住居址出土遺物



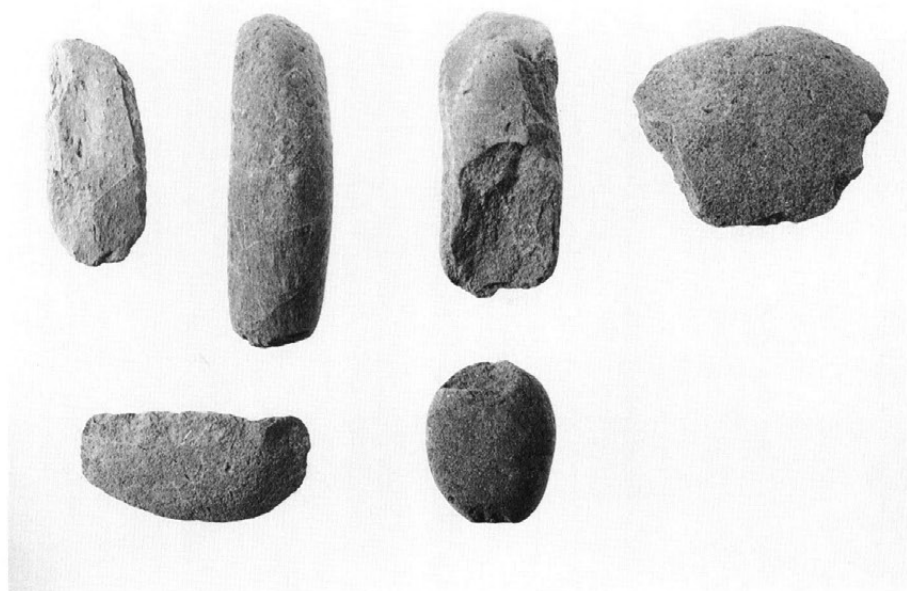
60号住居址出土遺物



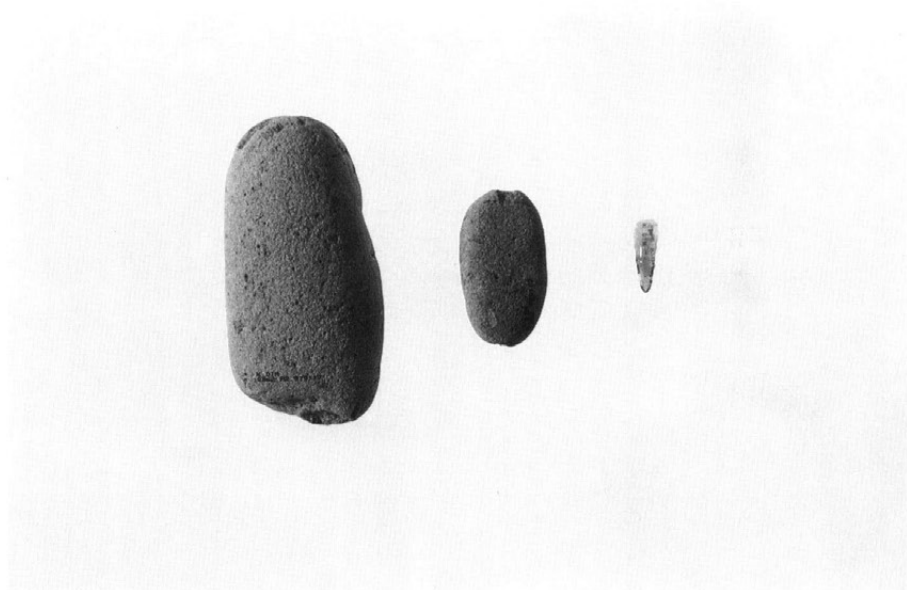
59号住居址出土遺物



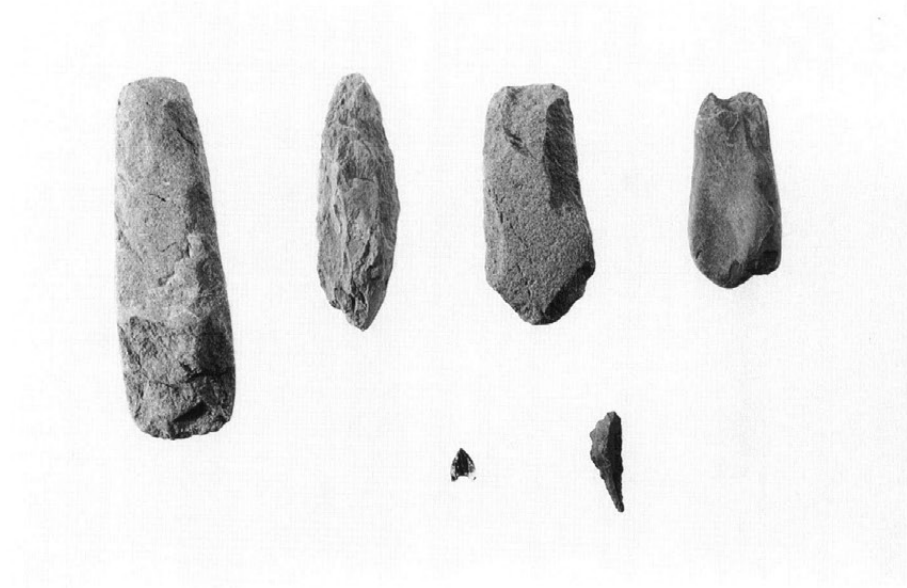
61号住居址出土遺物



63号住居址出土遺物



62号住居址出土遺物



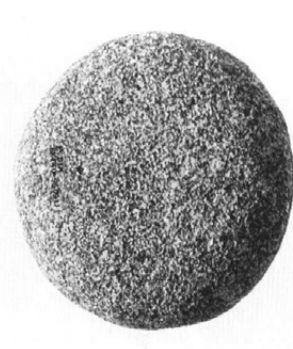
30号住居址出土遺物



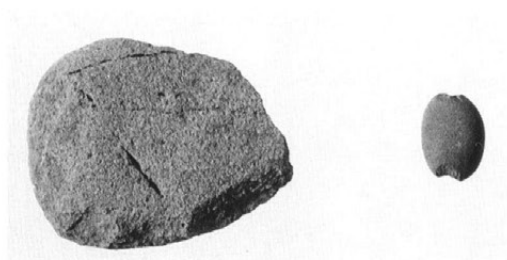
土坑132出土遺物



土坑134出土遺物



土坑140出土遺物



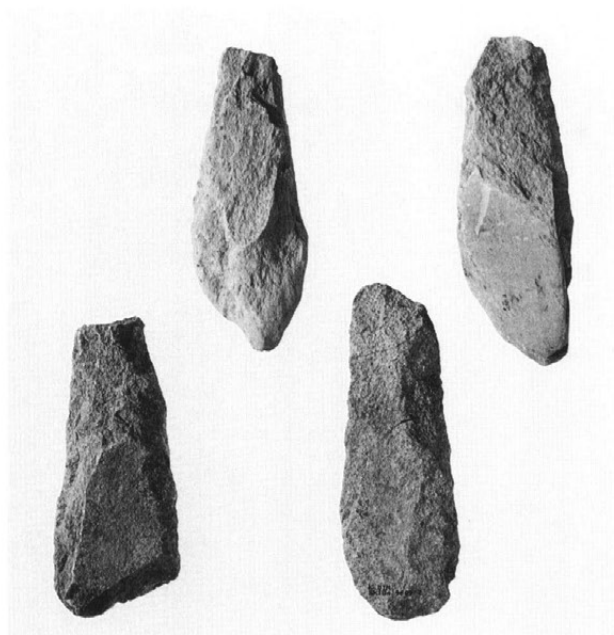
土坑151出土遺物



土坑170出土遺物



土坑187出土遺物



土坑170出土遺物



土坑188出土遺物



土坑198出土遺物



上： 土坑205出土

左： 土坑277出土

右： 土坑237出土



土坑191出土遺物



土坑263出土遺物



土坑287出土遺物



土坑287出土遺物

土坑293出土遺物



土坑294出土遺物

土坑290出土遺物

土坑298出土遺物



土坑300出土遺物



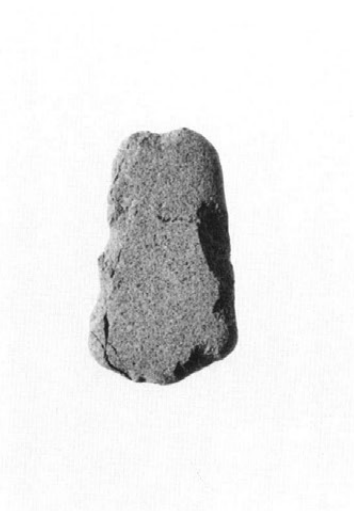
土坑304出土遺物



土坑309出土遺物



土坑311出土遺物



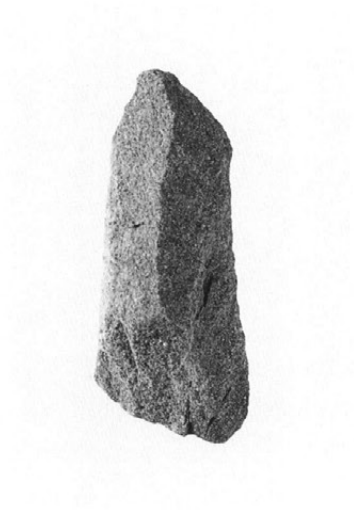
土坑312出土遺物



土坑319出土遺物



土坑398出土遺物



土坑404出土遺物



土坑407出土遺物



土坑411出土遺物



土坑426出土遺物



土坑437出土遺物



土坑447出土遺物



土坑457出土遺物



土坑465出土遺物



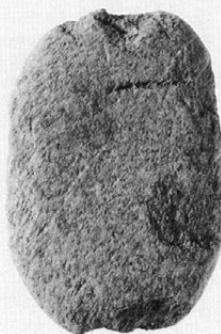
土坑473出土遺物



土坑476出土遺物



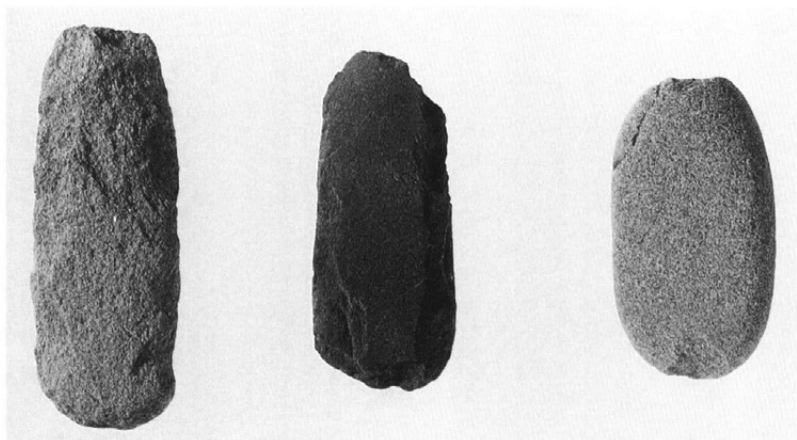
土坑482出土遺物



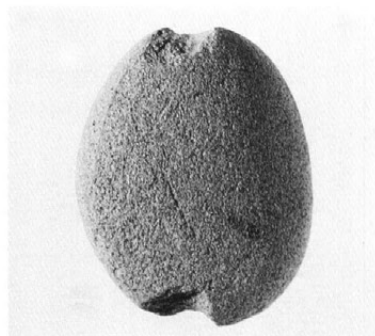
土坑494出土遺物



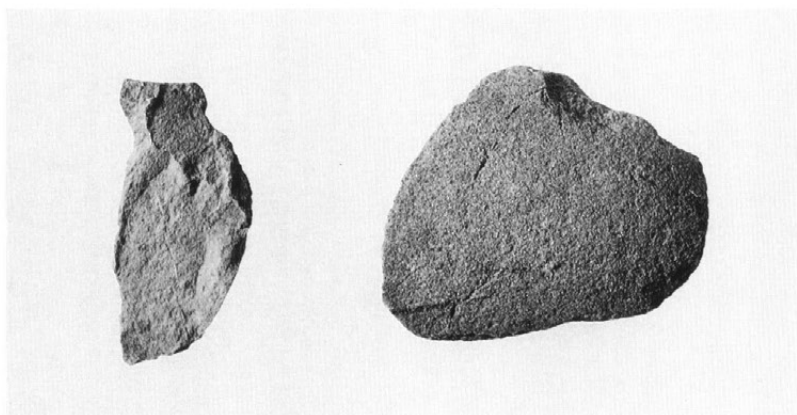
土坑499出土遺物



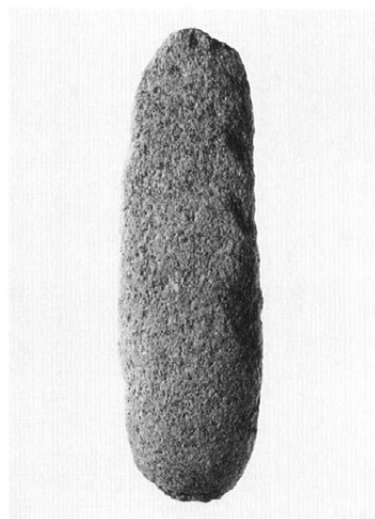
土坑516出土遺物



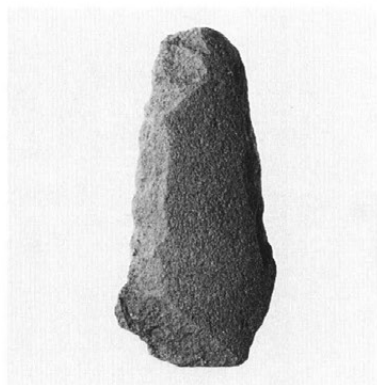
土坑521出土遺物



土坑522出土遺物



土坑534出土遺物



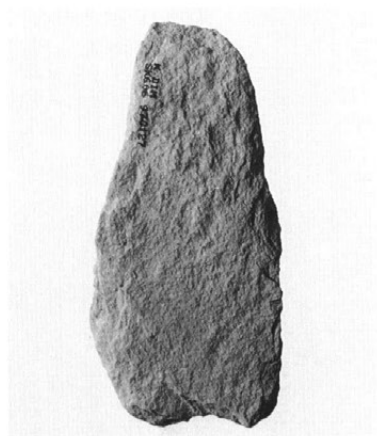
土坑568出土遺物



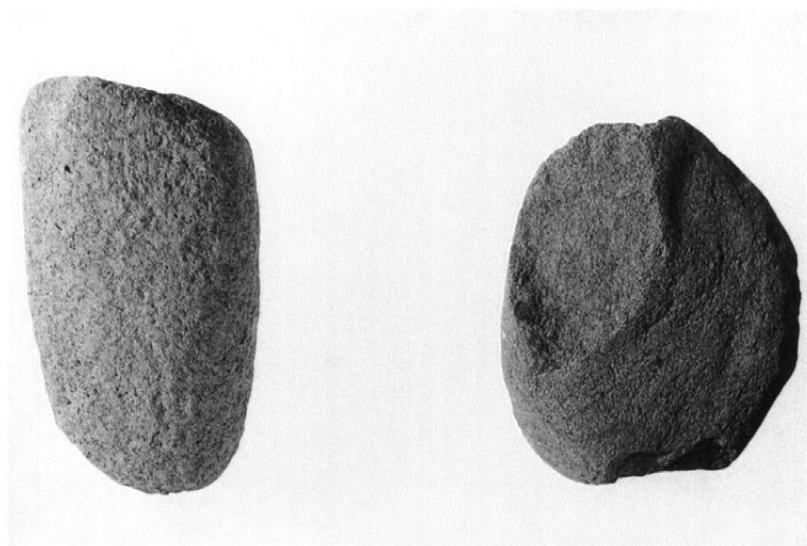
土坑587出土遺物



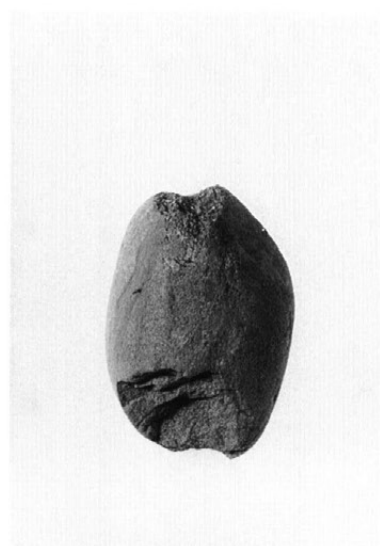
土坑603出土遺物



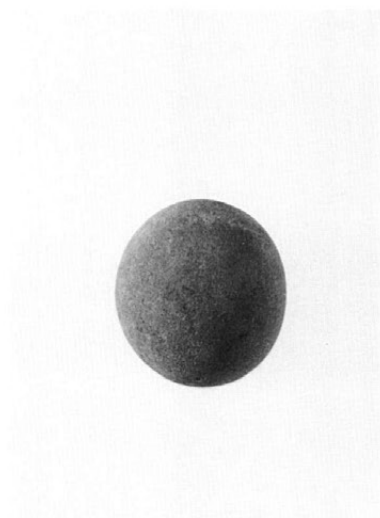
土坑606出土遺物



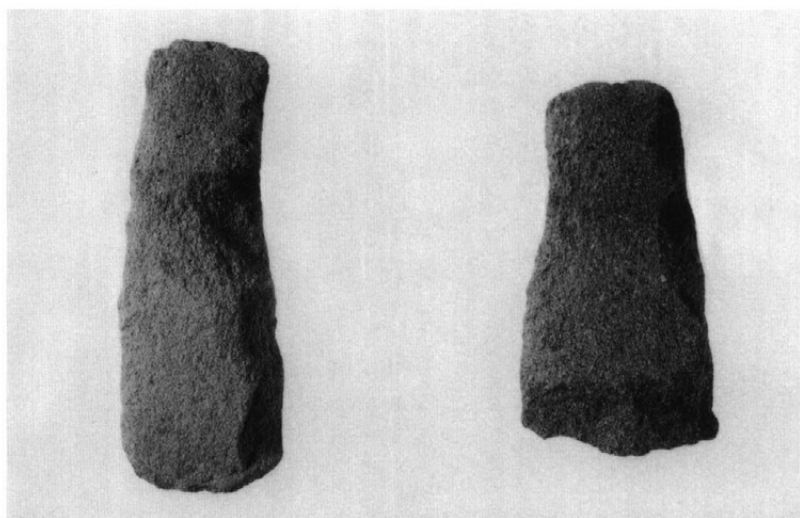
土坑606出土遺物



土坑610出土遺物



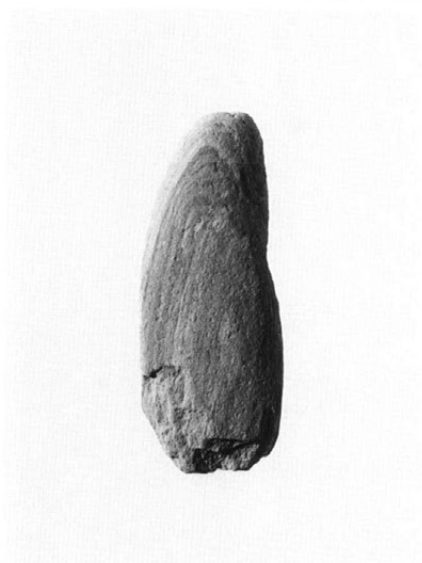
土坑613出土遺物



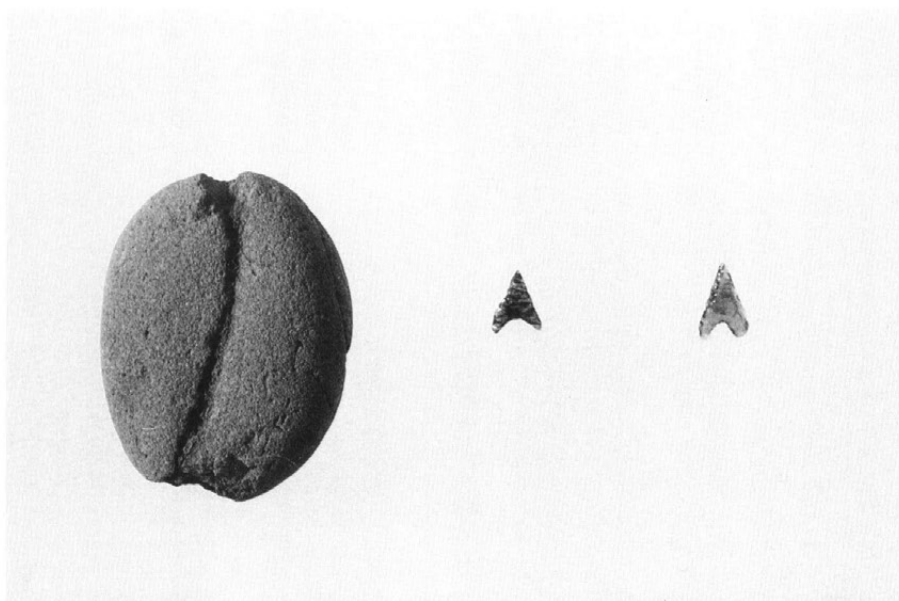
土坑616出土遺物



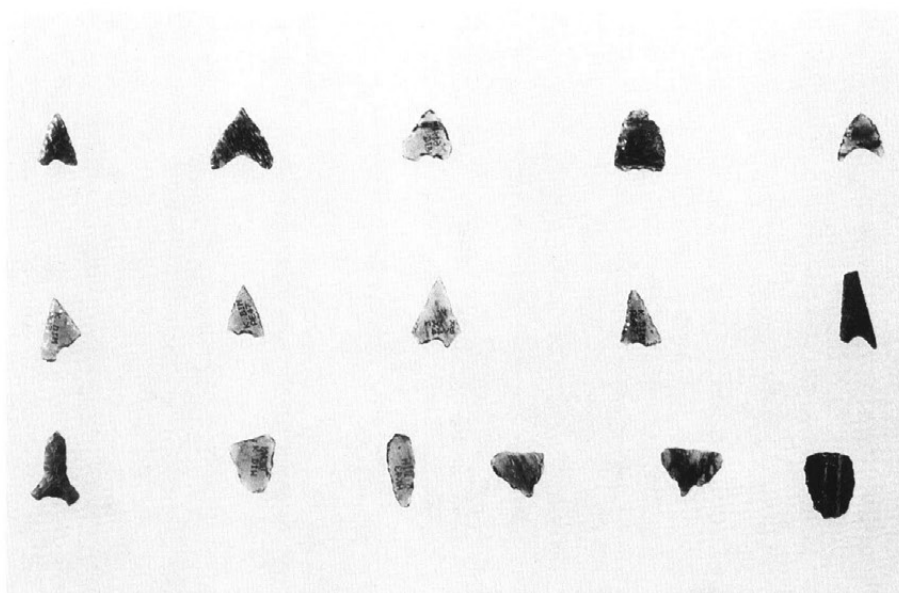
土坑617出土遺物



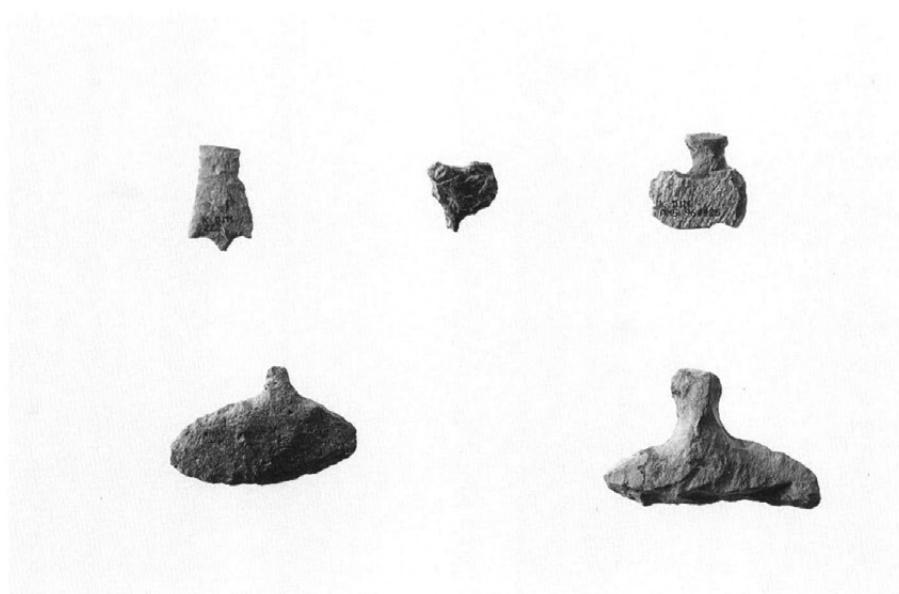
土坑618出土遺物



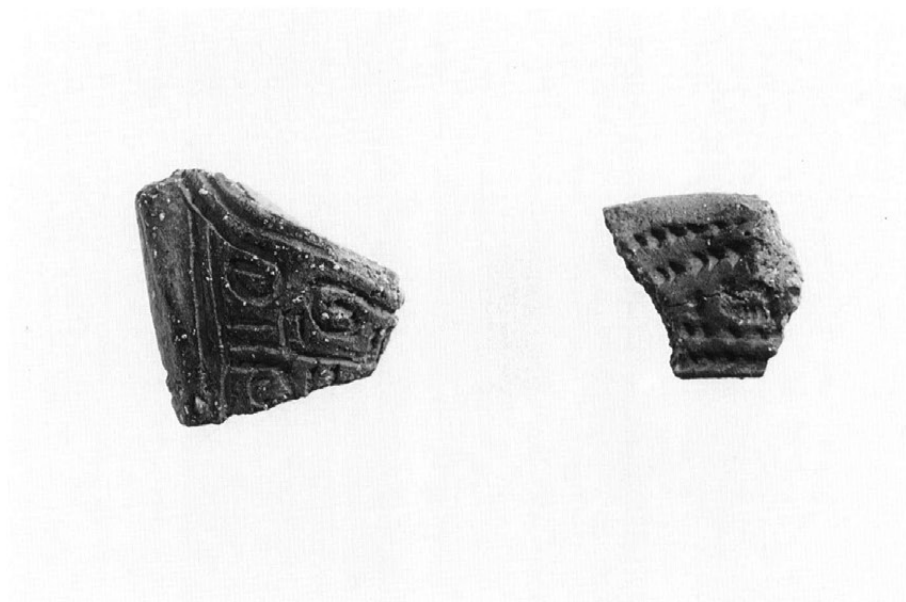
掘立柱建物址 1 出土遺物



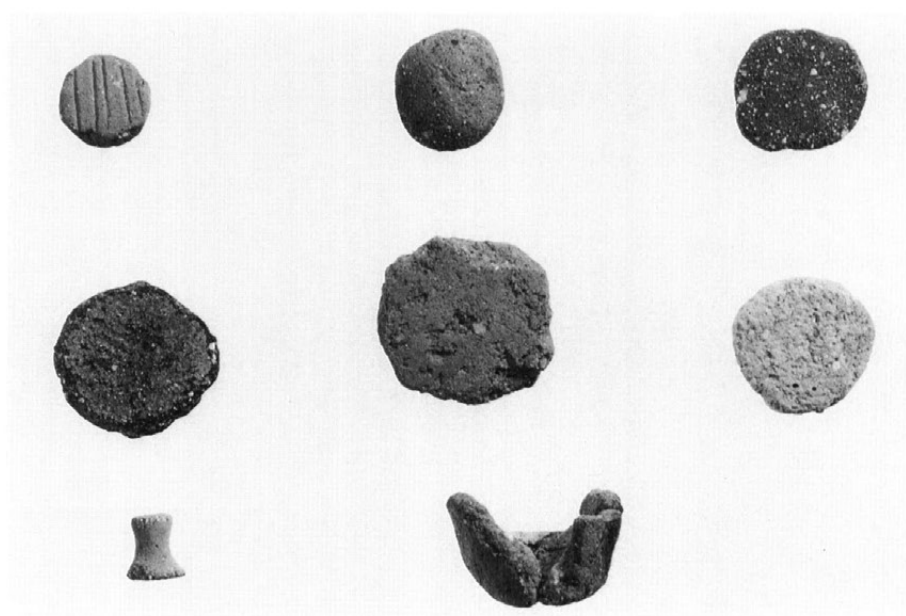
遺構外出土遺物



遺構外出土遺物



土 偶



土 製 品

V 付篇 黒田大明神原遺跡自然科学分析調査報告

—パリノ・サーヴェイ株式会社—

<目次>

はじめに	177
1. 層序と資料	177
2. 分析方法	179
(1) 放射性炭素年代測定	
(2) 材同定	
(3) 珪藻分析	
(4) 花粉分析	
(5) 植物珪酸体分析	
(6) 種実体同定	
3. 結果	181
(1) 出土材の放射性炭素年代値	
(2) 出土材の樹種	
(3) 珪藻化石の産状	
(4) 花粉化石の産状	
(5) 植物珪酸体の産状	
(6) 出土種実の種類	
4. 考察	194
(1) 堆積物の年代について	
(2) 堆積環境	
(3) 稲作に関する検討	
(4) 森林植生	
<引用文献>	196

< 図表・図版一覧 >

図 1 第 1 地点と第 2 地点の模式柱状図と分析試料採取層位

図 2 第 1 地点の主要珪藻化石群集

図 3 第 2 地点の主要珪藻化石群集

図 4 第 1 地点の主要花粉化石群集

図 5 第 2 地点の主要花粉化石群集

図 6 第 1 地点の植物珪酸体組成

図 7 第 2 地点の植物珪酸体組成

表 1 出土材の放射性炭素年代測定結果

表 2 第 1 地点と第 2 地点の珪藻分析結果

表 3 第 1 地点と第 2 地点の花粉分析結果

表 4 第 1 地点と第 2 地点の植物珪酸体分析結果

図版 1 珪藻化石

図版 2 花粉化石

図版 3 植物珪酸体

図版 4 木材・種実遺体

はじめに

黒田大明神原遺跡は、木曾山脈から延びる尾根に挟まれた野底川左岸の谷部に位置している。調査地点の景観は果樹園地帯に当たるが、以前は谷奥部に湧水があり、周囲はかなり湿地化していたとされる。

これまで、天竜川両岸で古環境復元に関する調査が行われているが、野底川流域では古環境変遷に関する調査例はこれまでに少なく、その情報について不明な点が多い。今回、本遺跡において重機による深掘り（試掘トレンチ）が行われ、堆積状態の観察と、試料を採取する機会が得られた。そこで、採取した試料（土壌、出土木材片、種実遺体）を用いて古環境復元を目的とした分析調査を実施した。このうち、堆積物の年代を把握するために放射性炭素年代測定、木材片の樹種を明らかにするために材同定、堆積環境を把握するために珪藻分析、稲作の消長および周辺の古植生に関する情報を得るために花粉分析と植物珪酸体分析、出土した種実の種類を明らかにするために種実遺体同定を行う。

1. 層序と試料

試掘は2ヶ所で行った（以下、第1地点および第2地点とする）。以下に、各地点で認められた層序と採取された試料について述べる（図1）。

・第1地点

試掘坑の土層断面では、整地された盛土の下位に、植物遺体を含む砂混じりシルト質粘土、砂層～砂礫層が認められる。砂礫層は、主に花崗閃緑岩で構成される。また、暗褐色を呈するやや腐植化した層が認められる。これら層相特徴から4層に分層される。

試料は各層から採取され、珪藻分析には試料番号2～3の3点、花粉分析および植物珪酸体分析には試料番号2・4の2点を選択した。また、2層から出土した木材片を放射性炭素年代測定と材同定、1層下部より出土した種実遺体を種実遺体同定試料とした。

・第2地点

試掘坑の土層断面では、整地された盛土の下位にシルト～シルト質粘土層が認められ、5層に区分される。5層の砂層は第1地点の砂層に対比される。また、1層からは近世以降の陶器が出土している。

試料は各層から採取され、珪藻分析には試料番号2・4・6の3点、花粉分析および植物珪酸体分析には試料番号2・4の2点を選択した。また、3層から出土した種実遺体を種実遺体同定、4層から出土した流木片を放射性炭素年代測定と材同定試料とした。

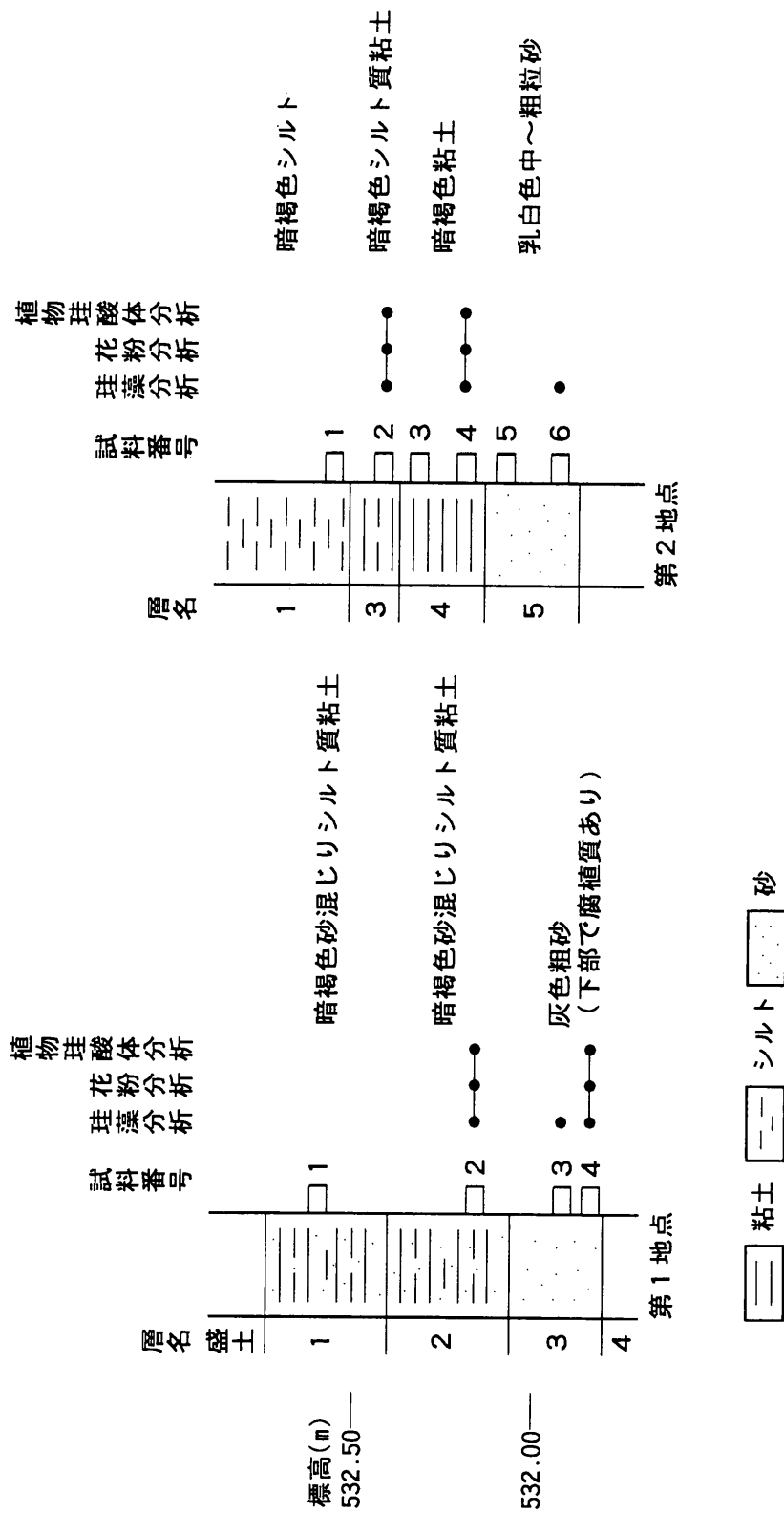


図1 第1地点と第2地点の模式柱状図と分析試料採取層位

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

a. 前処理

試料は、水でよく洗浄して表面の異物を取り除く。乾燥させ、粉碎した後に水酸化ナトリウム溶液で煮沸し、室温まで冷却する。傾斜法により水酸化ナトリウム溶液を除去するが、除去した水酸化ナトリウム溶液の色が薄い褐色になるまで繰り返す。

次に、塩酸を加えて煮沸し、室温まで冷却した後、傾斜法により塩酸を除去する。十分に水で洗浄した後、乾燥して蒸し焼き（無酸素状態で400℃に加熱）する。蒸し焼きにした試料は純酸素中で燃焼して二酸化炭素を発生させる。この二酸化炭素は捕集し、純粋な炭酸カルシウムとして回収する。

b. 測定試料の調製

前処理で得られた炭酸カルシウムから、真空状態で二酸化炭素、アセチレン、ベンゼンの順に合成する。最終的に得られた合成ベンゼン3 mlにシンチレーターを含むベンゼン2 mlを加えたものを測定試料とした。なお、合成ベンゼンが足りない場合は、市販の特級ベンゼンを足して3 mlとした。

c. 測定

測定は20回繰り返し（1回の測定時間50分間）、合計1,000分間行った。測定試料の他に、値が知られているスタンダード（標準）試料と自然計数を測定するブランク試料を一緒に測定した。

d. 計算

放射性炭素の半減期としてLIBBYの半減期5,570年を使用した。

(2) 材同定

剃刀の刃を用いて、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

(3) 珪藻分析

試料を湿重で7 g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下して乾燥させる。乾燥後、プリウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージで任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する。種の同定は、K. Krammer and Lange-Bertalot (1986・1988・1991a・1991b)、K. Krammer(1992)などを用いる。

同定結果は、海水生種、海水～汽水生種、淡水生種順に並べ、その中の各種類はアルファベッ

ト順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種についてはさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度（pH）・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種についてはその内容を示す。そして、産出個体数100個体以上の試料については、産出率2%以上の主要な種類について、主要珪藻化石の層位分布図を作成する。また、産出した化石が現地性の化石か他の場所から運搬・堆積した異地性の化石かを判断する目安として完形殻の出現率を求めて考察の際に考慮した。堆積環境の解析にあたっては、水生珪藻については安藤（1990）、陸生珪藻については伊藤・堀内（1991）、汚濁耐性については、Asai, K. & Watanabe, T.（1995）の環境指標種を参考とする。

（4）花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛：比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉍物質の除去、アセトリシス処理（無水酢酸：濃硫酸=9：1）の順に物理・化学的処理を施し、花粉化石を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査して、出現する全ての種類について同定・計数する。

結果は検出される種類とその検出個数の一覧表で示す。また、木本花粉が100個体以上検出された試料については、百分率で出現率を算出し花粉化石組成図を作成する。出現率の算出は、木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類胞子は総花粉・孢子数から不明花粉を除いたものを基数として用いる。図表中で複数の種類をハイフオンで結んだものは、種類間の区別が困難なものである。

（5）植物珪酸体分析

湿重5g前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理（70W, 250KHz, 1分間）、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム, 比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥する。乾燥後、プリユラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定・計数する。

結果は、検出される種類とその検出個数の一覧表で示す。また、検出された種類の出現率を百分率で算出し、植物珪酸体組成図を作成する。出現率の算出は、短細胞珪酸体、機動細胞珪酸体それぞれの総数を基数として用いる。

（6）種実遺体同定

試料約300ccに、数%の苛性ソーダ水溶液を加えて一昼夜放置し、試料を泥化させる。0.5mmの篩を通して水洗し、残渣を集める。残渣を双眼実体顕微鏡で観察し、種実遺体を抽出・同定する。

試料は種類毎に分けて、硼酸と硼砂を混ぜた水溶液中に保存する。

3. 結果

(1) 出土材の放射性炭素年代値

結果を、表 1 に示す。いずれの試料も、現代に近い値である。

表 1 出土材の放射性炭素年代測定結果

試料	性状	年代値 年前	誤差		Lab No.
			+	-	
第 1 地点 出土材	木	MODERN	-	-	PAL-84
第 2 地点 流木	木	MODERN	-	-	PAL-85

注. (1)年代値：1,950年を基点とした値。年代値と測定限界年代（自然計数の3σに相当する年代値）の差が2σより小さいとき測定限界年代より大きいとして測定限界年代に>を付して表示した。また、基点との差が誤差2σより小さいとき基点より小さいとしてMODERNと表示した。

(2)誤差：測定誤差2σ（測定値の95%が入る範囲）を年代値に換算した値。

(3)PAL：パトリ・サーウェイ（株）で測定。

(2) 出土材の樹種

第 1 地点出土材はトネリコ属、第 2 地点出土材はクリにそれぞれ同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で孔圏部は 1～4 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。柔組織は周囲状および短接線状。

・トネリコ属 (*Fraxinus*) モクセイ科

環孔材で孔圏部は 1 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減する。道管壁は厚く、横断面では円形～楕円形、単独または 2 個が複合、複合部はさらに厚くなる。道管は単穿孔を有し、壁孔は小型で密に交互状に配列する。放射組織は同性、1～2細胞幅、1～15細胞高。

(3) 珪藻化石の産状

結果を表 2 と図 2・3 に示す。珪藻化石は、第 1 地点の試料番号 2・3 と第 2 地点の試料番号 2 から産出するが、その他の 3 試料は少ないか無化石である。化石が産出した試料の完形殻の出現率は、60%以上で比較的良い。産出種の全ては淡水生種から構成され、産出分類群数は 20 属 89 種類である。以下に、珪藻化石群集の特徴を地点別に述べる。

・第 1 地点

試料番号 3（3層）でみられる淡水生種の生態的特徴は、貧塩嫌塩性種、真+好酸性種、真+好止水性種が優占することである。産出種の中では、池沼や河川などの水域にも、陸上の湿り気のある好気的環境にも生育する陸生珪藻の B 群（伊藤・堀内，1991）の *Eunotia preaerupta* が約

表2 第1地点と第2地点の珪藻分析結果(1)

種 類	生 態 性			環 境 指標種	第1地点			第2地点		
	塩分	pH	流水		2	3	4	2	4	6
Achnanthes oblongella Ostrup	Ogh-ind	ind	ind	T	-	9	-	-	-	-
Amphora ovalis var. affinis (Kuetz.)V.Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	U	2	-	-	10	-	-
Aulacoseira ambigua (Grun.)Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	N	20	-	-	18	-	-
Aulacoseira laevisissima (Grun.)Krammer	Ogh-hob	ac-il	l-ph		2	-	-	-	-	-
Caloneis silicula (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	1	-	-
Cocconeis placentula (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	1	-	-
Cymbella amphioxys (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	ind	l-ph		9	-	-	12	1	-
Cymbella cuspidata Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind		2	-	-	7	-	-
Cymbella gracilis (Ehr.)Kuetzing	Ogh-ind	ind	l-ph	T	17	-	-	15	-	-
Cymbella leptoceros (Ehr.)Kuetzing	Ogh-ind	al-bi	l-ph	T	-	-	-	1	-	-
Cymbella naviculiformis Auerswald	Ogh-ind	ind	ind	O	15	1	-	20	-	-
Cymbella perpusilla A.Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph		3	-	-	2	-	-
Cymbella pusilla Grunow	Ogh-hil	al-il	ind		1	-	-	-	-	-
Cymbella silesiaca Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	T	13	-	-	34	-	-
Cymbella subaequalis Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	O, T	2	-	-	7	-	-
Cymbella tumida (Breb. ex Kuetz.)V.Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	-	1	-	-
Cymbella turgidula var. nipponica Skvortzow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	1	-	-	-	-	-
Diploneis ovalis (Hilse)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		1	-	-	-	-	-
Diploneis parma Cleve	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	8	-	-
Eunotia arcus Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph		1	1	-	1	-	-
Eunotia arcus var. bidens Grunow	Ogh-ind	ac-il	l-ph		18	-	-	2	-	-
Eunotia bilunaris (Ehr.)Mills	Ogh-hob	ac-il	l-ph		1	-	-	-	-	-
Eunotia duplicoraphis H. Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	12	-	-	-	-
Eunotia faba (Ehr.)Grunow	Ogh-hob	ac-il	l-ph		1	-	-	-	-	-
Eunotia fallax A.Cleve	Ogh-hob	ac-bi	ind	RA	1	-	-	-	-	-
Eunotia flexuosa (Breb.)Kuetzing	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	1	1	-	1	-	-
Eunotia implicata Noepel & Lange-Bertalot	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	2	-	-	-	-
Eunotia incisa W. Smith ex Gregory	Ogh-hob	ac-il	ind	O	1	2	-	-	-	-
Eunotia monodon var. asiatica Skvortzow	Ogh-hob	ac-il	ind		-	1	-	-	-	-
Eunotia pectinalis var. minor (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	3	8	-	-	-	-
Eunotia praerupta Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RB, O, T	3	40	-	-	-	-
Eunotia praerupta var. bidens Grunow	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RB, O	-	2	-	-	-	-
Eunotia pseudotridentula H. Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	ind		1	-	-	-	-	-
Eunotia serra Ehrenberg	Ogh-hob	ac-bi	l-bi	P	3	-	-	-	-	-
Eunotia spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	11	1	-	-	-
Fragilaria capucina Desmazieres	Ogh-ind	al-il	ind	T	1	-	-	-	-	-
Fragilaria capucina var. gracilis (Oestr.)Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	1	-	-	-	-	-
Fragilaria construens (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	-	-	1	-	-
Fragilaria construens fo. venter (Ehr.)Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	1	-	-	2	-	-
Fragilaria exigua Grunow	Ogh-ind	ind	l-ph		1	-	-	-	-	-
Frustulia rhomboides var. saxonica (Rabh.)De Toni	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	3	-	-	-	-	-
Gomphonema acuminatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	1	-	-	1	-	-
Gomphonema angustatum (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	-	-	-	-	-
Gomphonema gracile Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O, U	13	2	-	2	-	-
Gomphonema minutum (Agardh)Agardh	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	1	-	-	-	-	-
Gomphonema parvulum Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	7	-	-	6	-	-
Gomphonema parvulum var. lagenula (Kuetzing)Frenguelli	Ogh-ind	ind	r-ph	S	-	-	-	1	-	-
Gomphonema pseudosphaerophorum H. Kobayasi	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	-	2	-	-
Gomphonema pumilum (Grun.)Reichardt & Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	1	-	-
Hantzschia amphioxys (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA, U	-	2	-	-	-	-
Navicula angusta Grunow	Ogh-ind	ac-il	ind	T	3	-	-	-	-	-
Navicula elginensis (Greg.)Ralfs	Ogh-ind	al-il	ind	O, U	-	-	-	1	-	-
Navicula pupula Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	S	1	-	-	-	-	-
Navicula pupula var. rectangularis (Greg.)Grunow	Ogh-ind	ind	ind		1	-	-	-	-	-
Neidium ampliatum (Ehr.)Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph		2	-	-	-	-	-
Neidium bisulcatum (Lagerst.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	RI	1	-	-	-	-	-
Neidium iridis (Ehr.)Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-bi	O	3	-	-	1	-	-
Pinnularia acrosphaeria W. Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	O	-	-	-	6	-	-
Pinnularia braunii (Grun.)Cleve	Ogh-hob	ac-bi	l-ph		2	-	-	-	-	-
Pinnularia brebissonii (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	U	1	-	-	3	-	-

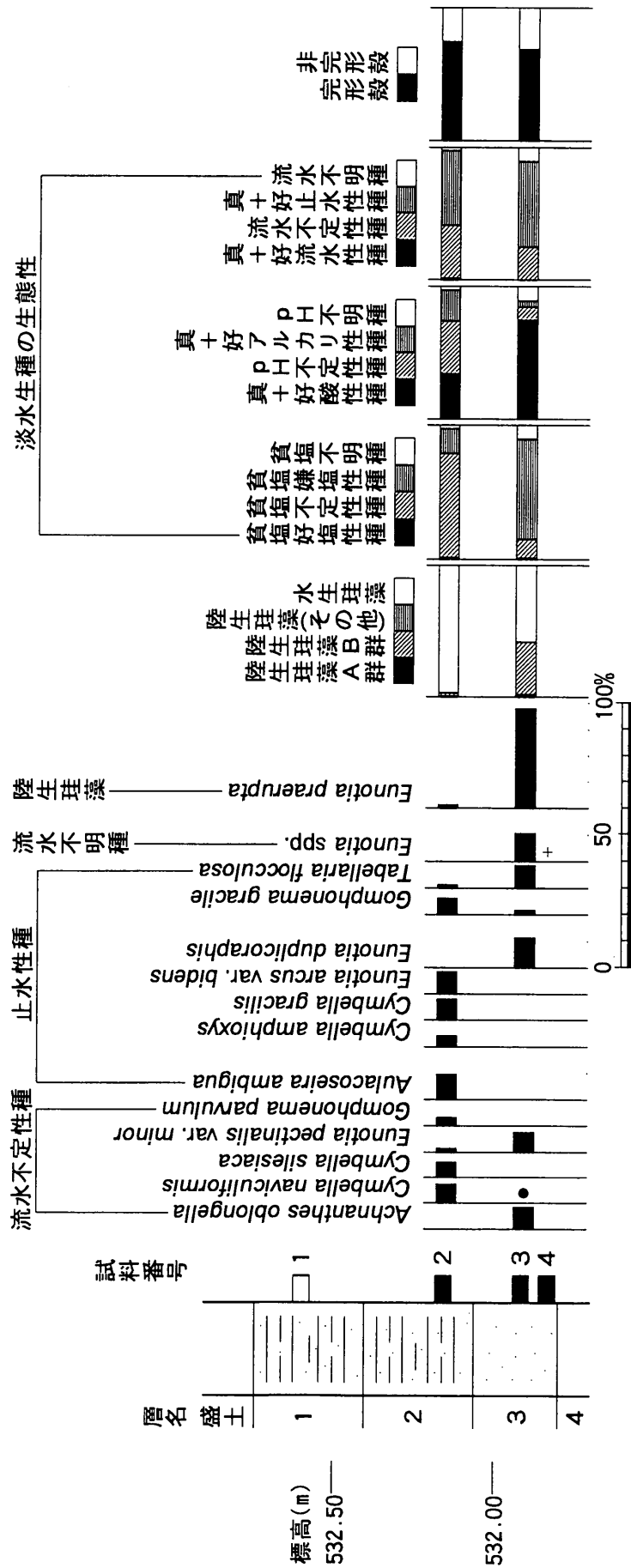


図2 第1地点の主要珪藻化石群集
 海水-汽水-淡水性種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水性種の比率は淡水性種の合計を
 基数として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は1%未満、+は100個
 体未満の試料について検出した種類を示す。

40%と優占し、次いで流水不定性の *Achnanthes oblongella*、*Eunotia pectinalis* var. *minor*、*E. duplicoraphis*、*Tabellaria flocculosa* が10%前後と多産する。優占種の *E. preaerupta*、流水不定性の *E. pectinalis* var. *minor* は、沼よりも浅く水深が1 m前後で、一面に水生植物が繁茂するような沼沢やさらに水深の浅い湿地に生育する沼沢湿地付着生種群（安藤，1990）でもある。また、多産した *E. duplicoraphis* は、Kobayasi et. al (1980) により新潟県の牛池で新種記載された種で、本邦の湖や池、沼沢などに生育する。光学顕微鏡で観察すると、両蓋殻端部にある極節が少しずれた位置にある極裂と合わさって、あたかも二つの極裂があるように見える特殊な構造を有する珪藻である。

試料番号2（2層）では、試料番号3で優占した *Eunotia preaerupta* が少なくなり、流水不定性の *Cymbella naviculiformis*、*C. silesiaca*、真止水性の *Aulacoseira ambigua*、好止水性の *Cymbella gracilis*、*Eunotia arcus* var. *bidens*、*Gomphonema gracile* が約10%産出する。このうち、*Cymbella naviculiformis*、*Gomphonema gracile* は、沼沢湿地付着生種群、*Aulacoseira ambigua* は湖沼における浮遊性種としても沼沢湿地における付着性種としても優勢に出現するが、それ以外の水域では稀な種で、湖沼や沼沢湿地の環境を指標する可能性の大きい湖沼沼沢湿地指標種群の一種である。

・第2地点

試料番号2（3層）での淡水生種の生態的特徴は、貧塩不定性種、pH不定性種と真+好アルカリ性種、流水不定性種と真+好止水性種が優占あるいは多産することである。産出種の特徴は、流水不定性の *Cymbella silesiaca* が約20%と優占し、同じ生態性の *Cymbella naviculiformis*、真止水性で湖沼沼沢湿地指標種である *Aulacoseira ambigua*、好止水性の *Cymbella amphioxys*、*C. gracilis* が10%と多産することである。このうち、*Cymbella naviculiformis* は、沼沢湿地付着生種群の一種である。

（4）花粉化石の産状

結果を表3と図4・5に示す。以下に、各地点の産状を述べる。

・第1地点

花粉・孢子化石の保存状態は、試料番号2（2層）は良好で検出化石数も多いが、試料番号4は不良である。木本花粉ではハンノキ属が多産し、マツ属複雑管束亜属、ツガ属、コナラ属コナラ亜属などを伴う。ハンノキ属を除く木本花粉の組成は、第2地点の試料番号2（3層）によく似ている。

草本花粉ではイネ科が多産し、次いでカヤツリグサ科が多く検出される。ソバ属の花粉化石が検出される。

・第2地点

花粉・孢子化石の保存状態は、試料番号2（3層）は良好で検出化石数も多いが、試料番号4

表3 第1地点と第2地点の花粉分析結果

種 類	試料番号	第1地点		第2地点	
		2	4	2	4
木本花粉					
モミ属		4	-	2	-
ツガ属		24	2	34	1
マツ属		29	5	77	1
コウヤマキ属		3	-	-	-
スギ属		3	-	-	-
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科		11	-	4	-
ヤマモモ属		3	-	9	-
サワグルミ属		2	-	3	-
クルミ属		2	-	1	-
クマシデ属-アサダ属		6	1	11	-
カバノキ属		6	-	11	-
ハンノキ属		132	-	23	-
ブナ属		5	-	15	-
コナラ属コナラ亜属		29	3	38	-
コナラ属アカガシ亜属		9	1	12	-
クリ属-シイノキ属		3	1	-	-
ニレ属-ケヤキ属		3	6	9	-
ブドウ属		6	-	-	-
ツツジ科		-	-	1	-
イボタノキ属		1	-	-	-
スイカズラ属		-	-	1	-
草本花粉					
オモダカ属		1	-	1	-
イネ科		82	9	276	-
カヤツリグサ科		27	-	27	-
ユリ科		2	-	-	-
クワ科		2	-	-	-
タデ属		1	-	-	-
ソバ属		1	-	19	-
アカザ科		-	-	1	-
ナデシコ科		1	-	-	-
マメ科		3	-	-	-
アリノトウグサ属		1	-	19	-
セリ科		1	1	-	-
オミナエシ属		-	-	8	-
マツムシソウ属		-	-	1	-
ヨモギ属		11	3	3	-
他のキク亜科		2	2	2	-
タンポポ亜科		6	-	8	-
不明花粉		-	1	2	-
シダ類孢子		53	171	57	4
合 計					
木本花粉		281	19	251	2
草本花粉		141	15	365	0
不明花粉		0	1	2	0
シダ類孢子		53	171	57	4
総計(不明を除く)		475	205	673	6

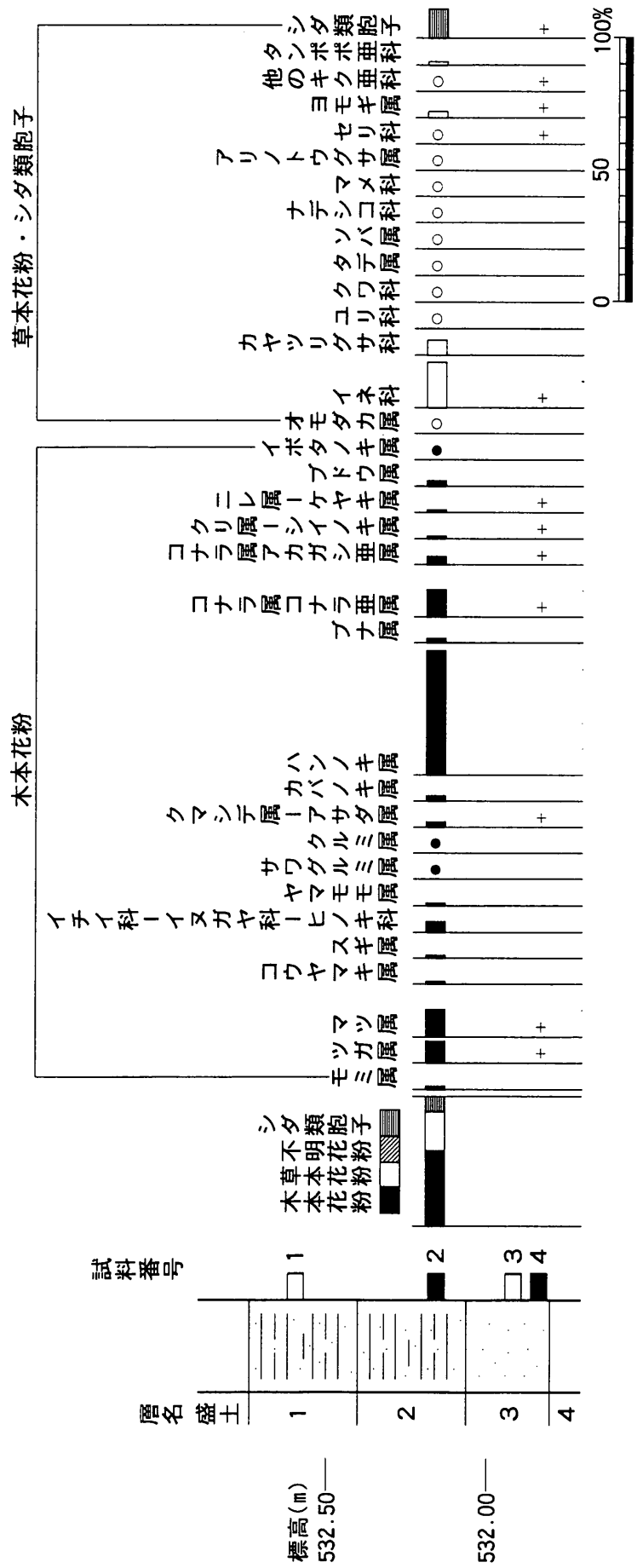


図4 第1地点の主要花粉化石群集
出現率は、木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類孢子は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で産出した。なお、○●は1%未満、+は木本花粉100個体未満の試料について検出した種類を示す。

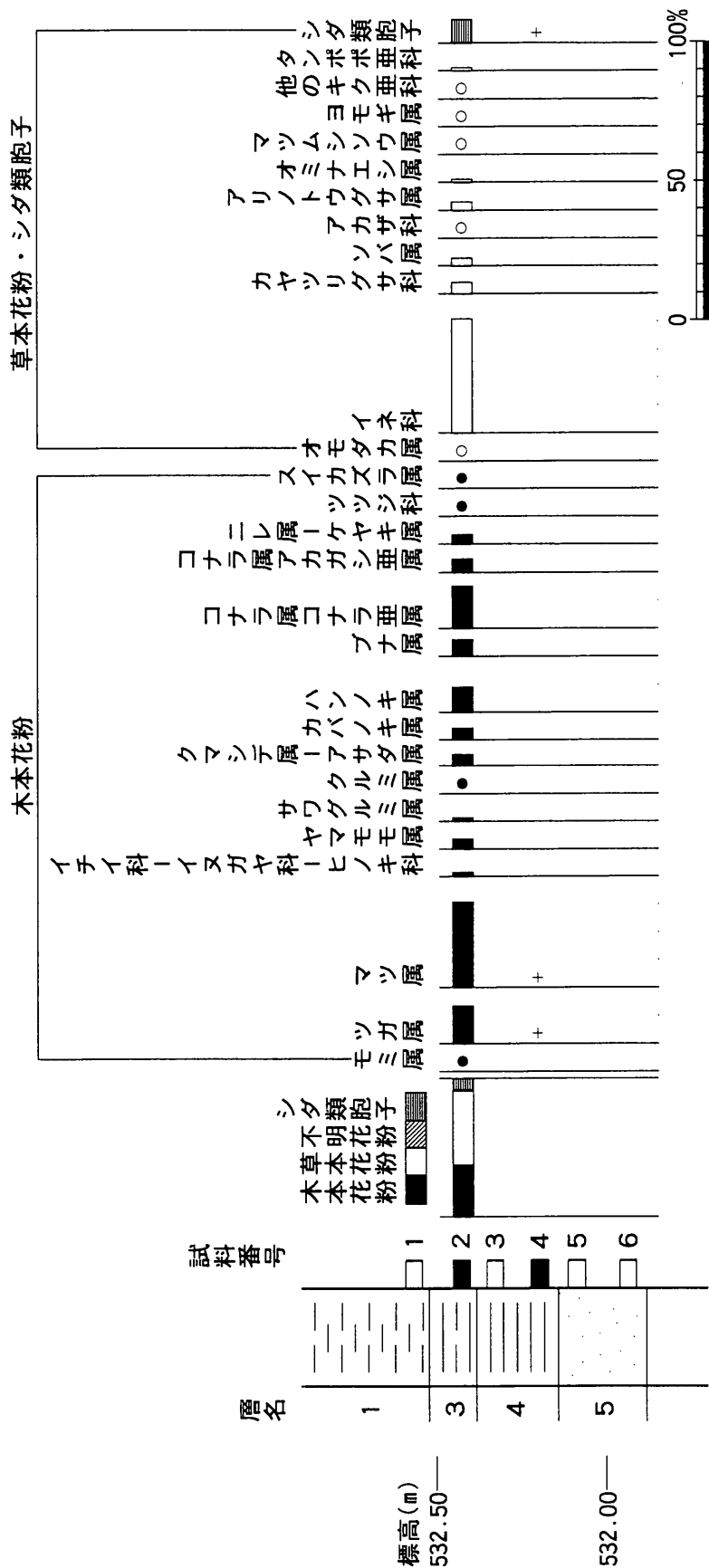


図5 第2地点の主要花粉化石群集
出現率は、木本花粉は木本花粉総数、草本花粉は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で産出した。なお、○●は1%未満、+は1%未満の試料について検出した種類を示す。

(4層)は悪い。木本花粉ではマツ属複雑管束亜属、ツガ属、コナラ属コナラ亜属などが高率に検出される。

草本花粉ではイネ科が高率で、カヤツリグサ科やアリノトウグサ属などを伴う。ソバ属の花粉化石も比較的高率に検出される。

(5) 植物珪酸体の産状

結果を表4と図6・7に示す。いずれの試料からも植物珪酸体が検出されるが、保存状態は悪く、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められる。以下に、各地点の産状を述べる。

・第1地点

試料番号4(3層)では、タケ亜科が優占する組成がみられ、ヨシ属、ウシクサ族、イチゴツナギ亜科も認められる。試料番号2(2層)でも同様に、タケ亜科が優占する組成がみられるが、栽培植物のイネ属も認められる。

・第2地点

試料番号4(4層)では、検出個数が少なく、タケ亜科などがわずかに認められるに過ぎない。試料番号2(3層)では、第1地点の試料番号2と同様に、タケ亜科が優占する組成がみられ、栽培植物のイネ属も認められる。

(6) 出土種実の種類

1地点の1層からは、木本類が1属、草本類が4属検出される。草本類の中では、ホタルイ属が特に多い。2地点の3層からは、全く検出されない。

以下に、1地点の1層から検出された種実遺体の種類とその形態的特徴を記す。

・クワ属 (*Morus* sp.) クワ科

種子が1個体検出された。褐色。大きさは2mm程度。倒卵型、表面は平滑で側面の隅に突起がみられる。

・ホタルイ属 (*Scirpus* sp.) カヤツリグサ科

果実が37個体検出された。黒色。堅く光沢がある。大きさは2mm程度。偏平で背面が高く稜になっている。腹面は平らである。平凸レンズ状の広倒卵形。先端部はとがり、基部はせばまって「へそ」がある。表面には細かい凹凸があり、横軸方向に平行な横しわがあるように見える。

・スゲ属 (*Carex* sp.) カヤツリグサ科

果実が2個体検出された。大きさは2mm程度。黒褐色で3稜がある。先端部は急に細くなり針状にのびる。表面は薄くてやや柔らかい。

・オトギリソウ属 (*Hypericum* sp.) オトギリソウ科

種子が1個体検出された。黒色、楕円形で大きさは1mm程度。種皮は薄くやや堅い。表面は多角形の細胞が密に配列する。

表4 第1地点と第2地点の植物珪酸体分析結果

種 類	第1地点		第2地点		
	試料番号	2	4	2	4
イネ科葉部短細胞珪酸体					
イネ族イネ属		1	-	4	-
キビ族		2	-	1	-
タケ亜科		195	210	182	46
ヨシ属		8	6	-	-
ウシクサ族ススキ属		13	6	4	-
イチゴツナギ亜科		7	2	3	-
不明キビ型		46	13	16	2
不明ヒゲシバ型		13	2	14	1
不明ダンチク型		12	13	5	-
イネ科葉身機動細胞珪酸体					
イネ族イネ属		1	-	5	-
キビ族		1	-	-	-
タケ亜科		70	78	98	10
ヨシ属		2	1	-	-
ウシクサ族		20	15	4	-
不明		14	16	5	-
合 計					
イネ科葉部短細胞珪酸体		297	252	229	49
イネ科葉身機動細胞珪酸体		108	110	112	10
総 計		405	362	341	59
組 織 片					
イネ属穎珪酸体		3	-	3	-
イネ属短細胞列		-	-	1	-

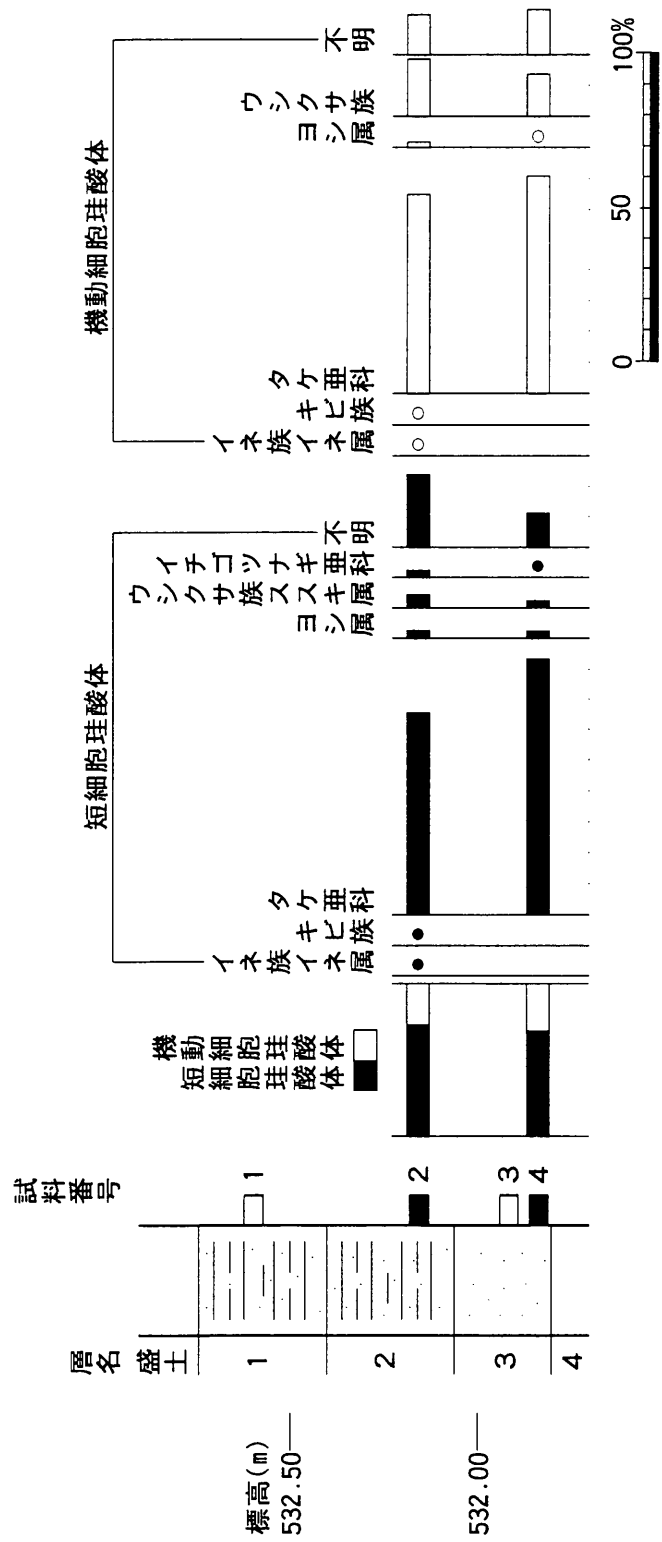


図6 第1地点の植物珪酸体組成
出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。
なお、●○は1%未満の種類を示す。

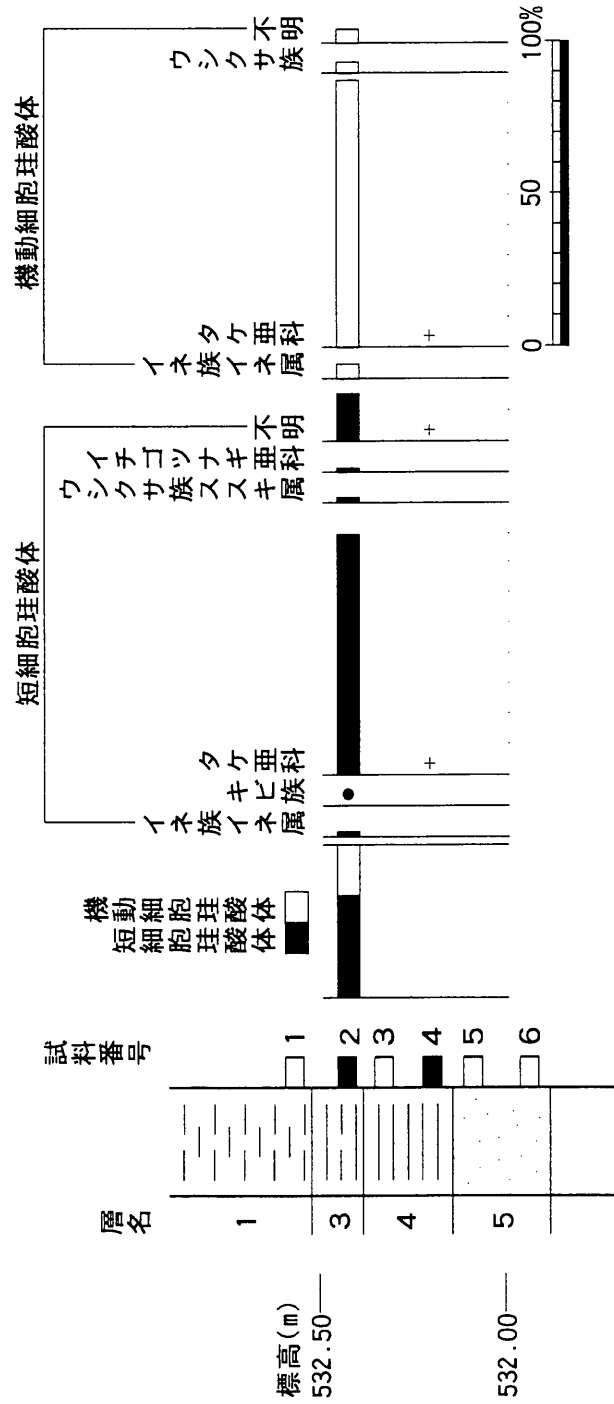


図7 第2地点の植物珪酸体組成
 出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉部機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。
 なお、●は1%未満の種類、+はイネ科葉部短細胞珪酸体で200個未満、イネ科葉部機動細胞珪酸体で100個
 未満の試料で検出された種類を示す。

・イヌコウジュ属 (*Mosla* sp.) シソ科

果実が1個体検出された。褐色。大きさは1mm程度。いびつな球形で、先端に「へそ」が見られる。表面全体には、荒い亀甲状の網目模様がある。

4. 考察

(1) 堆積物の年代について

出土材の放射性炭素年代値から、第1地点の2層と第2地点の4層は現代に近い時期の堆積物と考えられる。

なお、第2地点の1層からは近世以降の陶器が出土している。また、両地点は近接しており、現地調査所見から最下層の砂層は対比される。

これらから、盛土と砂層の間の粘質な土層は近世以降、あるいは現代の堆積物である可能性が考えられる。

(2) 堆積環境

各地点とも珪藻殻の保存状態が比較的良く、得られた珪藻化石は現地性が高いと考えられる。

第1地点の3層(試料番号3)で優占した陸生珪藻B群の*Eunotia preaerupta*は、その他の陸生珪藻をほとんど伴わなかったことから、本地点では沼沢湿地付着生種群の一種として水域に生育した種と判断される。また、沼沢湿地付着生種群を含む流水不定性種や真+好酸性種が優占すること、流水性種をほとんど伴わないことから、3層は弱酸性を呈した沼沢湿地のような湿潤な環境で堆積したと考えられる。なお、本層が灰色粗粒砂で構成される層相を考慮すれば、流水の影響も考えられる。

2層は、層相が砂混じりシルト質粘土になり、群集組成にも変化が認められる。産出種の多くは湖沼沼沢湿地指標種群や沼沢湿地付着生種群を多く含む流水不定性種や止水性種によって特徴づけられ、流水性種をほとんど伴わないことや層相も粘質になることから、比較的穏やかな環境へと変化したことが推定される。ただし、環境指標種群の産出の特徴から考えると、3層と同様に沼沢湿地のような水域環境であったと考えられる。

なお、1地点の花粉分析の結果をみると、2層で湿地に生育する木本・草本類が多い。また、種実遺体では1層から、木本類のクワ属や草本類のホタルイ属などが検出された。特に多産したホタルイ属は沼沢地などに生育する種類が多い。おそらく、2層や1層が堆積する頃は湿地化し、湿地林や水生植物からなる草地が存在していたものと考えられる。

第2地点は、珪藻化石の産出に乏しく、珪藻化石が産出したのは3層のみである。珪藻化石群集は第1地点の2層に近似しており、沼沢湿地付着生種群を含む流水不定性種や止水性種が多産し、流水性種はほとんど産出しない。したがって、堆積環境も流水の流れ込みの少ない沼沢湿地のようだったと考えられる。

第1地点の3層や2層、第2地点の3層で沼沢湿地の湿潤な堆積環境が示されたことは、調査地点が木曾山脈から延びる尾根に挟まれた野底川左岸の谷部に位置し、谷全体が谷奥部にある湧水により常に涵養される湿潤な環境に置かれていたという地形的な特徴を反映しているのかもしれない。

ただし、両地点の層相を考慮すれば、谷内が常に安定した堆積環境が維持されたわけではなく、大雨などに伴う流水などの影響も考えられる。

第2地点の5層、4層で微化石の産出が少ない要因については現段階では明らかでないが、これらの層から産出する化石が壊れたり溶解していたことを考慮すると、堆積後に何らかの影響で溶解した可能性がある。珪藻化石は通常の場合、シルト粒子以下の細粒物質と挙動を共にする（小杉1989）ことが知られており、5層のように粗粒砂が堆積するような流速の速い環境では堆積せずに流失してしまったことも考えられる。4層のように粘土であっても堆積速度が非常に速かった場合には、相対的に少ないことも考えられる。

（3）稲作に関する検討

第1地点の2層と第2地点の3層から栽培種のイネ属の形態を示すイネ科花粉が多産し、イネ属に由来する2形態の植物珪酸体が産出している。イネ属の花粉は、開花時期の間に耕土表面に落下し、土壌中に混入する。植物珪酸体は植物体が土壌に混入して、土壌中に残留する。そのため、今回のような産状は第1地点と第2地点の周辺で稲作が行われ、株刈りのような形で植物体が外部へ持ち出されたことを反映するのかもしれない。また、珪藻化石の産状からは、谷内で時に流水などの影響があった可能性も指摘されており、耕作期間が短いために植物体が土壌中に混入する量が少なかったのかもしれない。

その他の栽培植物では、ソバ属の花粉化石が検出されており、特に第2地点の3層では高率に検出されることから、周囲でソバも栽培していたことがうかがえる。

（4）森林植生

花粉化石が良好に検出された第1地点の2層と第2地点の3層では、マツ属（ほとんどが複維管束亜属）、コナラ属コナラ亜属、ハンノキ属などともに、ツガ属、モミ属、スギ属、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科などの温帯性針葉樹が高率に検出された。

マツ属複維管束亜属は陽樹であり、二次林の主要構成要素である。そのため、マツ属の増加からは人間の植生干渉に伴う二次林や植林の増加が示唆される。地域によってマツ増加開始の時期に若干のずれはあるものの、このような傾向は全国的に認められており、中世から近世頃には著しい。今回の木本花粉化石の産状もこの点を反映しているものと思われる。

また、第1地点と第2地点の出土材はクリとトネリコ属に同定された。いずれも落葉広葉樹で、現在の遺跡周辺地域でも谷沿いなどで普通に見られる種類である。これまで天竜川流域で行われてきた古植生に関する調査結果などを見ても、過去から現在に至るまで比較的普通に見られた種

類と考えられる。

なお、飯田市内の松尾地区の田圃遺跡では、D西壁の4層より上位、北壁の1e層より上位でマツ属の増加が顕著となり、遺跡の周囲にはナラ類やクリなどの落葉広葉樹や溪谷林を交えた温帯針葉樹林が成立していたことが推定されている（パリノ・サーヴェイ株式会社，1993）。本遺跡とは立地環境が異なるため、草本類の出現率などに違いはあるが、木本類の検出傾向は似ており、このような植生が近世以降の飯田市周辺で一般的であった可能性もある。本地域での花粉分析例はまだ少ないので、今後の資料の蓄積によって明らかにしていきたい課題である。

<引用文献>

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用．東北地理，42，p.73-88.

Asai, K. & Watanabe, T. (1995) Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa. *Diatom*, 10, 35-47.

伊藤良永・堀内誠示（1991）陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用．珪藻学会誌，6，p.23-45.

小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用．第四紀研究，27，p.1-20.

近藤鍊三・佐瀬 隆（1986）植物珪酸体分析，その特性と応用．第四紀研究，25，p.31-64.

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1986) *Bacillariophyceae, Teil 1, Naviculaceae.*

Band 2/1 von: *Die Suesswasserflora von Mitteleuropa*, 876p., Gustav Fischer Verlag.

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1988) *Bacillariophyceae, Teil 2, Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae.* Band 2/2 von: *Die Suesswasserflora von Mitteleuropa*, 536p., Gustav Fischer Verlag.

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1991a) *Bacillariophyceae, Teil 3, Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae.* Band 2/3 von: *Die Suesswasserflora von Mitteleuropa*, 230p., Gustav Fischer Verlag.

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1991b) *Bacillariophyceae, Teil 4, Achnantheaceae, Kritische Ergaenzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema.* Band 2/4 von: *Die Suesswasserflora von Mitteleuropa*, 248p., Gustav Fischer Verlag.

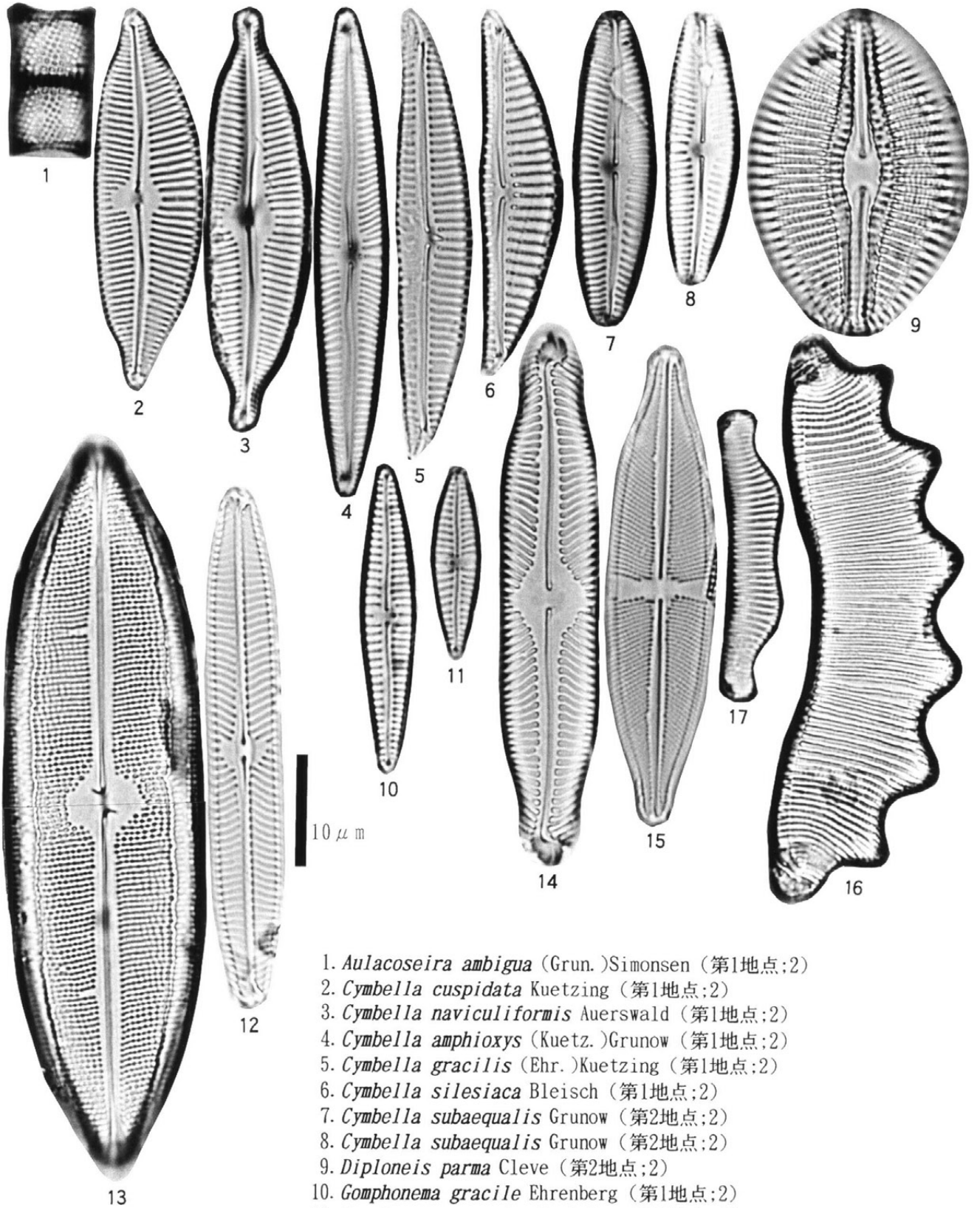
Krammer, K. (1992) *PINNULARIA, eine Monographie der europaischen Taxa. BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND 26. p. 1-353. BERLIN-STUTTGART.*

パリノ・サーヴェイ株式会社（1993）飯田市田圃遺跡自然科学分析報告．田圃遺跡－飯田市立緑ヶ丘中学校プール建設に先立つ埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書－，p.83-128，長野県飯田

市教育委員会.

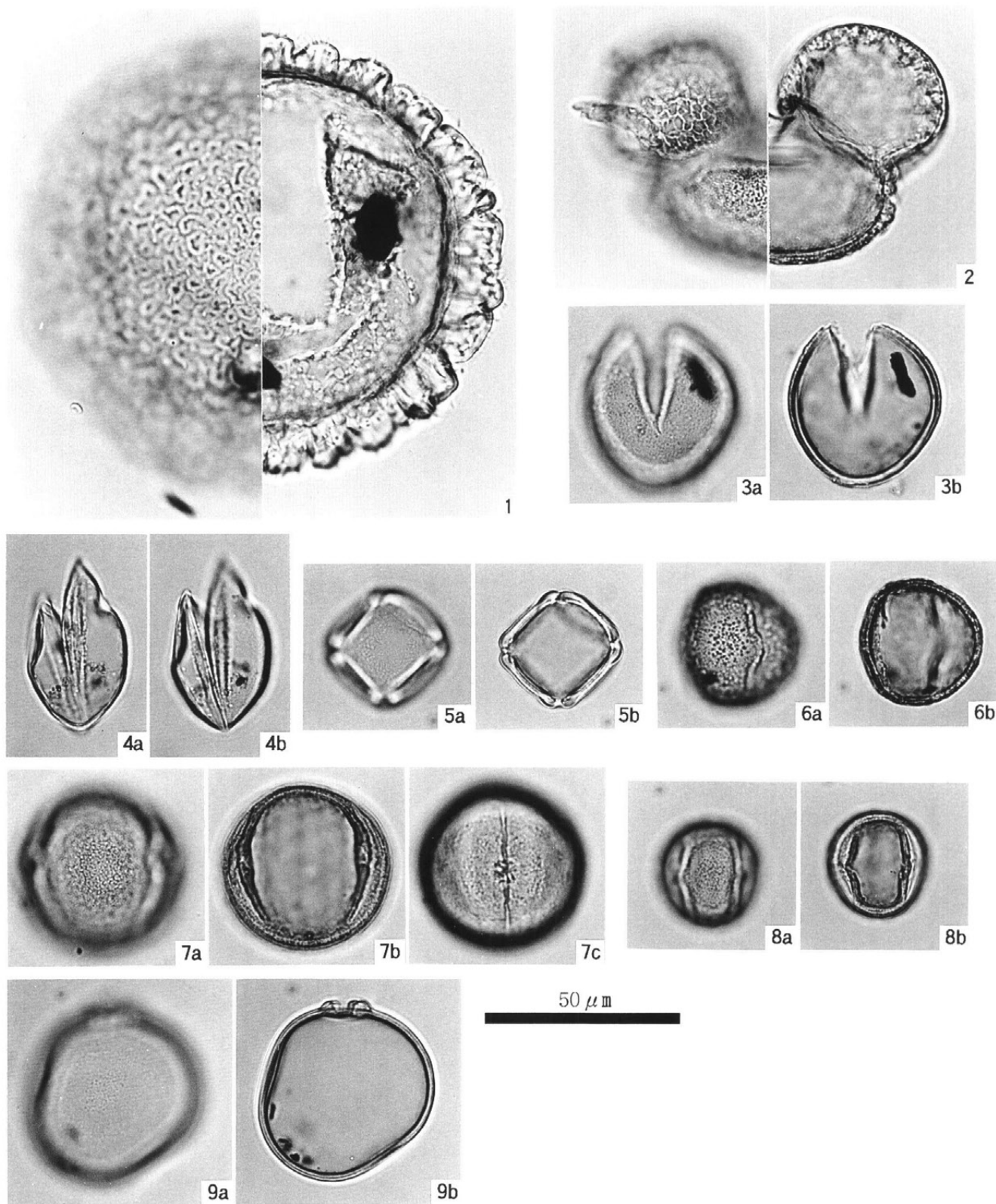
酒井潤一（1979）木曾ヒノキ林の花粉分析・層位等の研究調査報告書. 木曾ヒノキに関する総合調査報告書, p. 1-31, 長野営林局.

图版 1 珪藻化石



1. *Aulacoseira ambigua* (Grun.) Simonsen (第1地点:2)
2. *Cymbella cuspidata* Kuetzing (第1地点:2)
3. *Cymbella naviculiformis* Auerwald (第1地点:2)
4. *Cymbella amphioxys* (Kuetz.) Grunow (第1地点:2)
5. *Cymbella gracilis* (Ehr.) Kuetzing (第1地点:2)
6. *Cymbella silesiaca* Bleisch (第1地点:2)
7. *Cymbella subaequalis* Grunow (第2地点:2)
8. *Cymbella subaequalis* Grunow (第2地点:2)
9. *Diploneis parma* Cleve (第2地点:2)
10. *Gomphonema gracile* Ehrenberg (第1地点:2)
11. *Gomphonema parvulum* Kuetzing (第1地点:2)
12. *Navicula angusta* Grunow (第1地点:2)
13. *Neidium iridis* (Ehr.) Cleve (第1地点:2)
14. *Pinnularia divergens* var. *decrescens* (Grun.) Krammer (第1地点:2)
15. *Stauroneis anceps* Ehrenberg (第1地点:2)
16. *Eunotia serra* Ehrenberg (第1地点:2)
17. *Eunotia arcus* var. *bidens* Grunow (第1地点:2)

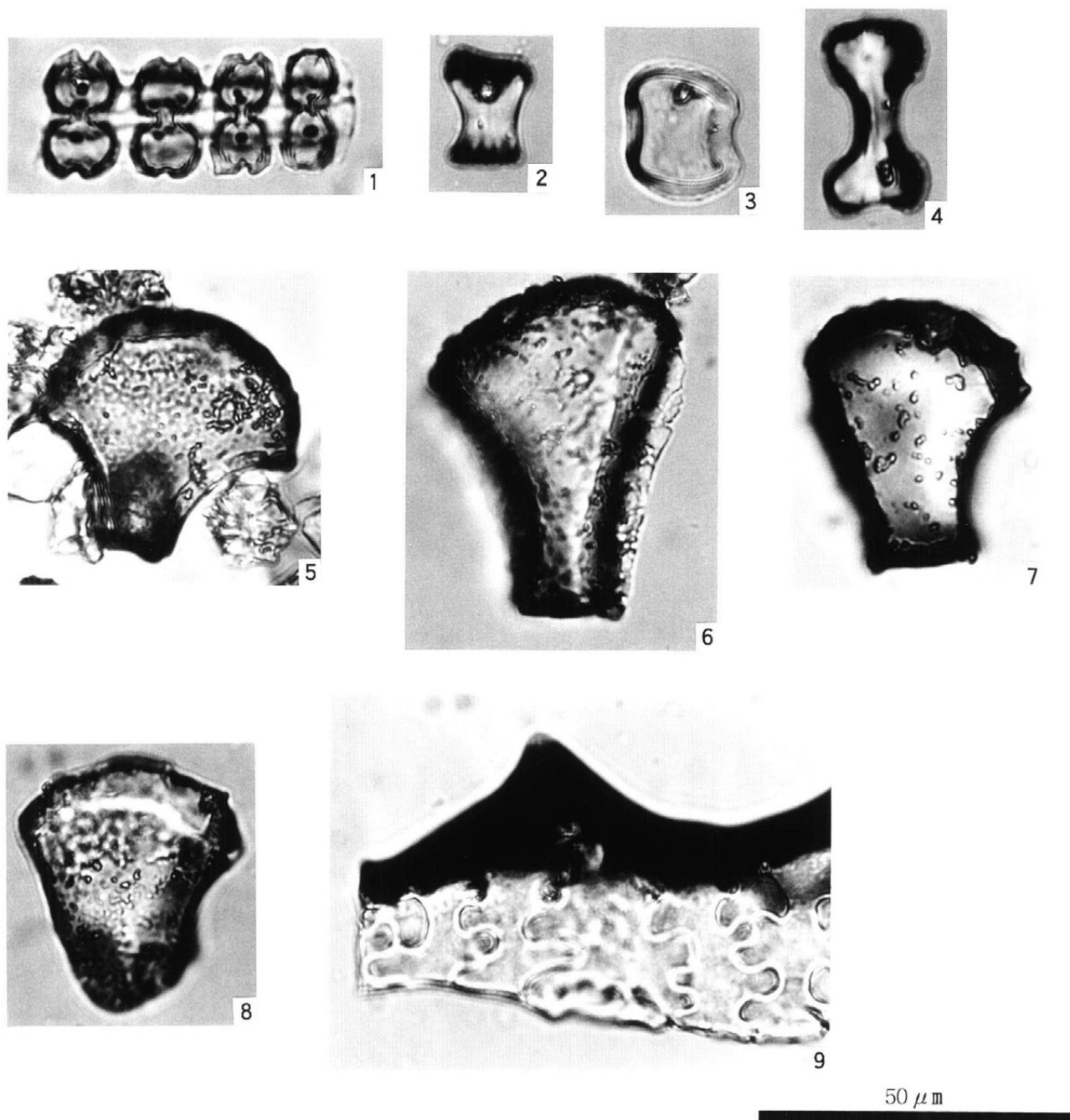
図版2 花粉化石



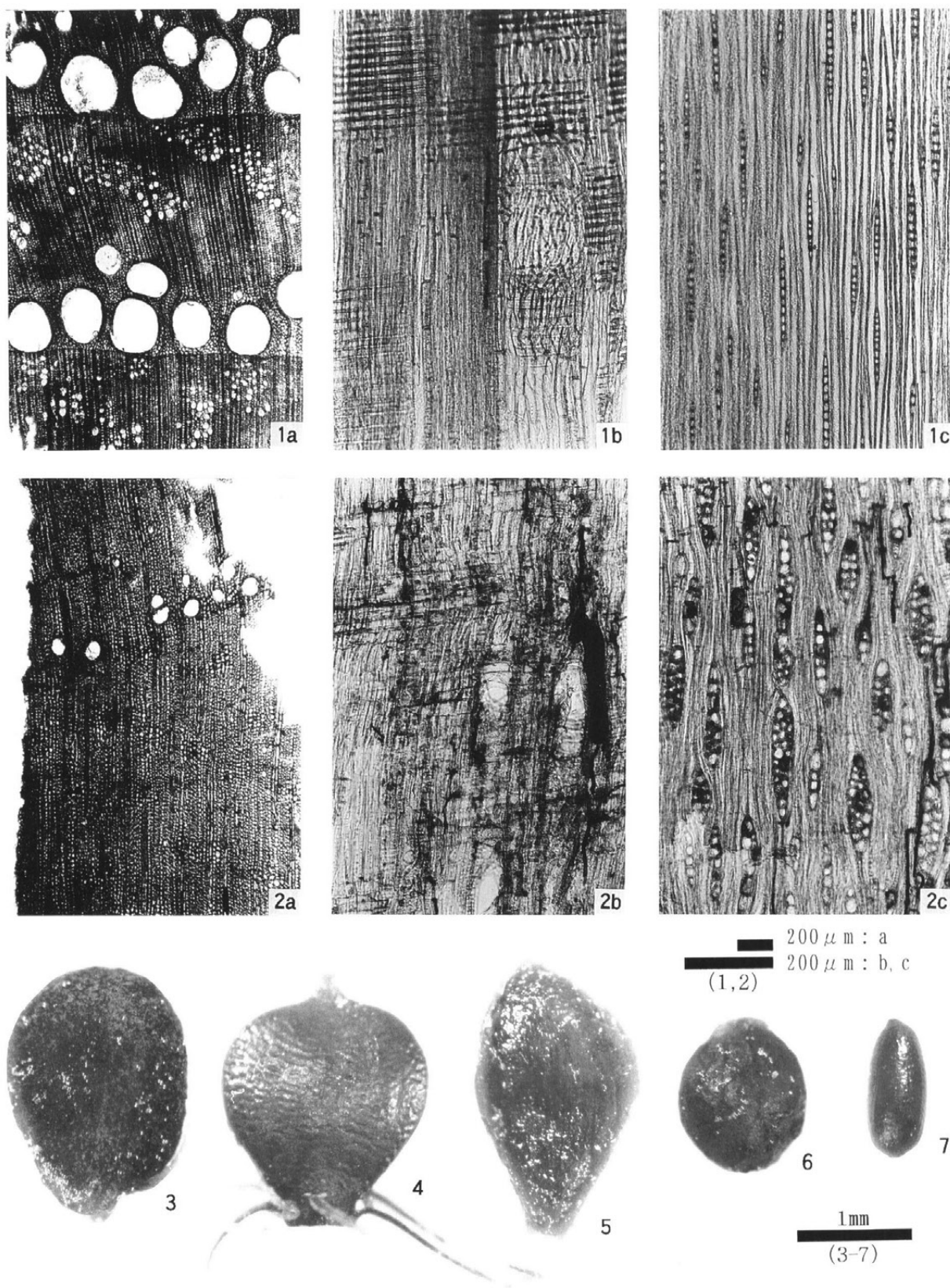
- 1. ツガ属(第1地点;2)
- 3. スギ属(第1地点;2)
- 5. ハンノキ属(第1地点;2)
- 7. ブナ属(第1地点;2)
- 9. イネ科(第1地点;2)

- 2. マツ属(第1地点;2)
- 4. イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科(第1地点;2)
- 6. コナラ属コナラ亜属(第1地点;2)
- 8. コナラ属アカガシ亜属(第1地点;2)

図版3 植物珪酸体



- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1. イネ属短細胞列(第2地点;2) | 2. タケ亜科短細胞珪酸体(第2地点;2) |
| 3. ヨシ属短細胞珪酸体(第1地点;2) | 4. ススキ属短細胞珪酸体(第1地点;2) |
| 5. イネ属機動細胞珪酸体(第2地点;2) | 6. タケ亜科機動細胞珪酸体(第1地点;2) |
| 7. タケ亜科機動細胞珪酸体(第2地点;2) | 8. ウシクサ族機動細胞珪酸体(第1地点;2) |
| 9. イネ属穎珪酸体(第1地点;2) | |



- 1. クリ (第2地点;3層)
- a: 木口, b: 柁目, c: 板目
- 3. クワ属(1地点;1層)
- 5. スゲ属(1地点;1層)
- 7. オトギリソウ属(1地点;1層)

- 2. トネリコ属 (第1地点;1層)
- 4. ホタルイ属(1地点;1層)
- 6. イヌコウジュ属(1地点;1層)

報告書抄録

ふりがな	くろだだいみょうじんばらいせき							
書名	黒田大明神原遺跡 II							
副書名	平成8年度 緊急地方道路整備B工事に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	伊藤尚志							
編集機関	長野県飯田市教育委員会							
所在地	〒395-0002 長野県飯田市上郷飯沼3145番地 ☎0265-53-4545							
発行年月日	西暦1999年3月19日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				m ²	
くろだだいみょうじんばら 黒田大明神原	いだしかみさとくろだ 飯田市上郷黒田	2053		35° 31' 44"	137° 50' 28"	平成8年 8月19日から 平成9年 1月31日	4100m ²	道路整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
黒田大明神原	集落址	縄文 弥生 古墳 中世	竪穴住居址 掘立柱建物址 方形周溝墓 方形竪穴 土坑	32軒 1棟 1基 2基	縄文時代土器 石器 弥生時代土器 土師器			

黒田大明神原遺跡Ⅱ

1999年3月 発行

編集・発行 長野県飯田市教育委員会
長野県飯田市上郷飯沼3145

印刷 龍共印刷株式会社
